

会津若松市

男女共同参画に関する市民意識調査

報 告 書

令和4年度

会津若松市

# 目 次

第1章 調査の概要	1
第2章 回答者の属性	7
第3章 調査結果の概要と分析	17
<調査結果の概要（全体）>	18
1. 「男女の地位の平等感、男女の生き方、社会参加」について	20
問1 男女の地位の平等感	20
問2 男女の生き方	26
問3 職業や役職で、今後女性がもっと増えた方がよいと思うもの	34
問4 社会参加（社会活動や地域活動）	37
問4-1 社会参加していない理由	40
問5 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと	42
2. 「女性の活躍促進」について	45
問6 仕事や地域活動での女性の活躍	45
問6-1 女性が活躍していると思う理由	47
問6-2 女性が活躍していないと思う理由	50
問7 女性が活躍するために必要なこと	53
3. 「就労・職業」について	55
問8 現在の就労状況	55
問8-1 職場内での男女差別の有無	56
問8-2 具体的な職場内での男女差別の内容	57

問9	リーダー・管理職への意欲	58
問9-1	リーダー・管理職になりたくない理由	59
問10	過去5年以内の離職経験	60
問10-1	離職した理由	61
問11	希望する生活と実際の生活	63
問12	女性の就業のあり方	66
問13	男性の育児休業取得	69
問13-1	男性の育児休業取得について反対と思う理由	71
<b>4.</b>	<b>「家庭・結婚」について</b>	<b>72</b>
問14	家庭生活での役割分担	72
問15	家庭・結婚に関する考え方	78
<b>5.</b>	<b>「人権&lt;性の多様性、DV等&gt;」について</b>	<b>83</b>
問16	人権に関する用語の認知度	83
問17	性について、違和感を持ったり悩んだりした経験、身近に悩んでいたたり 悩みを聞いたりした経験	86
問17-1	セクシャル・マイノリティの方々が生活しやすくするために必要な対策 .....	87
問18	男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと	89
問19	人権侵害の被害経験や身近で見聞きした経験	91
問19-1	人権侵害についての相談相手	94
問19-2	人権侵害を相談しなかった理由	102
問20	会津若松市女性福祉相談室の認知度	110

6. 「介護」について .....	111
問 21 介護が必要になった場合、どのようにするか .....	111
問 22 自宅で介護する場合、主に誰が介護をすることになるか .....	115
7. 「防災」について .....	117
問 23 防災分野における男女共同参画推進のために必要なもの .....	117
8. 「認知度／市の施策に望むこと等」について .....	120
問 24 「男女共同参画社会」の認知度 .....	120
問 25 男女共同参画の推進に関する取組を支援するための拠点となる機能 .....	121
問 26 男女共同参画社会を実現するために市の施策に望むこと .....	122
第4章 自由記入 .....	125
資料 調査票 .....	137

# 第 1 章 調査の概要

### 1. 調査目的

会津若松市では、「すべての人が、性別にかかわらず、一人ひとりがその個性や能力を十分に発揮することができる社会」、「多様な生き方を互いに認め合い、生きがいを持って自分らしく安心して暮らせる社会」の実現を目指し、様々な施策に取り組んでおります。

本調査は、「第5次会津若松市男女共同参画推進プラン」に代わる新たなプラン策定のための基礎資料とするとともに、男女共同参画に関する市民の意識及び生活実態の変化の把握並びに社会情勢の変化に伴う新たな問題に対する意識等を総合的に調査し、今後の施策の方向性等の参考とするために実施したものです。

なお、本報告書の調査結果の分析や考察などにつきましては、男女共同参画推進活動ネットワークに加入している16団体の皆さんからもご意見を頂戴しました。

### 2. 調査設計

- (1) 調査対象：会津若松市在住の18歳から70代までの男女
- (2) 標本数：2,000人（男女各1,000人）
- (3) 抽出方法：住民基本台帳より層化二段無作為抽出（層化二段：男女、年齢）
- (4) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (5) 調査時期：令和4年7月1日（金）～7月31日（日）

### 3. 調査内容

- (1) 男女の地位の平等感／男女の生き方／社会参加について
- (2) 女性の活躍促進について
- (3) 就労・職業について
- (4) 家庭・結婚について
- (5) 人権について
- (6) 介護
- (7) 防災
- (8) 認知度／市の施策に望むこと等

## 4. 回収結果

配布数 (A) : 2,000

有効回収数 (B) : 623 (男性 : 286、女性 : 322、どちらでもない : 2、性別無回答 : 13)

有効回収率 (B/A) : 31.2%

○ : 比較

## 5. 調査項目一覧

(同様または類似の調査)

分類	問番号	調査項目	比較分析		
			前回	全国	福島県
			H29	R4	R元
属性	(1)	性別			
	(2)	年齢			
	(3)	就業状況			
	(3-1)	雇用形態			
	(4)	婚姻の有無			
	(4-1)	共働きの有無			
	(5)	世帯構成			
	(6)	子どもの人数			
	(6-1)	子どものライフステージ			
1. 男女の地位の平等感/男女の生き方/社会参加	1	男女の地位の平等感	○	○	○
	2	男女の生き方	○		○
	3	職業や役職で、今後女性がもっと増えた方がよいと思うもの	○		○
	4	社会参加 (社会活動や地域活動)			○
	4-1	社会参加していない理由			
	5	男女が積極的に社会参加していくために必要なこと	○		○
2. 女性の活躍促進	6	仕事や地域活動での女性の活躍	○		○
	6-1	女性が活躍していると思う理由	○		○
	6-2	女性が活躍していないと思う理由	○		○
	7	女性が活躍するために必要なこと			○
3. 就労・職業	8	現在の就労状況			
	8-1	職場内での男女差別の有無			
	8-2	具体的な職場内での男女差別の内容			

## 第1章 調査の概要

	9	リーダー・管理職への意欲			○
	9-1	リーダー・管理職になりたくない理由			
	10	過去5年以内の離職経験			
	10-1	離職した理由			○
	11	希望する生活と実際の生活			
	12	女性の就業のあり方	○	○	○
	13	男性の育児休業取得	○		○
	13-1	男性の育児休業取得について反対と思う理由			
4. 家庭・結婚	14	家庭生活での役割分担	○		
	15	家庭・結婚に対する考え方	○		○
5. 人権	16	人権に関する用語の認知度			
	17	性について、違和感を持ったり悩んだりした経験、及び、身近に悩んでいる人の有無			
	17-1	セクシャル・マイノリティの方々が生活しやすくするために必要な対策			
	18	男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと			○
	19	人権侵害の被害経験や身近で見聞きした経験			
	19-1	人権侵害についての相談相手			
	19-2	人権侵害を相談しなかった理由			
	20	会津若松市女性福祉相談室の認知度	○		
6. 介護	21	介護が必要になった場合、どのようにするか	○		○
	22	自宅で介護する場合、主に誰が介護をすることになるか			
7. 防災	23	防災分野における男女共同参画推進のために必要なもの	○		
8. 認知度／市の施策に望むこと等	24	「男女共同参画社会」の認知度	○		
	25	男女共同参画の推進に関する取組を支援するための拠点となる機能			
	26	男女共同参画社会を実現するために市の施策に望むこと			



## 6. 他調査との比較について

市民意識調査の分析にあたり、他調査との比較を行っています。使用した資料の出典は以下のとおりです。

### (1) 前回調査：「会津若松市男女共同参画に関する意識調査（平成29年度）」

- ・対象：会津若松市在住の20歳以上の男女 2,000人（男女各1,000人）
- ・調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・調査時期：平成29年5月26日（金）～6月30日（金）
- ・回収状況：有効回収率36.1%
- ・比較：問1、問2、問3、問5、問6、問6-1、問6-2、問12、問13、問14、問15、問20、問21、問23、問24

### (2) 全国調査：「男女共同参画社会に関する世論調査（令和4年）」 内閣府

- ・対象：全国18歳以上の男女 5,000人
- ・調査方法：郵送法
- ・調査時期：令和4年11月24日～令和5年1月1日
- ・回収状況：有効回収率56.9%
- ・比較：問1、問12

### (3) 福島県調査：「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査（令和元年）」

- ・対象：福島県在住の20歳以上の男女 2,000人
- ・調査方法：郵送法（配布・回収とも郵送）
- ・調査時期：令和元年11月12日～11月25日
- ・回収状況：有効回収率32.6%
- ・比較：問1、問2、問3、問4、問5、問6、問6-1、問6-2、問7、問9、問10-1、問12、問13、問15、問18、問21

## 7. 調査結果の見方

### (1) 調査の数値

- ①調査結果の数値は、原則として回答率（％）で表記しています。
- ②数値は、小数第二位を四捨五入し、小数第一位まで表示しています。そのため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合で、選択肢の数値（％）をすべて合計しても、四捨五入の関係で100%にならないことがあります。
- ③質問に対する回答の選択肢が複数の場合、回答者数を分母として比率（％）を計算しているため、選択肢の数値（％）を合計すると、100%以上となっています。

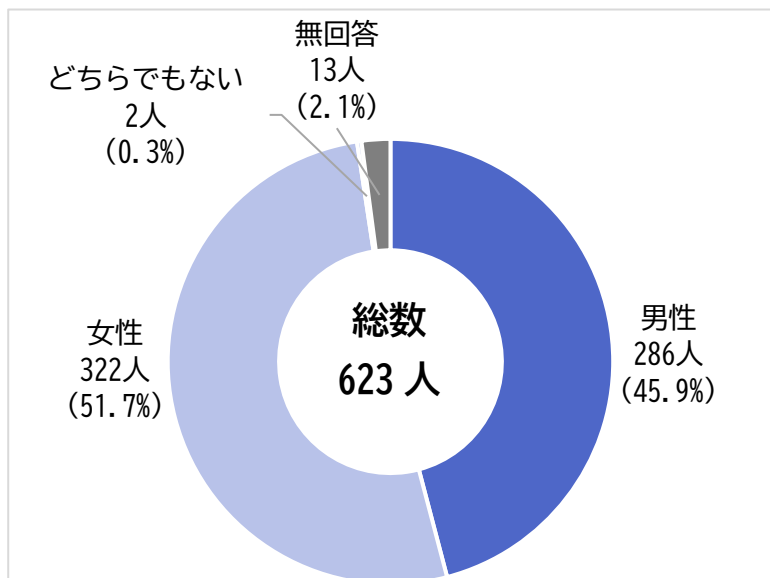
### (2) 図表の見方

- ①グラフや表の中で、アンケート調査票の選択肢の文章が長い場合、要約して短く表現している場合があります。
- ②比較分析などの際に調査項目がなかった場合、図表に「-」と表示しています。
- ③グラフの中で、回答がなかった場合等にスペースの都合上「0.0」の表記を省略している場合があります。

## 第2章 回答者の属性

### 1. 性別

有効回答数 623 件のうち、男性が 45.9% (286 人)、女性が 51.7% (322 人)、どちらでもないが 0.3% (2 人)、無回答が 2.1% (13 人) となっています。

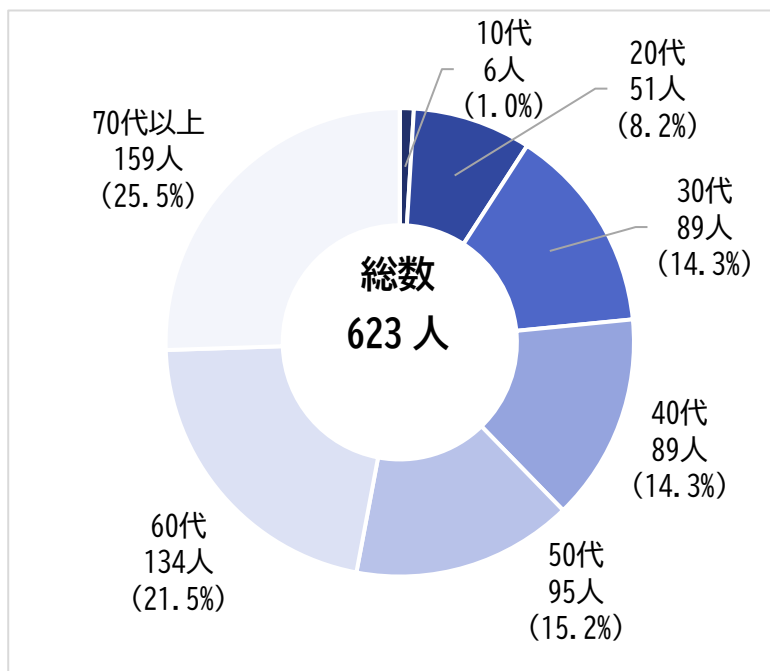


### 2. 年齢

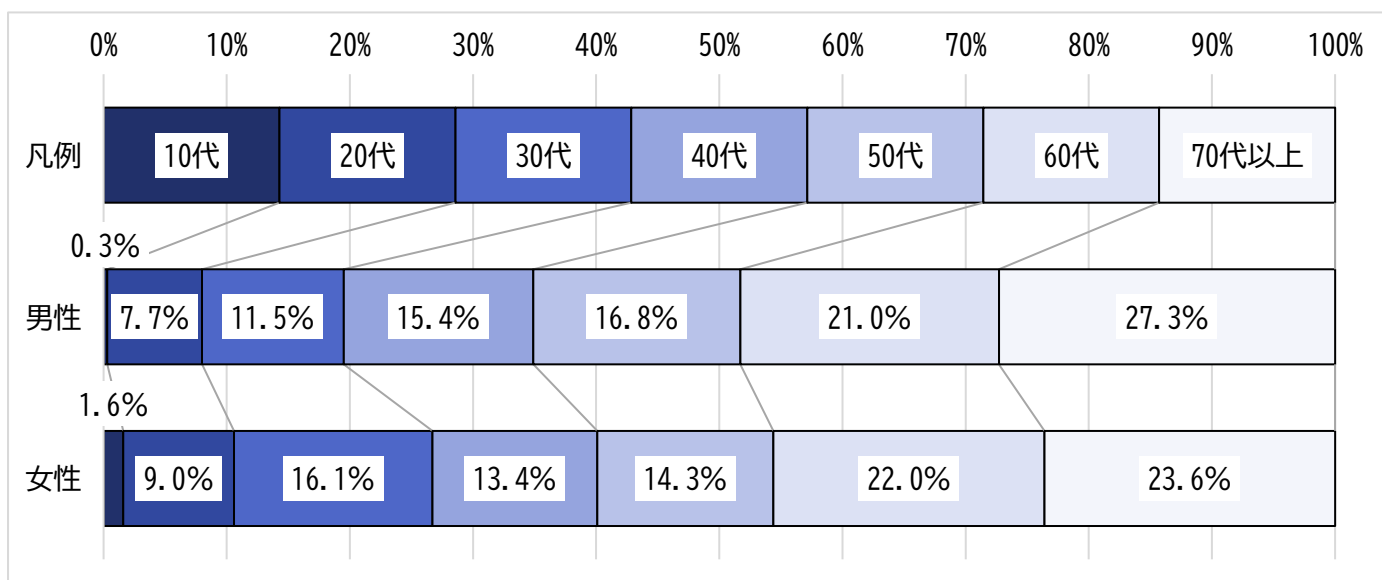
全体としては、最も多いのが「70代以上」の 25.5%、最も少ないのが「10代」で 1.0% となっています。

性別で見ても、男性では「70代以上」の 27.3%、女性でも「70代以上」の 23.6% が最も多くなっています。

※どちらでもない方の内訳：  
30代・40代で1名ずつ。

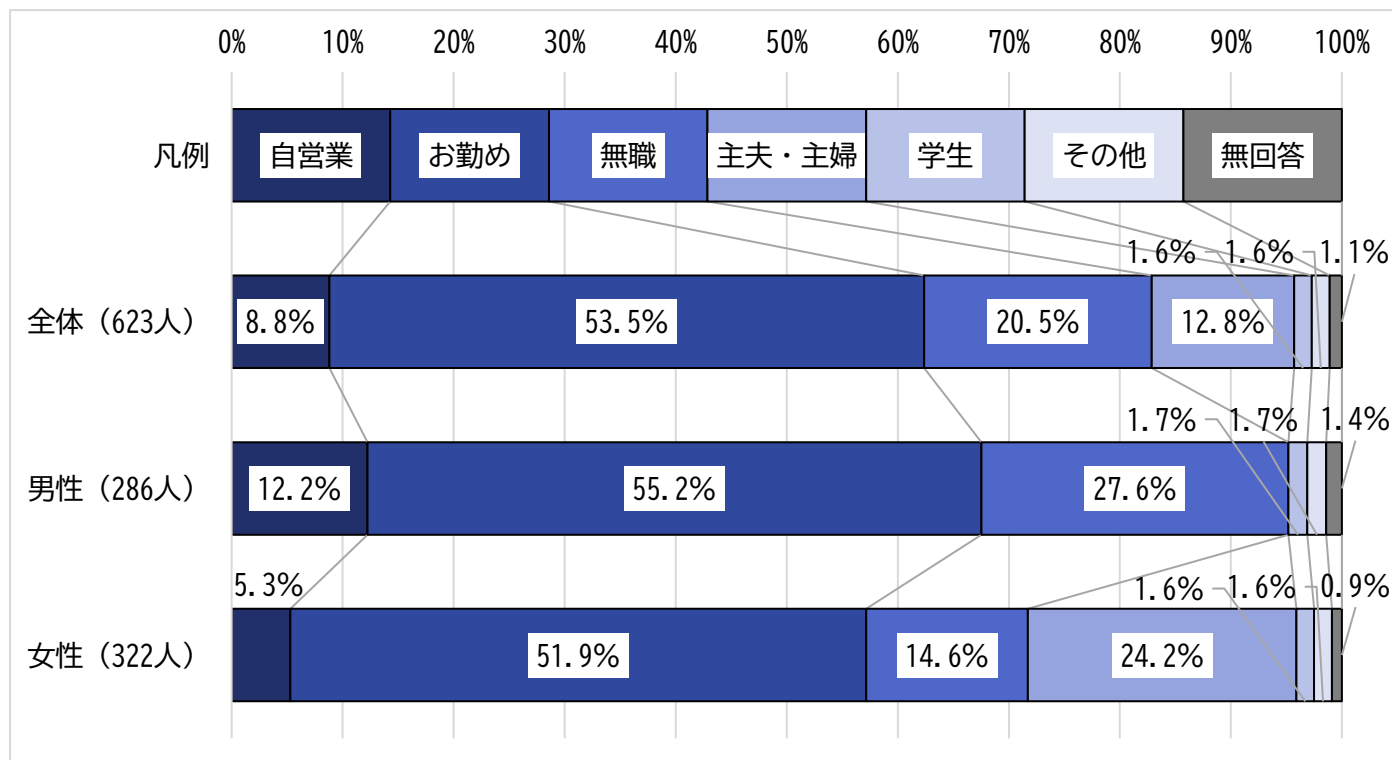


【性別ごとの年代内訳】



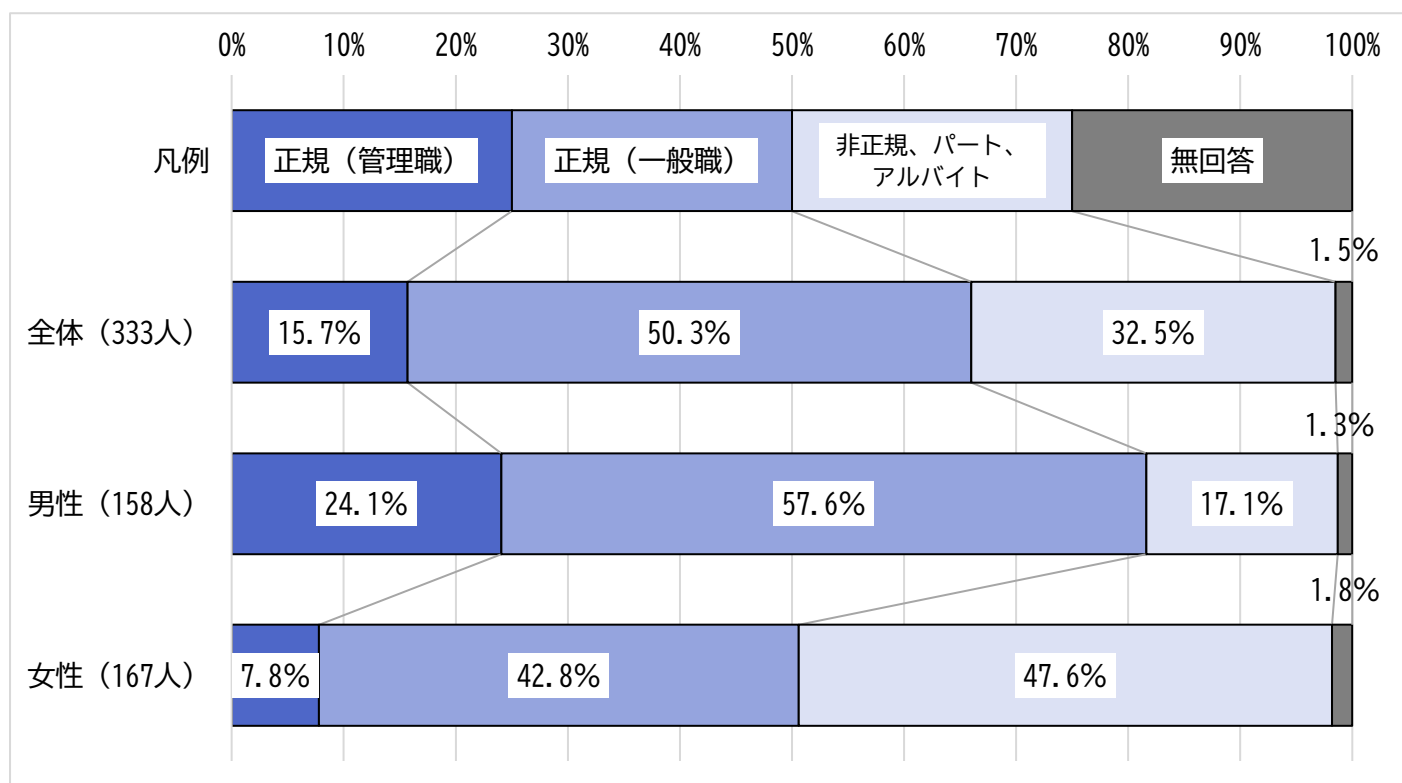
### 3. 就業状況

就業状況については、「お勤め」が53.5%と最も多く、次いで「無職」の20.5%、「主夫・主婦」の12.8%となっています。



### 3-1. (「お勤め」と回答された方の) 雇用形態

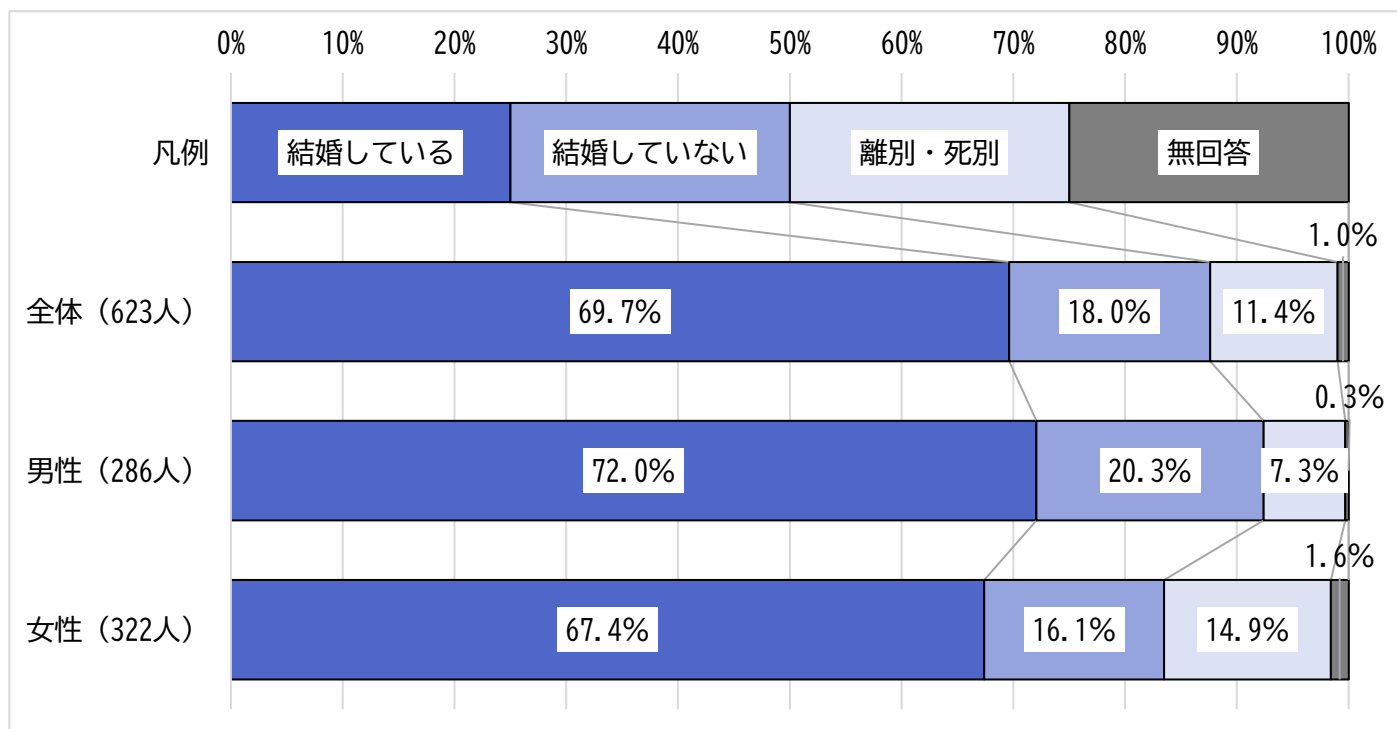
全体としては、「正規（一般職）」が50.3%と最も多くなっていますが、性別で見ると、男性は同じく「正規（一般職）」が57.6%と一番多いものの、女性は「非正規、パート、アルバイト」が47.6%と、最も多くなっています。



#### 4. 婚姻の有無

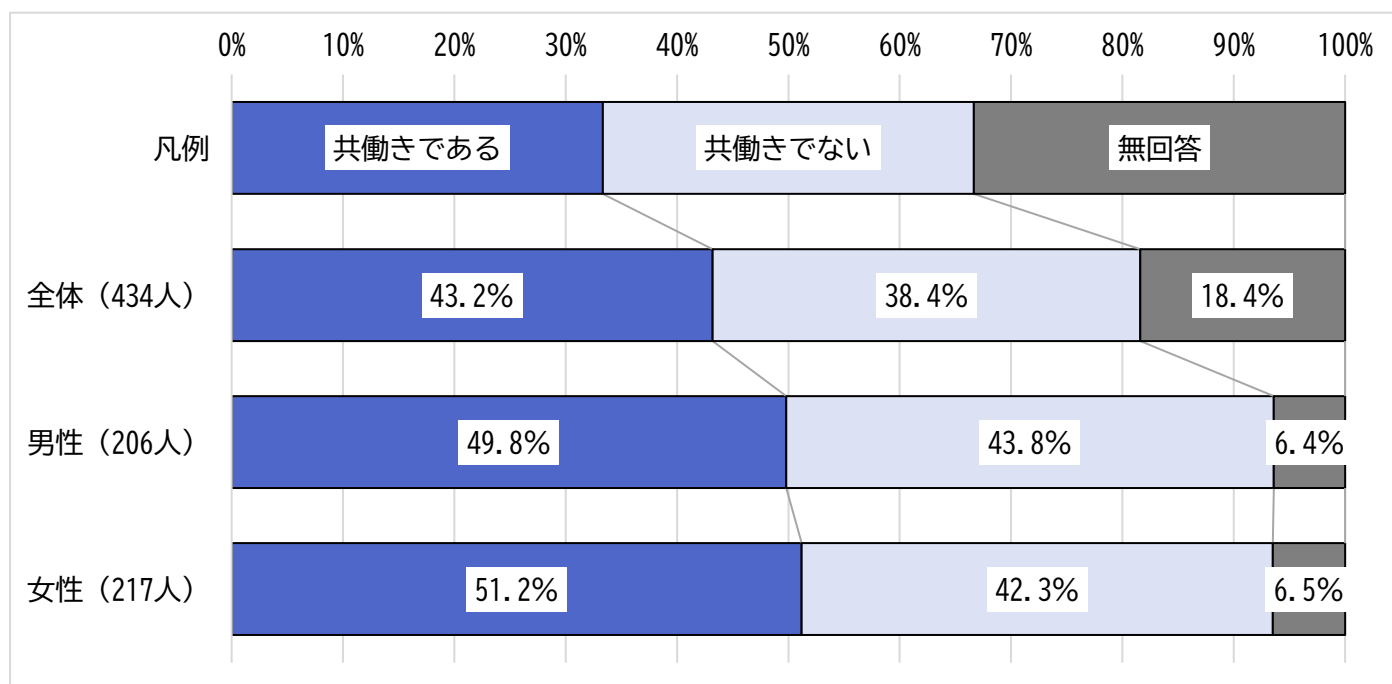
結婚の有無では、「結婚している」の回答が69.7%、「結婚していない」の回答が18.0%になっています。

性別で見ても、男女ともほとんど差がない回答となっています。



### 4-1. (「結婚している」と回答された方の) 共働きの有無

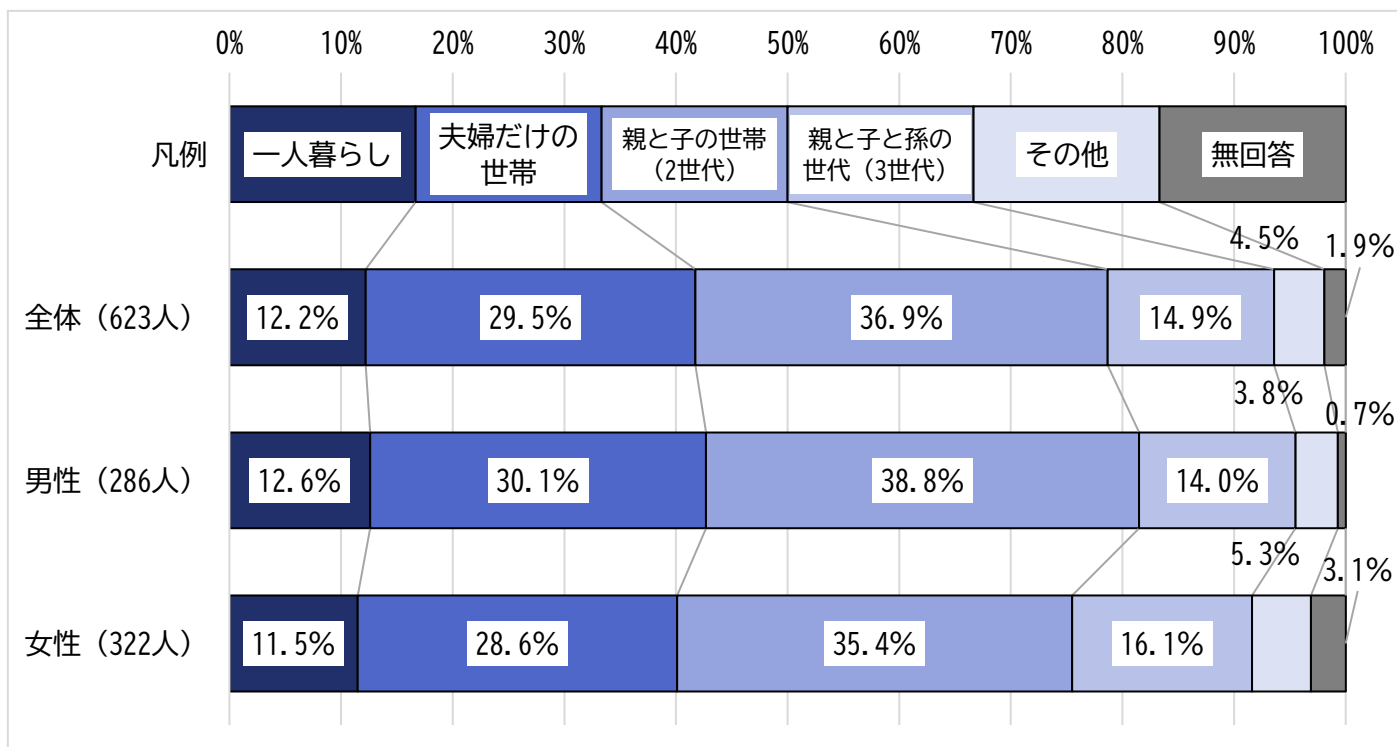
結婚している方のうち、「共働き」の人は43.2%、「共働きしていない」人は38.4%となりました。





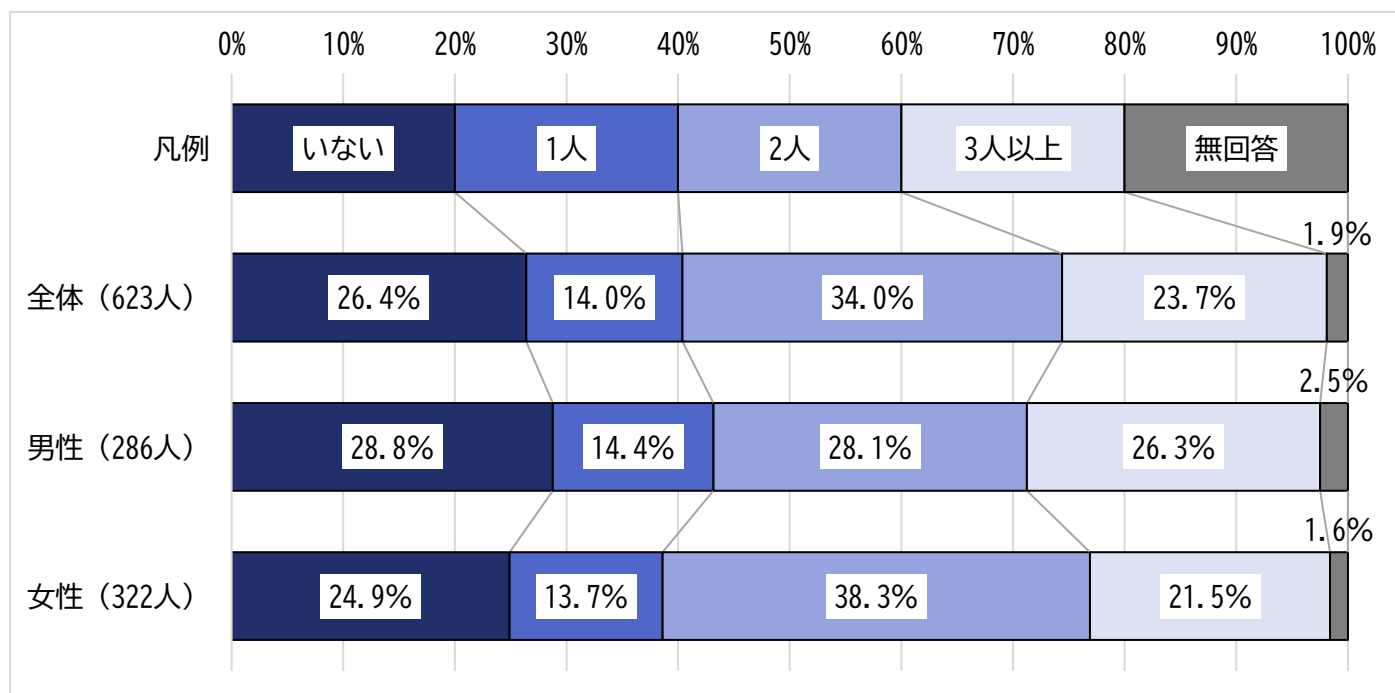
### 5. 世帯構成

全体で見ると、「親と子の世帯」が36.9%を占めており、次いで「夫婦だけの世帯」が29.5%となっています。



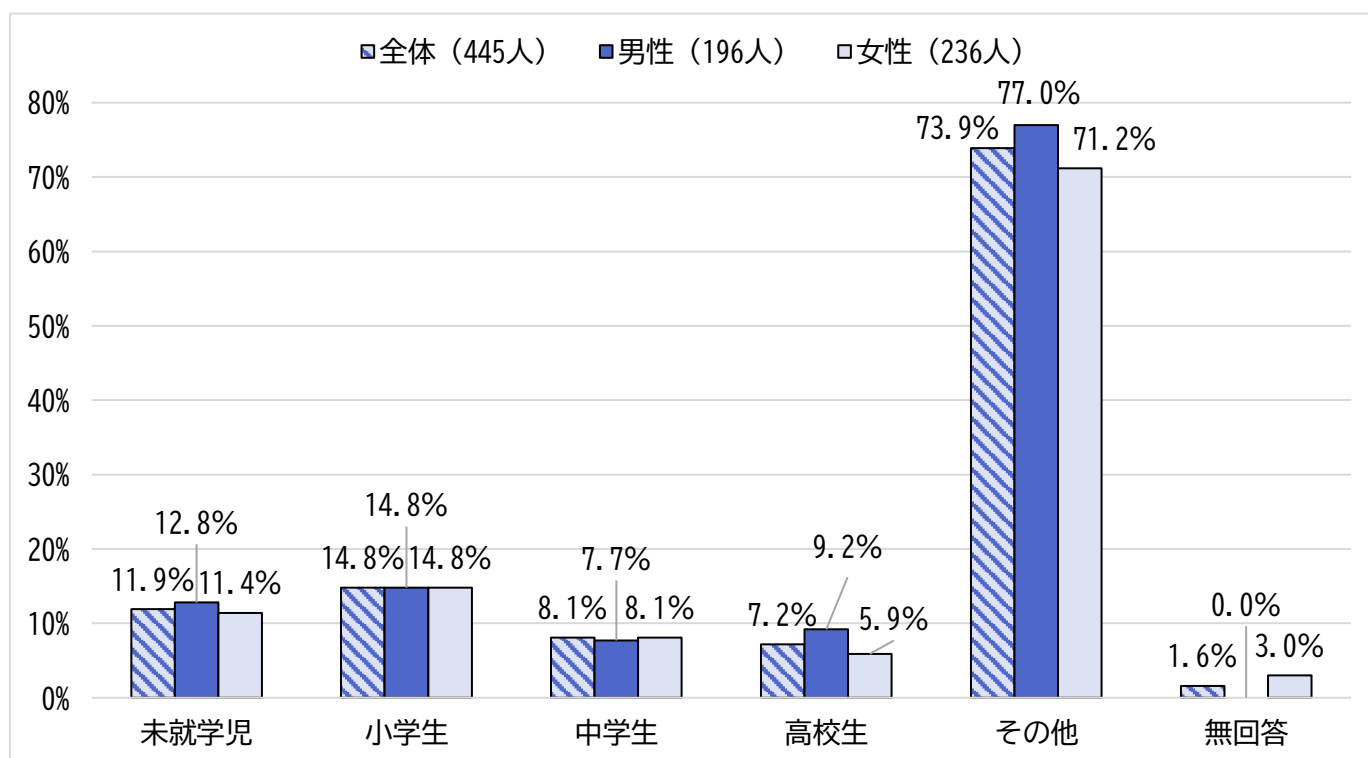
## 6. 子どもの人数

回答者の71.7%が、子どもが「いる」と回答しています。子どもが「いる」と回答した方のうち、両性とも2人と回答した方の割合が最も高くなっています。



### 6-1. (「いる」と回答された方の) 子どものライフステージ

男女ともに大学生や社会人などを含む「その他」の割合が半数以上を占めています。「未就学児」から「高校生」まで一定程度の割合となっています。





## 第3章 調査結果の概要と分析

## <調査結果の概要（全体）>

### 1. 「男女の地位の平等感、男女の生き方、社会参加」について

- 男女の地位の平等感については、学校教育の場においては、「平等」と感じている割合が約7割となっている一方で、政治の場や習慣・しきたり、社会全体においては、6割以上の方が「男性優位」と感じています。また、前回調査と比較すると、家庭生活においては男女の地位の平等感が高まっているものの、その他の項目では「男性優位」と感じる人が多くなっています。
- 男女ともに理想とする生き方については、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる（両立）」の回答が約5割と最も多く、前回の調査と比較して、「男性は仕事、女性は家庭生活または地域活動を優先すべき」という考え方が解消されてきています。
- 社会参加については、「参加している活動はない」という回答が男女ともに4割を超えて最も多く、その一番の理由が「仕事が忙しい」という回答になっています。そのため、男女が積極的に社会参加していくために必要なことでは、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が最も多く、職場における働き方や制度の改善を求める声が大変多くなっています。

### 2. 「女性の活躍促進」について

- 男女ともに約6割の人が、自身や身近にいる女性は「活躍している」と感じています。一方で、男性優位の考え方が変わっていないこと、出産等により男性と比べキャリア形成が難しいことなどから、「活躍していない」と感じている人も約4割程度見受けられます。

### 3. 「就労・職業」について

- 希望する生活については、男女ともに、「仕事」、「家庭」、「地域活動や自分の時間」を両立させたいと希望しながらも、実際の生活においては男性が仕事、女性は家庭・仕事優先にならざるをえない方がいることがわかります。
- 女性が働くことについては、男女ともに「結婚や出産にかかわらず、働く方がよい（就業継続型）」という考え方が最も多くなっています。

### 4. 「家庭・結婚」について

- 依然として家事全般を女性が主に担っている現状ですが、男性が担う役割も増えてきています。
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については否定的な意見（そうは思わない・どちらかといえばそうは思わない）が7割以上を占め、前回調査と比較すると13.7ポイントも増えており、日本で古くから続く固定的性別役割分担意識は解消に向かっていることがわかります。

#### 5. 「人権<性の多様性、DV等>」について

- 「セクシュアル・マイノリティ」や「LGBT」といった性の多様性に関する言葉の知名度は高いものの、認知度は回答者の約半数とまだ低い現状にあります。
- 全体の8.5%（約11～12人に1人）の方が、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に違和感を持ったり悩んだりした、または、身近に悩んでいる方を見たり、悩んでいることを聞いたりしたことがあると回答している一方で、事業所における性の多様性への配慮について、約76%が取り組んでおらず、市に求める対策への声も多くなっています。
- 女性の4.7%、男性の0.3%の人がDV被害経験があると回答しています。また、被害経験者のうち、女性の2割は誰にも相談することができなかつたと回答しています。

#### 6. 「介護」について

- 自宅で介護する場合の担い手について、依然として男女ともに女性が担うものという意識が強いことが分かります。

#### 7. 「防災」について

- 依然として「男女別ニーズに配慮した物資備蓄や速やかに調達・輸送できる体制整備」や「男女共同参画の視点からの災害対応の学習機会」、「平時からの防災に対する男女共同参画の意識づくり」が必要という声が多いことが分かります。

#### 8. 「市の施策に望むこと等」について

- 就労関係や保育、介護など生活の中で現実には直面している課題等の施策の充実を望む回答と男女平等教育の推進を求める回答が多くなっています。

#### <男女共同参画推進活動ネットワーク加入団体の皆さんからの意見・感想>

- 男女共同参画の推進は生活全般、社会の仕組みにも声を出していくことが大切。それには、この様々な意識調査がとても大切であると思う。
- 社会全体でジェンダー平等についての理解が進み、意識の高まりが見られると思いますが、しかし、それらはまだまだ遅れていて、それが今回の結果にも反映されていると思います。
- 実生活とのギャップはあるが、全体的に前回より、男女平等の意識が高まっていると思う。考察の通りでよいと思う。

## 1. 「男女の地位の平等感、男女の生き方、社会参加」について

### 男女の地位の平等感

依然として、習慣・しきたりなど社会全体において「男性優位」と感じている人は多いですが、分野によっては男女の地位の平等感が高まっているところもあります。

問1 あなたは次にあげる分野及び社会全体で、男女の地位は平等になっていると思いますか。【○はそれぞれ1つだけ】

#### <全体>

- 8つの設問項目において、「平等」と回答した割合は、「(2) 学校教育 (68.9%)」、「(2) 家庭生活 (32.3%)」、「(7) 自治会や地域活動 (31.8%)」、の順に高く、「(2) 学校教育」が他の項目と比べ圧倒的に「平等」と感じている割合が高くなっています。また、「(2) 学校教育」以外においては、「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」と回答した方の割合が高くなっており、前回調査と比較しても男性優遇の回答が増えていることから、女性に比べ男性が優遇されていると感じている方が増えている現状になっています。
- 特に「(5) 政治の場」においては、男女ともに「男性が優遇」と回答した方の割合が最も高く、全体で見ると「男性が優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」と回答した方の割合が7割を超えています。

#### <性別>

- 性別で比較すると、「男性が優遇」と回答した方の割合は、「(1) 家庭生活 (男性 6.7%に対し女性 14.7%)」、「(3) 職場 (男性 11.9%に対し女性 17.4%)」、「(4) 習慣・しきたり (男性 15.7%に対し女性 22.0%)」、「(5) 政治の場 (男性 27.4%に対し女性 36.4%)」、「(6) 法律や制度 (男性 11.2%に対し女性 19.6%)」、「(7) 自治会や地域活動 (男性 10.5%に対し女性 15.8%)」、「(8) 社会全体 (男性 14.4%に対し女性 18.6%)」となっており、多くの項目において、性別による認識の差が見られます。

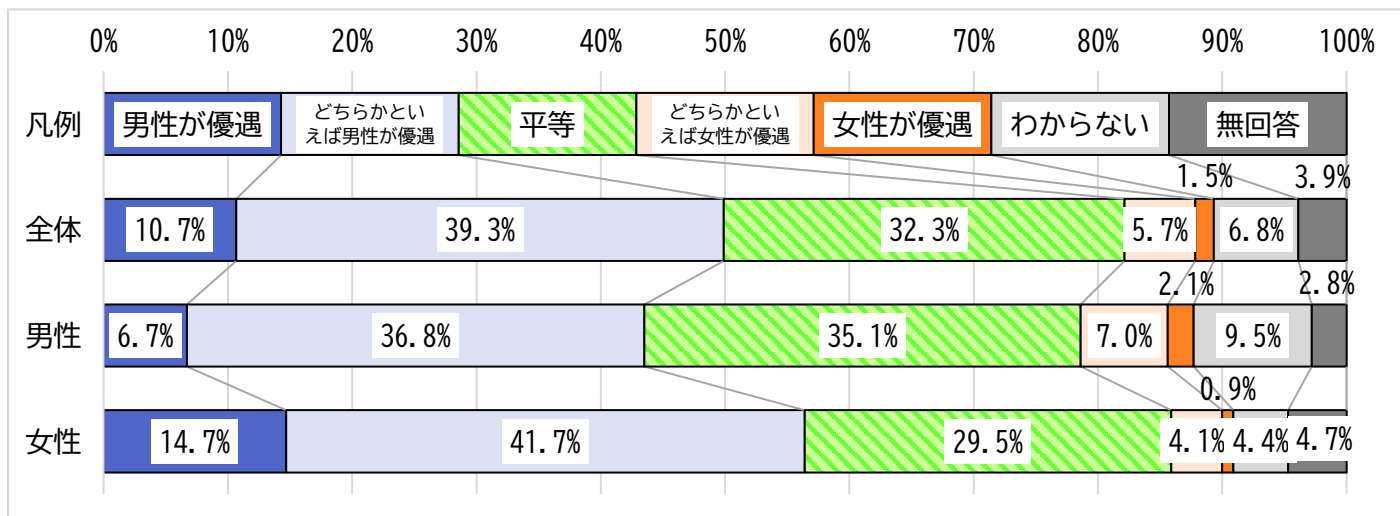
#### <前回調査・全国調査・県調査との比較>

- 前回調査との比較においては、「(1) 家庭生活」を除く7項目において、「平等」と回答した方の割合が減少しており、「男性が優遇」、「どちらかといえば男性が優遇」と回答した方の割合が増加しています。
- 全国調査との比較においては、「平等」と回答した方の割合が「(1) 家庭生活」、「(2) 学校教育」、「(4) 習慣・しきたり」「(5) 政治の場」においては上回り、「(3) 職場」、「(6) 法律や制度」、「(7) 自治会や地域活動」、「(8) 社会全体」においては下回っています。
- 県調査との比較においては、「平等」と回答した方の割合が「(2) 学校教育」においては上回っていますが、その他においては下回っています。

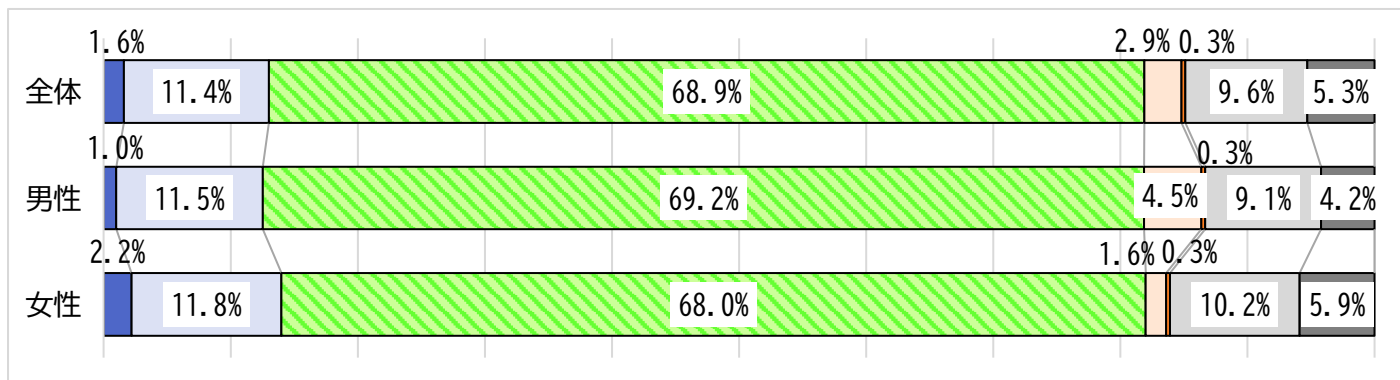


問1 男女の地位の平等感<性別>

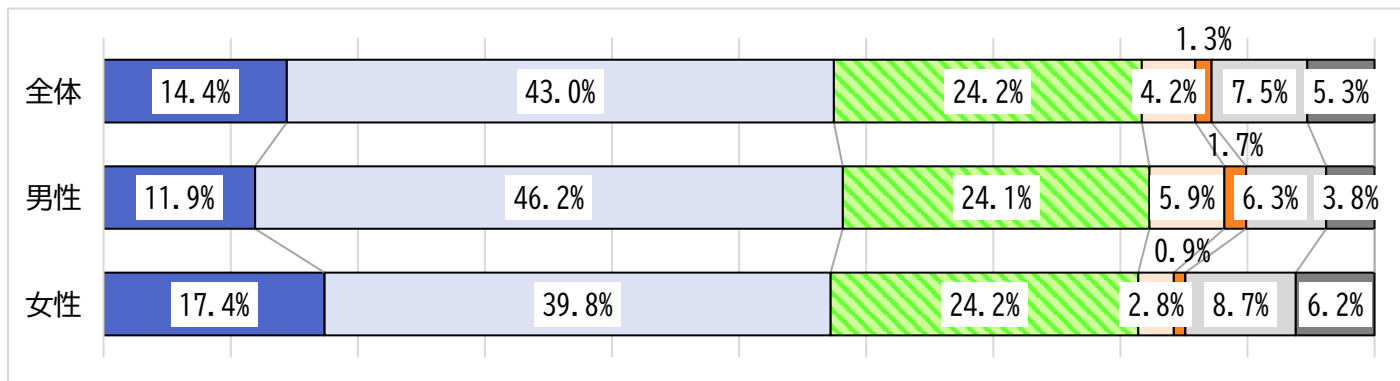
問1—(1) 家庭生活



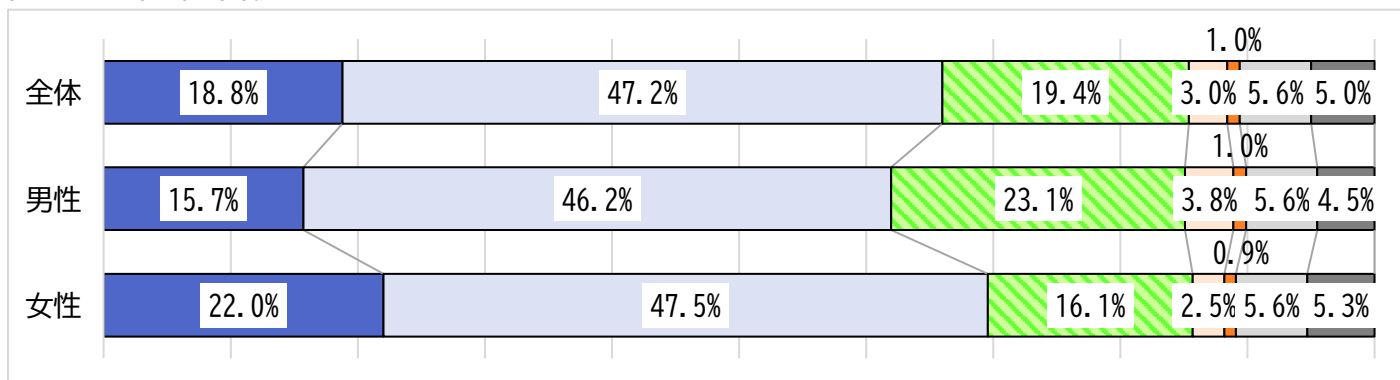
問1—(2) 学校教育



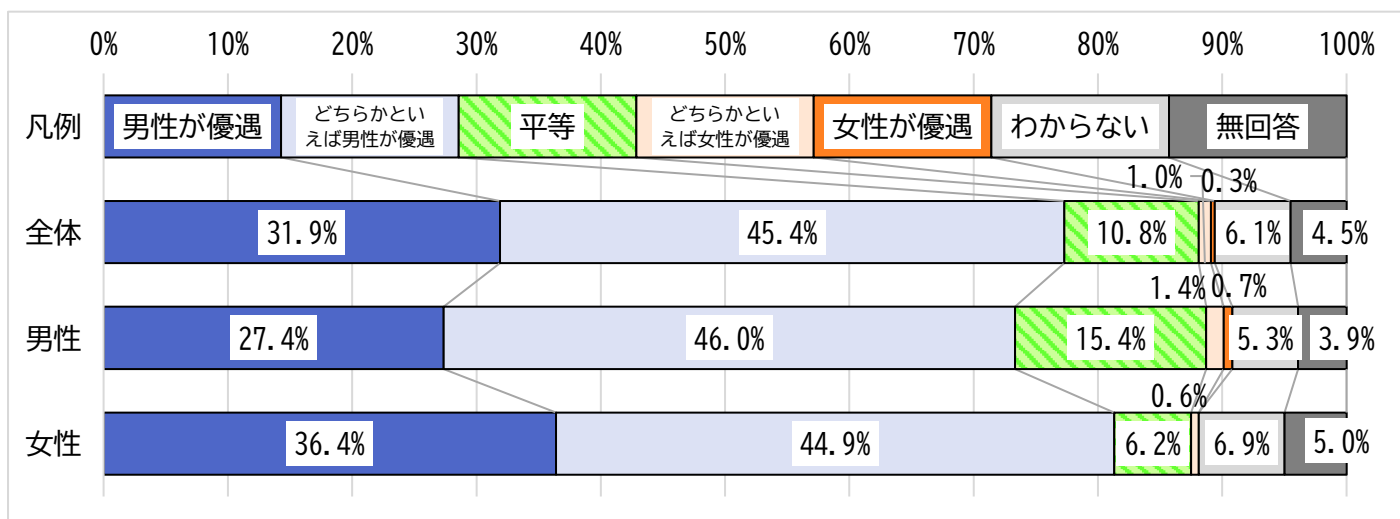
問1—(3) 職場



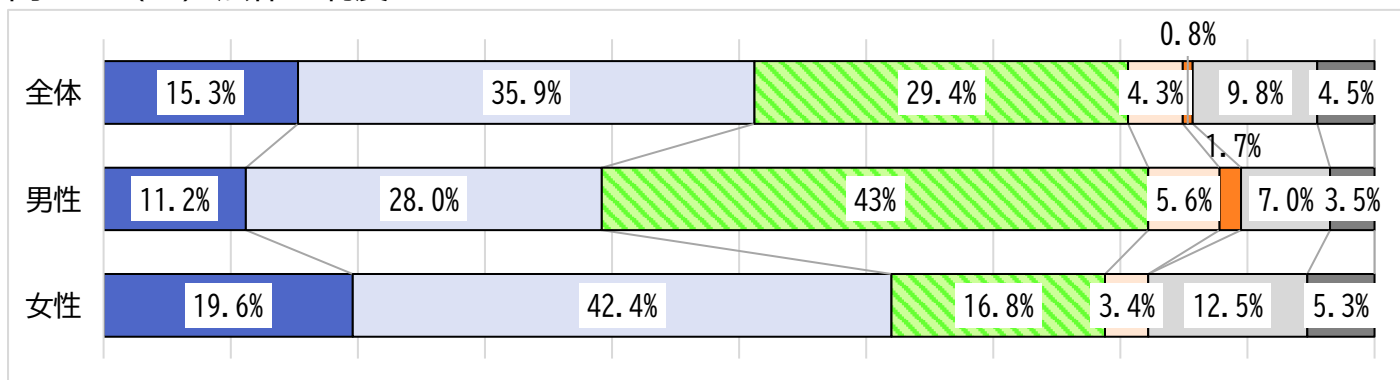
問1—(4) 習慣・しきたり



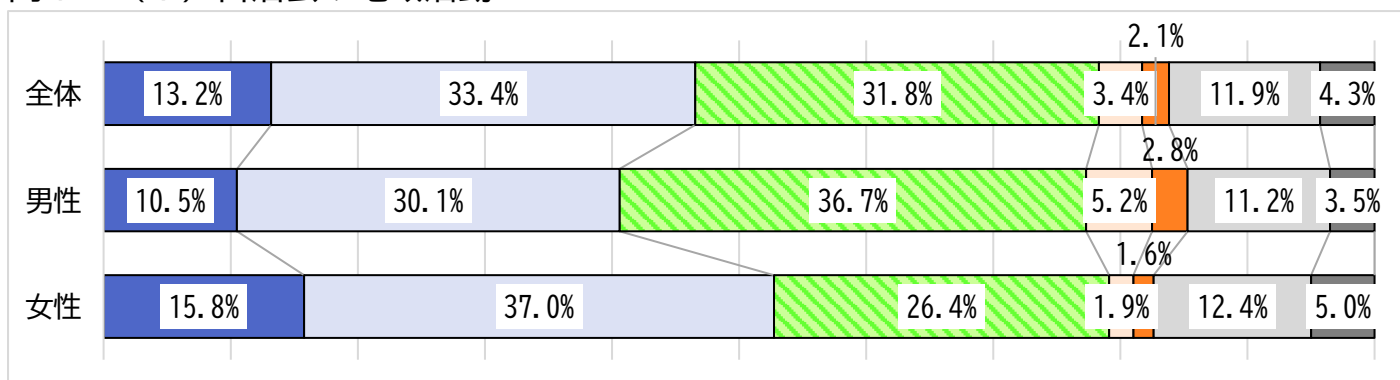
問1 — (5) 政治の場



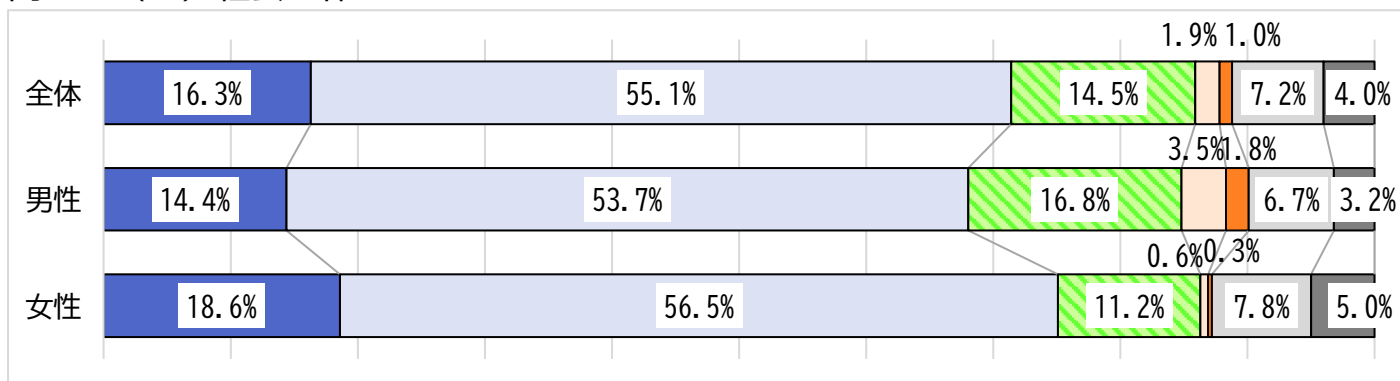
問1 — (6) 法律や制度



問1 — (7) 自治会や地域活動

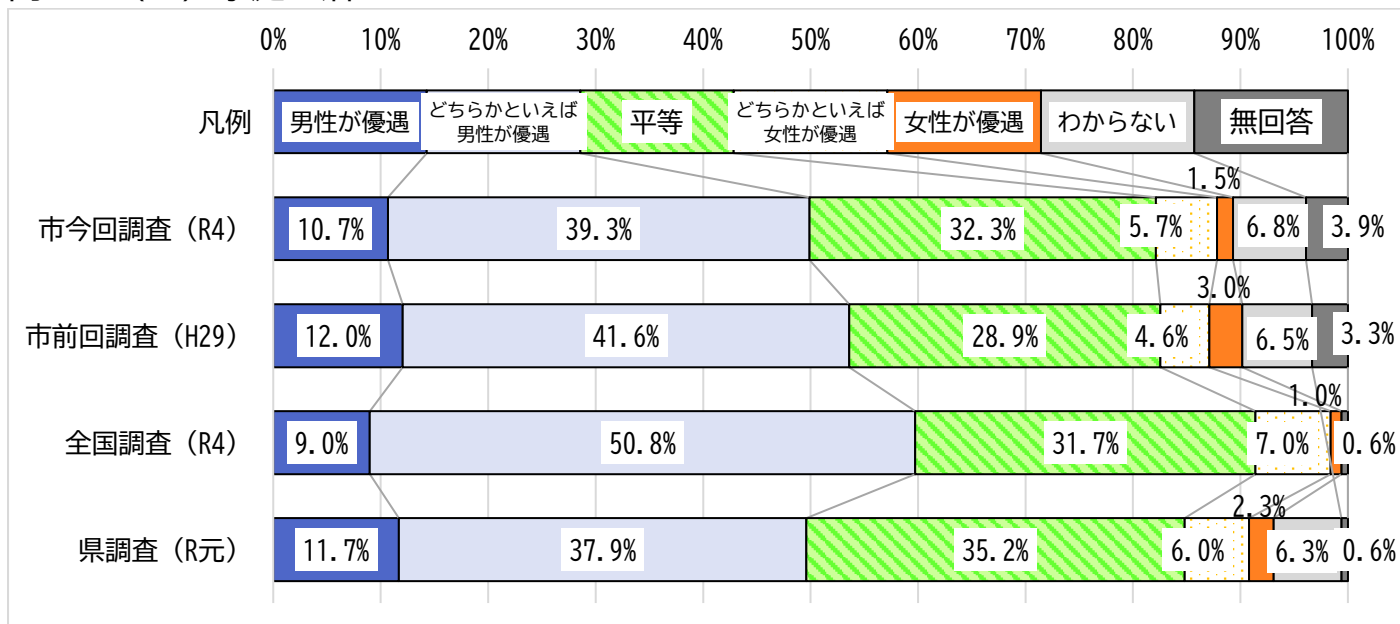


問1 — (8) 社会全体

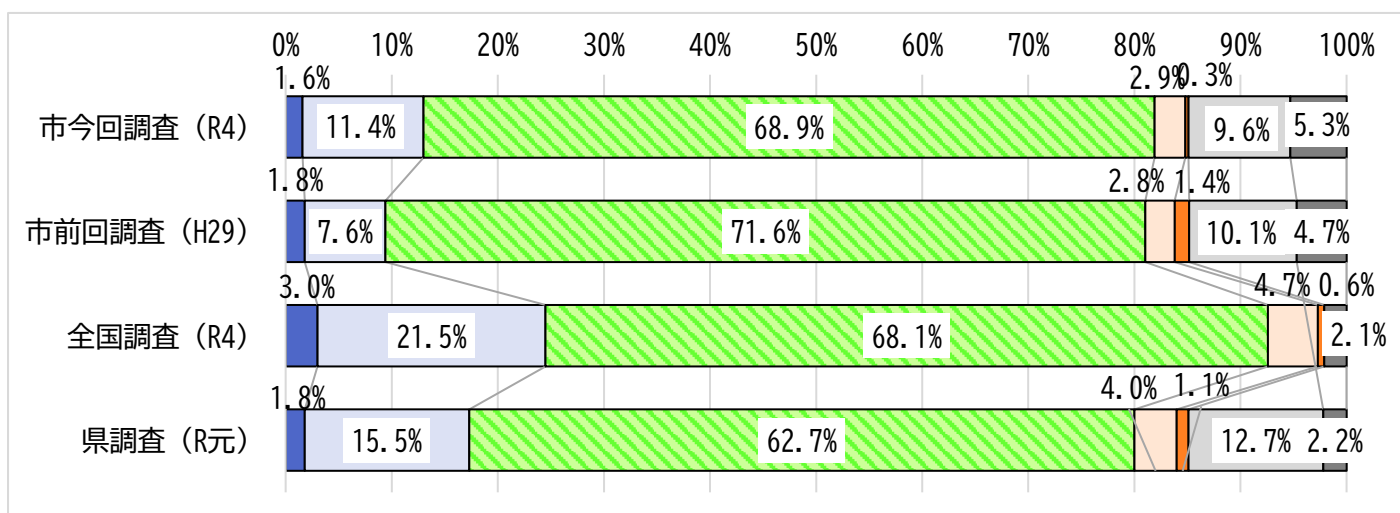


問1 男女の地位の平等感<前回調査・国・県比較>

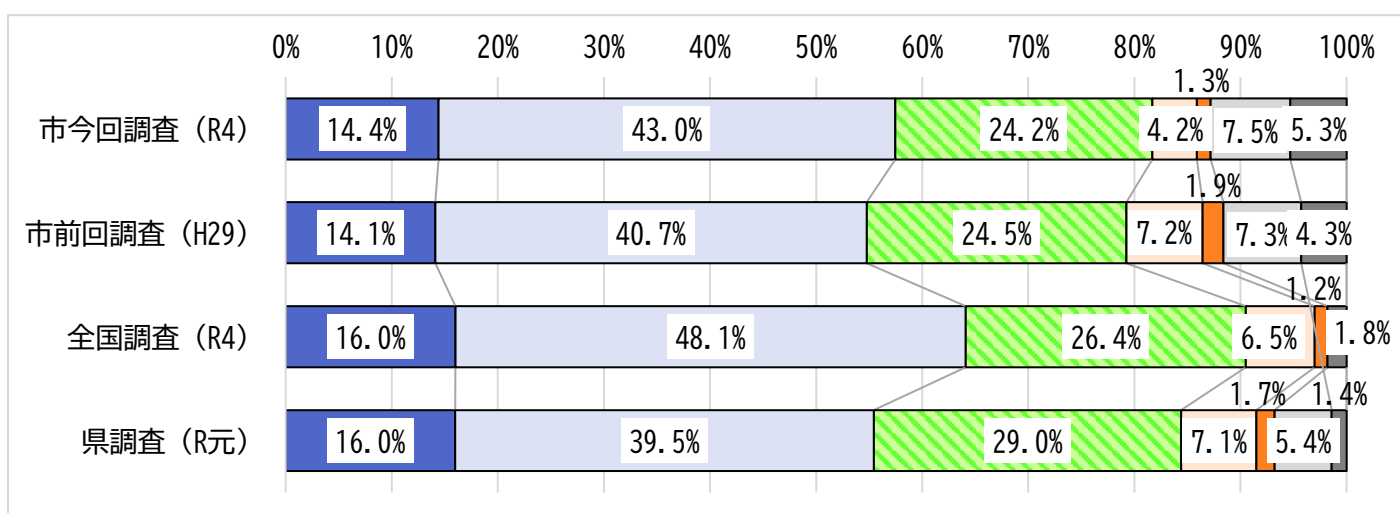
問1—(1) 家庭生活



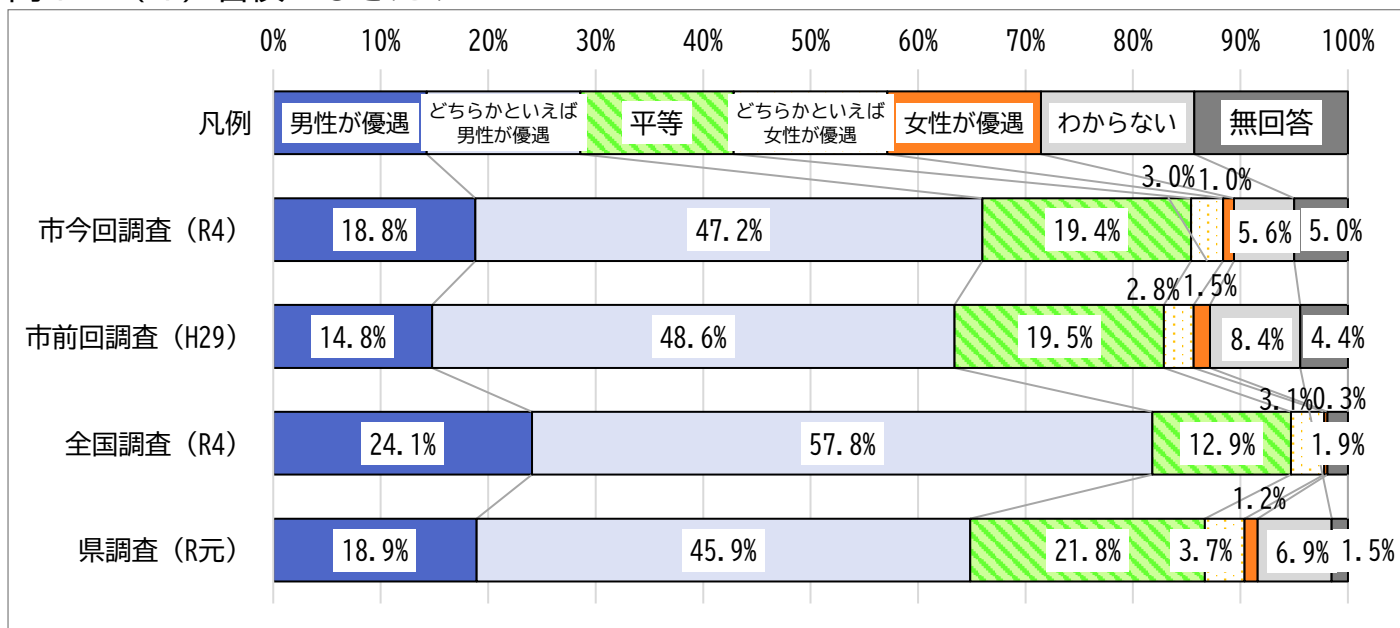
問1—(2) 学校教育



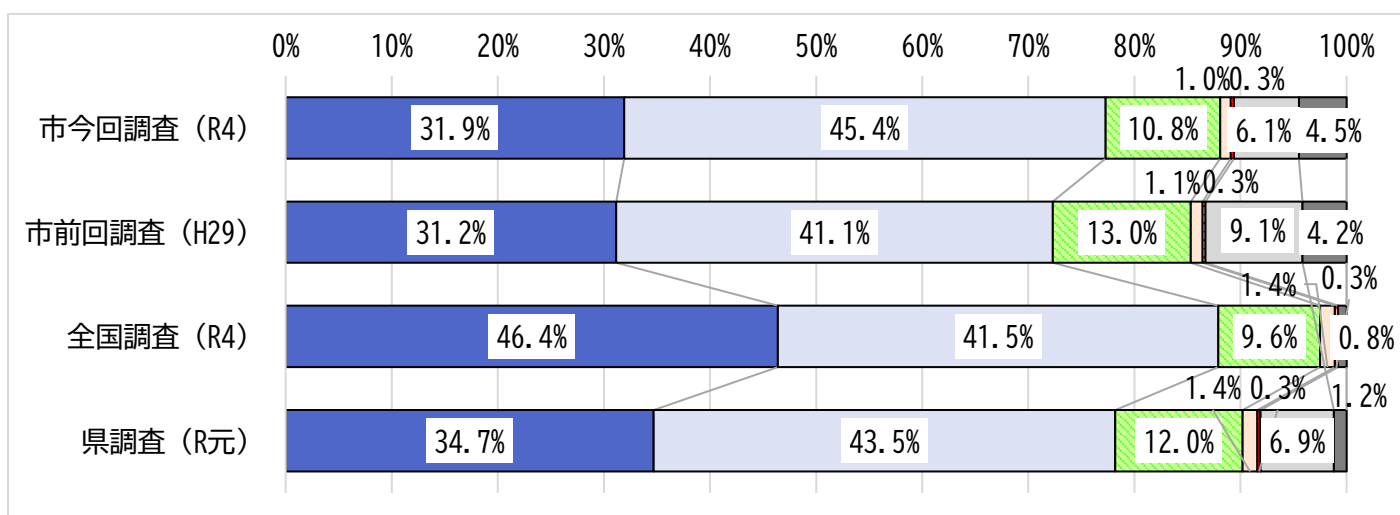
問1—(3) 職場



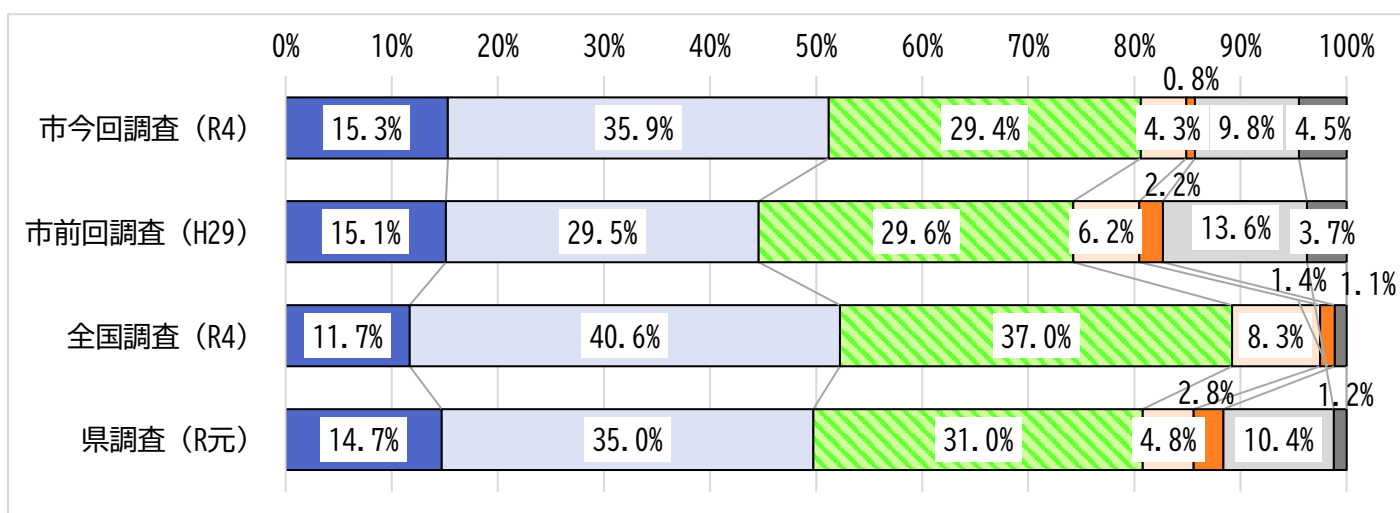
問1—(4) 習慣・しきたり



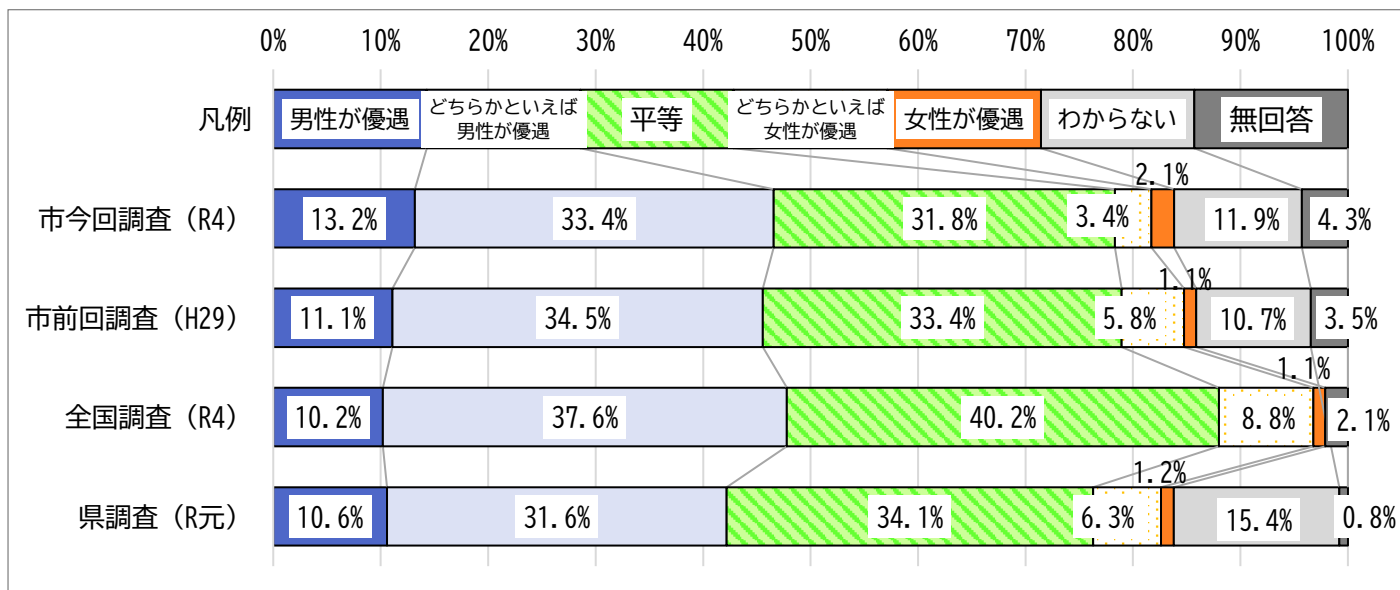
問1—(5) 政治の場



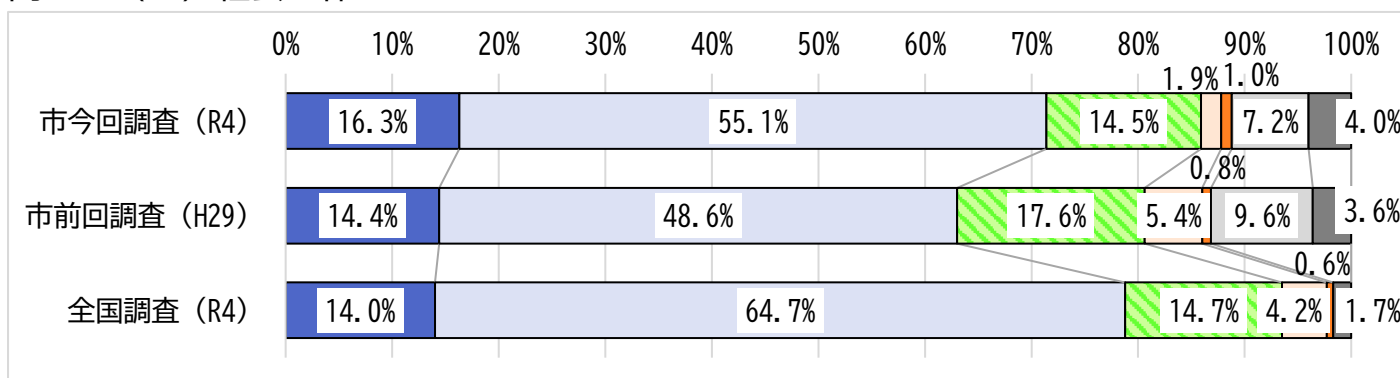
問1—(6) 法律や制度



問1—(7) 自治会や地域活動



問1—(8) 社会全体



<男女共同参画推進活動ネットワーク加入団体の皆さんからの意見・感想>

- 男性優遇が減少して平等の意識が増していることは、家庭のあり方が少し変化してきていると思う。=家父長制の弱体化。
- 平等感や意識が増しているのだが、「職場」「習慣・しきたり」など、それが表面化していない。特に、「政治の場」「社会全体」では、更に男性優位の現実がある。女性には未だにハードルが高い現状がある。
- 学校教育の場において平等と感じている割合が約7割となっているのに家庭生活では約3割となってしまう。この差が縮まらないと平等になっているとは言えない。
- 男女の地位の平等感については、ジェンダーギャップ指数に似た結果が出たなど感じました。

## 男女の生き方

男女ともに「仕事と家庭生活・地域活動との両立」を望む回答が最も多く、前回の調査と比較しても両立を望む声は増えており、これまでの偏った性別役割分担意識が更に解消してきているものと推察されます。

問2 女性及び男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。女性の生き方、男性の生き方両方についてお答えください。

### 【女性の生き方について】

#### <全体>

○6つの選択肢のうち、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる（両立）」の回答が49.0%と最も多く、次いで多いのは「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる（家庭生活や地域活動優先）」が22.3%になっています。

#### <性別>

○性別で見ると「両立」の回答が、男性47.2%、女性51.1%と男女ともに最も多くなっています。

○性別毎の回答の差はさほど見受けられず、全体の傾向とほぼ同様となっております。

#### <年代別>

○20代では男女ともに「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる（両立）」が60%を超えています。

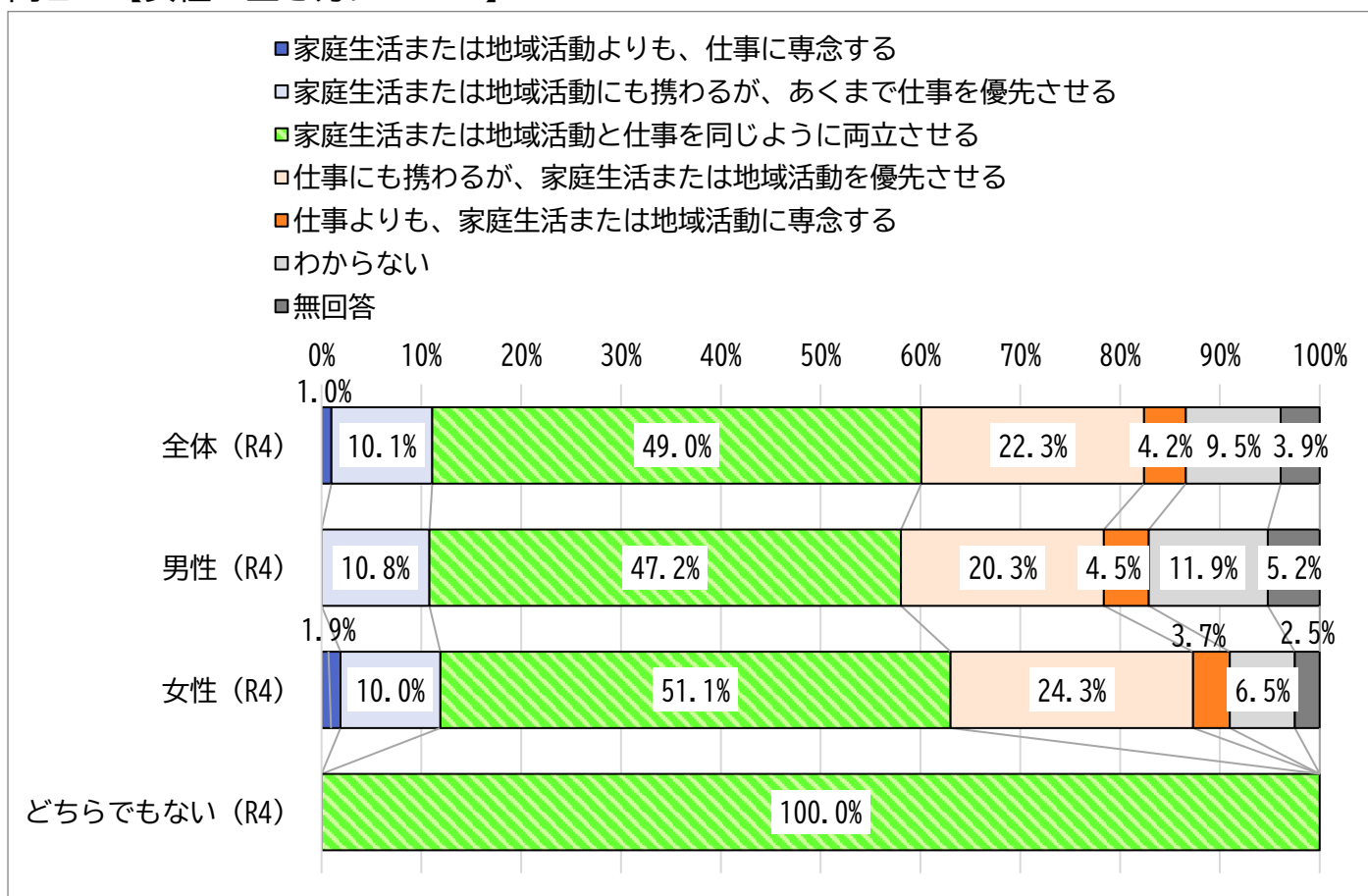
○女性の回答では、いずれの年代においても「両立」が40%を超えています。男性は30・50・70代以上で、「両立」が40%を下回っており、性別による差が見受けられます。

#### <前回調査・県調査との比較>

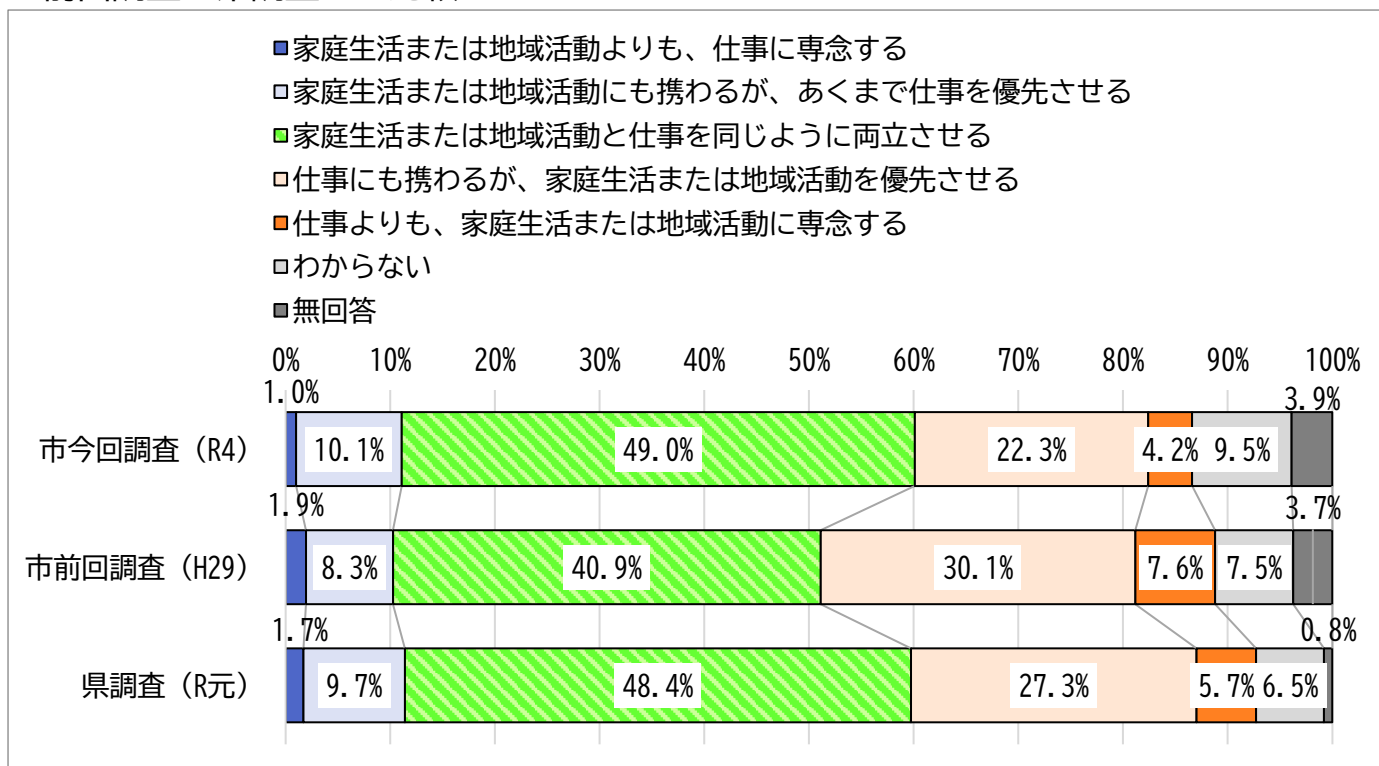
○「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる（両立）」の回答が前回調査より8.1ポイント増加し、「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる（家庭生活や地域活動優先）」が前回調査より7.8ポイント減少し、「仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する（家庭生活や地域活動専念）」が前回調査より3.4ポイント減少しました。

○令和4年度の回答結果は、県の調査結果とほぼ同様の結果が見られます。

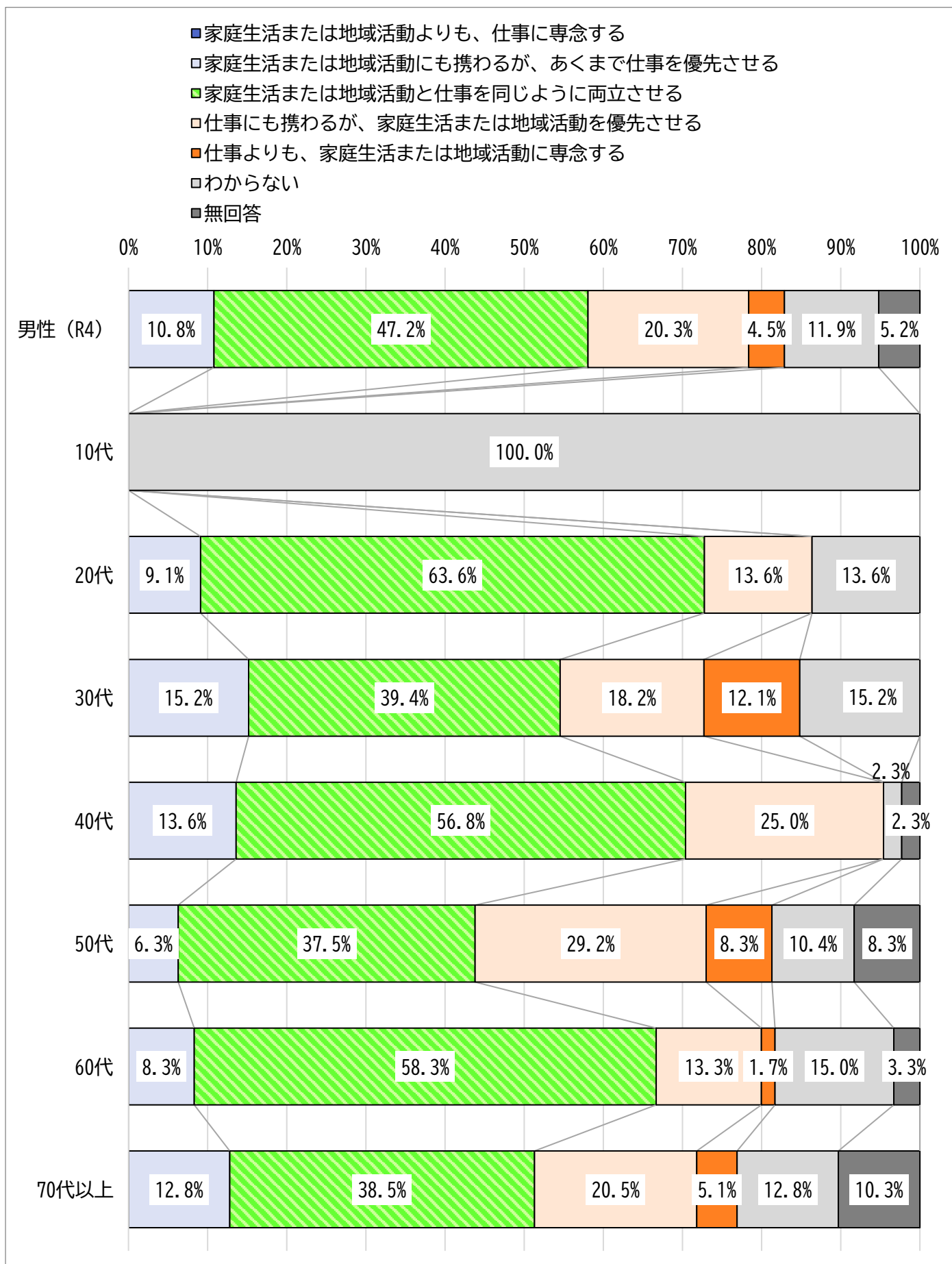
問2 【女性の生き方について】



< 前回調査・県調査との比較 >

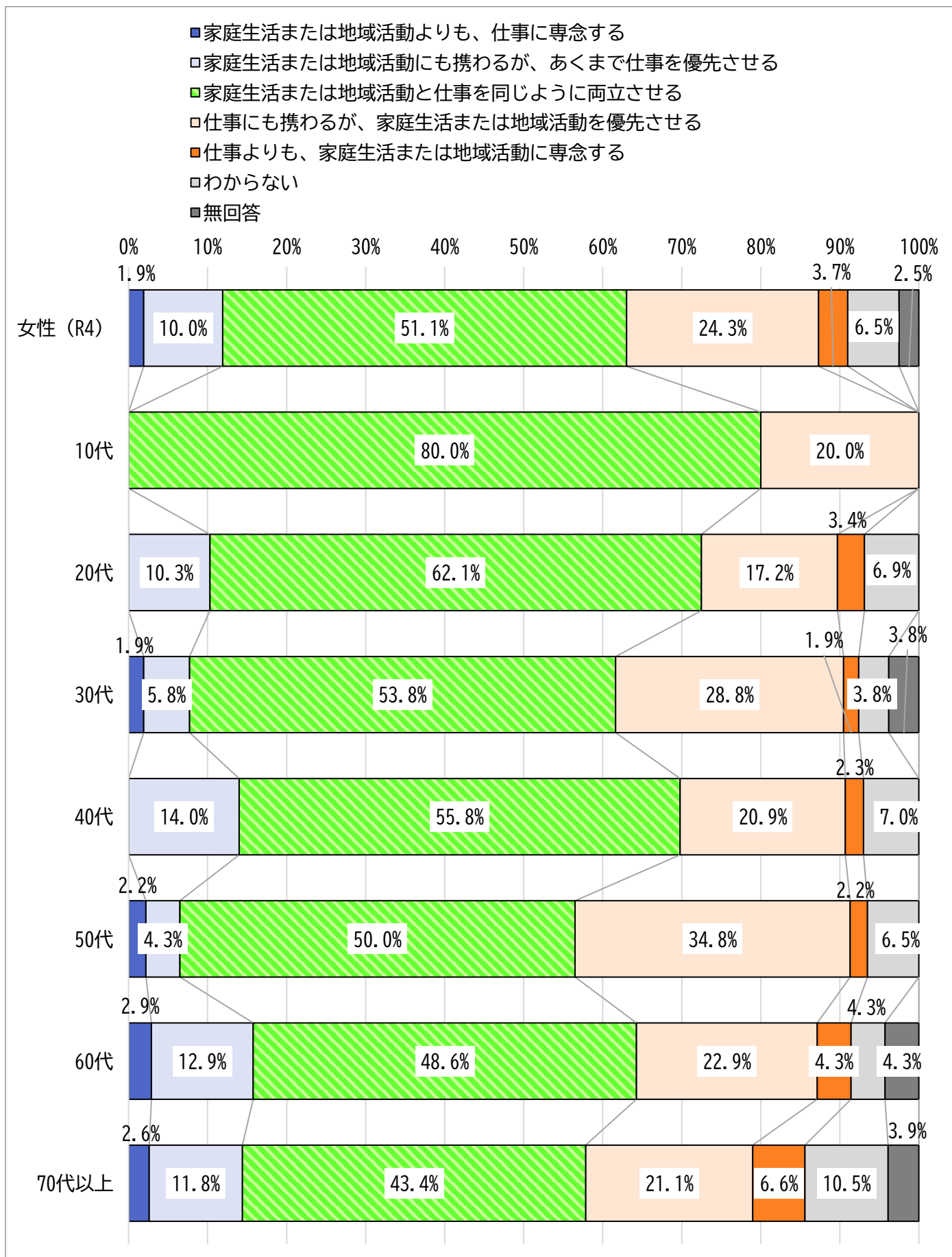


<年代別（男性）>





<年代別（女性）>



### 【男性の生き方について】

#### <全体>

- 6つの選択肢のうち、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる（両立）」の回答が47.7%と最も多く、次いで「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる（仕事優先）」が29.4%となっています。
- 「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる（家庭生活や地域活動優先）」は、わずか6.8%で、女性の生き方と比較すると、2番目に多い回答項目に、望ましい生き方についての違いが見受けられます。

#### <性別>

- 性別で見ると、男性の回答では「両立」が43.4%と最も多く、次いで「仕事優先」が35.7%となっています。
- 女性の回答では、「両立」（51.7%）が最も多く、次いで「仕事優先」が24.3%となっています。
- 男性よりも女性の方が、男性に対して「両立」した生き方を望んでいます。

#### <年代別>

- 男性では20代が、女性では10代が、それぞれ「両立」の回答が一番高い回答となっています。
- 女性の回答を年代別にみると、年代が高くなるほど、「仕事専念」、「仕事優先」という回答が高くなっており、若い世代と高齢の世代の差がはっきりと表れています。
- 男性は、「仕事専念」「仕事優先」を合わせた回答と「両立」の回答を比較すると、40代・50代・70代以上では、仕事を優先する考え方が上回り、女性同様、若い世代と高齢の世代の差が表れている結果となっています。

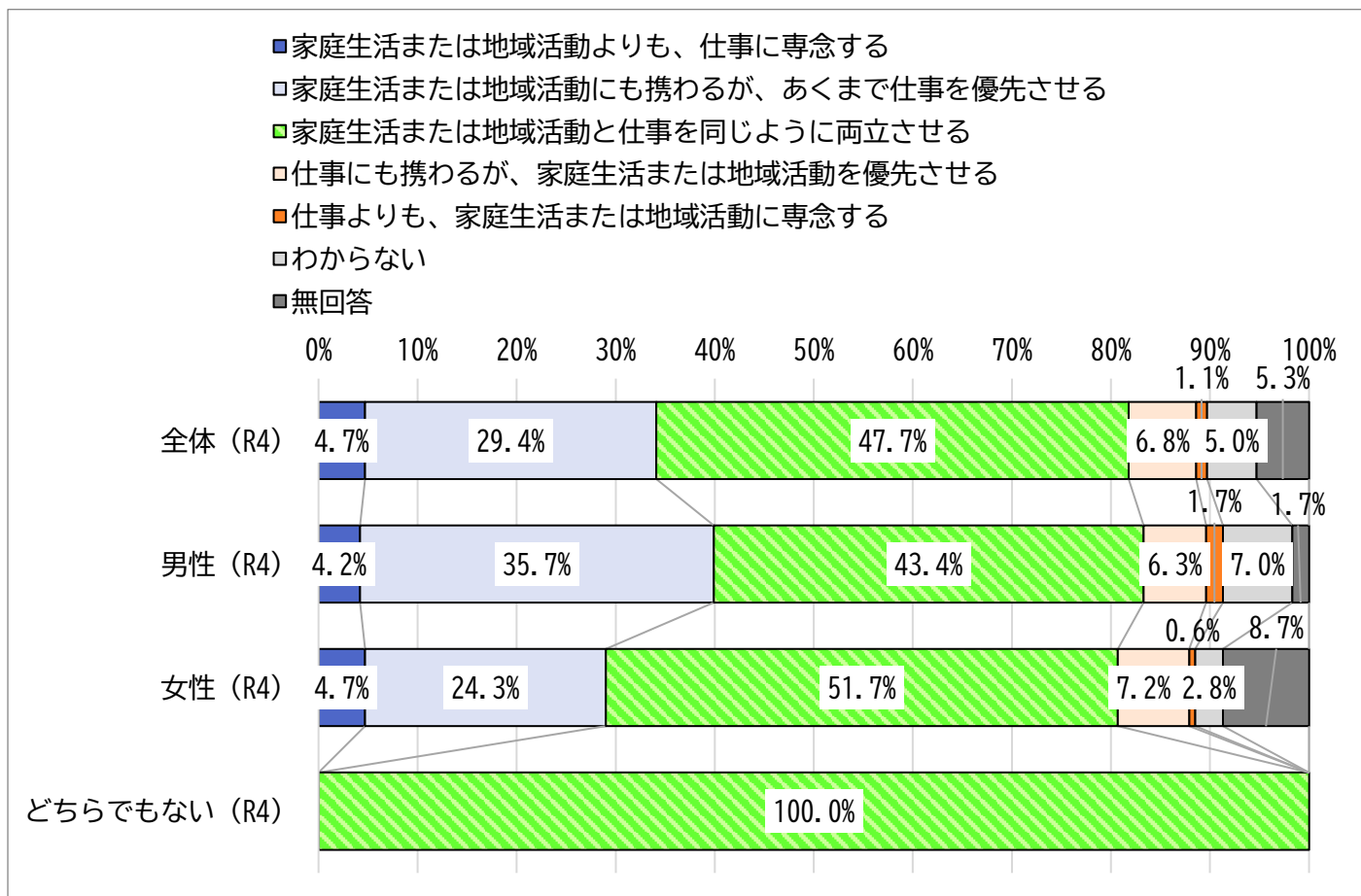
#### <前回調査・県調査との比較>

- 前回調査と比較すると、「仕事優先」が11.5ポイント減少し、「両立」が9.9ポイント増加しています。
- 令和4年度の回答結果は、望ましい女性の生き方同様、県の調査結果とほぼ同様の結果が見られます。

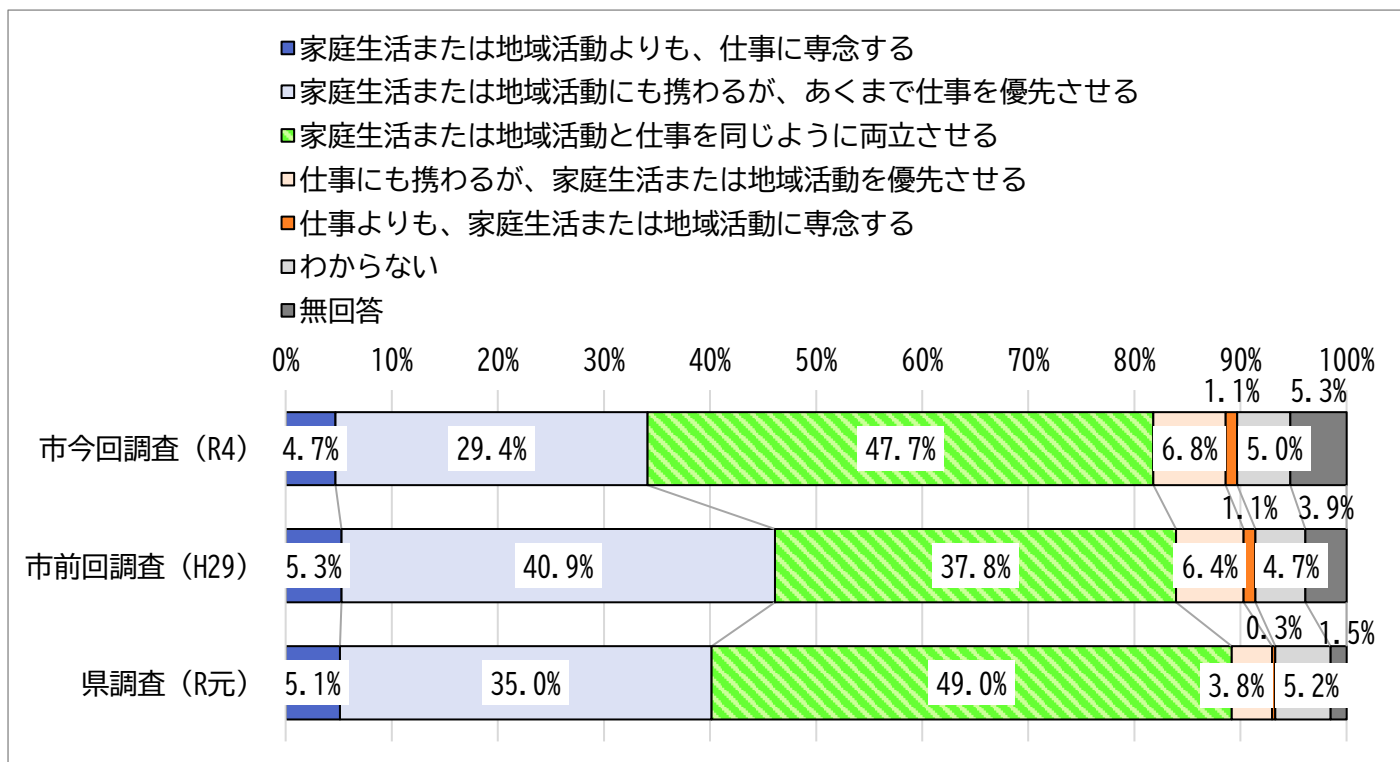
#### <男女共同参画推進活動ネットワーク加入団体の皆さんからの意見・感想>

- あいかかわらず、「男性は仕事、女性は家庭」の考え方が男性側に強くあらわれているが、女性の約3割が「女性は家庭」という意識を持っていることも注視しなければならない。

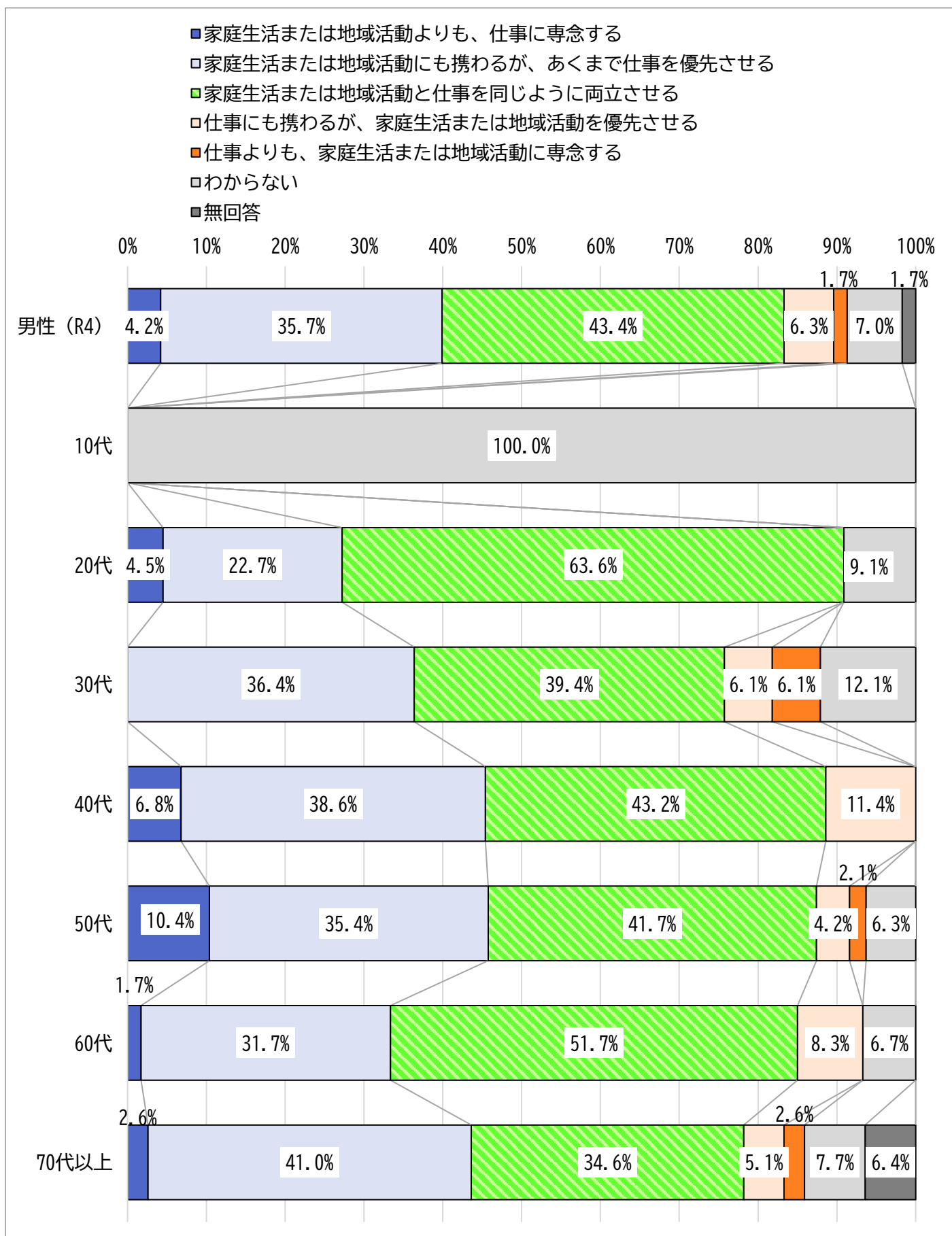
問2 【男性の生き方について】



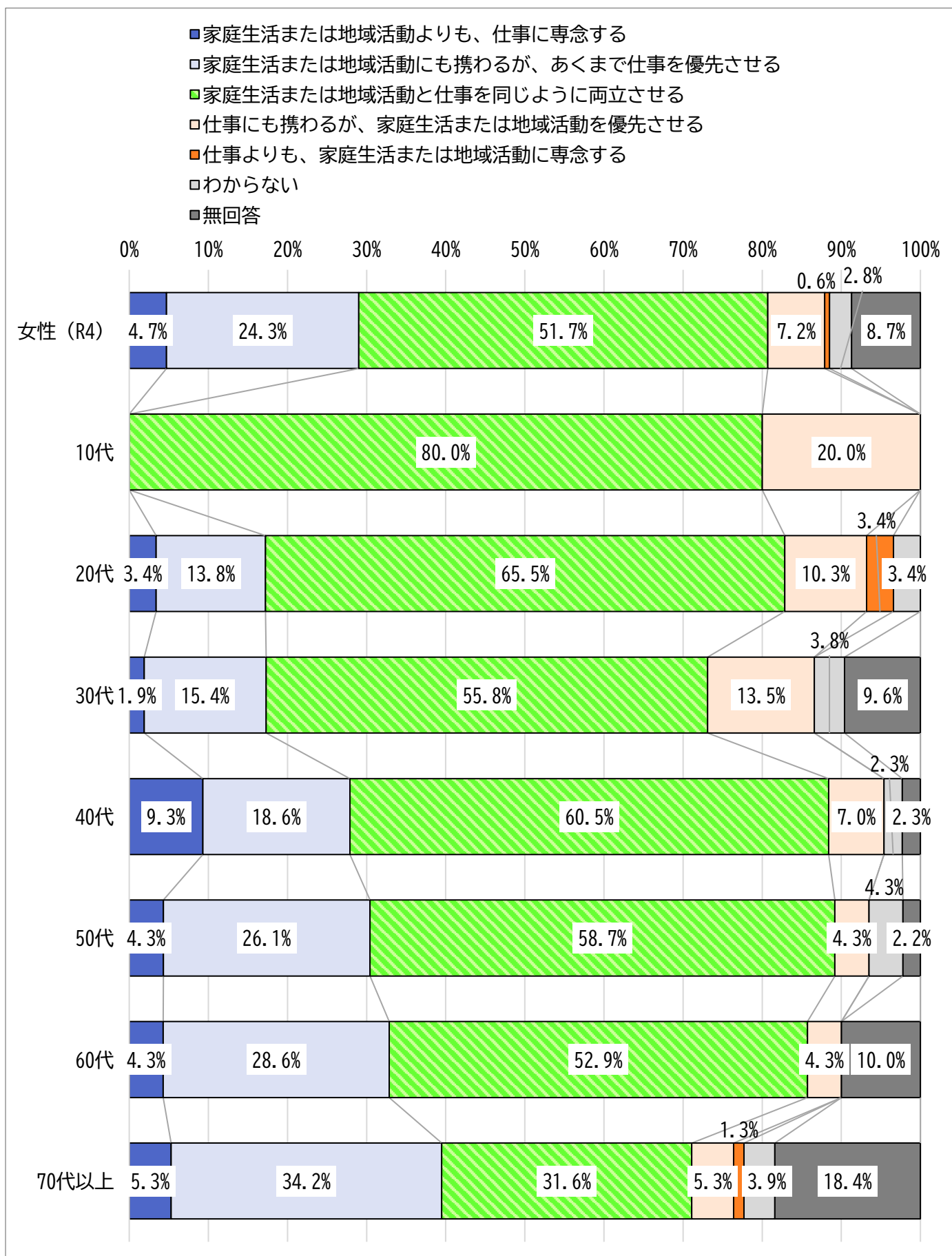
<県調査との比較>



<年代別（男性）>



<年代別（女性）>



### 職業や役職で、今後女性がもっと増えた方がよいと思うもの

多くの人々が「政治の場」や「管理職」への女性の進出を望んでいます。政策などへの女性視点による意見の反映を希望していることが推察されます。

問3 あなたが、次のような職業や役職において、今後女性がもっと増えた方がよいと思うものはどれですか。【〇はあてはまるものすべて】

#### <全体>

- 「国会議員、都道府県議員、市（区）町村議員（56.0%）」が最も多く、次いで「企業の管理職（49.0%）」、「都道府県、市（区）町村の首長（48.8%）」、「国家公務員、地方公務員の管理職（44.3%）」、「裁判官、検察官、弁護士（38.5%）」、「起業家、経営者（36.8%）」となっており、政治や行政、司法、企業の管理職や経営の場において女性の参画が望まれています。

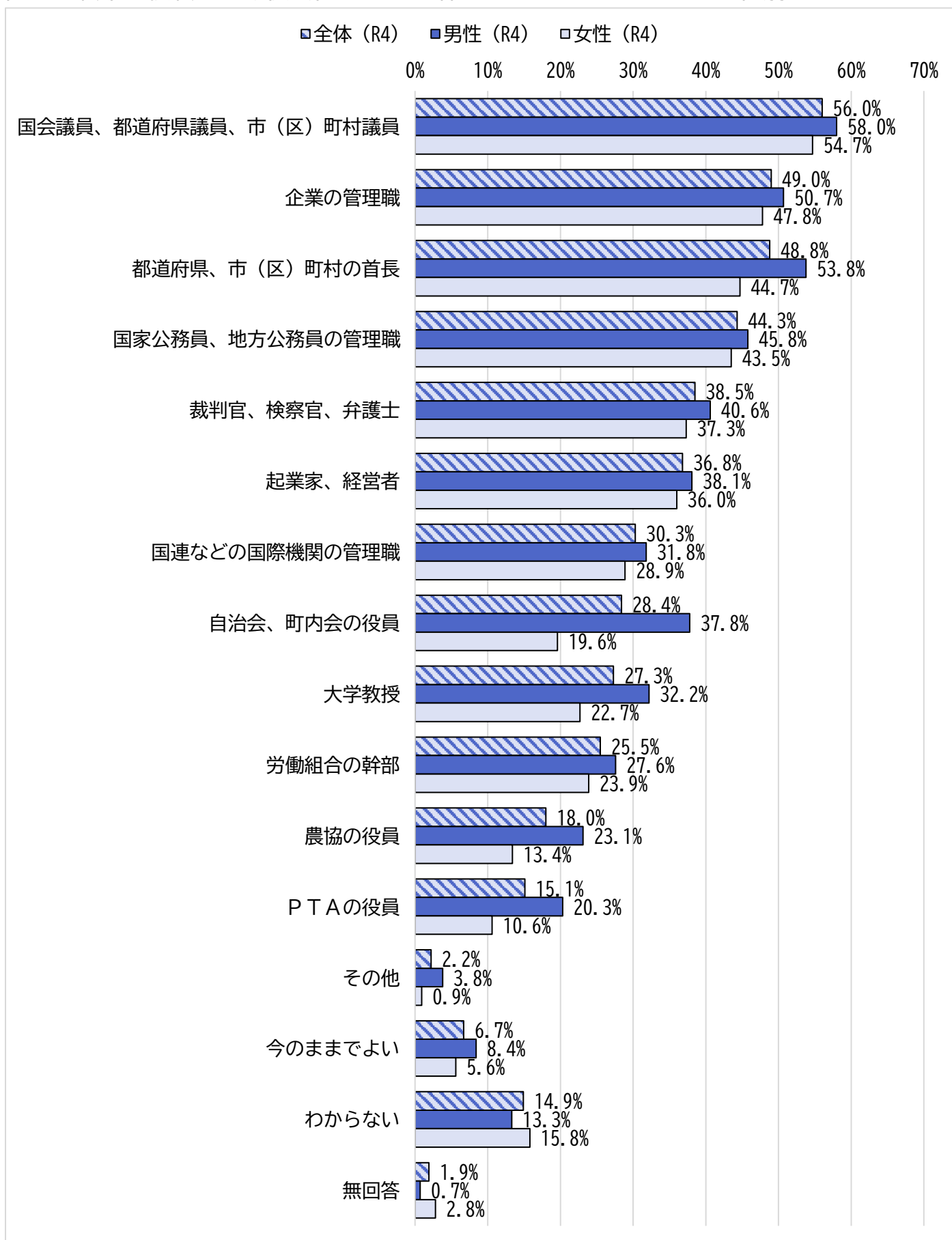
#### <性別>

- 「国会議員、都道府県議員、市（区）町村議員」については、男性が58.0%、女性が54.7%と男女ともに5割を超えています。次いで、「企業の管理職」について男性が50.7%、女性が47.8%、「都道府県、市（区）町村の首長」についても男性が53.8%、女性が44.7%と、いずれも4割を超えており、性別にかかわらず、増えた方がよいという声があがっています。
- 一方、「自治会、町内会の役員」については、男性が37.8%、女性が19.6%で18.2ポイントの差、「PTAの役員」についても男性が20.3%、女性が10.6%で9.7ポイントの差があり、地域や家庭に密接に関係する組織の役職においては、女性がもっと増えた方がよいとする男性の回答が、女性の回答を大きく上回っています。

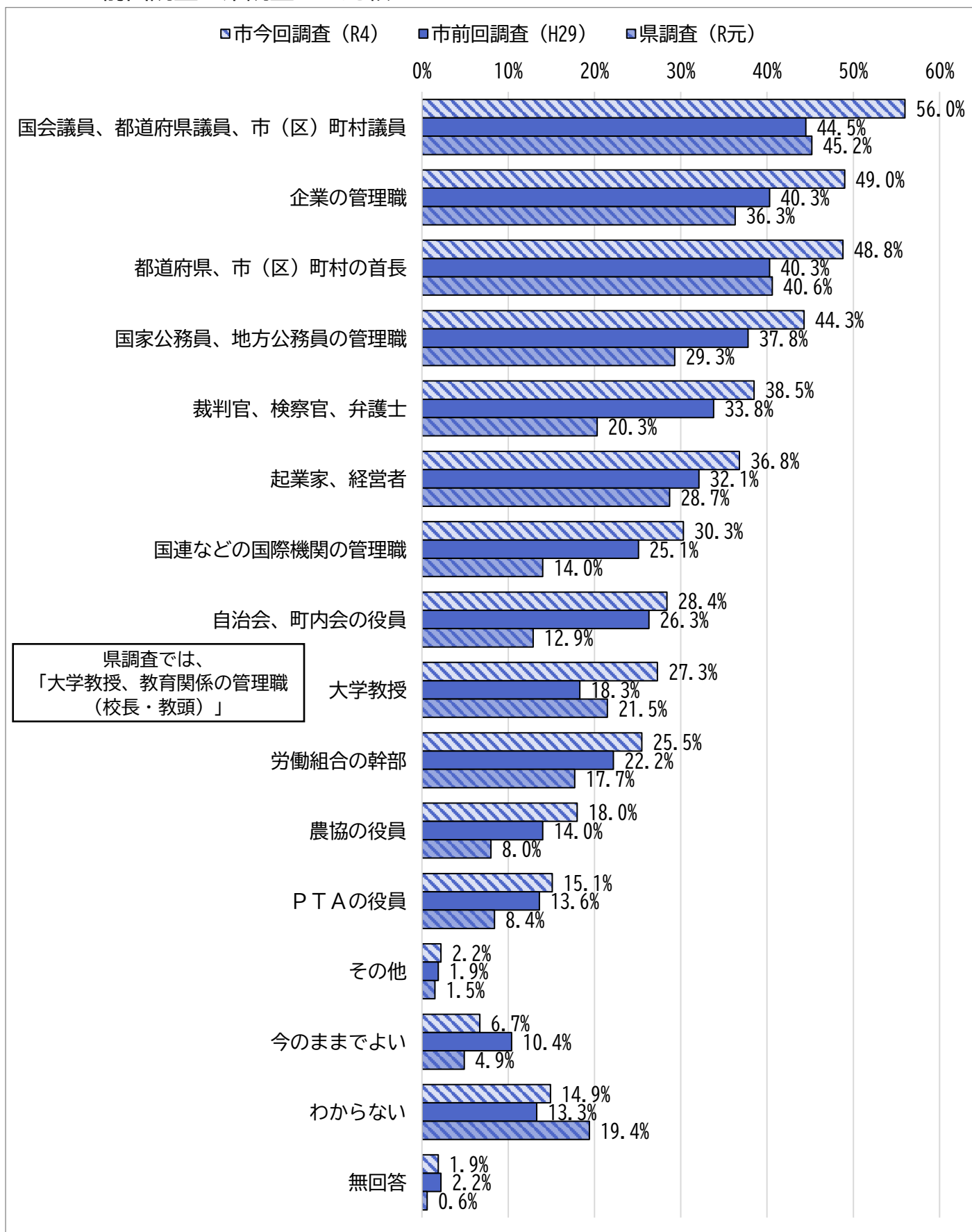
#### <前回調査・県調査との比較>

- 前回調査と比較して、全ての職業や役職で、女性がもっと増えた方がよいとする回答が高まっており、「今のままでよい」という回答も低くなっています。
- 県との比較では、すべての役職において、女性の参画を望む割合が県より高くなっており、本市ではあらゆる場面で女性の活躍を望む声が多いと言えます。

問3 職業や役職で、今後女性がもっと増えた方がよいと思うもの<性別>



問3 職業や役職で、今後女性が増えた方がよいと思うもの  
 <前回調査・県調査との比較>





## 参加している社会活動や地域活動

「参加している活動はない」と回答した割合が男女共に一番高いものの、県調査と比較すると、本市においては「自治会や町内会等の活動」、「子ども会やPTA等の活動」が高いことが特徴であると同時に、それぞれ「自治会や町内会等の活動」は女性より男性の方が、「子ども会やPTA等の活動」は男性より女性の方の割合が高いことも特徴的です。

問4 現在あなたは、どのような社会活動や地域活動に参加していますか。【〇はあてはまるものすべて】

### <全体>

〇9つの選択肢のうち、「参加している活動はない（46.2%）」が最も多く、次いで、「自治会や町内会等の活動（32.1%）」、「趣味やサークル等の活動（18.1%）」となっています。

### <性別>

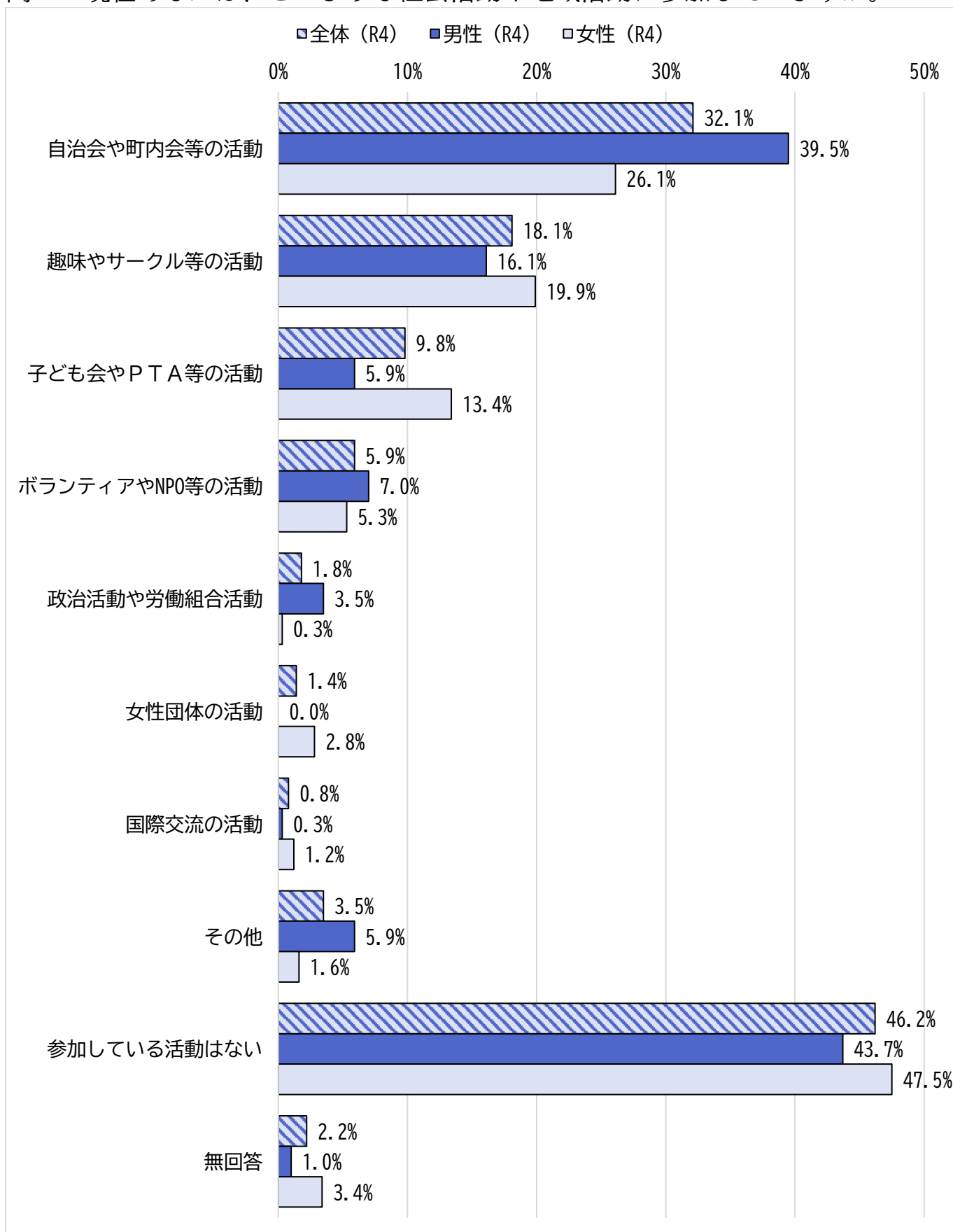
〇ほとんどの項目において、性別の差がないものの、「自治会や町内会等の活動」に参加している割合は、男性が39.5%、女性が26.1%で、その差13.4ポイント。「子ども会やPTA等の活動」に参加している割合は、男性が5.9%、女性が13.4%で、その差7.5ポイントと、それぞれ差のある結果となり、性別による違いが見受けられる結果となっています。

### <県調査との比較>

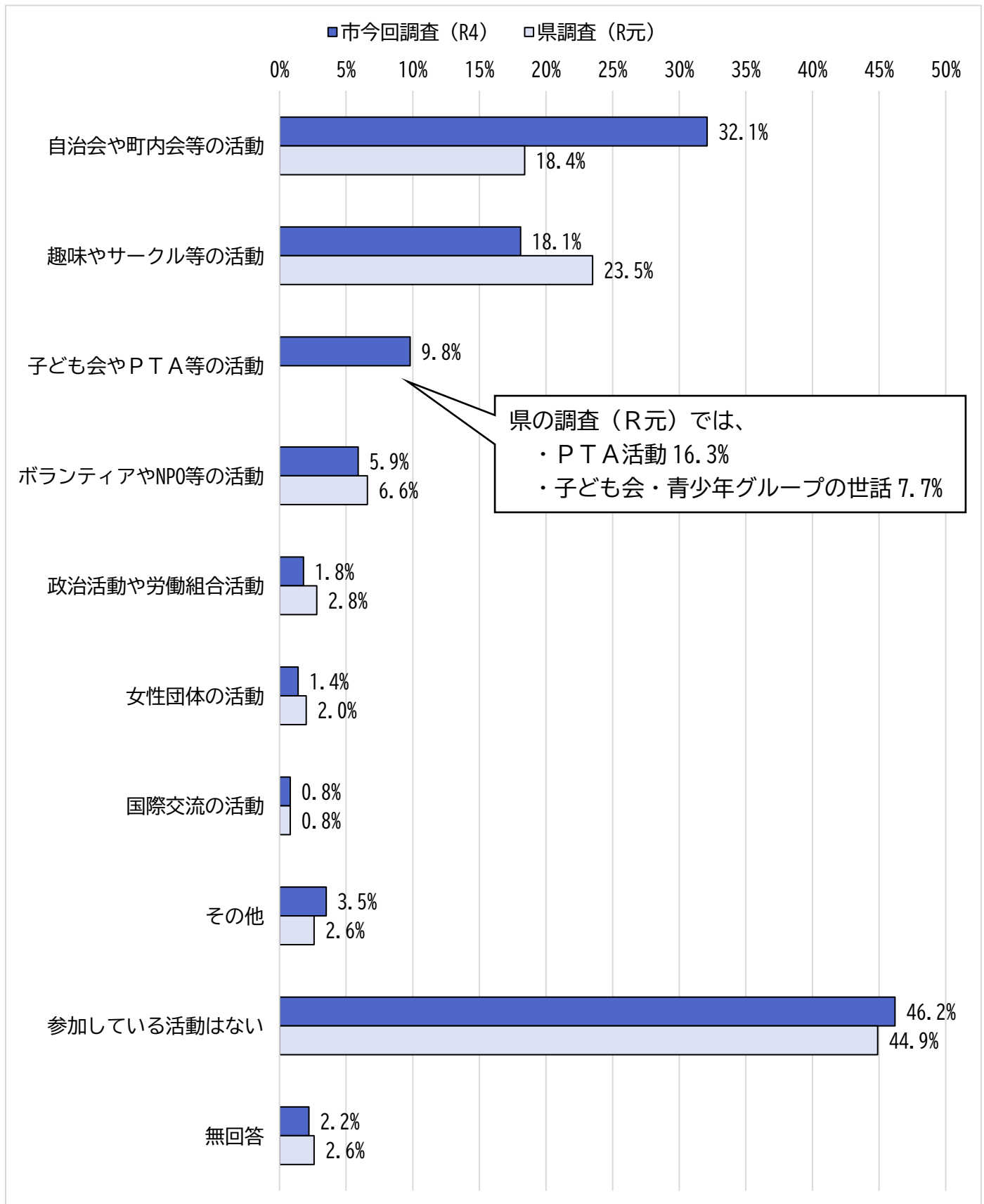
〇県調査と比較すると、「参加している活動はない」と回答した割合は、ほとんど差のない結果となっています。

〇本市の特徴として、「自治会や町内会等の活動」に参加している割合が特に高いことがあげられます。

問4 現在あなたは、どのような社会活動や地域活動に参加していますか。



<県調査との比較>



### 社会活動や地域活動に参加していない理由

男女共に「仕事が忙しい」という理由が一番の理由になっているものの、二番目に高い理由は、男性は「あまり関心がない」、女性は「活動の場が身近にない」と、性別によって異なる結果となっています。

問4-1 社会活動や地域活動に参加していない理由は何ですか。【〇は3つまで】

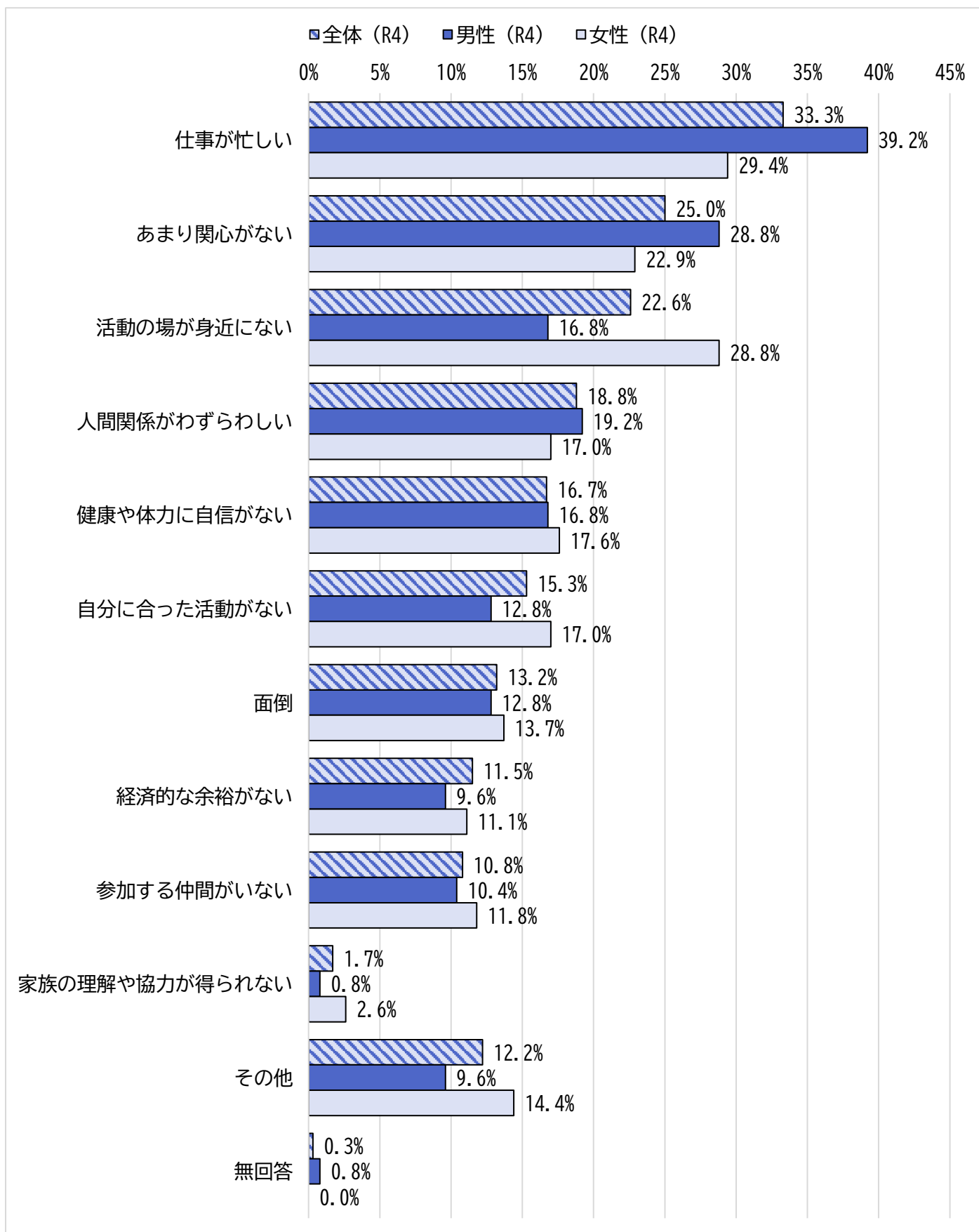
#### <全体>

○回答割合の高い順に、「仕事が忙しい（33.3%）」が一番多く、次いで「あまり関心がない（25.0%）」、「活動の場が身近にない（22.6%）」となっています。

#### <性別>

○一番多く回答している「仕事が忙しい」は、男女共に一番高い理由であるものの、二番目に高い理由は性別によって異なり、男性は「あまり関心がない（28.8%）」、女性は「活動の場が身近にない（28.8%）」となっています。

問4-1 社会活動や地域活動に参加していない理由は何ですか。



## 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと

社会全体の意識改革や家事など能力面の向上、育児・介護にかかる休暇・休業制度や施設・サービス等の充実、労働条件の向上などが望まれています。

問5 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

### <全体>

- 「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が41.9%と最も多くなっています。次いで、「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」が28.6%、「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること」が28.3%となっています。

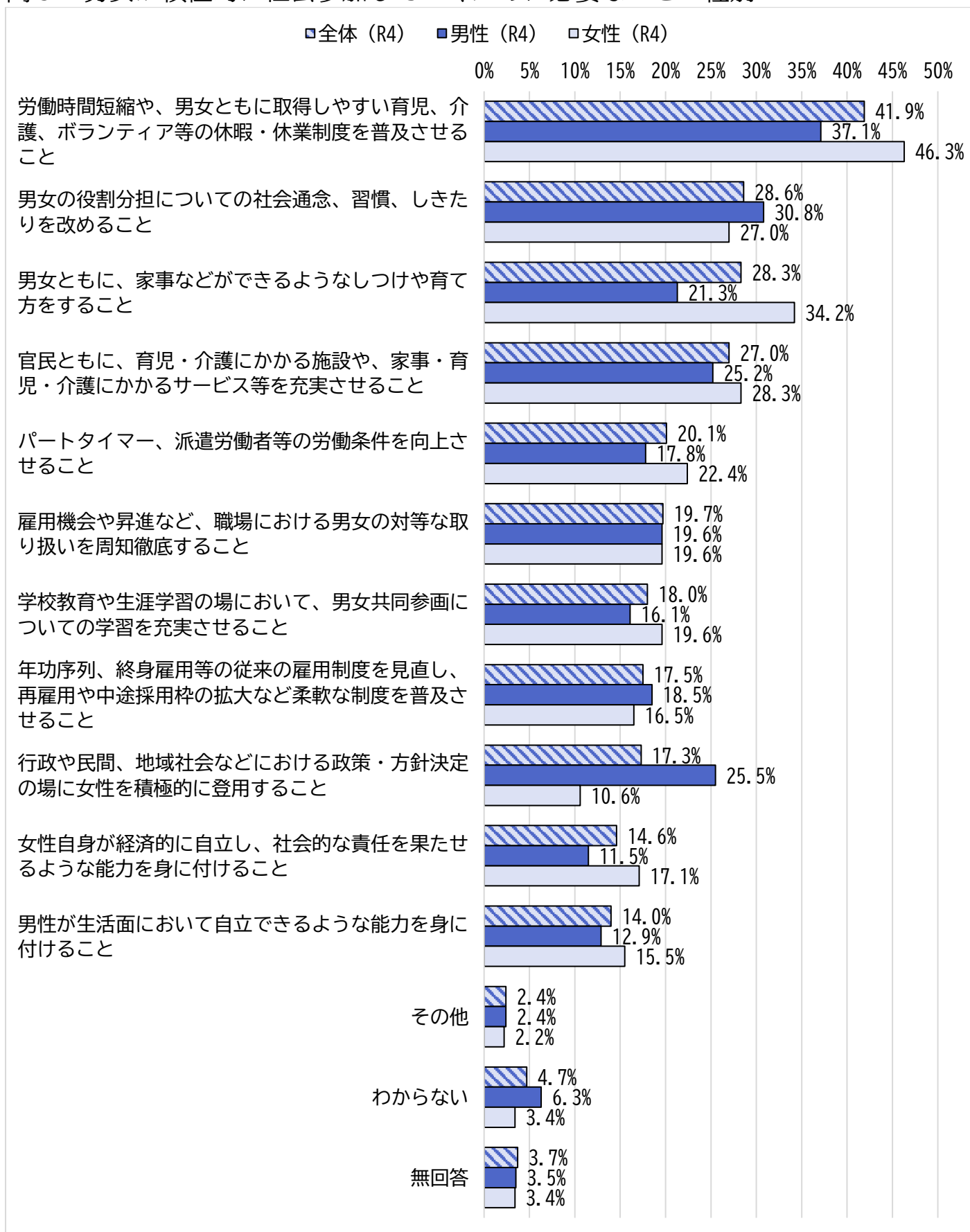
### <性別>

- 性別でみて見ると、女性では、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が46.3%と、男性よりも9.2ポイント多くなっています。次いで、「男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること」が34.2%と、男性より12.9ポイントも多くなっており、働き方の見直しや男性への家事・育児の参画など、女性が切に望んでいると推察されます。
- 男性では、「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」が37.1%で最も多く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること」が30.8%となっています。

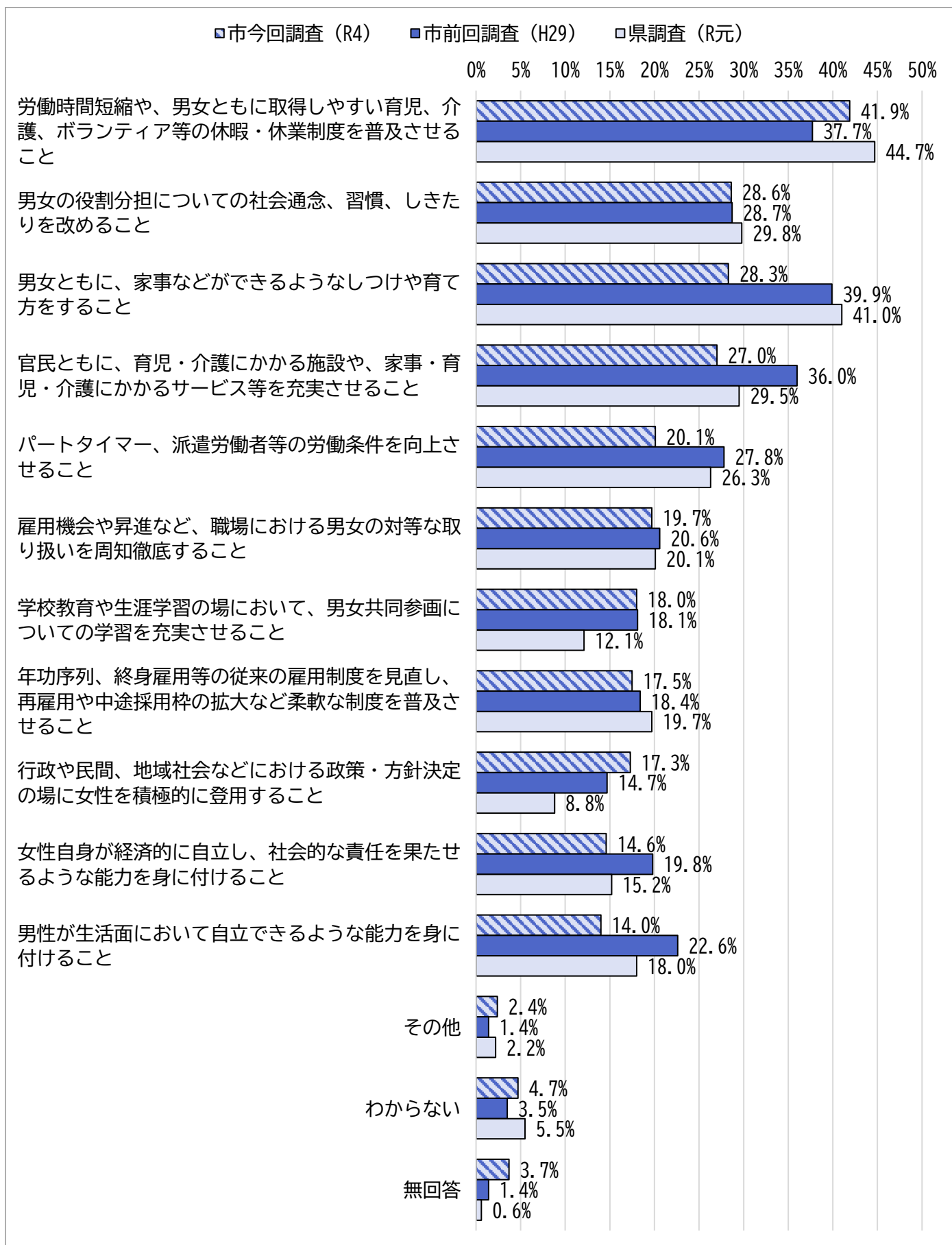
### <前回調査・県調査との比較>

- 「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること」、「行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定過程の場に女性を積極的に登用すること」といった回答が前回調査より増加しており、働き方の見直しと政策・方針決定過程における女性の参画を必要とする声が高まっています。
- 一方、「男女ともに家事などができるようなしつけや育て方をすること」や「官民ともに、育児・介護にかかる施設や、家事・育児・介護にかかるサービス等を充実させること」などの回答は減少していることから、家事・育児・介護サービスの充実や男性の家事・育児への参画など、前回調査時と比較して少しは改善されていることも推測されます。
- 県調査においても、一番回答の高いものは「労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること(44.7%)」となっており、職場における働き方や制度の改善を求める声が大変高くなっています。

問5 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと<性別>



問5 男女が積極的に社会参加していくために必要なこと<前回調査・県調査との比較>





## 2. 「女性の活躍促進」について

### 仕事や地域活動での女性の活躍

男女ともに、「女性は活躍している」と感じている人は多く、57.7%の人が「管理職ではないが活躍する女性が増えている」と回答しています。一方で、男性優位の考え方が変わっていないこと、出産等により男性と比べキャリア形成が難しいことなどから、38.4%の方が「女性が活躍していない」と感じています。

問6 あなた自身や、身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。【〇は1つだけ】

#### <全体>

○「活躍している（14.6%）」と「どちらかといえば活躍している（44.1%）」を合わせた約6割の人が、仕事や地域活動で女性が活躍していると感じています。

#### <性別>

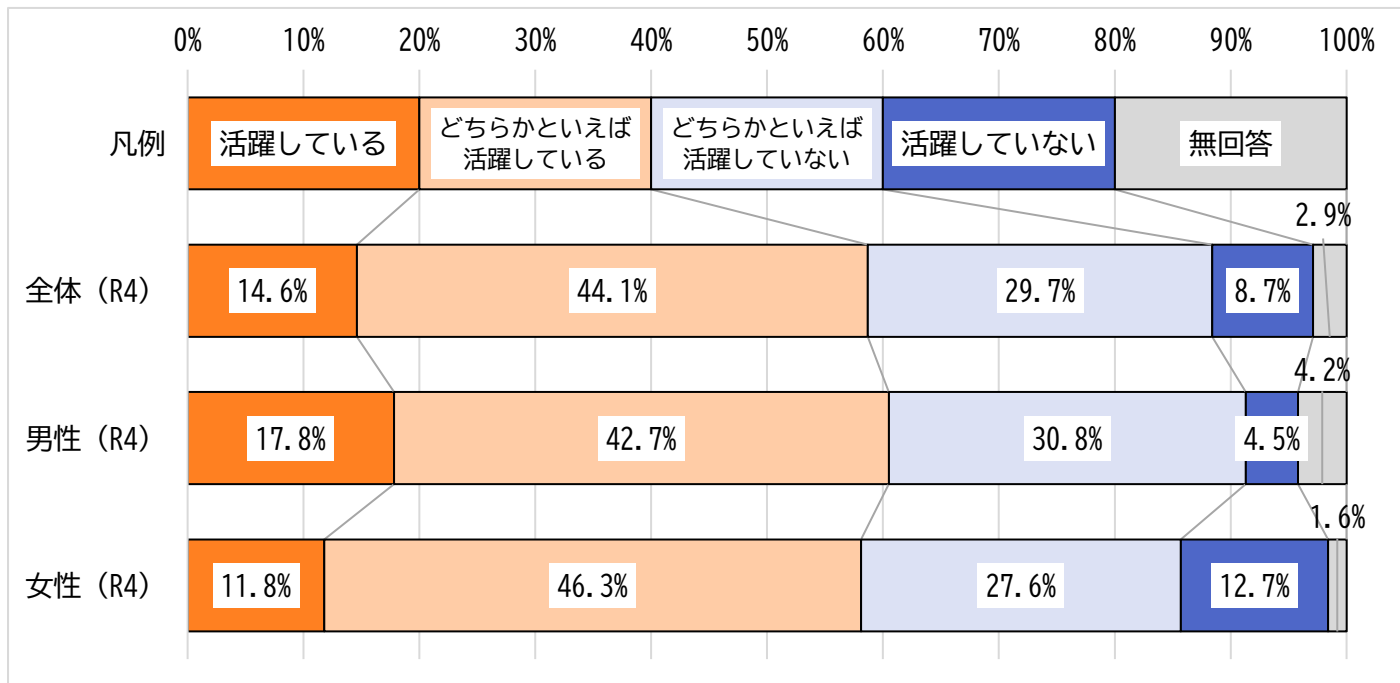
○「活躍している」という積極的な回答については、男性の方がやや女性を上回っています。「活躍している」と「どちらかといえば活躍している」を合わせると、男性60.5%、女性58.1%と、男女とも約6割で、こちらにおいても、男性の方がやや女性を上回っています。

#### <前回調査・県調査との比較>

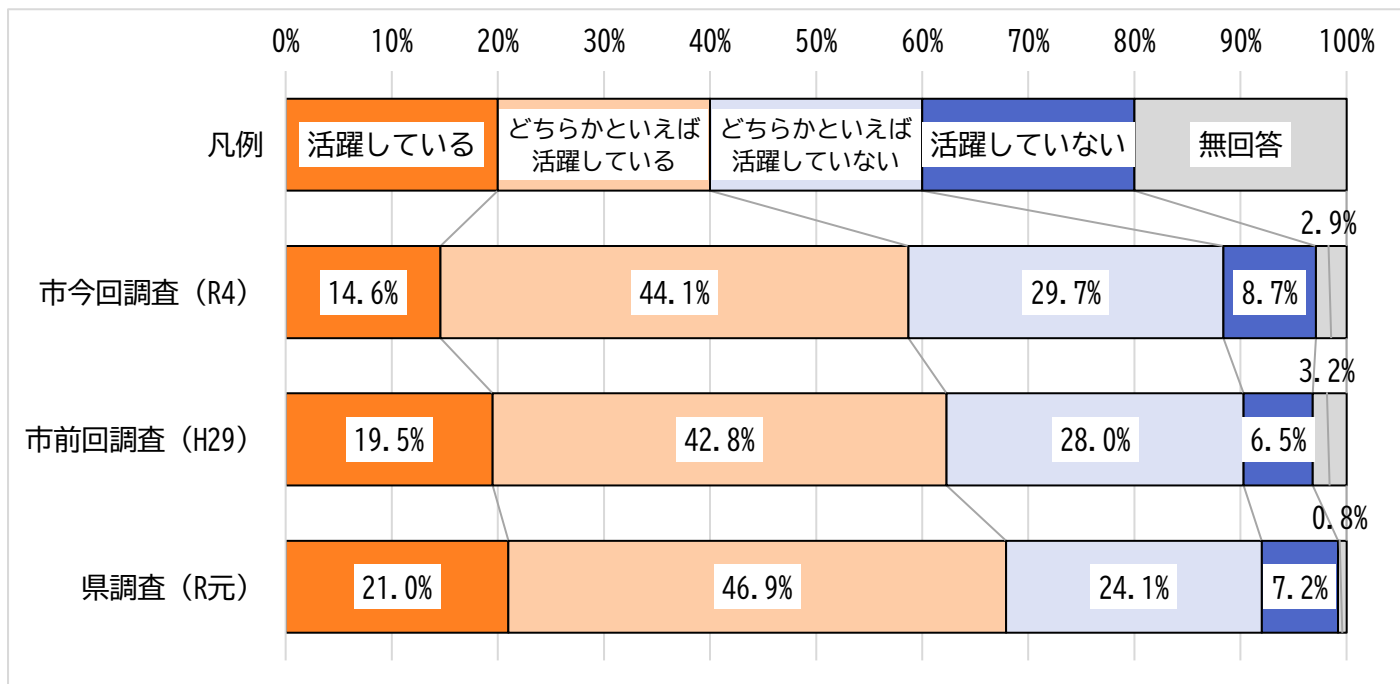
○前回調査では、「活躍している」と「どちらかといえば活躍している」を合わせると62.3%となり、今回調査では、女性は活躍していると回答した方が3.6ポイント減少しています。

○県の調査結果では、「活躍している」と「どちらかといえば活躍している」を合わせると67.9%となり、本市の合計58.7%を9.2ポイント上回っています。

問6 仕事や地域活動での女性の活躍<性別>



問6 仕事や地域活動での女性の活躍<前回調査・県調査との比較>



## 女性が活躍していると思う理由は何ですか。

問6-1（問6で1または2を選んだ方）活躍していると思う理由は何ですか。【〇は3つまで】

- 「管理職ではないが活躍する女性が増えている（57.7%）」が最も多くなっています。「女性の経営者や管理職が増えている」の割合が19.4%であることから、「女性の活躍」が必ずしも管理職などの役職にこだわるものではないことがうかがえます。
- 「女性のキャリア意識が上がっている（31.1%）」、「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退職が減っている（30.6%）」の回答が3割を超えています。

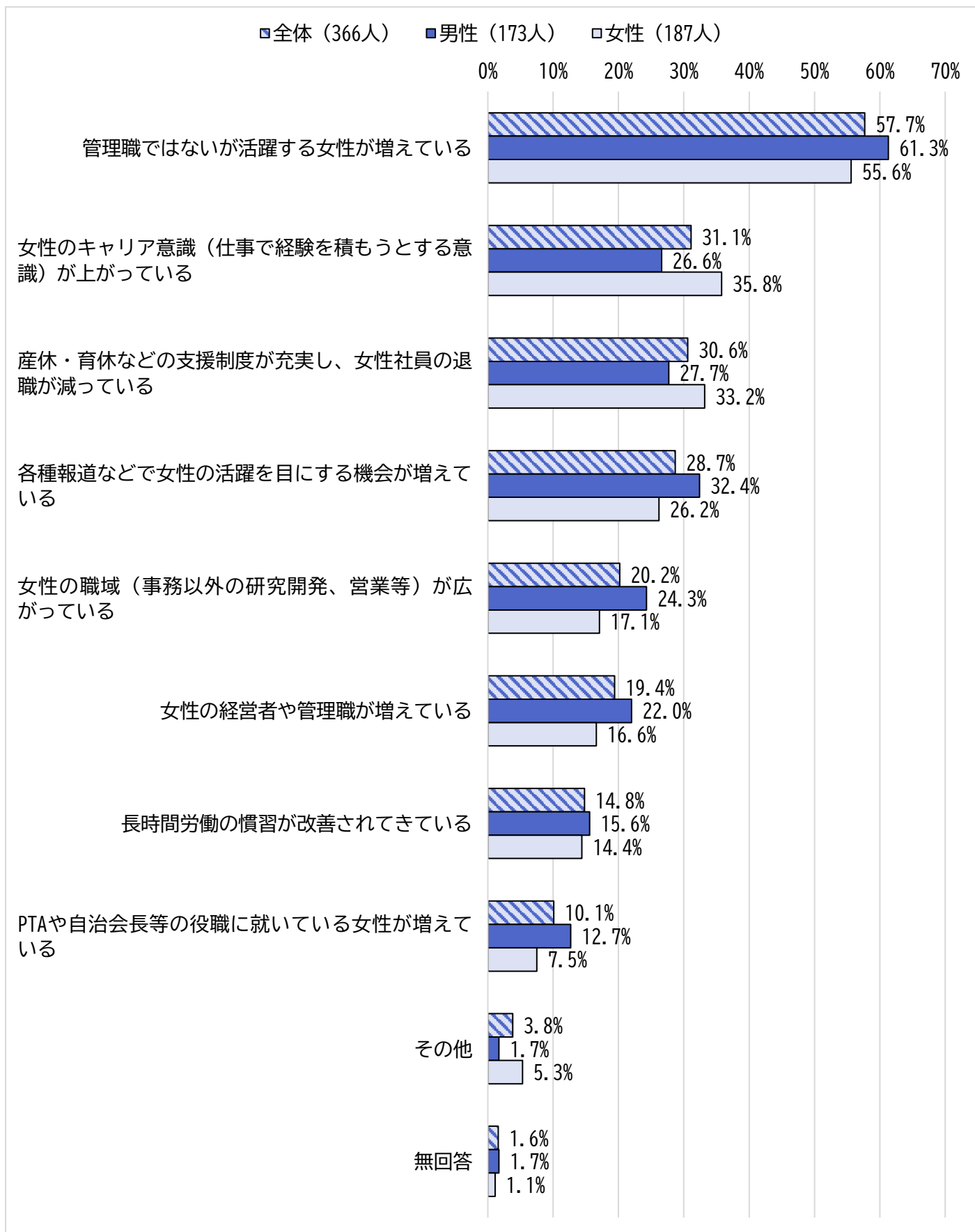
### <性別>

- 「女性のキャリア意識が上がっている」の回答では、男性が26.6%、女性が35.8%と女性が多くなっています。女性の仕事に対する意識の変化を、女性は評価していることが表れています。

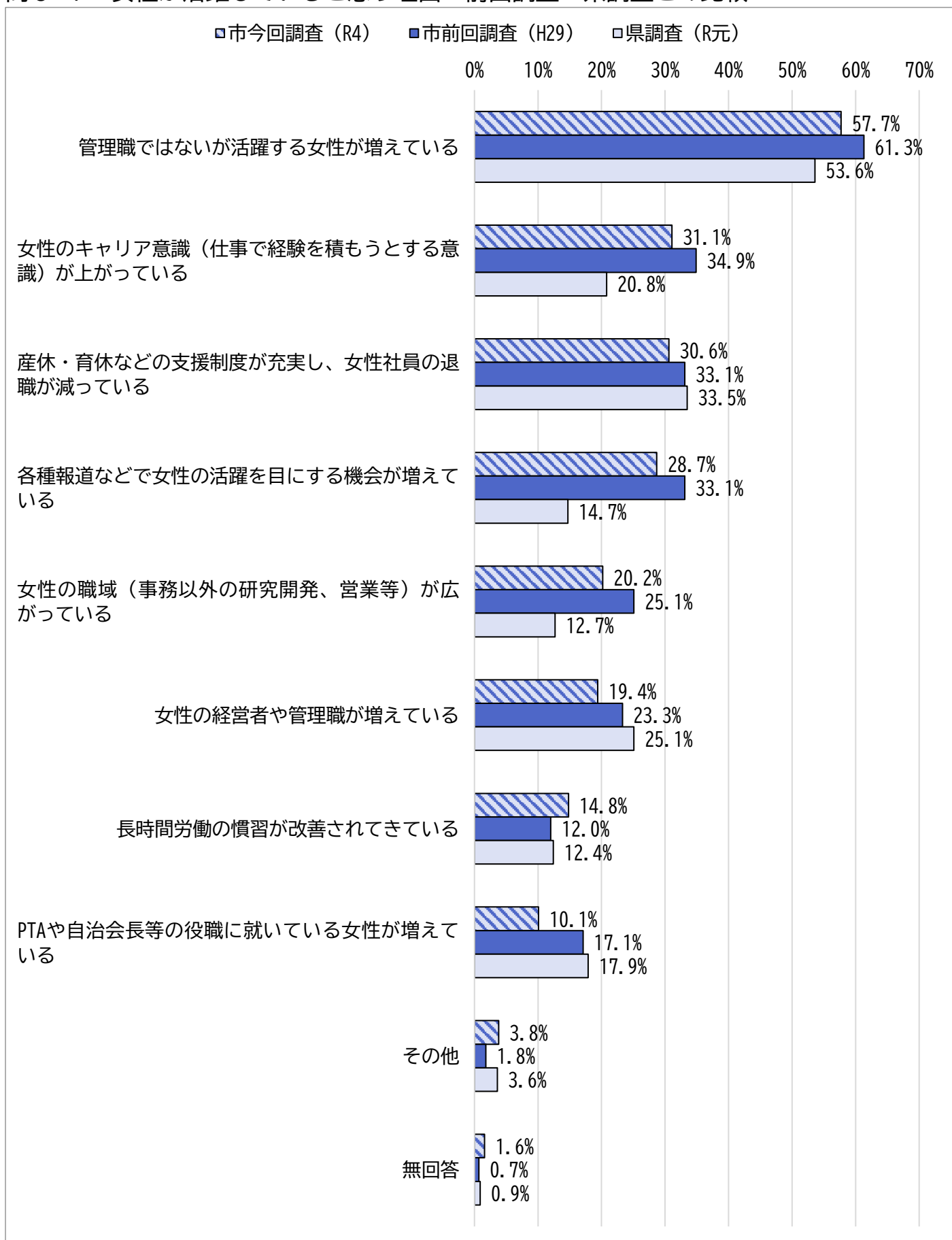
### <前回調査・県調査との比較>

- 前回調査で回答割合の高かった回答項目の順は、今回調査においてもほぼ変化がなかったものの、それぞれほとんどが前回よりも回答割合の低い結果となりました。
- 県の調査と比較すると、「管理職ではないが活躍する女性が増えている」「女性のキャリア意識（仕事で経験を積もうとする意識）が上がっている」「各種報道などで女性の活動を目にする機会が増えている」「女性の職域（事務以外の研究開発、営業等）が広がっている」「長時間労働の慣習が改善されてきている」、「その他」など、多くの回答項目で、本市の方が高くなっています。

問6-1 女性が活躍していると思う理由<性別>



問6-1 女性が活躍していると思う理由<前回調査・県調査との比較>



## 女性が活躍していないと思う理由

問6-2 活躍していないと思う理由は何ですか。【〇は3つまで】

### <全体>

- 「男性優位の考え方が変わっていない（46.0%）」が最も多く、次いで「出産・育児・介護などのため、男性に比べキャリア形成が難しい（44.8%）」となっています。

### <性別>

- 活躍していると感じる理由の一つに「女性のキャリア意識が上がっている（31.1%）」がありますが、活躍していないと感じる理由に、「女性のキャリア意識が向上していない（20.9%）」の回答があります。女性のキャリア意識をどう評価するかによって、活躍に対する感じ方に差が出ていることがうかがえます。

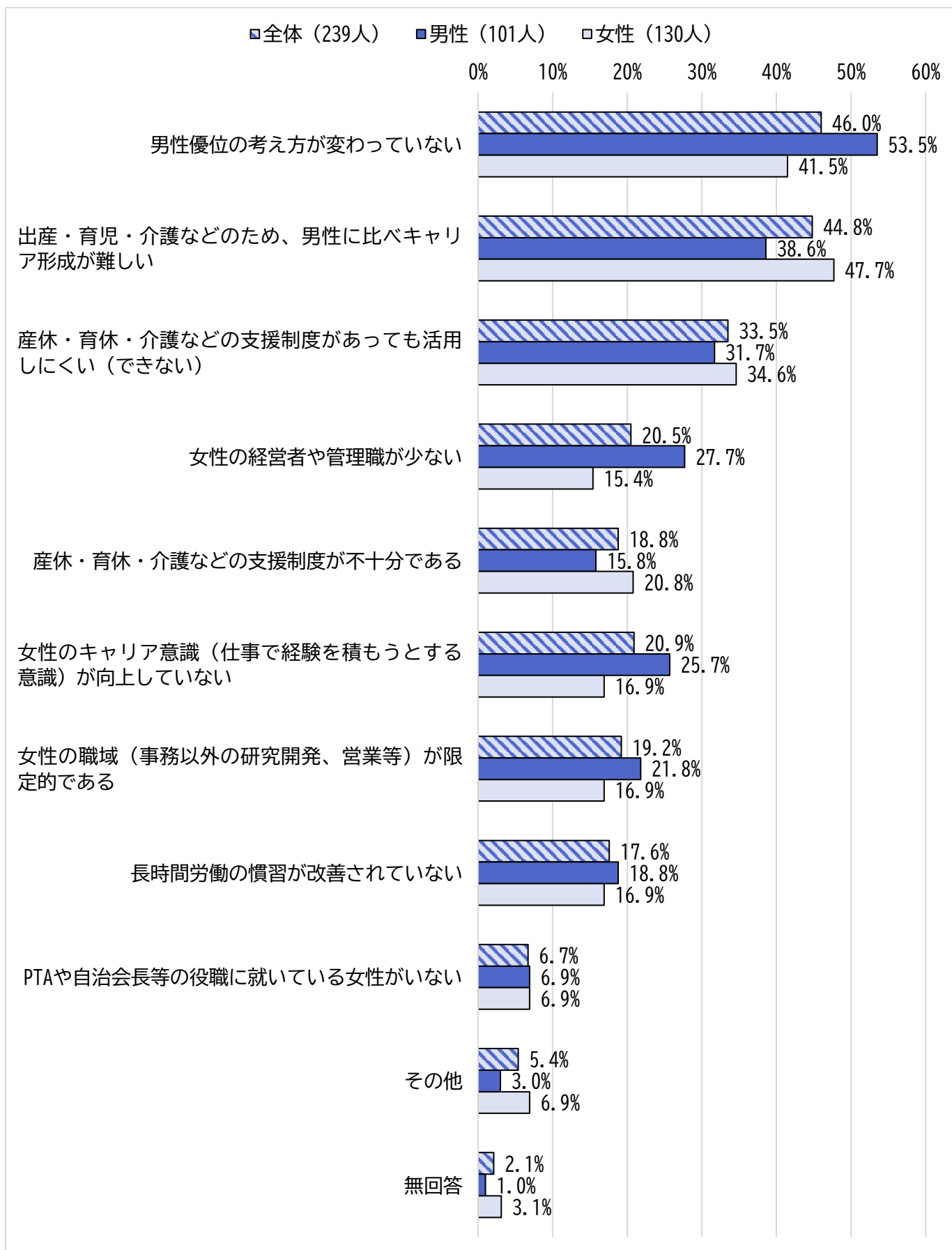
### <前回調査・県調査との比較>

- 前回調査では、「出産・育児・介護などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が一番多い回答だったのに対し、今回調査では、「男性優位の考え方が変わっていない」という回答が増え、男女の不平等感が回答に表れる結果となっています。
- 県の調査結果では、「出産・育児・介護などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」が一番多い回答となっています。

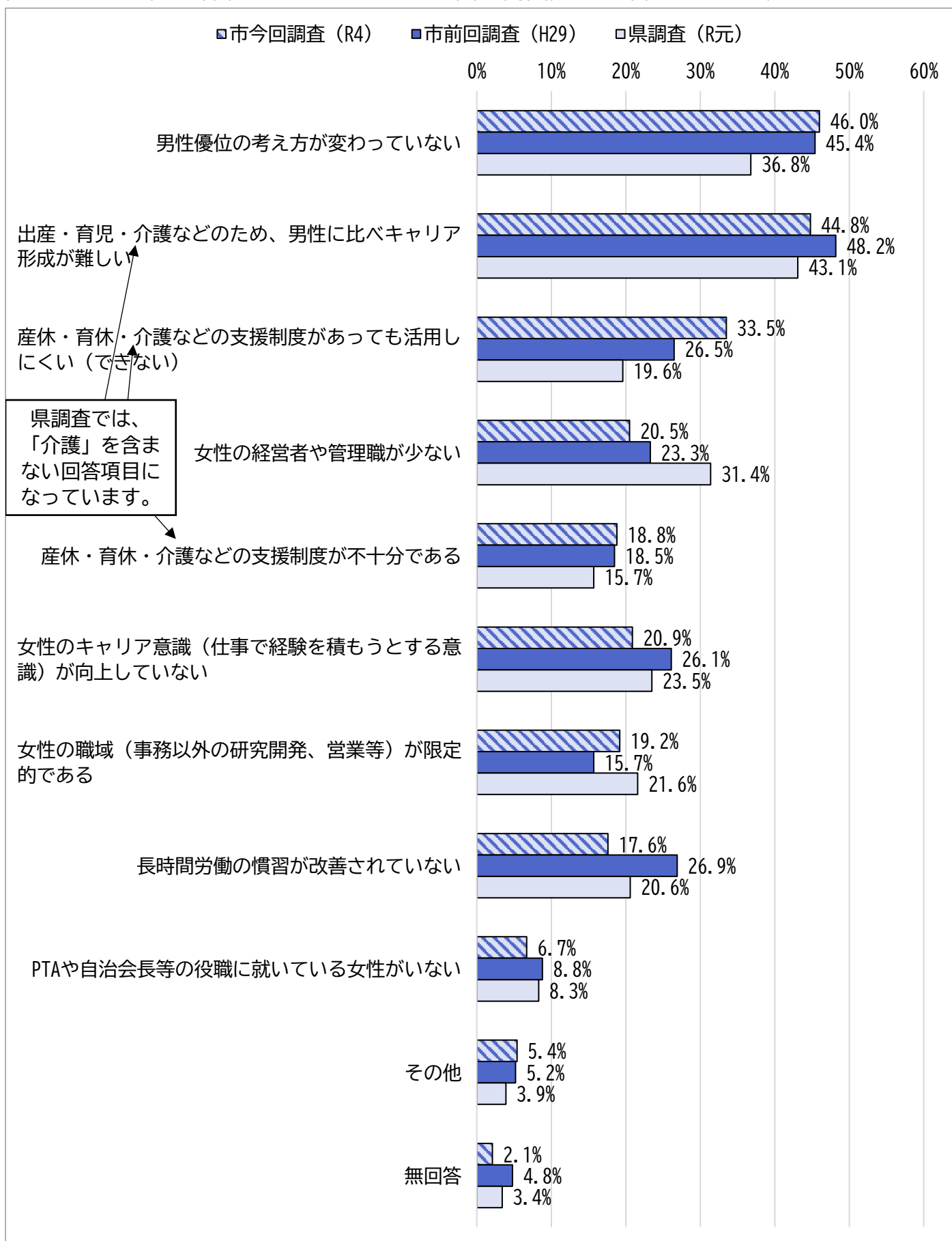
### <男女共同参画推進活動ネットワーク加入団体の皆さんからの意見・感想>

- 仕事や地域活動において、女性が活躍しているかについて、前回調査とあまり変わっていないのはなぜか？活躍したくても、それができる周りの意識や環境（職場、家庭など）が整ってないのではないだろうか。
- 女性の活躍は職種によるのではないか。対等にやっている女性もいるのではないか。

問6-2 女性が活躍していないと思う理由<性別>



問6-2 女性が活躍していないと思う理由<前回調査・県調査との比較>





## 女性が活躍するために必要なこと

職場の支援制度や職場の理解、仕事の適正評価がないなど、職場に関することに必要性を感じる声が多いです。

問7 女性が活躍するには何が必要だと思えますか。【〇は3つまで】

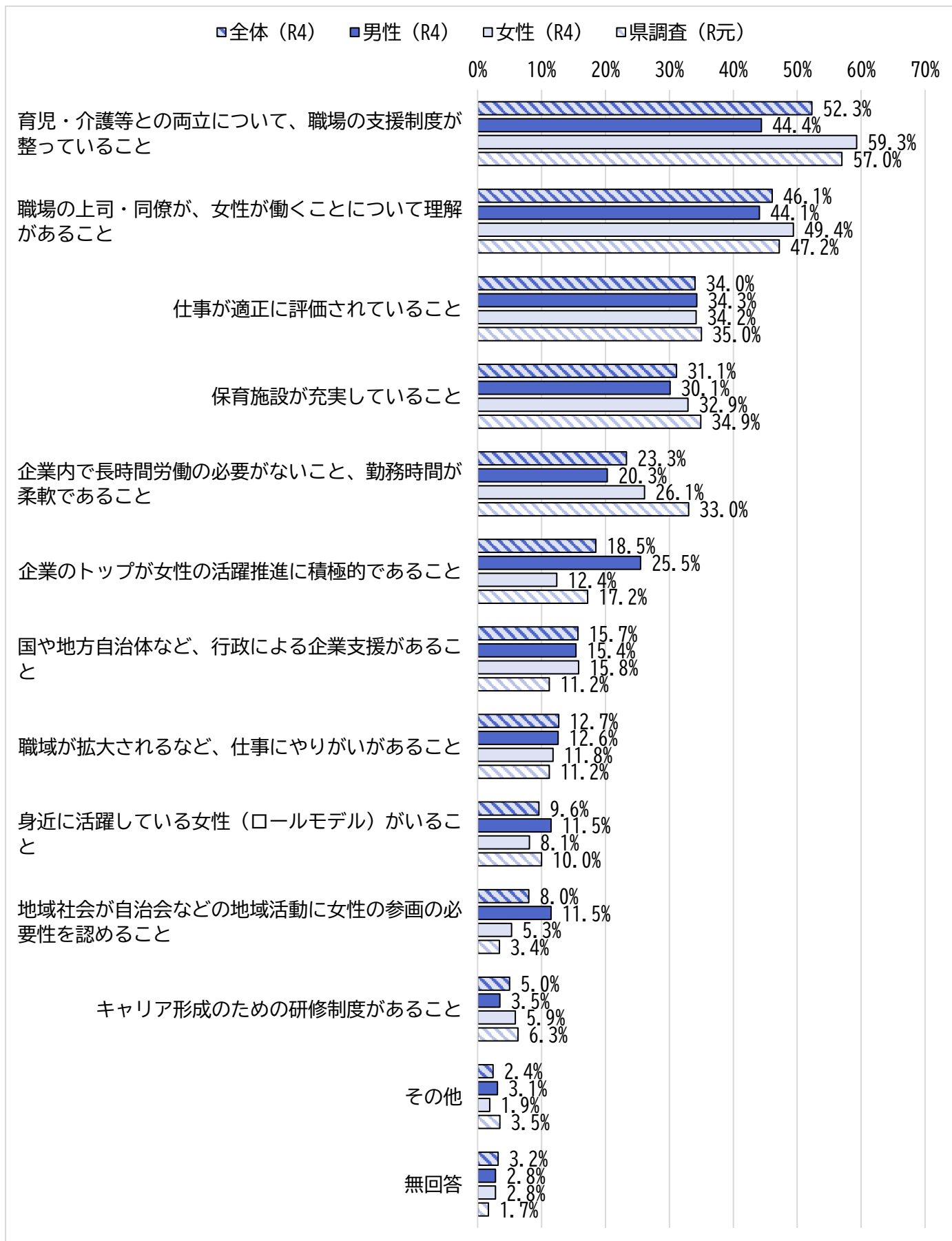
### <全体>

○「育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること（52.3%）」が一番多く、次いで「職場の上司・同僚が女性が働くことについて理解があること（46.1%）」、「仕事が適正に評価されていること（34.0%）」の順になっています。

### <県調査との比較>

○県の回答結果においても、ほぼ本市の回答結果の順になっており、同様に職場における環境面において、求める声が多い傾向であることが見受けられます。

問7 女性が活躍するために必要なこと<性別・県調査との比較>



### 3. 「就労・職業」について

#### 現在の就労状況

回答者の約6割の方が働いており、その中で、24.5%の方が、性別における差別があると回答しています。特に、女性への差別は男性への差別と比較すると、3倍以上の回答結果となっています。その主な内容には、「賃金の差」や「昇進、昇格の差」などがあげられています。

問8 現在、あなたは働いていますか。【○は1つだけ】

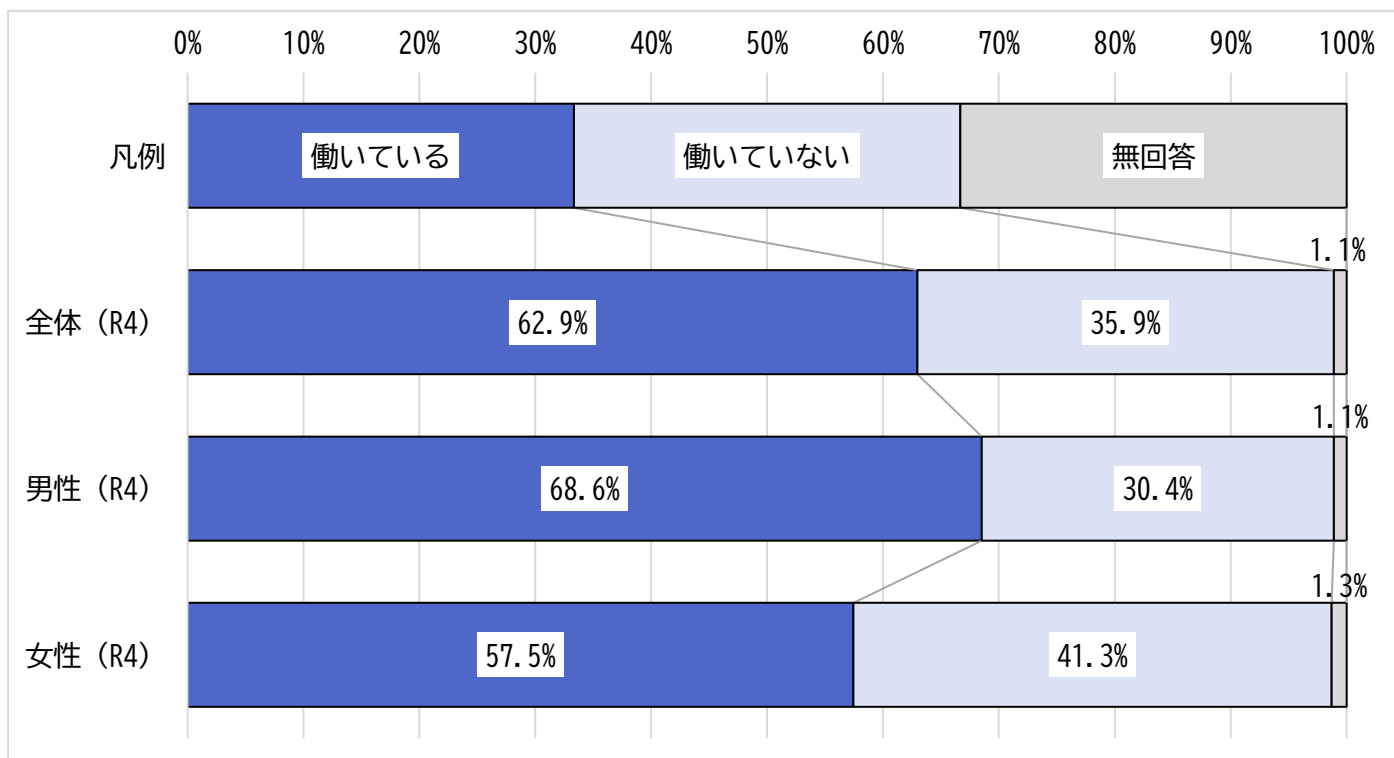
#### <全体>

○今回意識調査に回答いただいた方の62.9パーセントの方が働いていると回答しています。

#### <性別>

○性別で比較すると、女性よりも男性の方が多く働かれています。

問8 現在、働いているか



## 職場内での男女差別の有無

問8-1 今の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思いますか。【○は1つだけ】

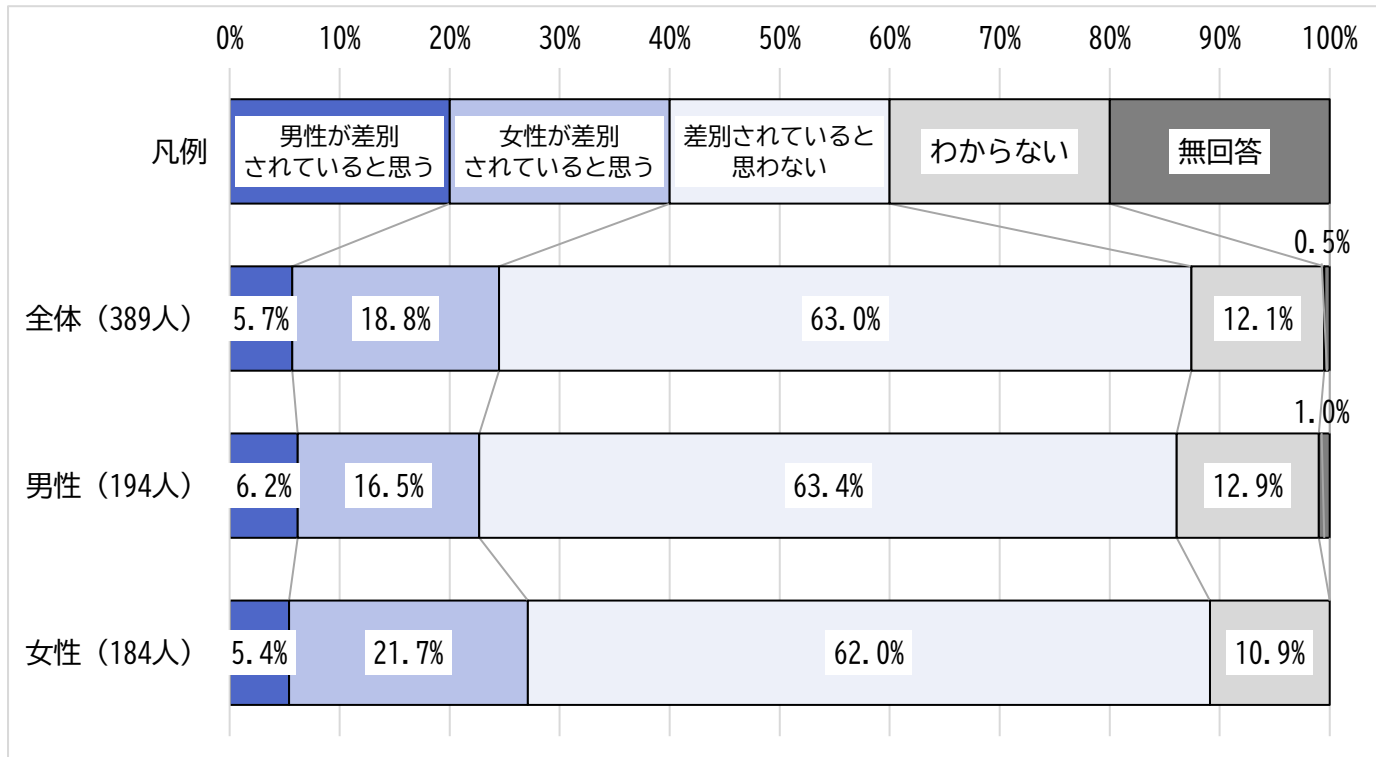
### <全体>

○63.0%の方が差別されていると思わないと回答しています。一方で、性別によって差別されていると思うと回答されている方は、合わせて24.5%いらっしゃいます。

### <性別>

○男性よりも女性の方が差別されていると感じている方が多く、女性が差別されていると思うと回答している方は男性が差別されていると思うと回答した方よりも3倍以上多く、特に女性の回答は、女性が差別されていると思うと回答している方は男性が差別されていると思うと回答した方よりも4倍以上多くなっています。

### 問8-1 男女で差別されていると思うか



## 具体的な職場内での男女差別の内容

問8-2 それは具体的にどのようなことですか。【〇はあてはまるものすべて】

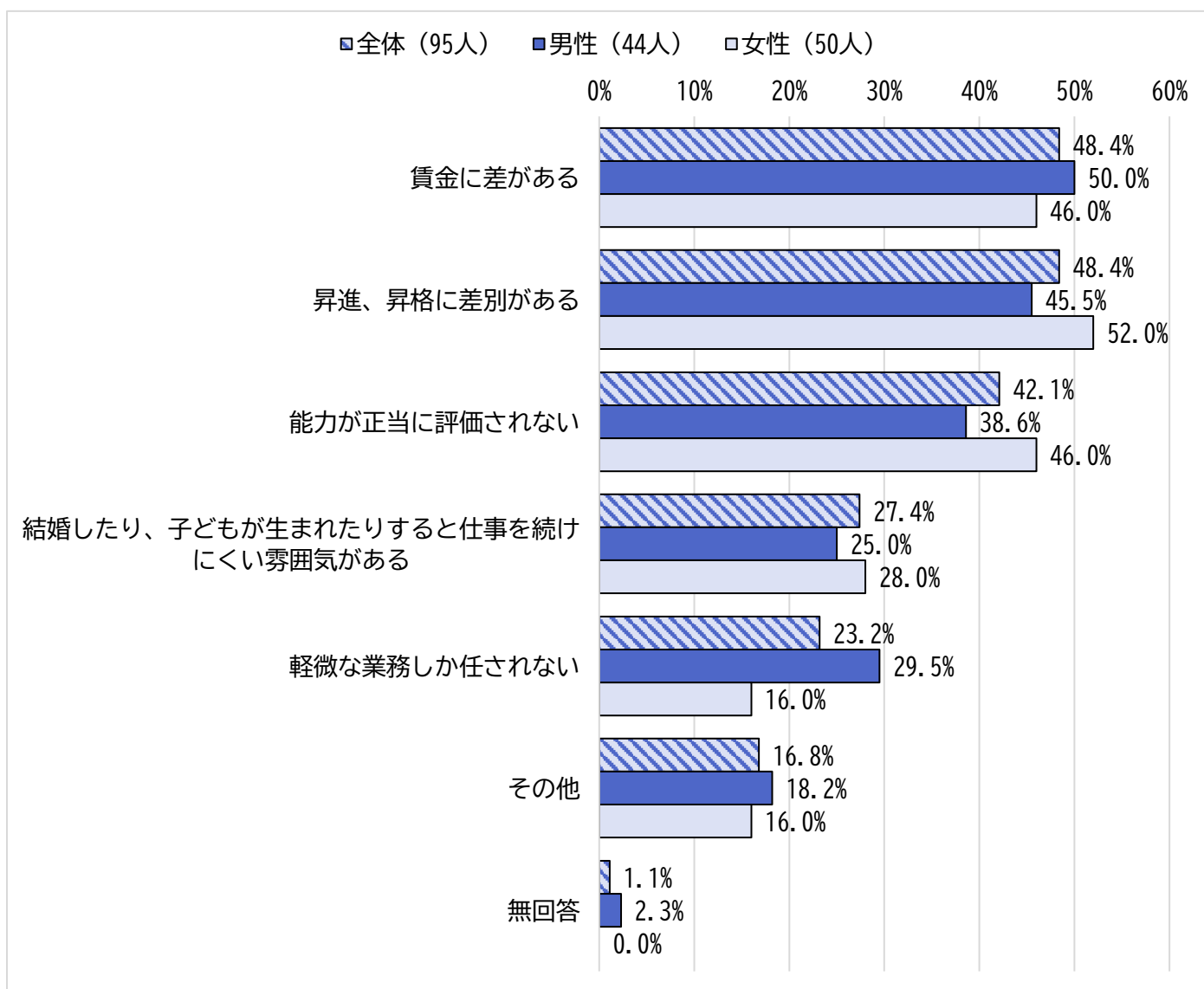
### <全体>

○「賃金に差がある (48.4%)」「昇進、昇格に差別がある (48.4%)」の回答が一番多く、次いで「能力が正当に評価されない (42.1%)」、「結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けるににくい雰囲気がある (27.4%)」という順になっています。

### <性別>

○男性で一番回答結果が多かったのは「賃金に差がある (50.0%)」という回答である一方、女性で一番回答結果が多かったのは「昇進、昇格に差別がある (52.0%)」という回答になっており、わずかながら差が見受けられます。

### 問8-2 具体的な職場内での男女差別の内容



## リーダー・管理職への意欲

能力やスキルが十分でないことや、責任を持ちたくないということから、男女問わず、リーダー・管理職になりたくないという人の方が多い回答結果となりました。

問9 リーダー・管理職になりたいと思いますか。【○は1つだけ】

### <全体>

○リーダー・管理職になることに対して否定的な方（「できることならなりたくない」と「なりたくない」の計）の方が肯定的な方（「なりたい」「できることならなりたい」）よりも25.4ポイントも高い回答結果となっています。

### <性別>

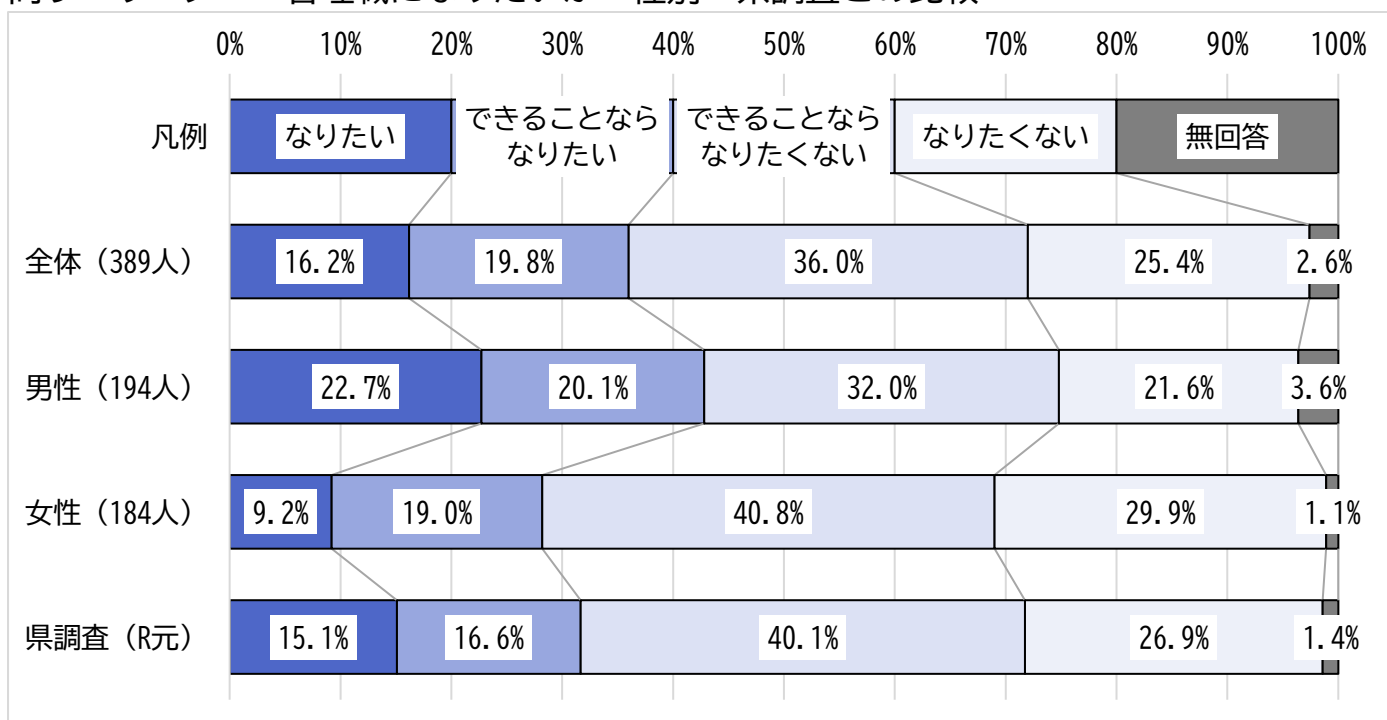
○否定的な意見を比較すると、女性70.7%に対し、男性53.6%となっており、男性よりも女性の方が、リーダー・管理職になりたくないという回答結果が多くなっています。

○肯定的な意見を比較すると、なりたいと回答した男性は42.8%に対し、女性は28.2%であり、男性の方が上昇志向の高い回答結果となっています。

### <県調査との比較>

○県調査では、肯定的な方は31.7%で、本市は36.0%であったことから4.3ポイント高い回答結果であり、わずかながら、上昇志向の高い結果となっています。

問9 リーダー・管理職になりたいか<性別・県調査との比較>



## リーダー・管理職になりたくない理由

問9-1 なぜなりたくないと思いますか。 【〇は1つだけ】

### <全体>

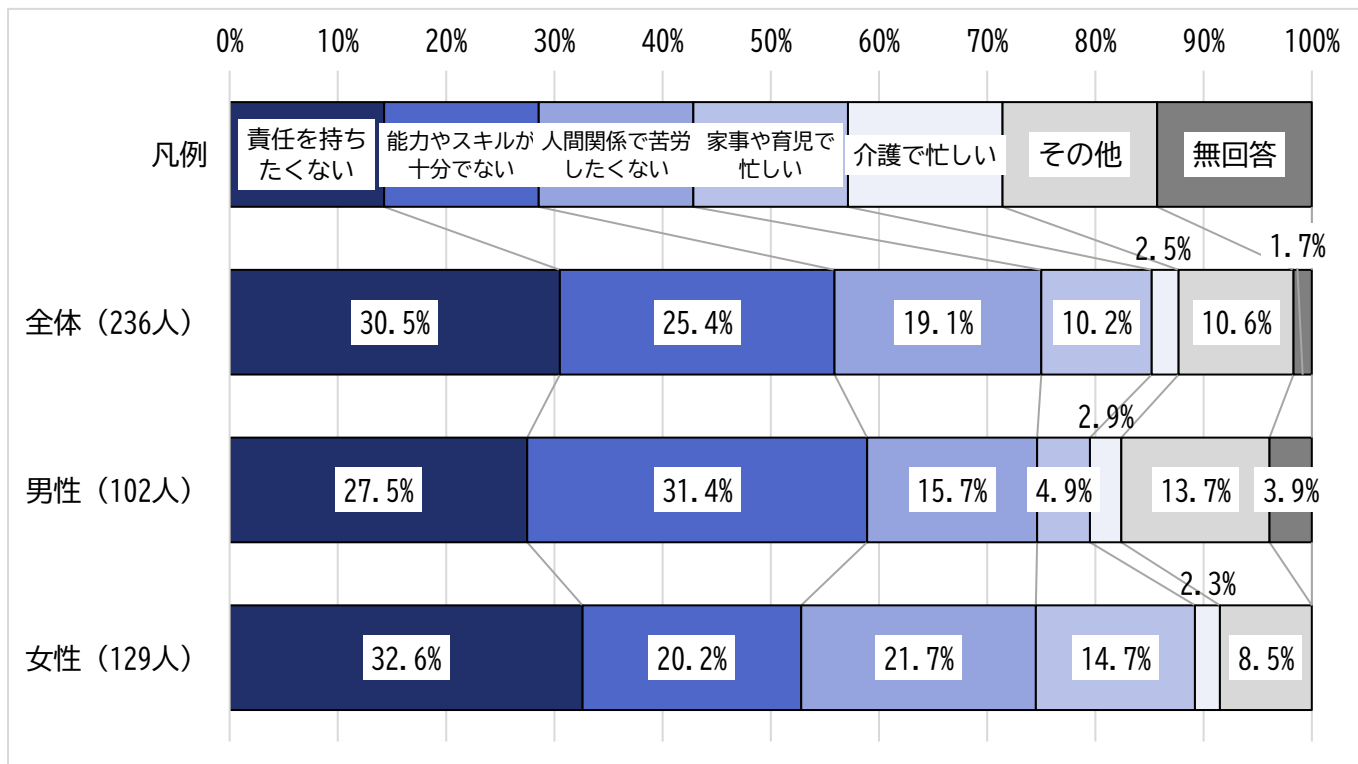
○「責任を持ちたくない (30.5%)」が一番多く、次いで「能力やスキルが十分でない (25.4%)」、「人間関係で苦労したくない (19.1%)」という順の回答結果となっています。

### <性別>

○男性の回答結果では、「能力やスキルが十分でない (31.4%)」が一番多く、次いで「責任を持ちたくない (27.5%)」の順に対し、女性の回答結果では、「責任を持ちたくない (32.6%)」が一番多く、次いで「人間関係で苦労したくない (21.7%)」の順になっています。

○「家事や育児で忙しい」の回答割合を比較すると、男性 4.9%、女性 14.7%で、9.8ポイントの差が見受けられます。

問9-1 なぜなりたくないのか。



## 過去5年以内の離職経験

定年を迎える前でも、健康上の理由や職場の人間関係、待遇への不満など、離職した理由は様々あげられますが、「結婚」「出産・子育て」を理由として退職されている方もいらっしゃいます。

問10 過去5年以内に仕事を辞めたことがありますか。【○は1つだけ】

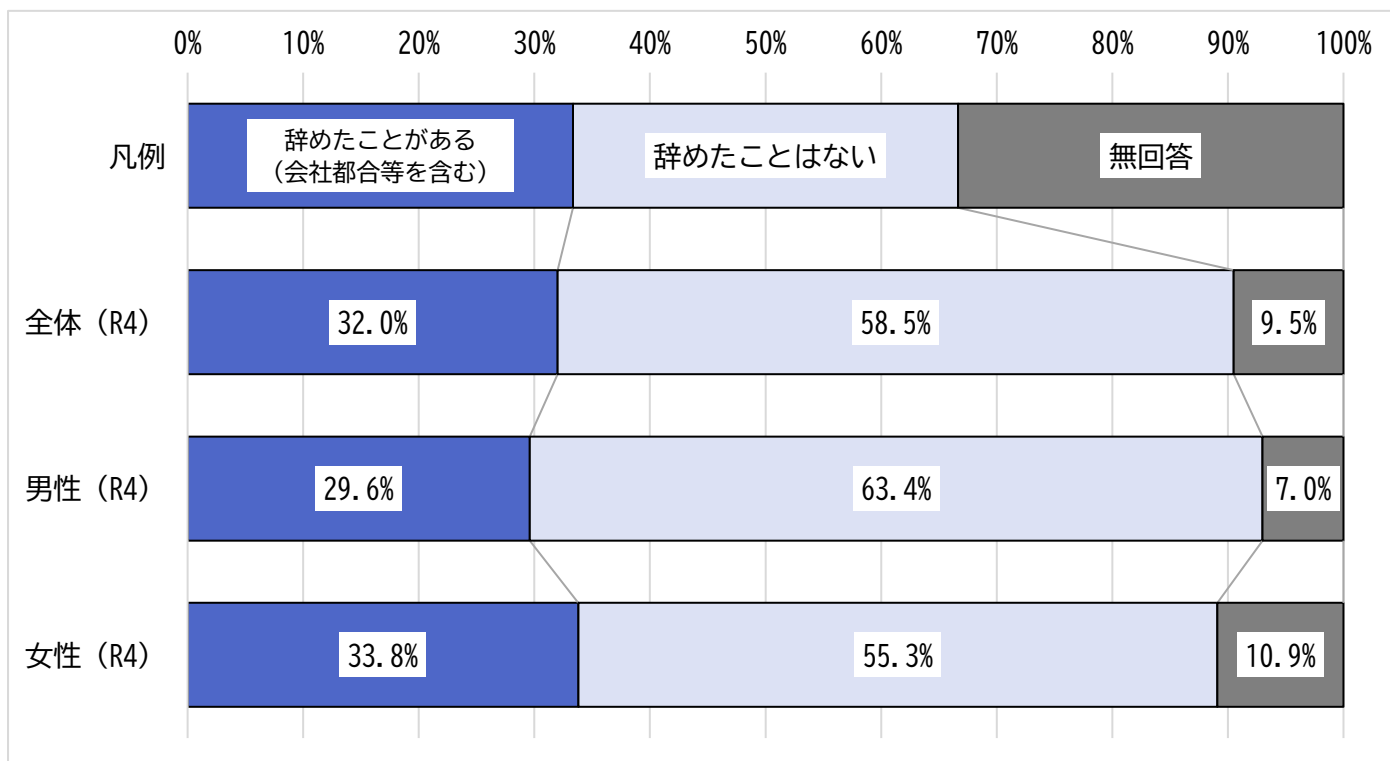
### <全体>

○今回の回答者では、仕事を辞めたことがある方よりも、仕事を辞めたことがないという方が多いことがわかります。

### <性別>

○女性の方が男性よりも、仕事を辞めたことがあるという回答が4.2ポイント高い結果となりました。

問10 過去5年以内に仕事を辞めたことがあるか





## 離職した理由

問10-1 仕事を辞めた理由は何ですか。【〇は3つまで】

### <全体>

○全体では、「定年（22.7%）」と回答した方が一番多く、次いで、「自分の健康上の理由（20.7%）」、「職場の人間関係（19.7%）」という結果になっています。

### <性別>

○男性の回答では、「定年（33.3%）」が一番多く、次いで、「自分の健康上の理由（25.0%）」、「仕事や職場の待遇に不満があった（17.9%）」という順になっています。

○女性の回答では、「職場の人間関係（22.2%）」が一番多く、次いで、「自分の健康上の理由（17.6%）」、「仕事や職場の待遇に不満があった（16.7%）」という順になっています。

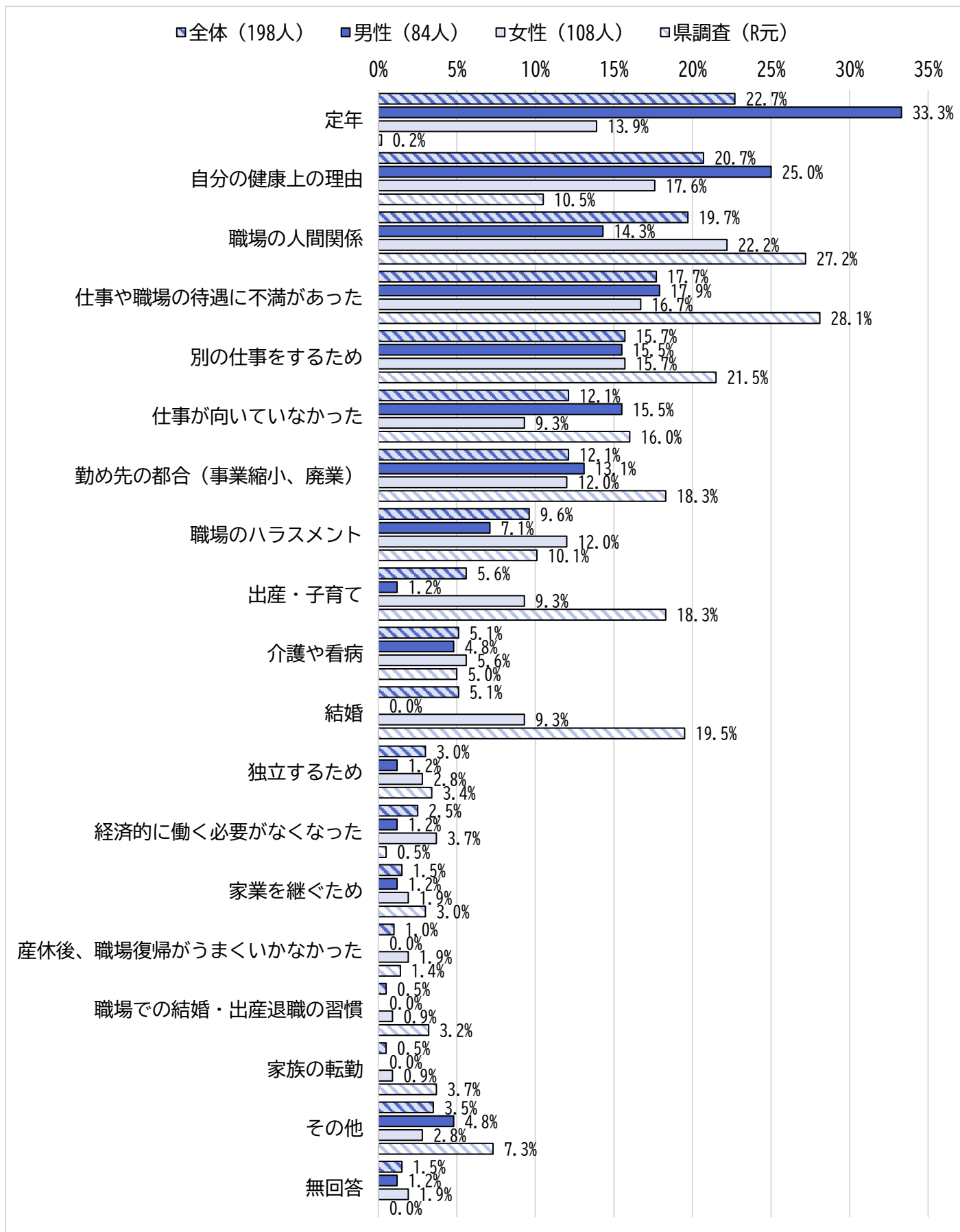
○男性と女性で一番開きがある回答結果は「結婚」という理由で、男性は0%にもかかわらず、女性は9.3%となっています。次いで、「出産・子育て」という理由で、男性は1.2%にもかかわらず、女性は9.3%となっています。

○「定年」を理由とする離職は、男性が33.3%に対し、女性が13.9%であり、男性の方が女性よりも19.4ポイント高い結果になっています。

### <県調査との比較>

○県調査では、「仕事や職場の待遇に不満があった（28.1%）」と回答した方が一番多く、次いで、「職場の人間関係（27.2%）」、「別の仕事をするため（21.5%）」という結果になっており、本市の回答割合の高い順とは、大きく異なっています。

問10-1 仕事を辞めた理由



## 希望する生活と実際の生活

男女ともに「仕事と家庭をともに優先したい」と考える人は多いものの、実生活では「仕事優先」や「家庭優先」になり、希望どおりに過ごせていない状況が表れています。

問11 現在の生活であなたの希望に近いものはどれですか。また、実際の生活はどうか。  
【〇はそれぞれ1つだけ】

### <全体>

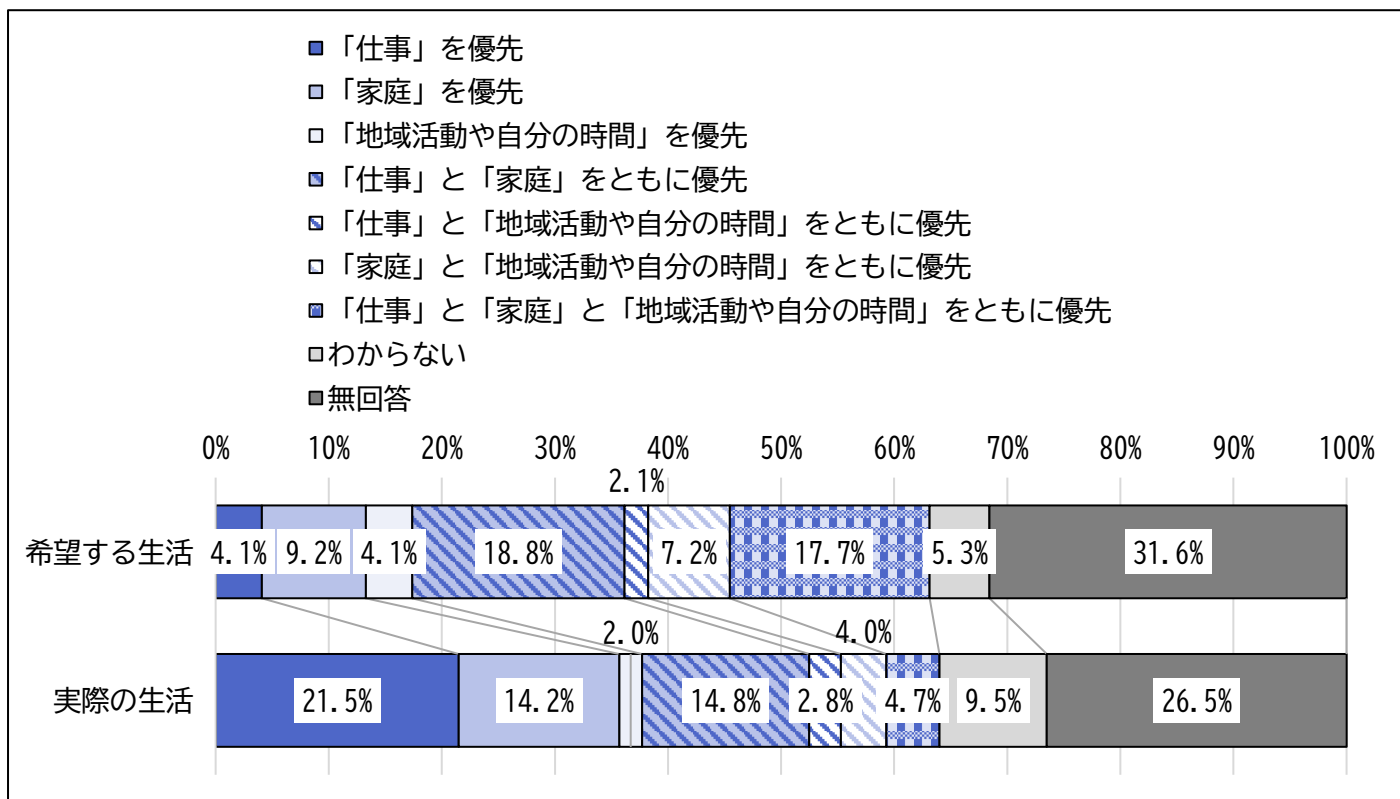
- 希望する生活においては、「わからない」「無回答」を除いて、「仕事と家庭をともに優先（18.8%）」が最も多く、次いで「仕事と家庭と地域活動や自分の時間をともに優先（17.7%）」、「家庭を優先（9.2%）」、「家庭と地域活動や自分の時間をともに優先（7.2%）」の順になっています。
- それぞれ実際の生活において、希望どおりに過ごせていない状況が表れています。
- 特に、「仕事優先」と希望する人が4.1%であるところ、実際の生活で「仕事優先」と回答している人は5.2倍の21.5%となっており、実生活で仕事を優先せざるを得ない状況になっていることがうかがえます。「仕事」、「家庭」、「地域活動や自分の時間」、それらをそれぞれの状況に合わせて両立させたいと希望しながらも、実際の生活では「仕事」や「家庭」優先の割合が高くなっています。

### <性別>

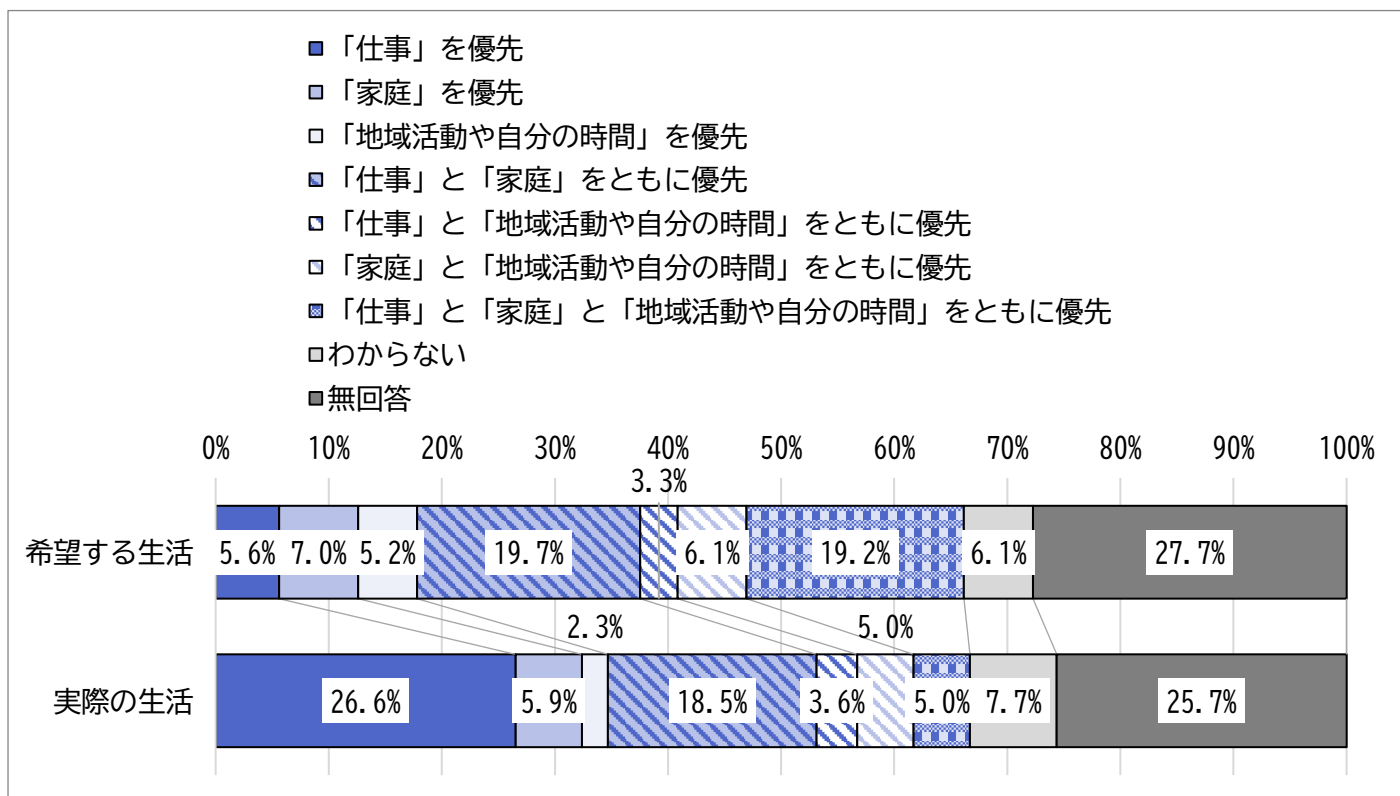
- 男性・女性ともに、ほぼ同じ傾向になっています。
- 男性は女性より「仕事を優先したい」と希望する割合が高めです。しかし、実生活における「仕事優先」の割合を希望する割合との対比で見ると、男性が約4.8倍、女性が約5.9倍となっています。「仕事優先」を希望していないにもかかわらず、実生活では「仕事優先」になっている割合が、男性より女性のほうが高いことが分かります。

問11 希望する生活と実際の生活

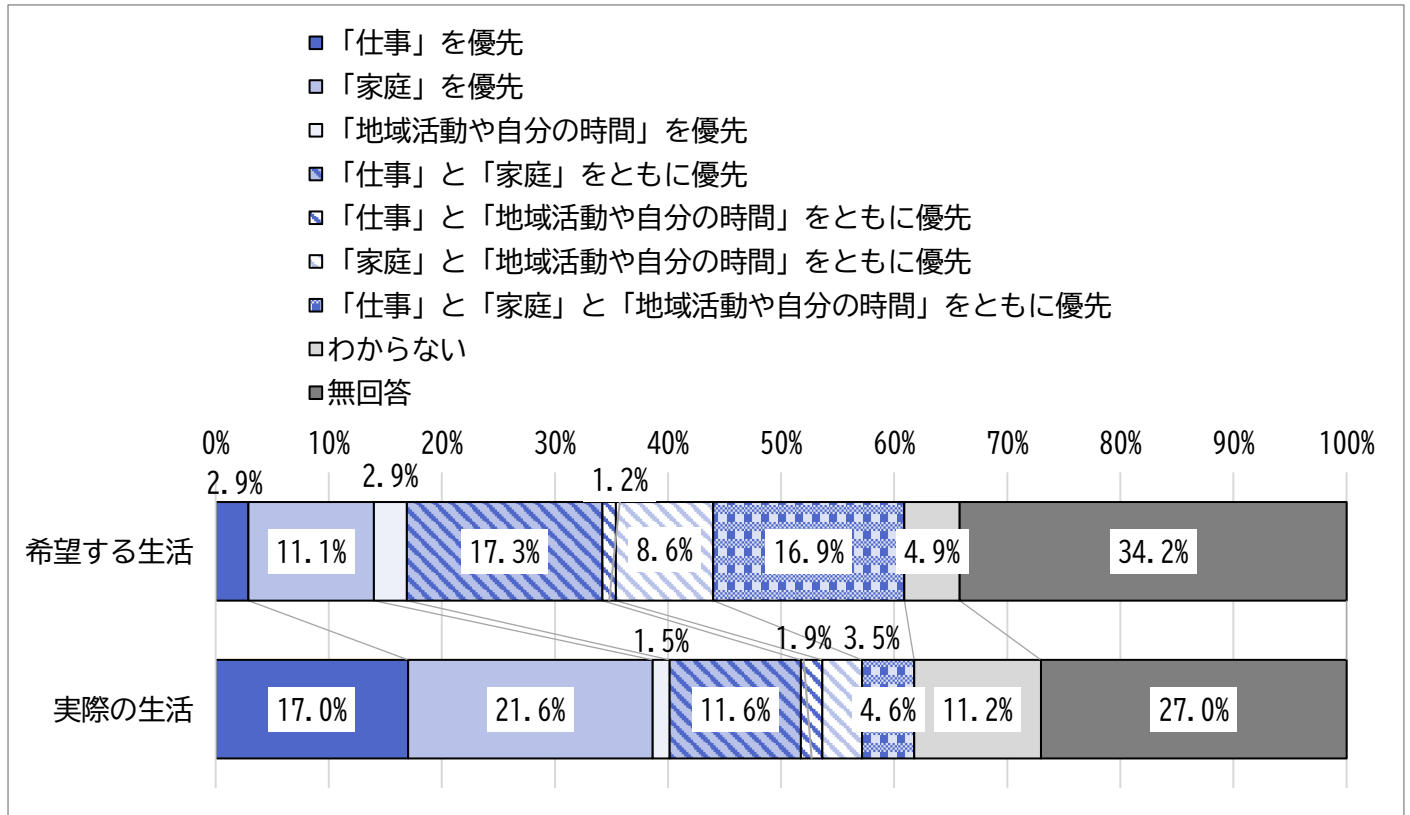
<全体>



<男性>



<女性>



## 女性の就業のあり方

男女ともに「就業継続型」の考え方が最も多くなっており、「共働き」に対する希望が比較的高いことが推察されます。

問12 あなたは、女性が働くことについて、どう考えますか。【○は1つだけ】

### <全体>

- 「結婚や出産にかかわらず、働く方がよい（就業継続型）」が55.4%と半数以上を占めています。次いで、「子どもができたらかつ働くのをやめ、大きくなったら再び働く方がよい（中断再就職型）」（19.4%）となっています。

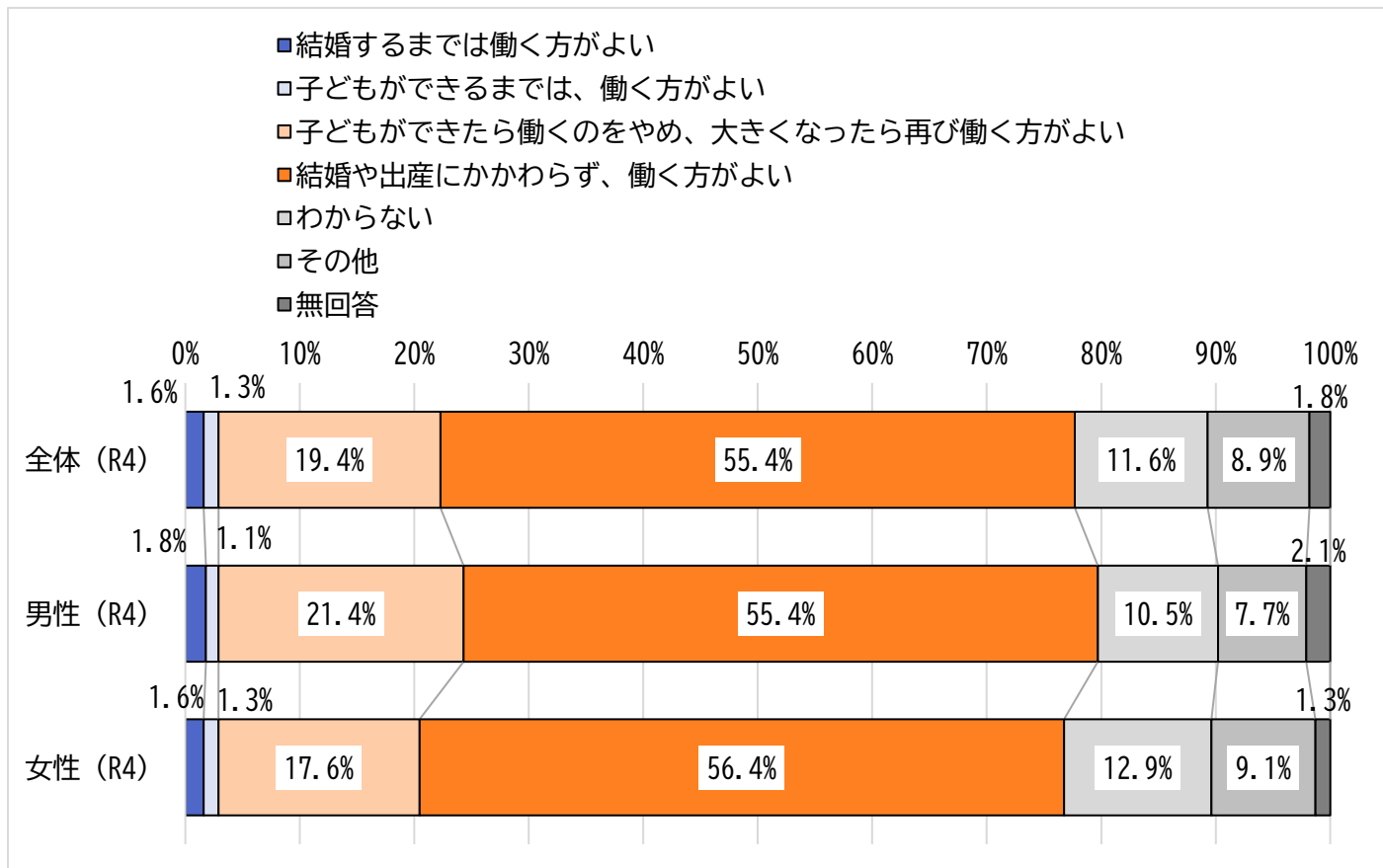
### <性別>

- 「就業継続型」が、男性55.4%、女性56.4%と男女とも5割を超えています。次いで「中断再就職型」が男性21.4%、女性17.6%となっています。

### <前回調査・全国調査・県調査との比較>

- 前回調査と比較し、就業継続型が2.7ポイント増加し、中断再就職型が9.8ポイント減少、「子どもができるまでは、働く方がよい」と「結婚するまでは働く方がよい」も減少しており、退職や一時離職をせずに就業継続するほうがよいと考える人が増えています。
- 「結婚や出産にかかわらず、働く方がよい」の回答結果に着目すると、本市は55.4%に対し、全国調査では59.5%、県調査では62.1%と、本市の回答が一番低い結果となっています。

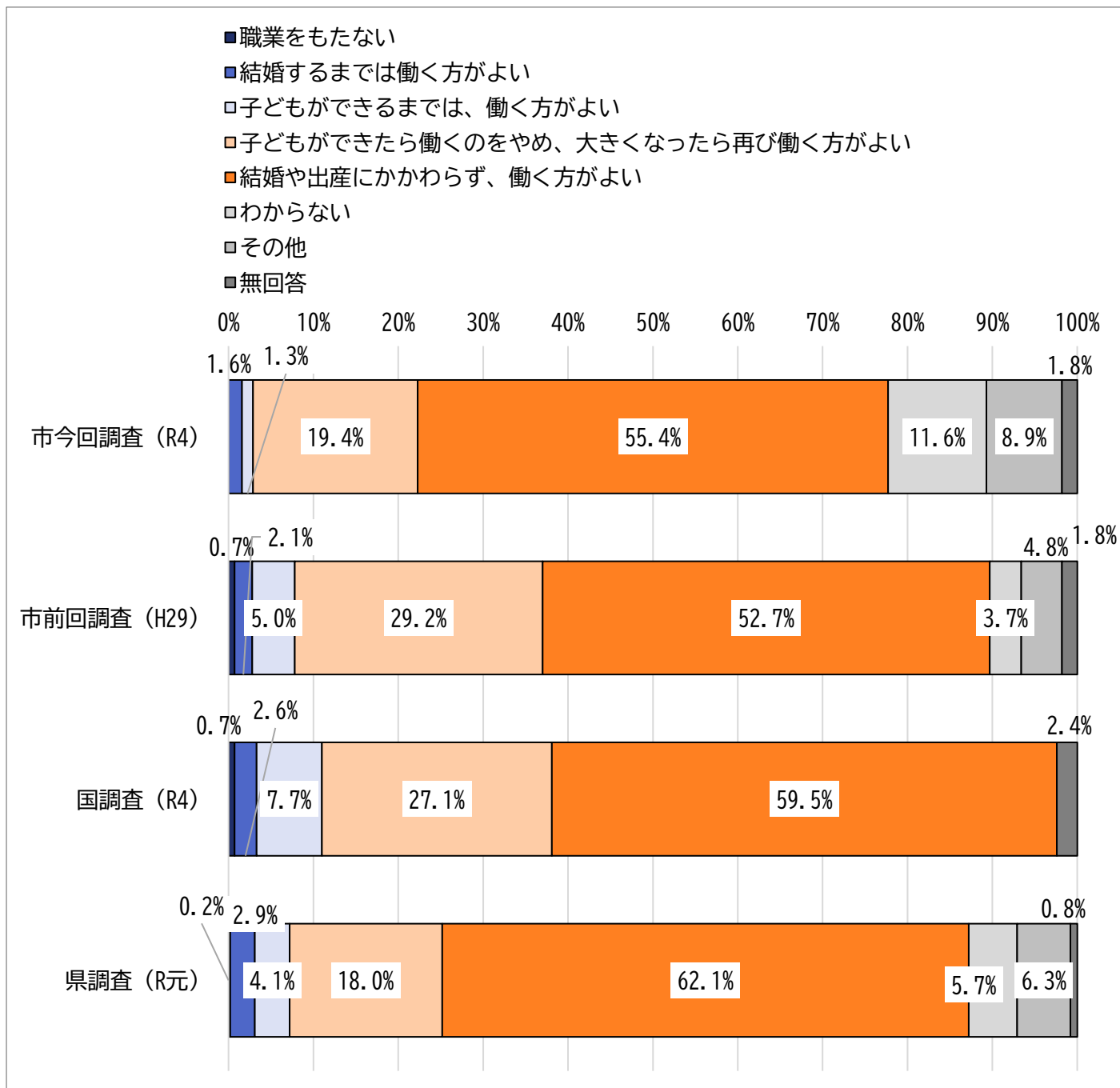
問12 女性の職業について<性別>



(その他の回答)

- ・個人や家庭の自由、環境による (20人)
- ・出産後の働き方改革・在宅・時短勤務 (6人)
- ・両立・働き続けられる環境整備 (5人)
- ・結婚・子どもに関係なく職業を持つ方がよい (2人)
- ・結婚相手により分からない

問12 女性の職業について<前回調査・全国調査・県調査との比較>





## 男性の育児休暇取得について

男女ともに肯定的な回答が多く、男性の育児参画に積極性が見られる一方で、(男性の)職場での見られ方が気になることや(男性に)家事・育児を行うスキルがないことなどの理由から、否定的な声も見受けられます。

問13 男性の育児休業取得についてどう思いますか。【〇は1つだけ】

### <全体>

○「賛成」という積極的な回答(56.3%)、「どちらかといえば賛成」(31.2%)の合計が8割以上を占めています。

### <性別>

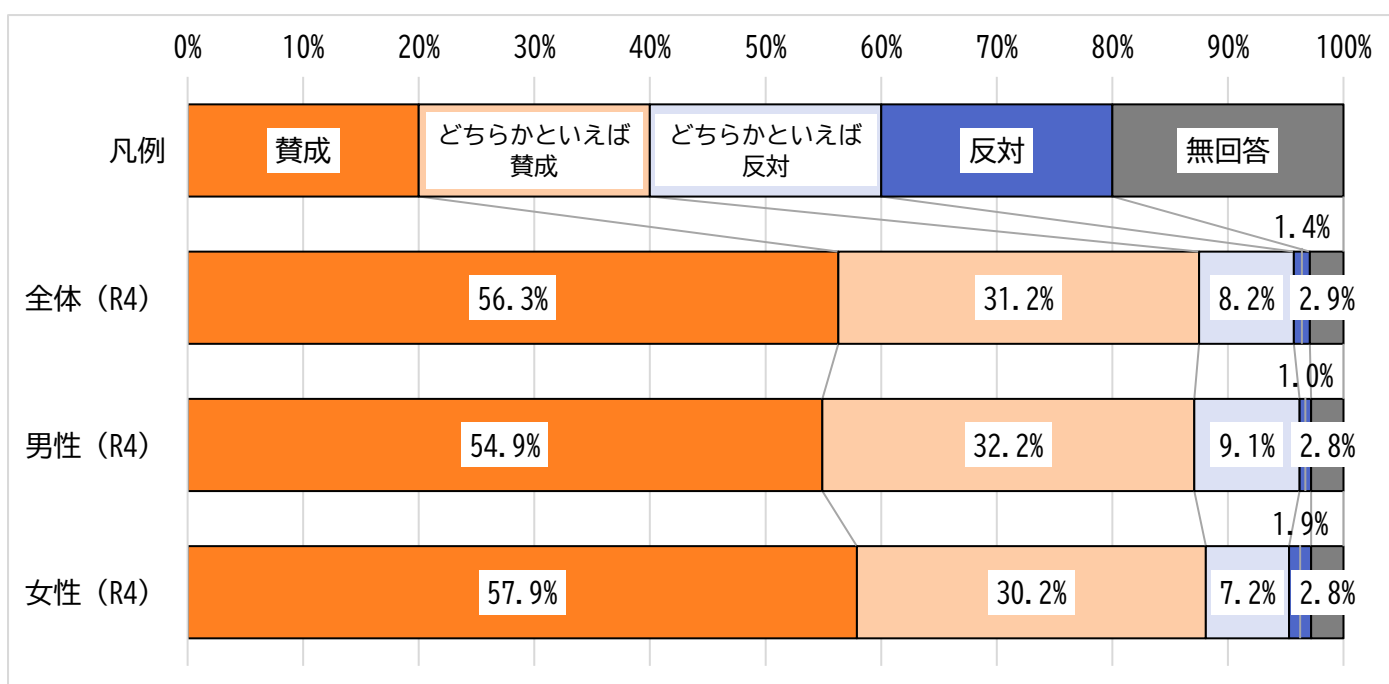
○「賛成」という積極的な回答において男性が54.9%、女性が57.9%と、女性の方が3.0ポイント上回っていますが、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計では、男女ともほぼ同様の高い数値になっています。

### <前回調査・県調査との比較>

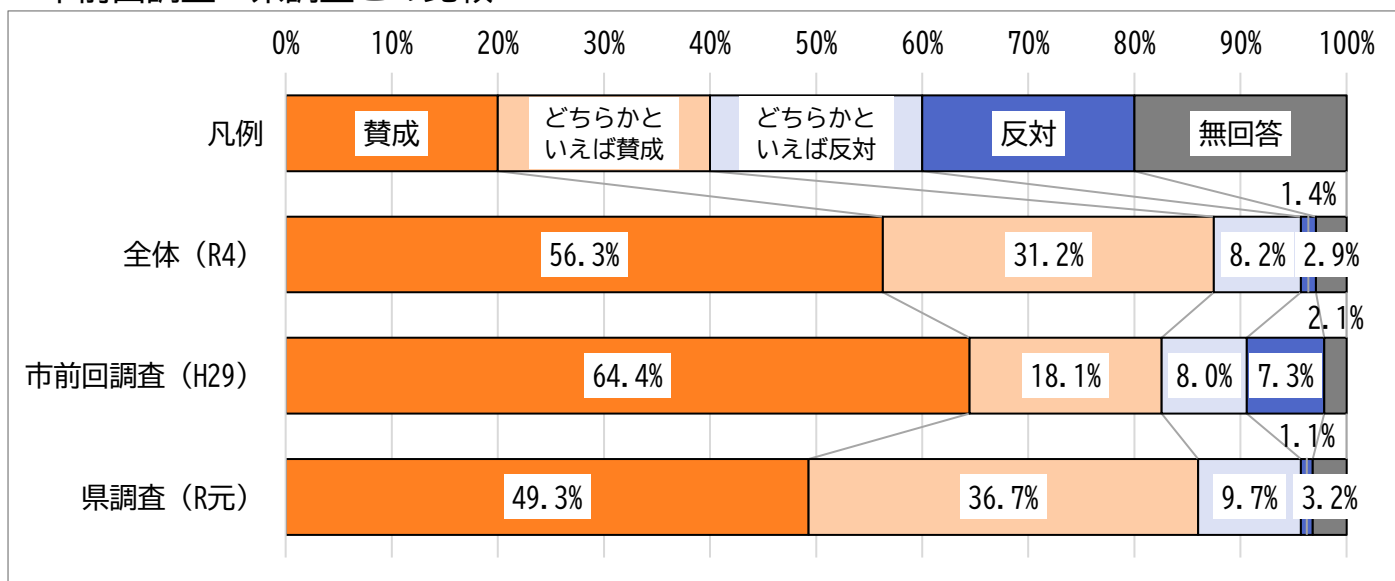
○前回調査と比較すると、「賛成」という積極的な回答は、8.1ポイント低くなっているものの、「どちらかといえば賛成」という回答は13.1ポイント高くなっており、育児休業の取得について、肯定的な考えを持つ方は増えていると言えます。

○県調査と比較すると、本市の「賛成」という積極的な回答は7.0ポイント上回っており、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計でも本市の方が1.5ポイント高くなっています。

## 問13 男性の育児休業取得について



<市前回調査・県調査との比較>



<男女共同参画推進活動ネットワーク加入団体の皆さんからの意見・感想>

- 男性の育児休業の取得については、職種によって差があるのではないかと。報道で耳にするのは恵まれた状況にある人では。
- 男性の育児休業については、家事、育児のスキルや本人の思う世間体などを取り除けば賛同する人が増えるのではないかと。

## 男性の育児休業取得について反対と思う理由

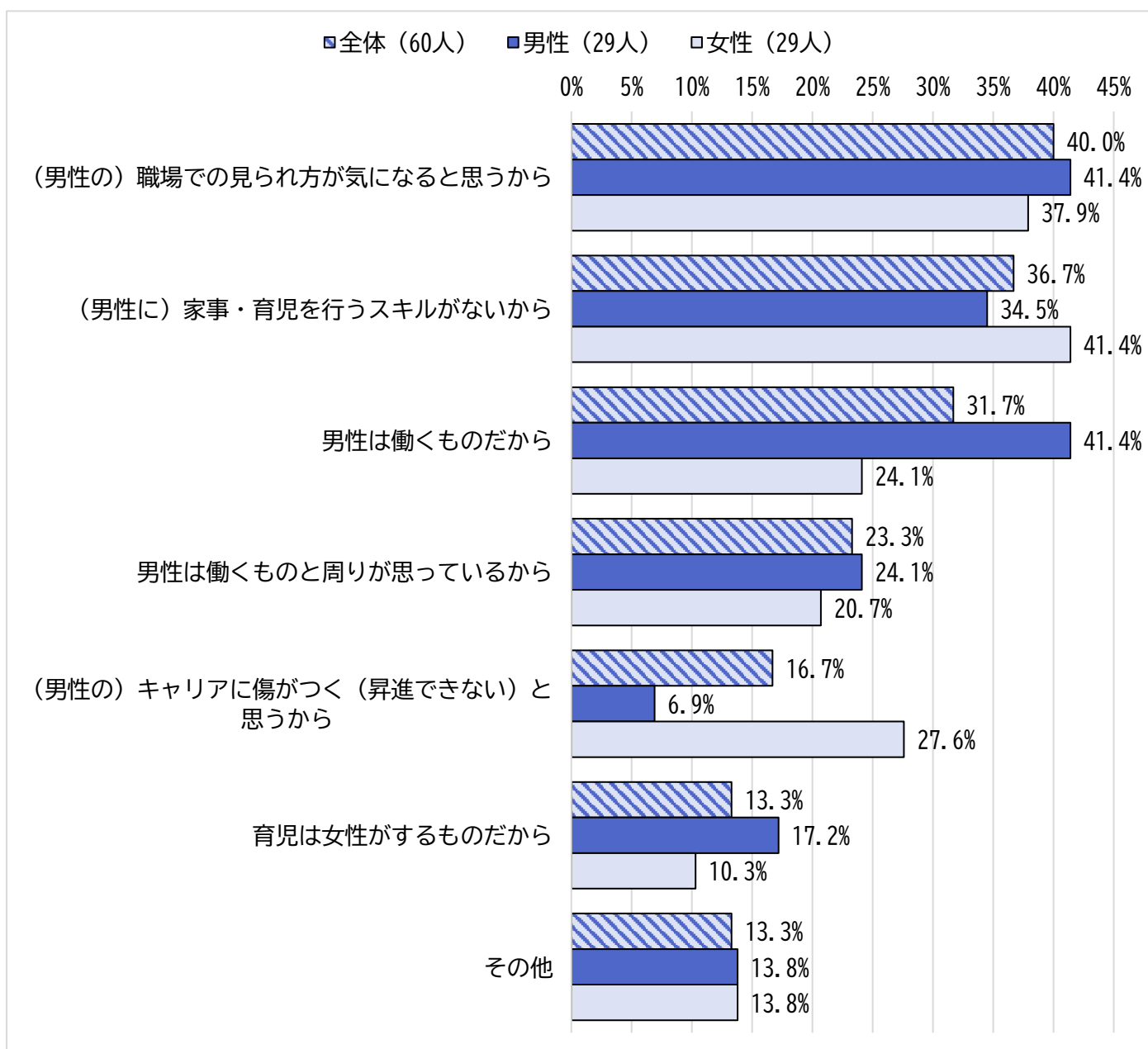
問13-1 反対と思う理由は何ですか。【〇はあてはまるものすべて】

### <全体・性別>

○「(男性の) 職場での見られ方が気になると思うから (40.0%)」の回答が最も多く、次いで、「(男性に) 家事・育児を行うスキルがないから (36.7%)」、「男性は働くものだから (31.7%)」の順になっています。

○男性の回答で一番多いのは、「(男性の) 職場での見られ方が気になると思うから (41.4%)」、「男性は働くものだから (41.4%)」となっている一方、女性の回答で一番多いのは、「(男性に) 家事・育児を行うスキルがないから」となっており、反対する主たる理由が性別によって異なります。男性は依然、ジェンダーの考え方が根深いように見えます。

### 問13-1 反対と思う理由



### 3. 「家庭・結婚」について

#### 家庭生活での役割分担

前回調査と比較して、ほとんどの項目で男性の役割が増えてきてはいるものの、依然として家事全般を女性が担っているのが現状となっています。

問14 あなたは家庭で、次のことについてどの程度行っていますか。【〇はそれぞれ1つだけ】

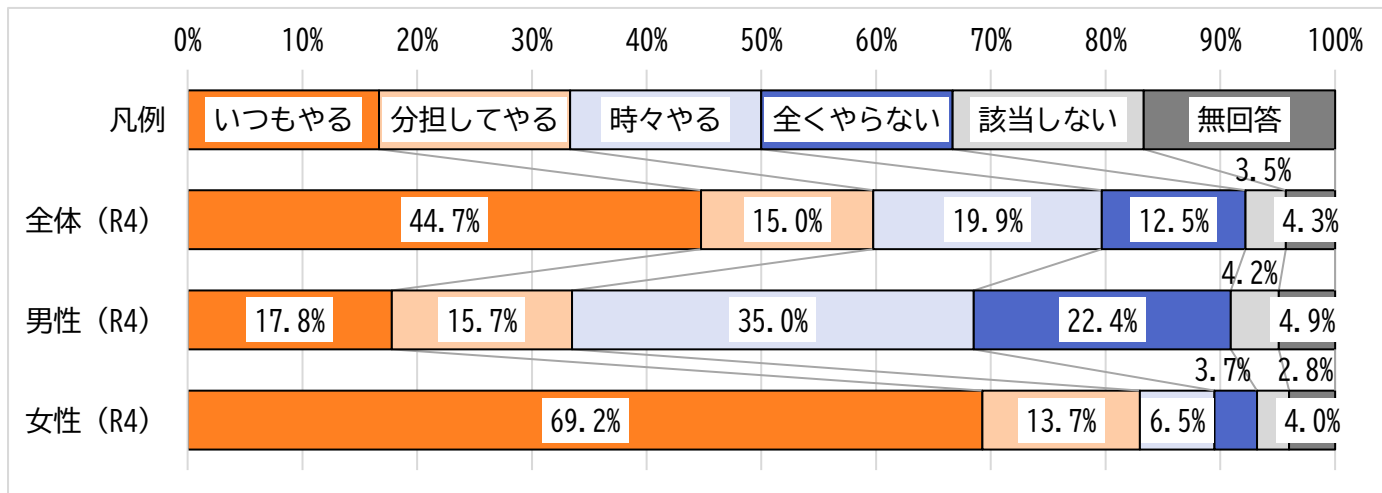
#### <全体・性別>

- 8つの質問項目全体として、地域の行事参加や近所とのつきあいを除き、女性が「いつもやる」と回答している割合の方が高くなっています。
- 性別で見ると、男性が「全くやらない」と回答している割合が最も高い項目は、「(4)洗濯」の31.6%であり、次いで「(1)食事の支度」の22.4%、「(6)地域の行事や近所とのつきあい」の12.9%となっています。

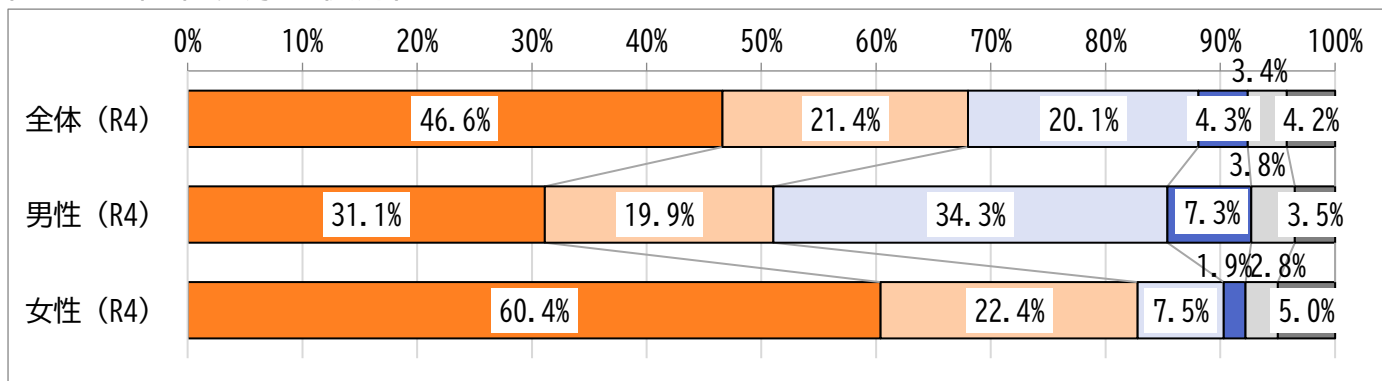
#### <前回調査との比較>

- 前回調査と比較すると、男性はほとんど全ての項目において、「いつもやる」と回答した方の割合が増えてきています。反対に、女性の「いつもやる」と回答した方の割合は減っています。
- 同様に、男性においては、ほとんどの項目で、「全くやらない」と回答している割合が低くなっています。特に「(4)洗濯」について、「全くやらない」と回答した男性の割合が11.3ポイントの減、次いで、「(3)掃除」については11.2ポイントの減、「(2)食事の後片付け」については、10.3ポイントの減となっています。

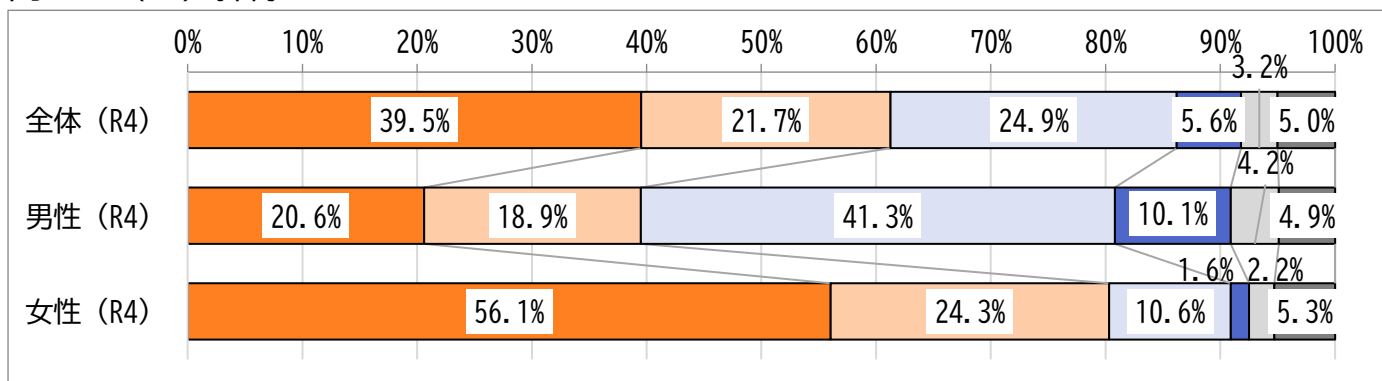
問14 (1) 食事の支度



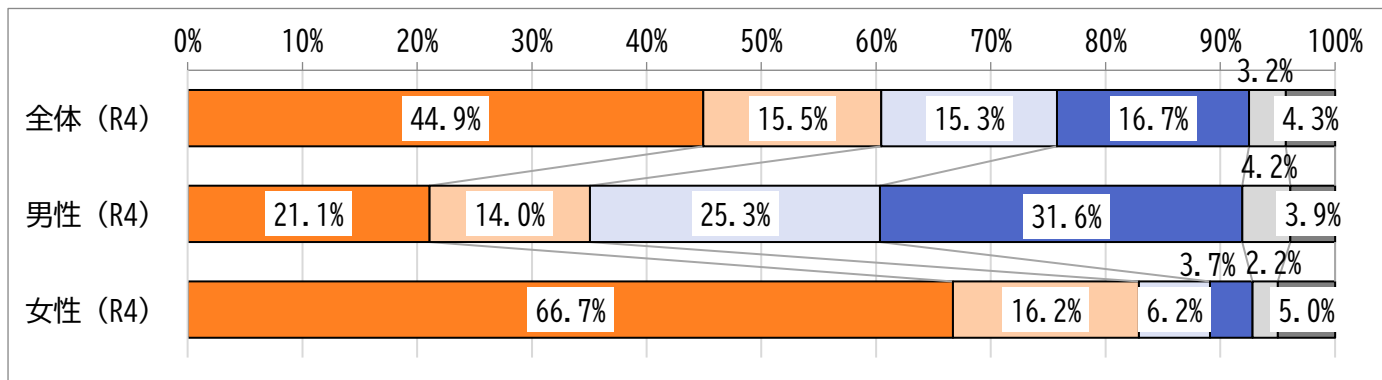
問14 (2) 食事の後片付け



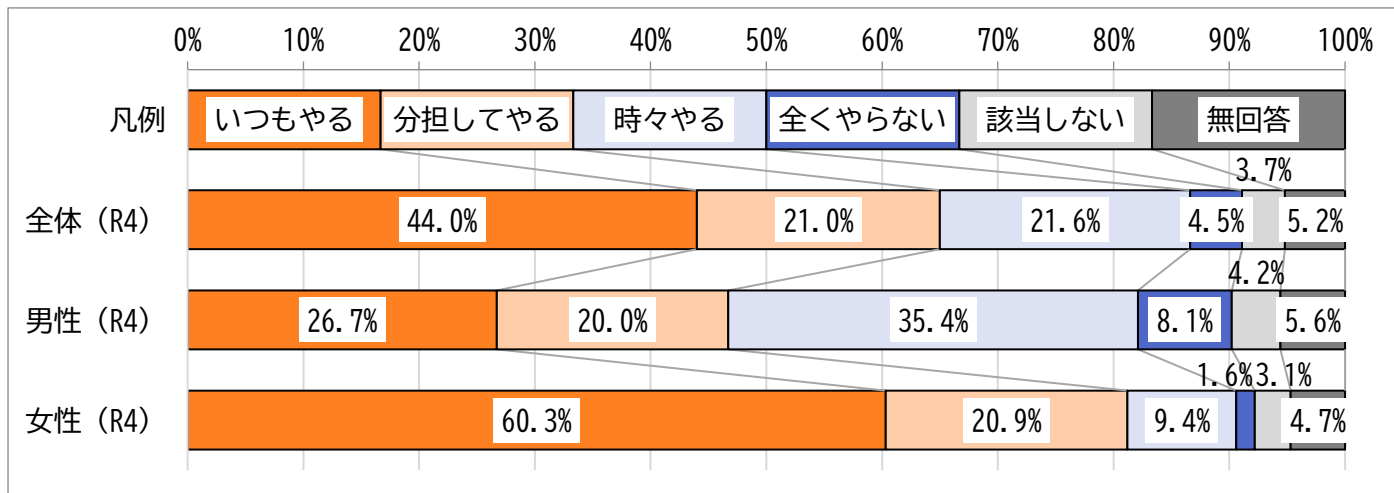
問14 (3) 掃除



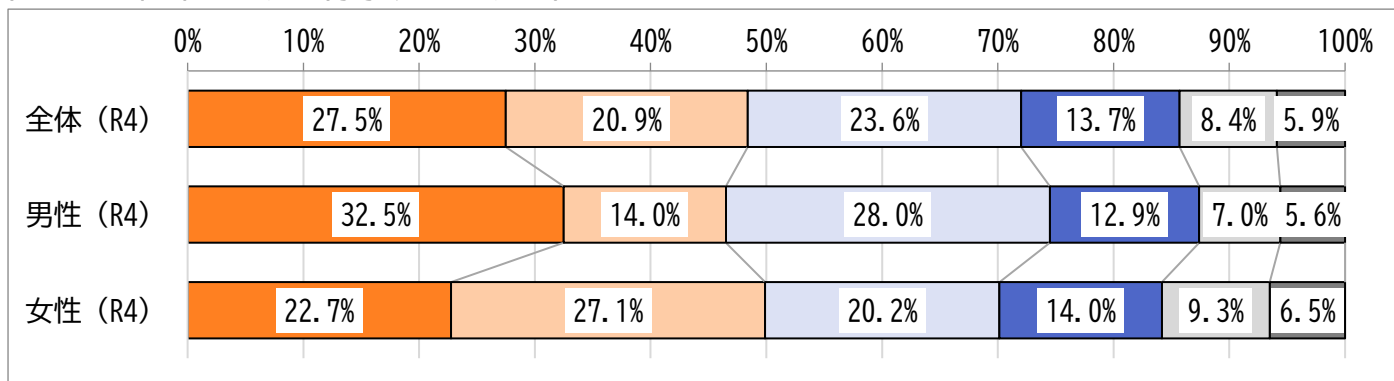
問14 (4) 洗濯



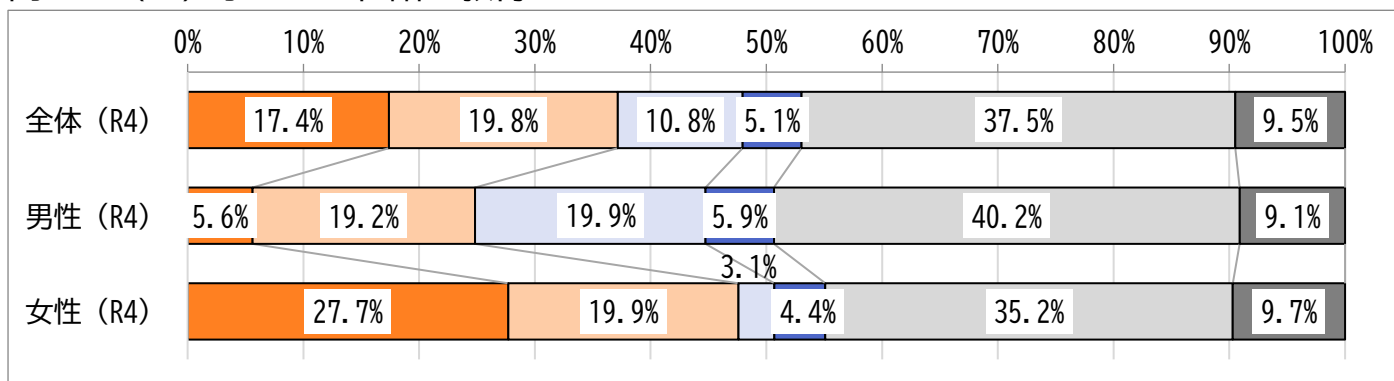
問14 (5) ふだんの買い物



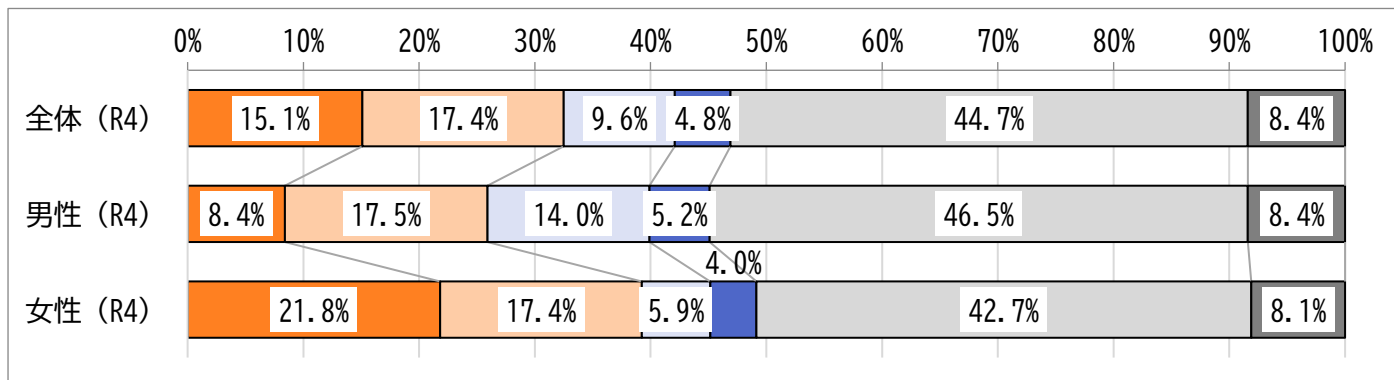
問14 (6) 地域の行事参加や近所とのつきあい



問14 (7) 子どもの世話や教育

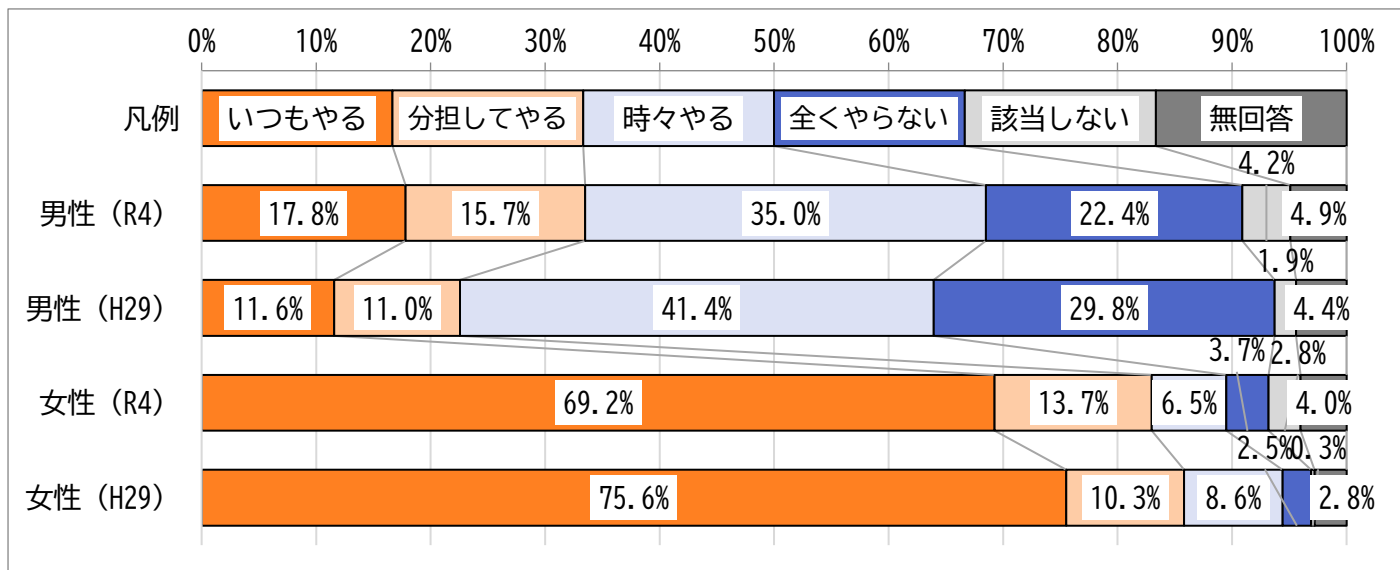


問14 (8) 家族の介護・世話

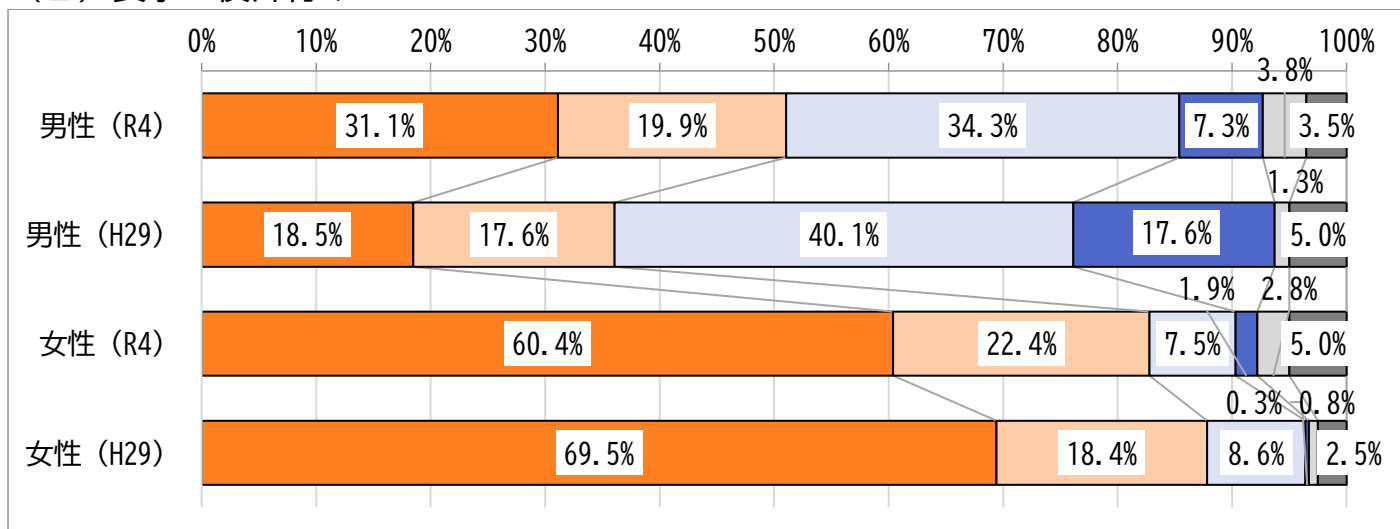


問14 家庭生活での役割分担<前回調査との比較>

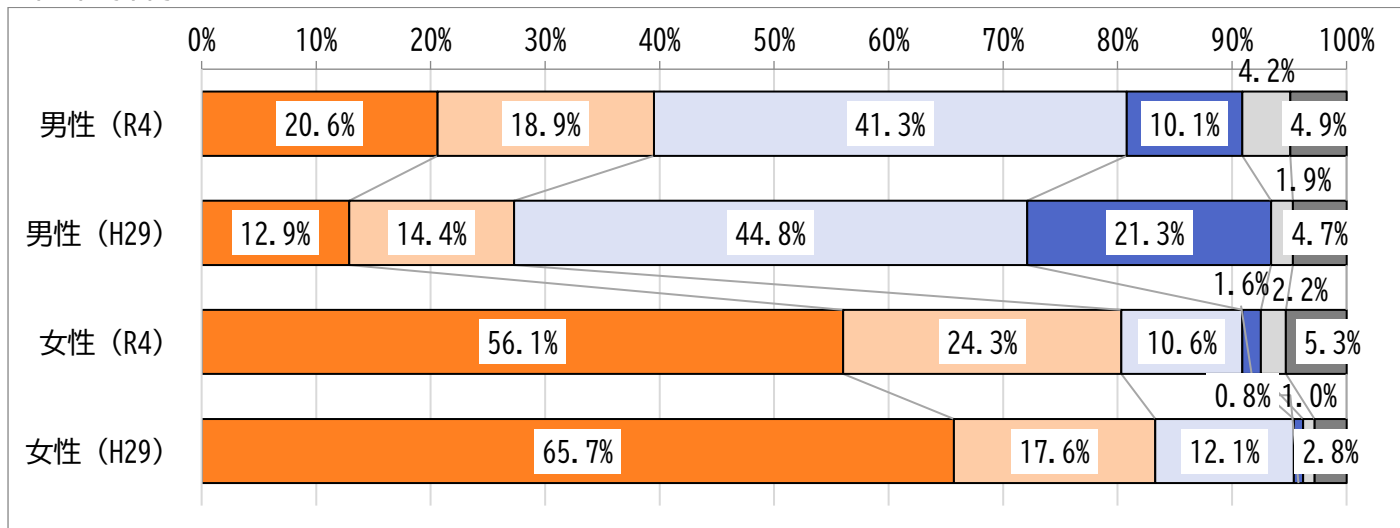
(1) 食事の支度



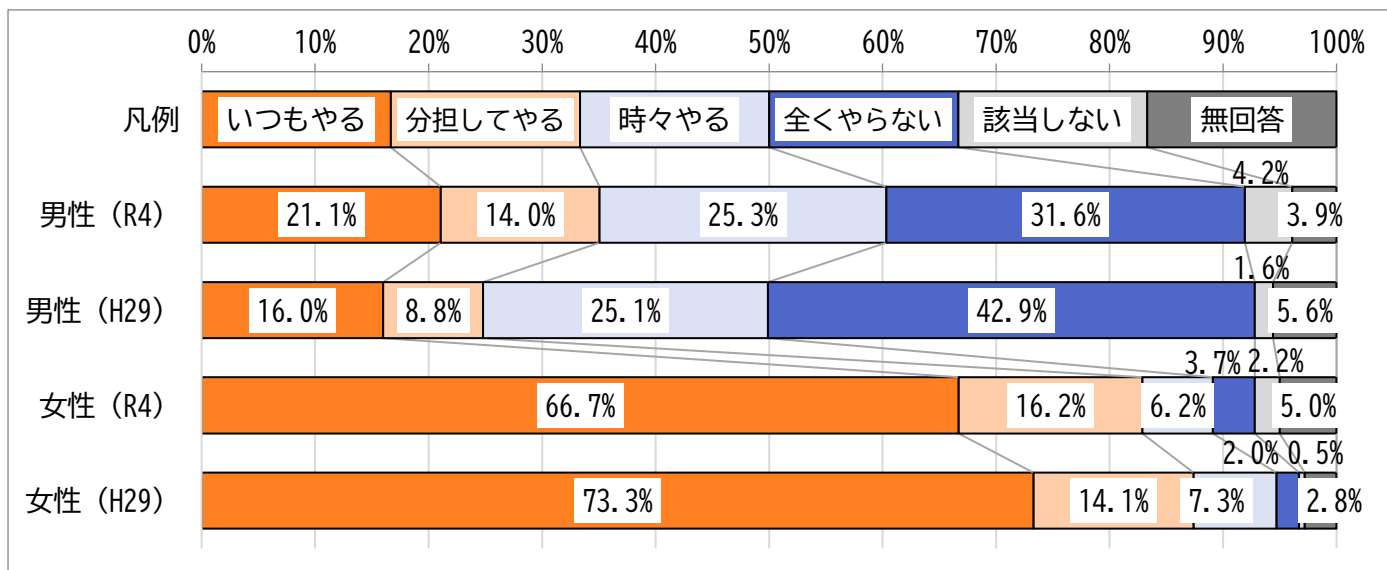
(2) 食事の後片付け



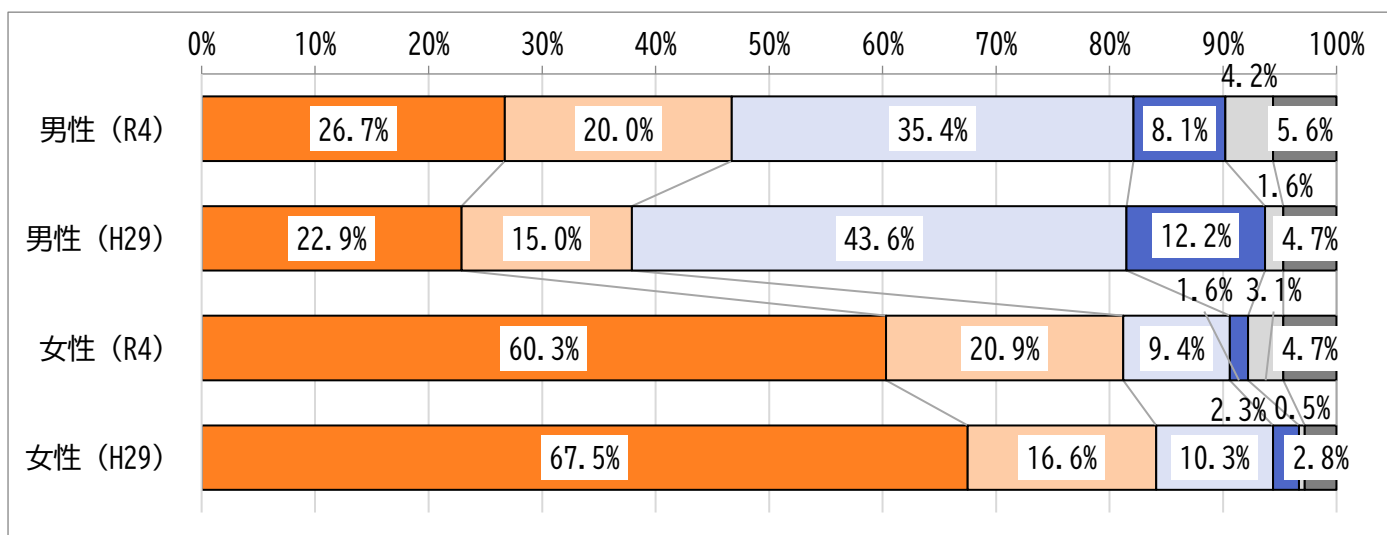
(3) 掃除



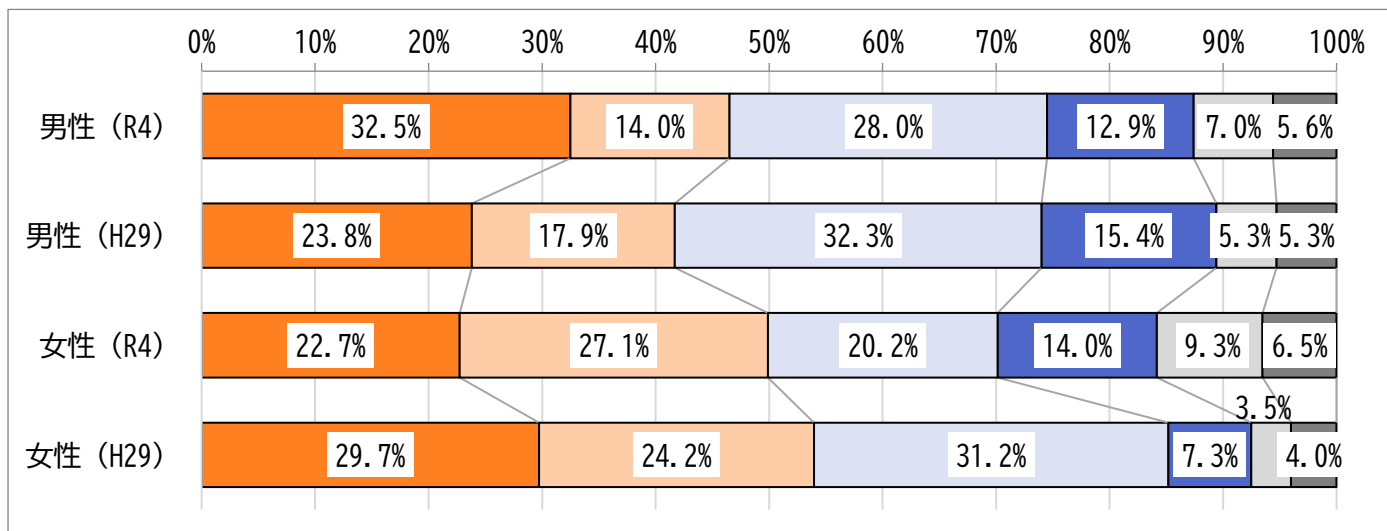
(4) 洗濯



(5) ふだんの買い物

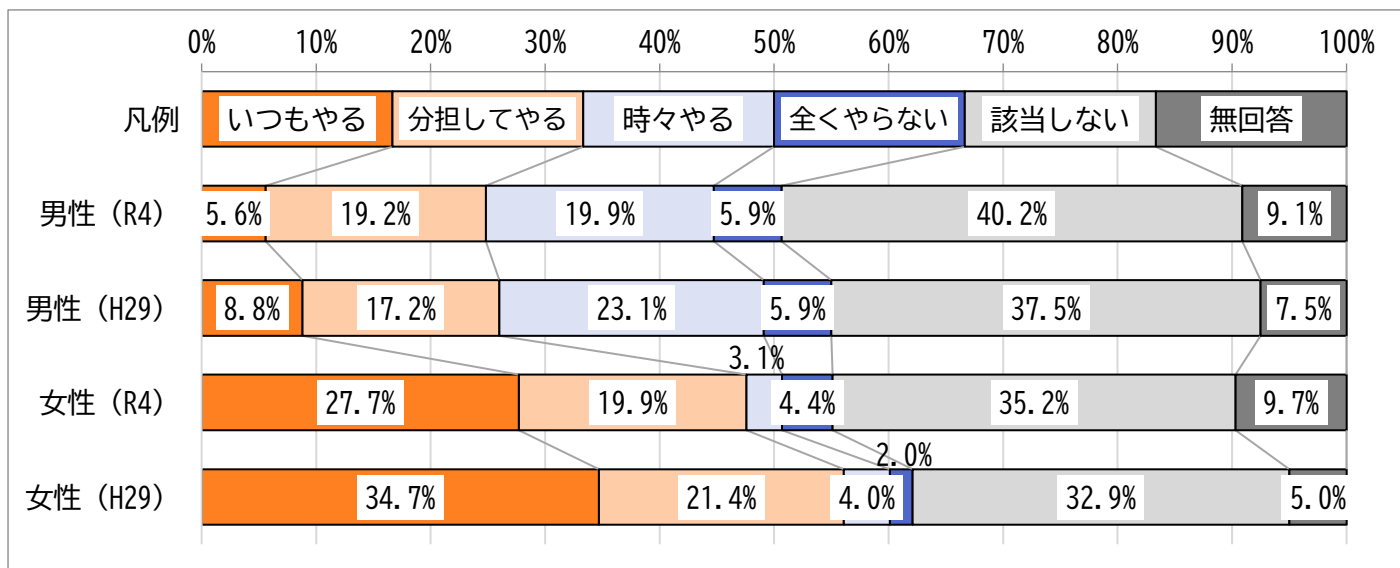


(6) 地域の行事参加や近所とのつきあい

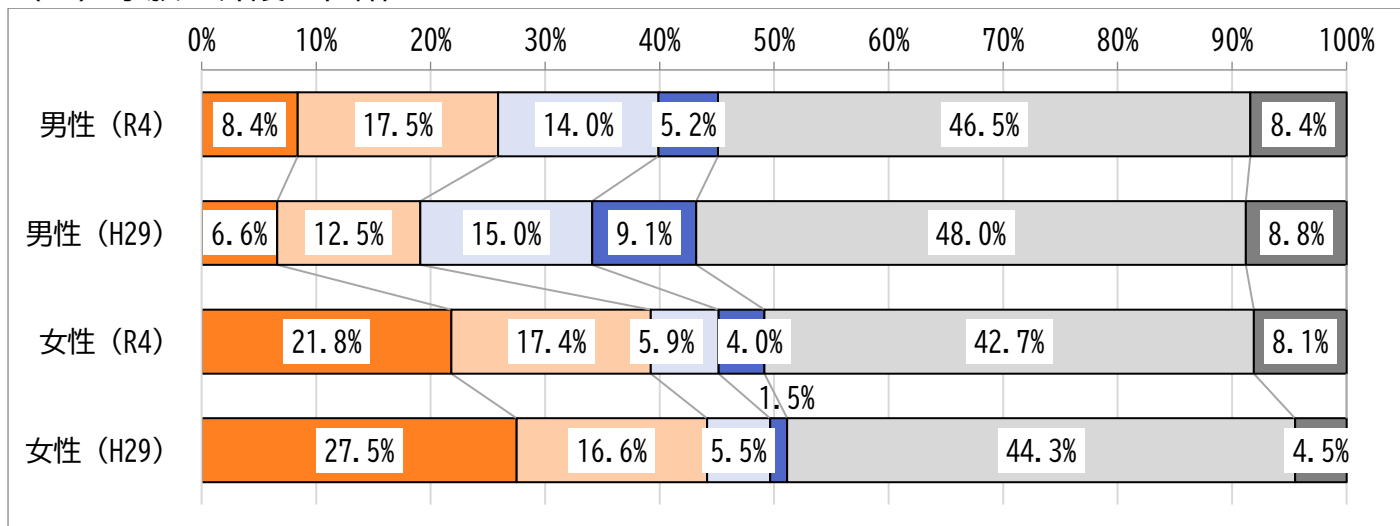




(7) 子どもの世話や教育



(8) 家族の介護・世話



## 家庭・結婚に関する考え方

性別により考え方に差が見られるものの、「必ず結婚すべき」・「必ず子どもを持つべき」・「女性は結婚したら自分のことよりも夫や子どもを優先すべき」など昔から言われてきたような社会での決めつけにとらわれず、柔軟な考え方をする人が男女ともに多くなっています。また、前回調査と比べ、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」のような固定的性別役割分担の意識は低くなっています。

問15 家庭、結婚観について、あなたの考えに近いものはどれですか。【○はそれぞれ1つだけ】

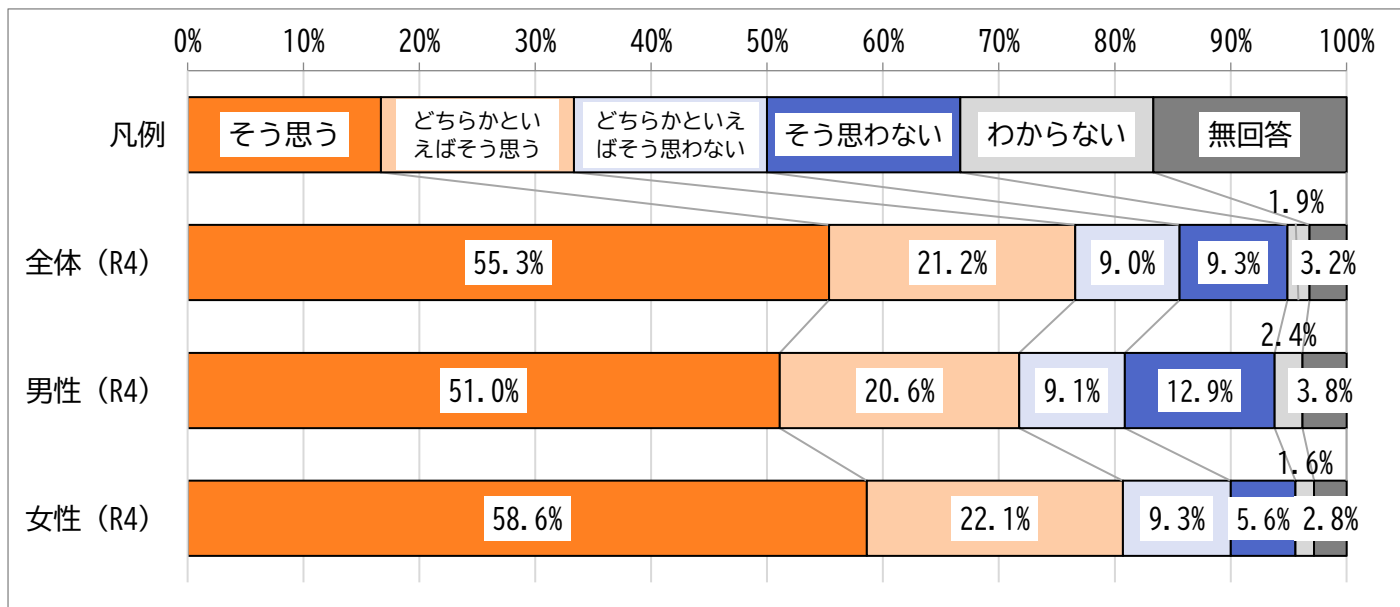
### <全体・性別>

- 肯定的な意見（そう思う・どちらかといえばそう思う）が多いのは、「(1) 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもどちらでもよい」、「(5) 結婚しても相手に満足できない時は離婚してもよい」の2項目で、いずれも女性の方が肯定的な意見が6～8割と高いものの、男性は5～7割に留まっています。
- 「(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の反対派（どちらかといえばそう思わない・そう思わない）は約7割を占めていますが、賛成派は男性の割合が若干高くなっています。
- 「(3) 女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活した方がよい」については、男女ともに同じような傾向で、否定的な意見が約7割を占めています。

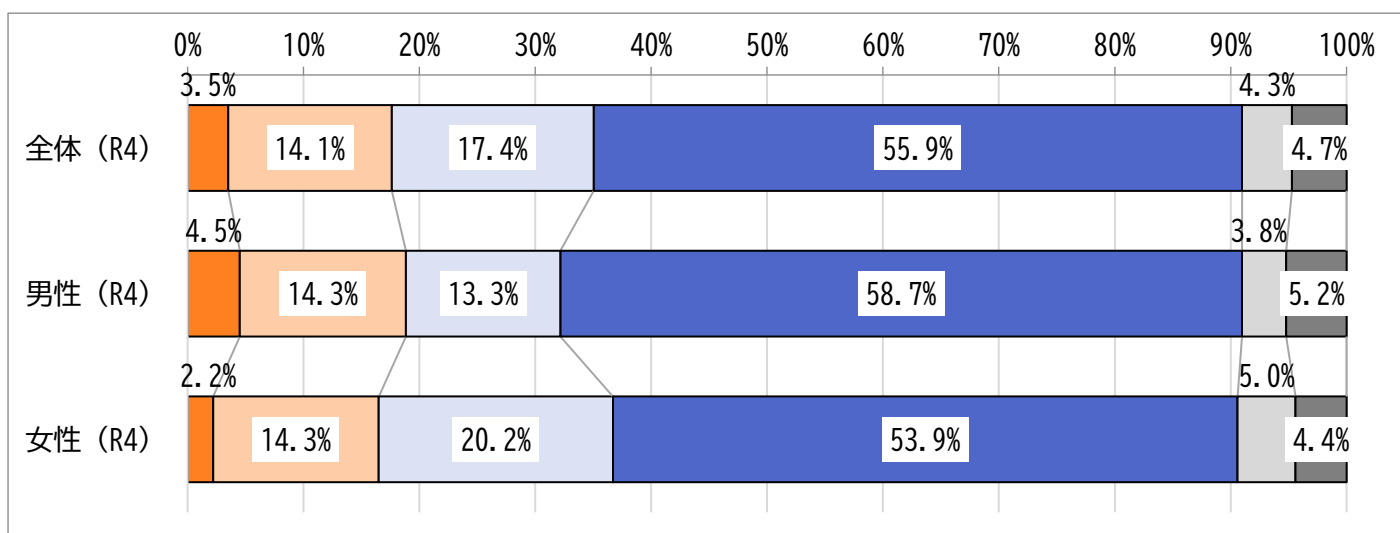
### <前回調査・県調査との比較>

- 前回調査と比較すると、「(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の否定的な意見が増えており、肯定的な意見は2割弱となっています。また、「(3) 女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活した方がよい」に対し否定的な意見は10.1ポイント増えており、男女ともに女性自身の生き方を支持する傾向にあることが伺えます。
- 県調査と比較して、ほぼ同様の傾向となっています。

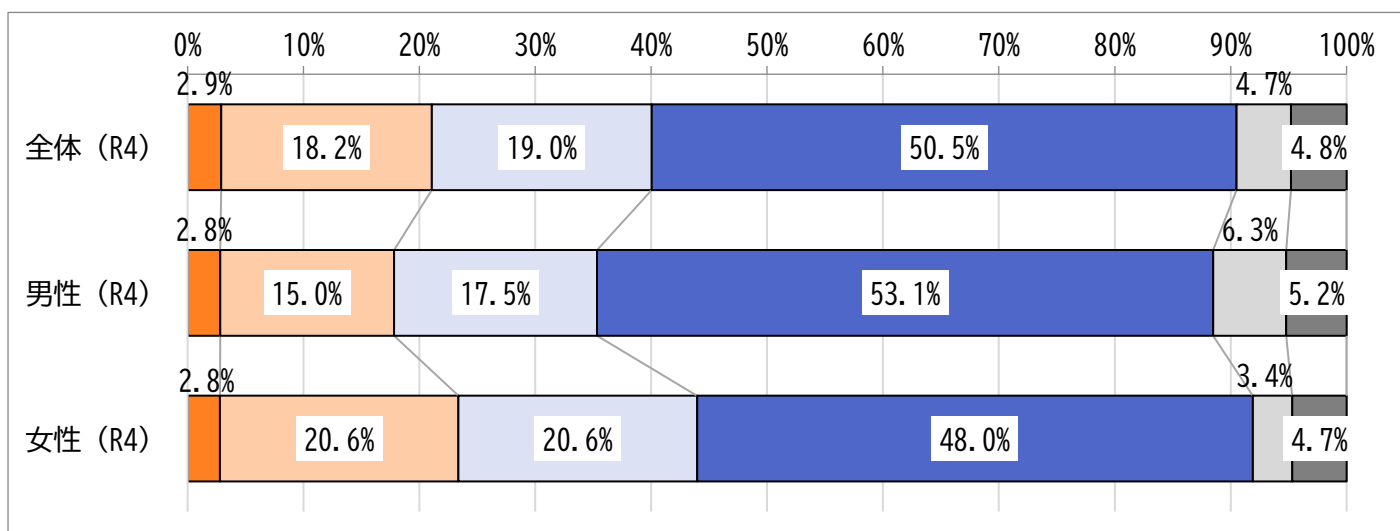
問15 (1) 結婚は個人の自由であるから、結婚はしなくてもどちらでもよい



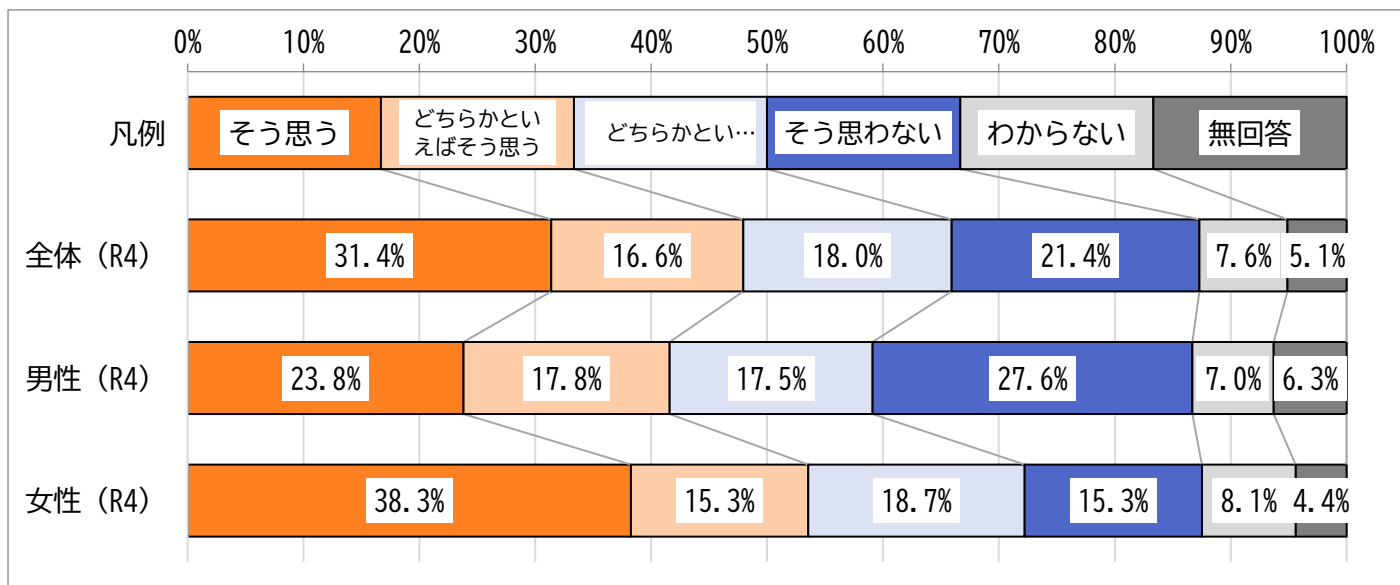
問15 (2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



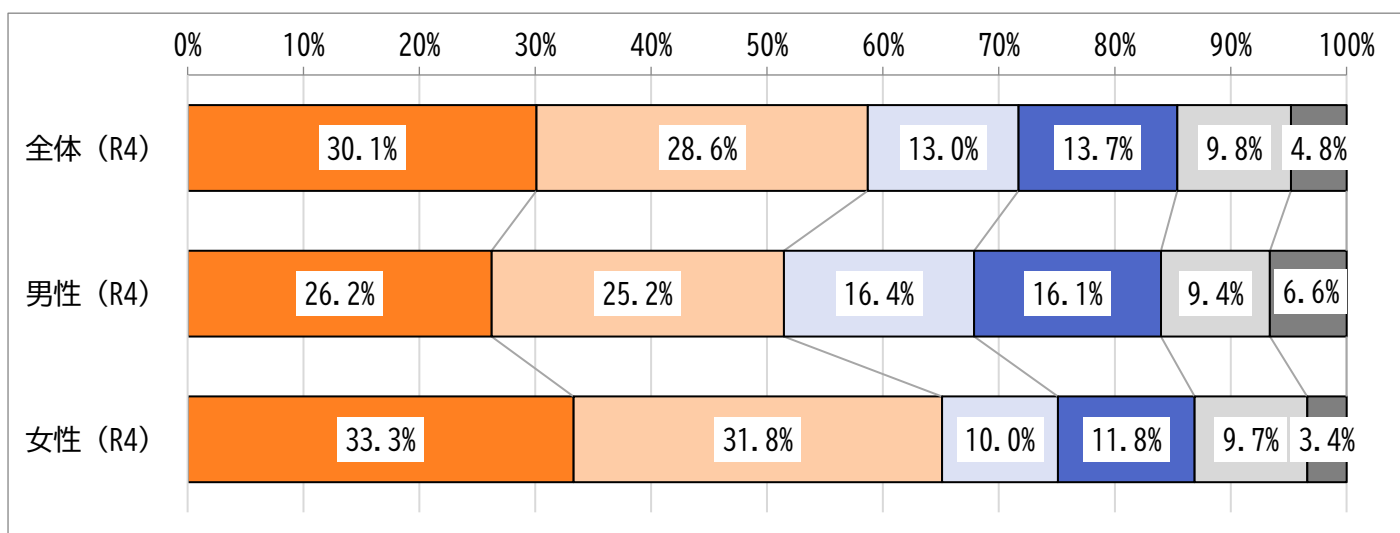
問15 (3) 女性は結婚したら、夫や子どもを中心に考えて生活した方がよい



問15 (4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

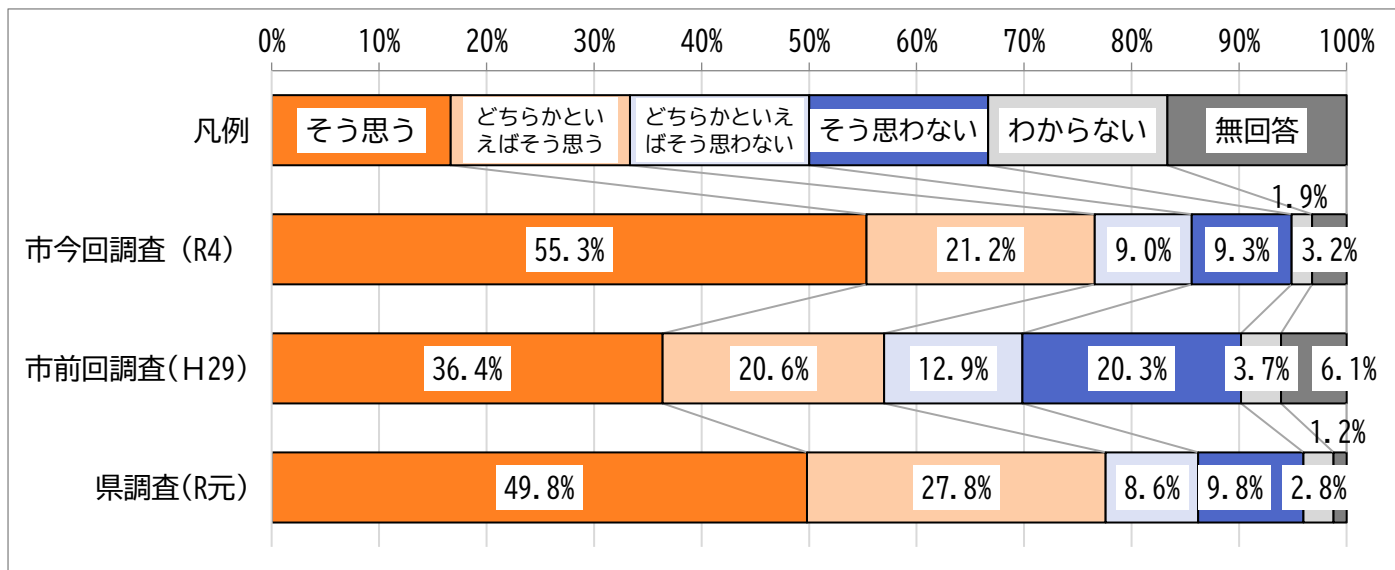


問15 (5) 結婚しても相手に満足できない時は離婚してもよい

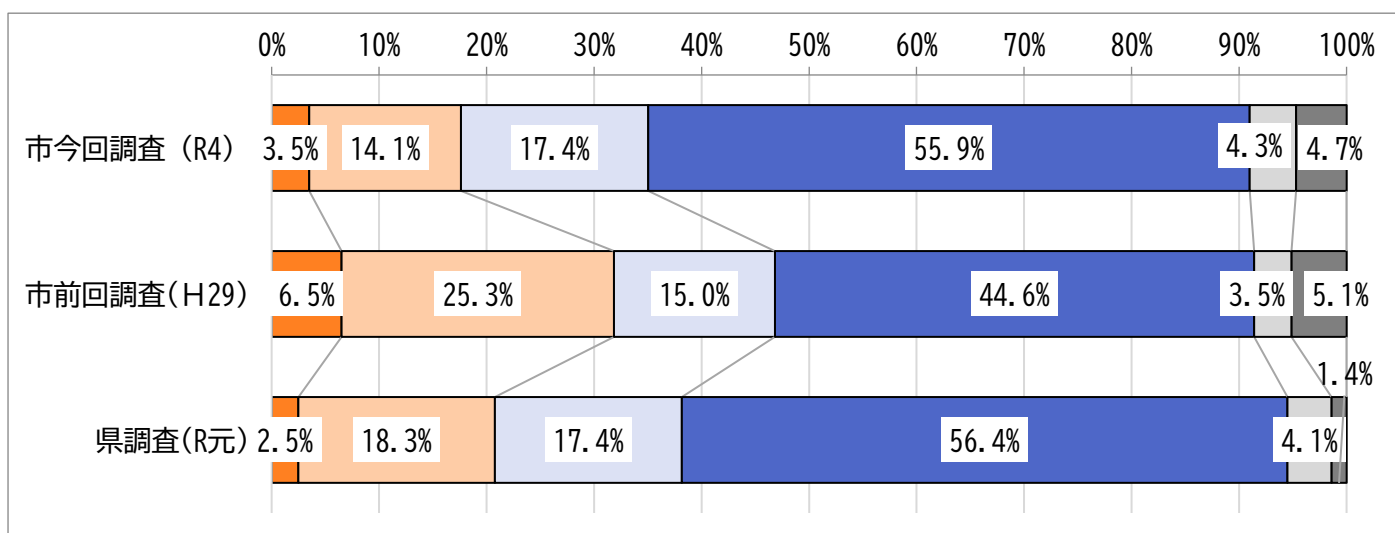


<前回調査、県調査との比較>

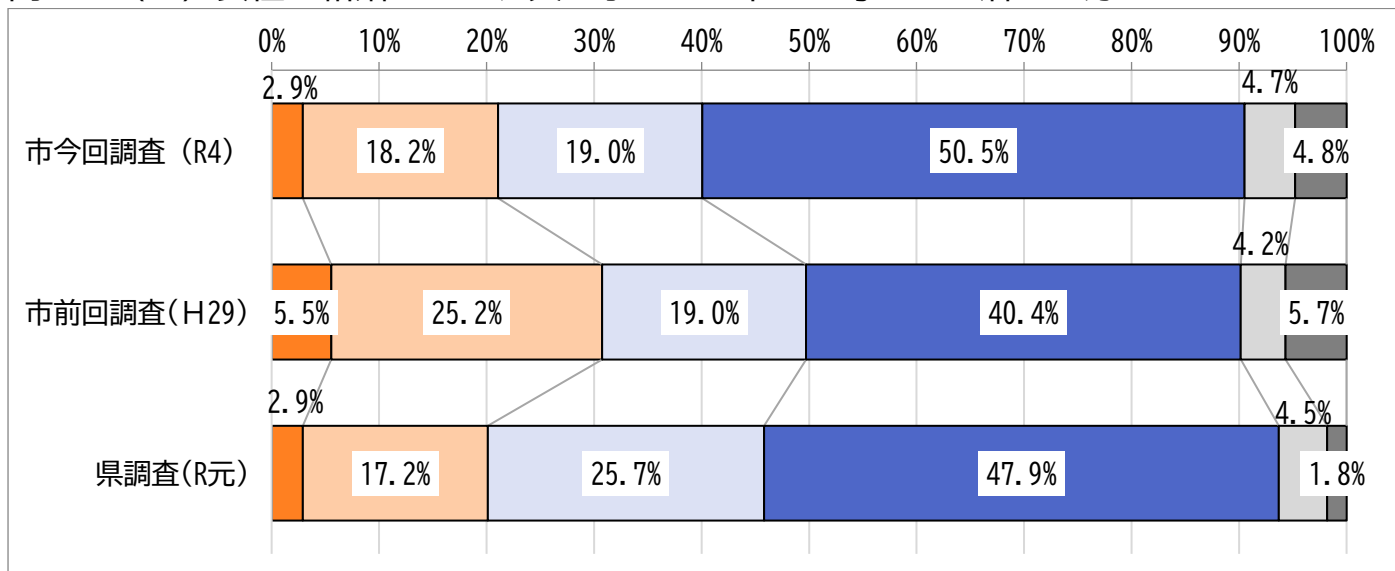
問15(1) 結婚は個人の自由であるから、結婚はしなくてもどちらでもよい



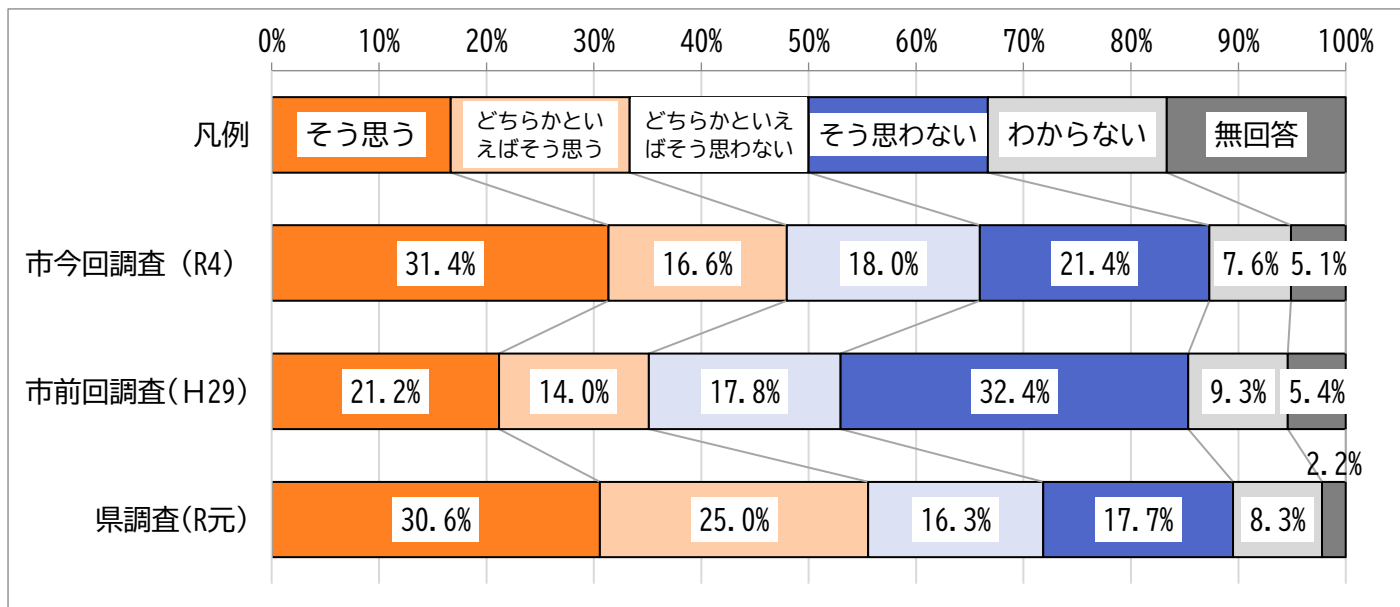
問15(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



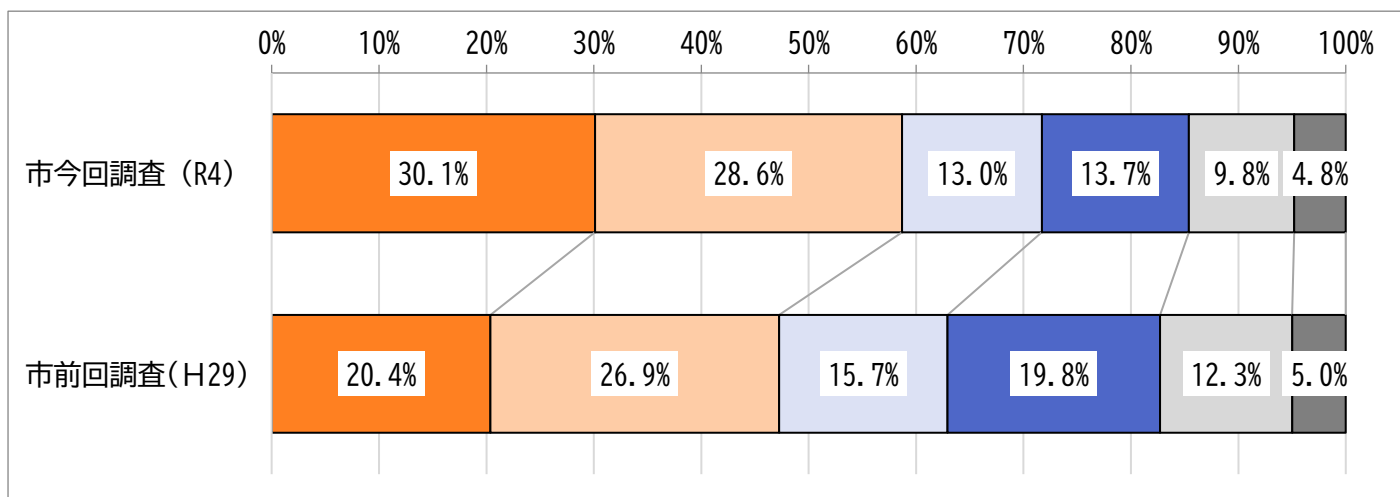
問15(3) 女性は結婚したら、夫や子どもを中心に考えて生活した方がよい



問15 (4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない



問15 (5) 結婚しても相手に満足できない時は離婚してもよい



5. 「人権<性の多様性、DV等>」について

**人権に関する用語の認知度**

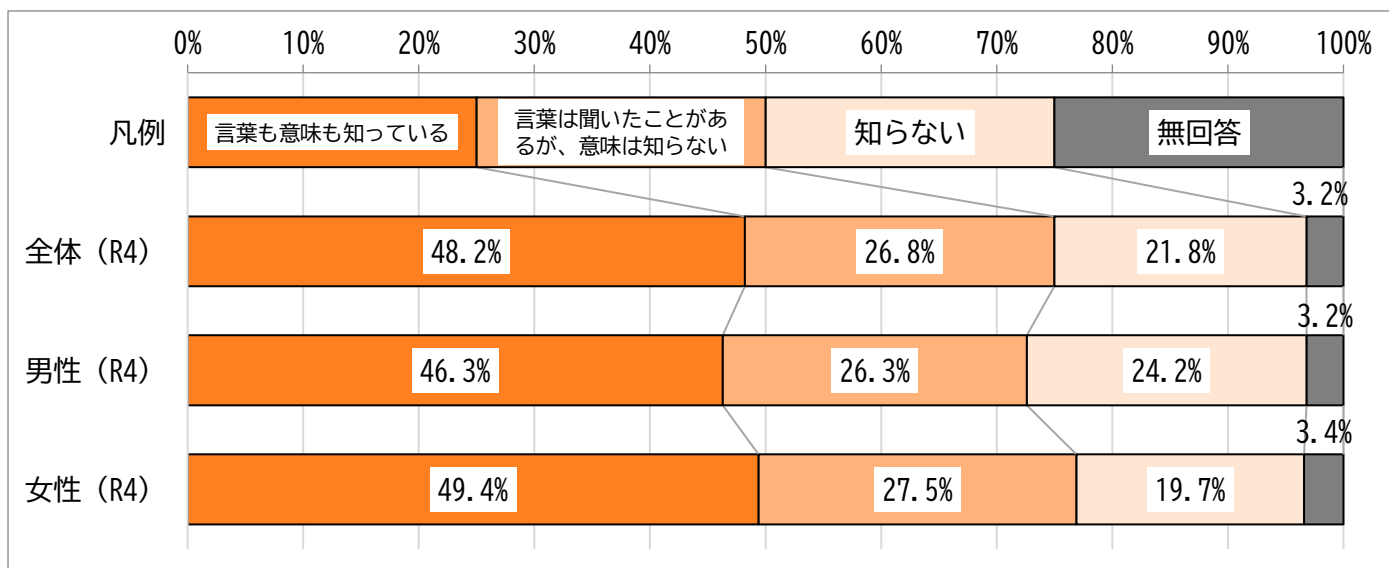
各用語の認知度について、「カミングアウト」や「LGBT」は過半数を超えているものの、その他の用語は過半数を下回っています。

問16 次の言葉と意味について知っていますか。【〇はそれぞれ1つだけ】

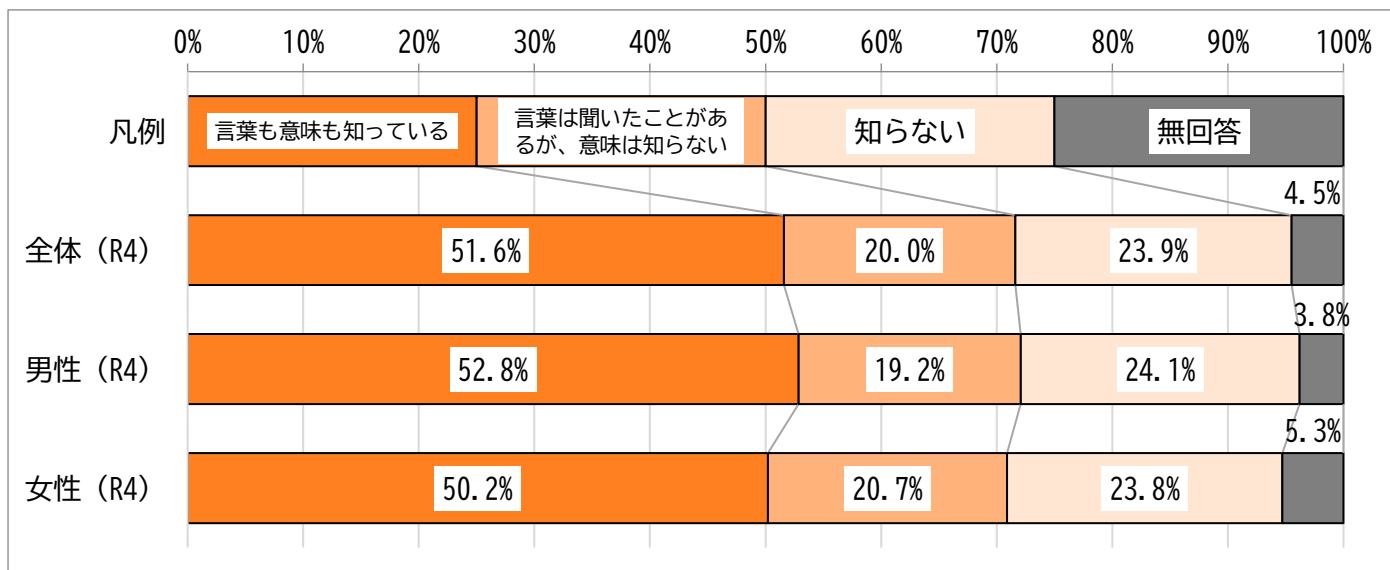
<全体>

〇7つの用語のうち、言葉だけ聞いたことがある人まで含めると、割合が最も高い用語は、「(3) カミングアウト」の83.3%、次いで「(1) セクシュアル・マイノリティ」の75.0%、「(2) LGBT」の71.6%となっており、いずれも7割を超える高い知名度となっています。〇しかし、言葉も意味も知っているという回答に限定すると、「カミングアウト」や「LGBT」は過半数を超えているものの、その他の用語は過半数を下回っています。特に、回答の低いもので、「(5) SOGI (3.7%)」や「(7) リプロダクティブ・ヘルス・ライツ (5.0%)」、「(4) アウティング (11.6%)」などは、いずれも認知度は低くなっており、約7~8割の方が知らないと回答しています。

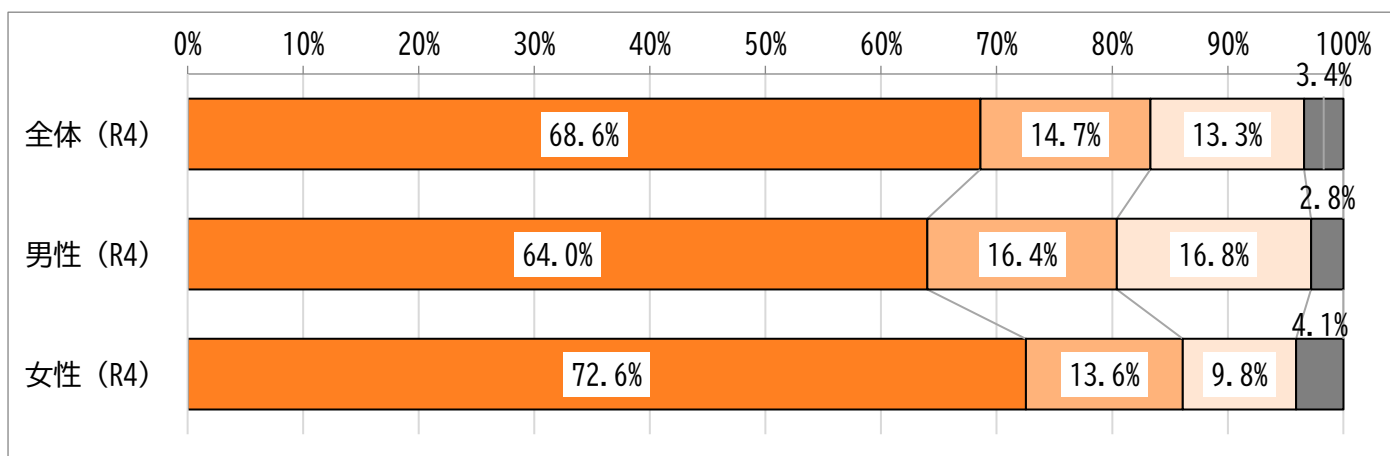
問16 (1) セクシュアル・マイノリティ



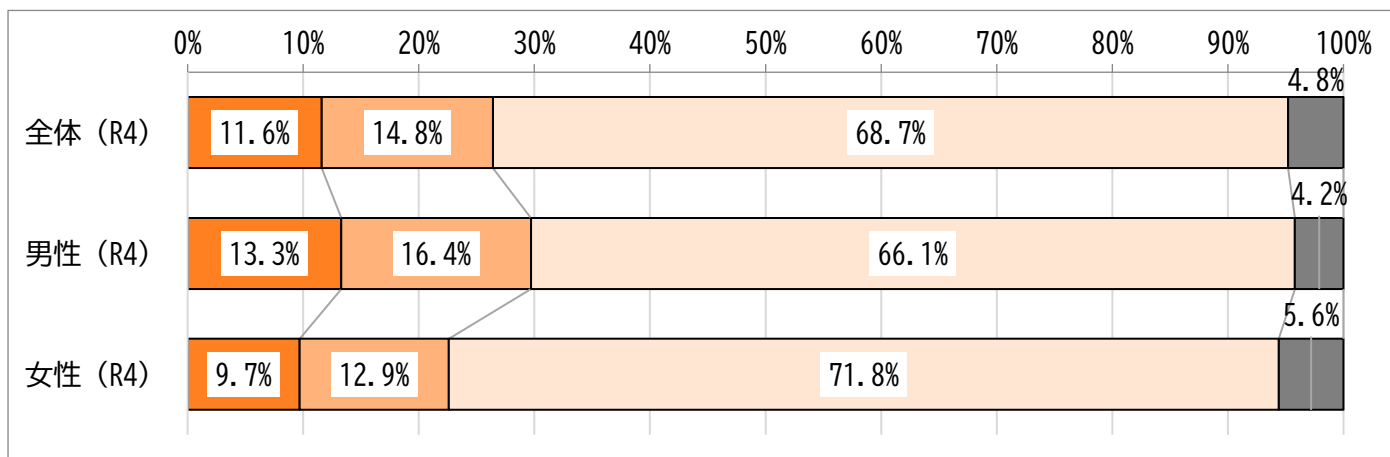
問16 (2) LGBT



問16 (3) カミングアウト

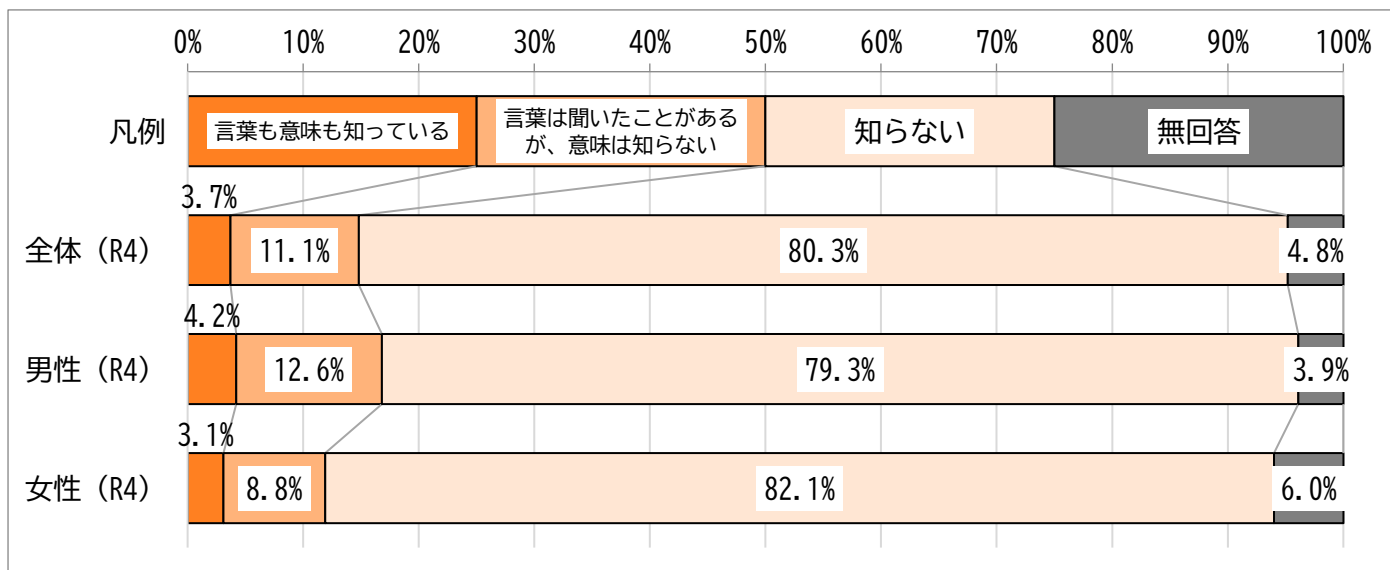


問16 (4) アウティング

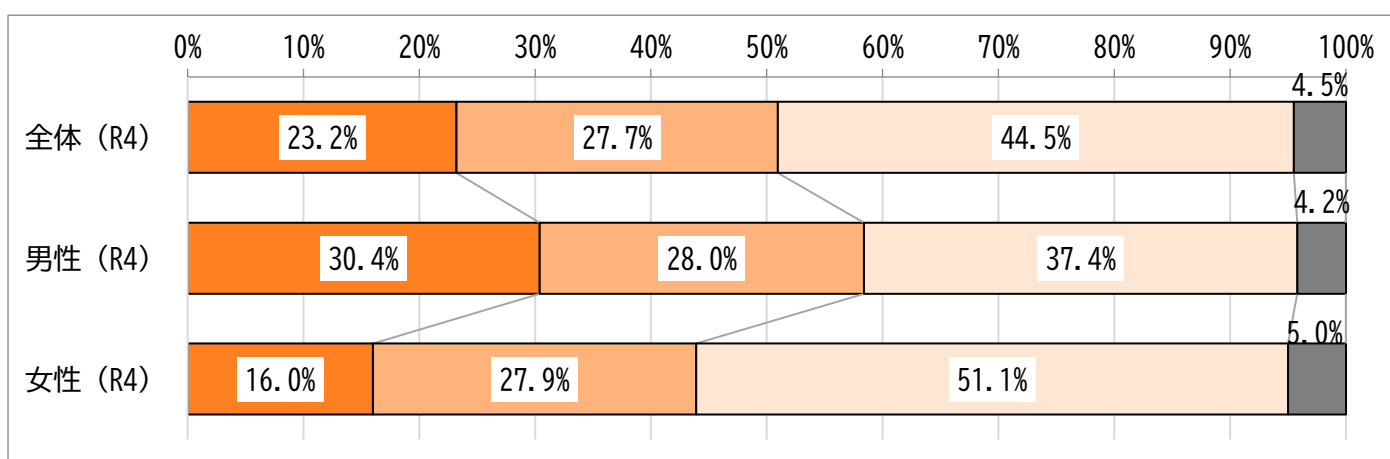




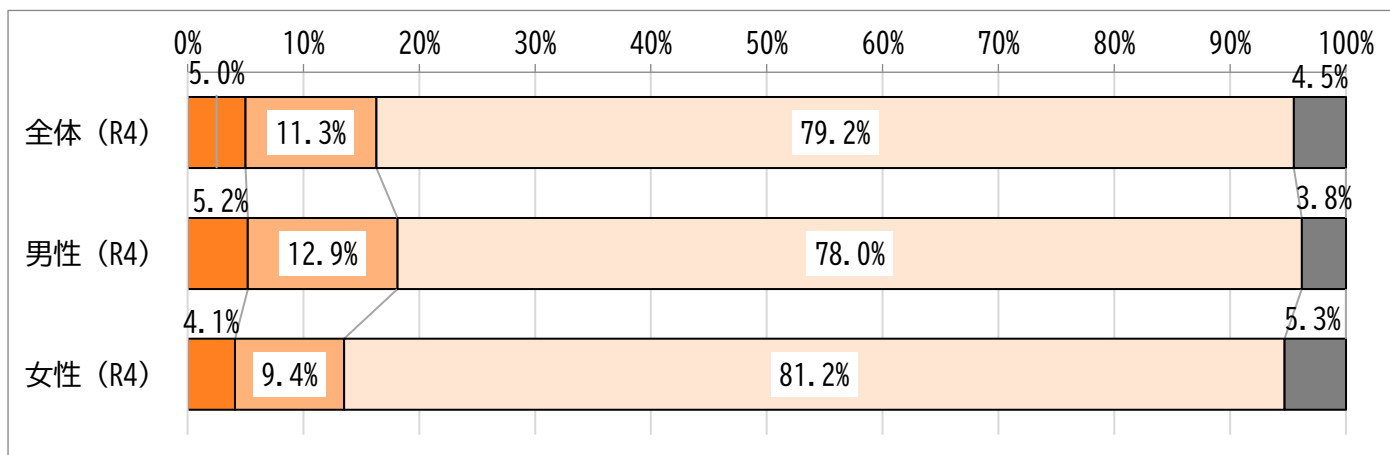
問16 (5) SOGI



問16 (6) ダイバーシティ



問16 (7) リプロダクティブ・ヘルス・ライツ



**性について違和感を持ったり悩んだりした経験、身近に悩んでいたたり悩みを聞いたたりした経験**

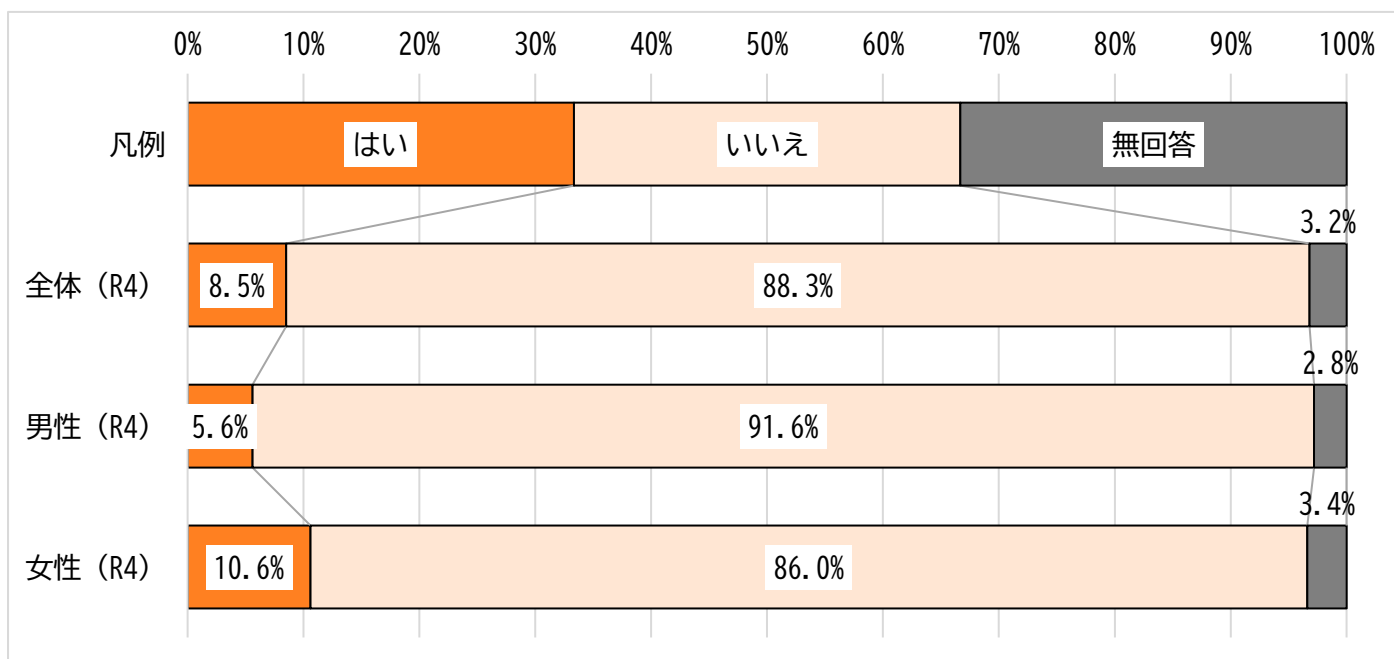
自分や身の回りで、性について違和感を持ったり悩んだりしている方は、回答者全体の8.5%でした。その方々に、セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の方々が生活しやすくなるための対策について何うと、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり（54.7%）」や「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと（54.7%）」といった声が多く上げられました。

問17 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に違和感を持ったり悩んだりしたことがありますか。また、身近に悩んでいる方を見たり、悩んでいることを聞いたりましたか。【〇は1つだけ】

<全体・性別>

○自分や身の回りで、性について違和感を持ったり悩んだりした、または、身近に悩んでいたたり悩みを聞いたたりした経験をしている方は、回答者全体の8.5%でした。

問17 性について違和感を持ったり悩んだりした経験、身近に悩んでいたたり悩みを聞いたたりした経験



## セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の方々が生活しやすくするための対策

問17-1 セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の方々に対する偏見や差別をなくし、セクシュアル・マイノリティの方々が生活しやすくするためにどのような対策が必要だと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

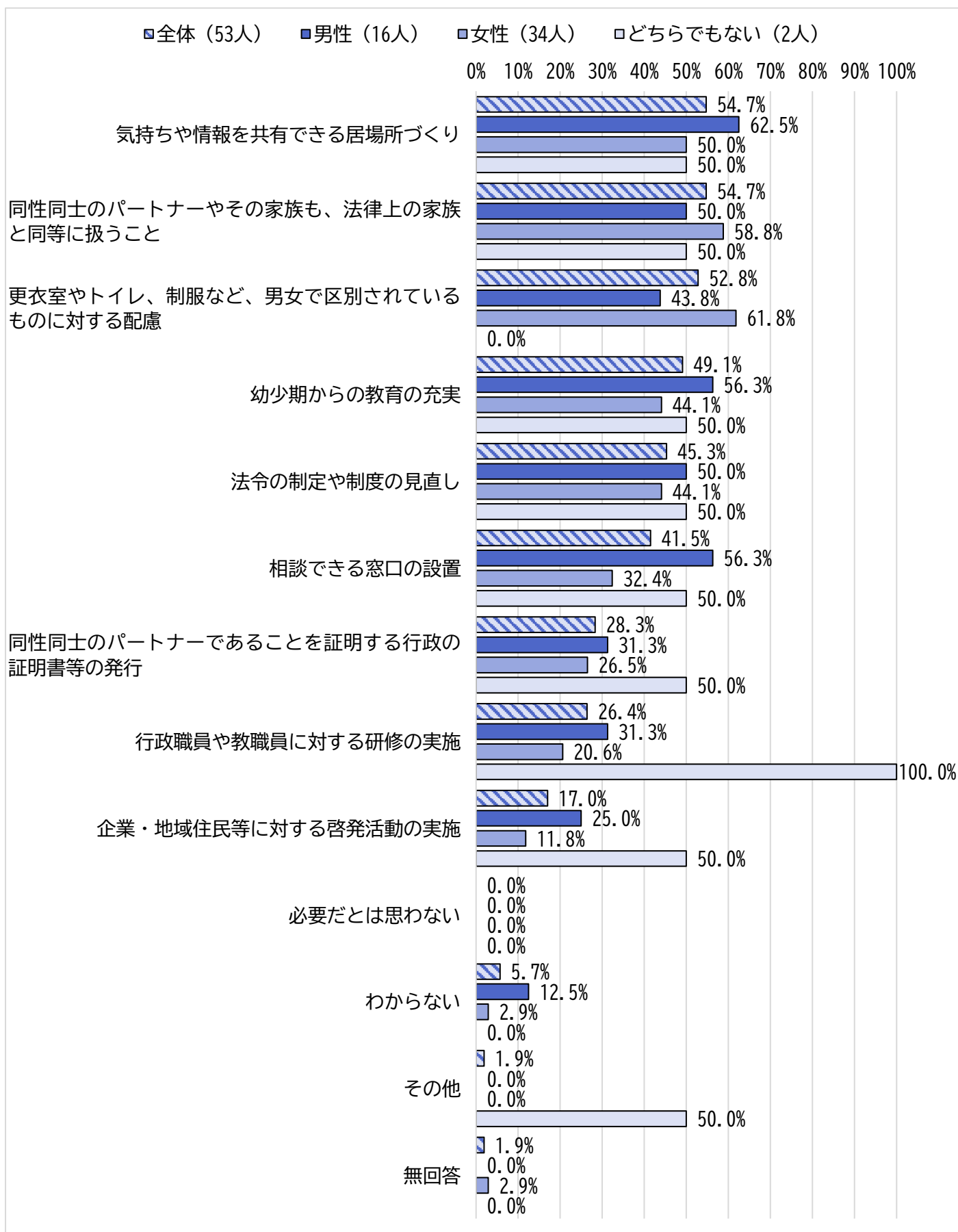
### <全体>

○一番多い回答結果で、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり（54.7%）」や「同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと（54.7%）」、次いで「更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮（52.8%）」となっており、それぞれ過半数を超える回答結果となりました。

### <性別>

○男性の回答では、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり（62.5%）」が一番多く、女性の回答では、「更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮（61.8%）」が一番多く、どちらでもないと回答された方は、「行政職員や教職員に対する研修の実施（100%）」が一番多い結果となりました。

問17-1 必要な対策



## 男女が生涯にわたり心身共に健康であるために大切なこと

「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施(51.7%)」が一番多く、次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備(50.6%)」、「思春期、青春期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進(45.6%)」の順になっています。

問18 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。【〇はあてはまるものすべて】

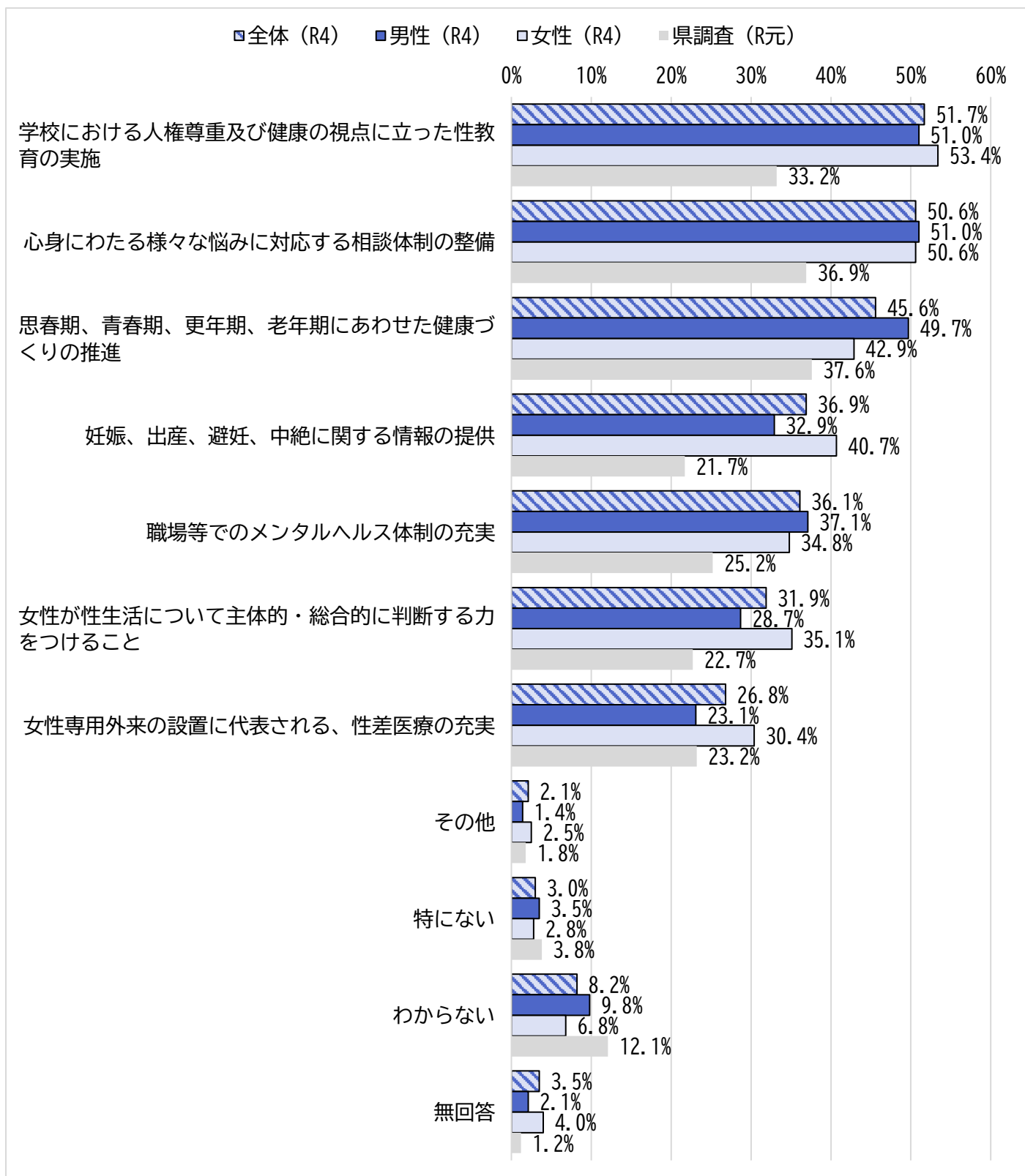
### <全体>

○「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施(51.7%)」が一番多く、次いで「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備(50.6%)」、「思春期、青春期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進(45.6%)」の順になっています。

### <県調査との比較>

○県の調査においては、市の回答の高い順とは異なり、「思春期、青春期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進(37.6%)」「心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備(36.9%)」、「学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施(33.2%)」の順になっています。

問18 男女が生涯にわたり、心身共に健康であるために大切なこと



## 人権侵害の被害経験や身近で見聞きした経験

男女それぞれパワハラを受けたという回答が最も多いです。DVについては、男性の0.3%、女性の4.7%が被害経験があると回答しています。

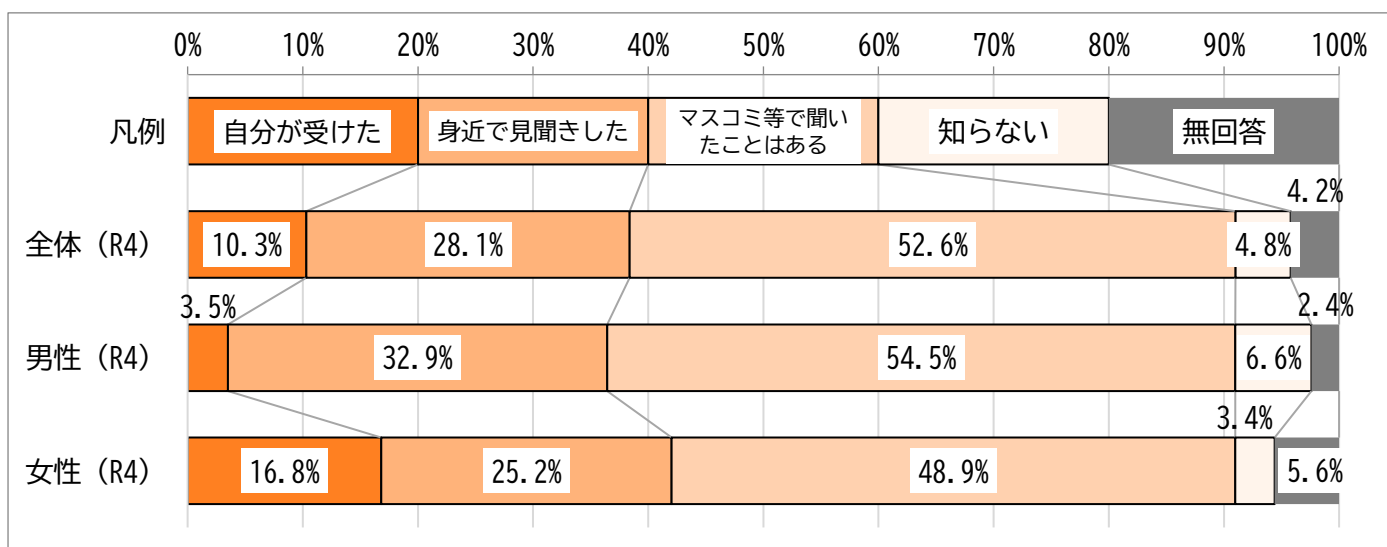
問19 あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことはありますか。【○はそれぞれ1つだけ】

### <全体・性別>

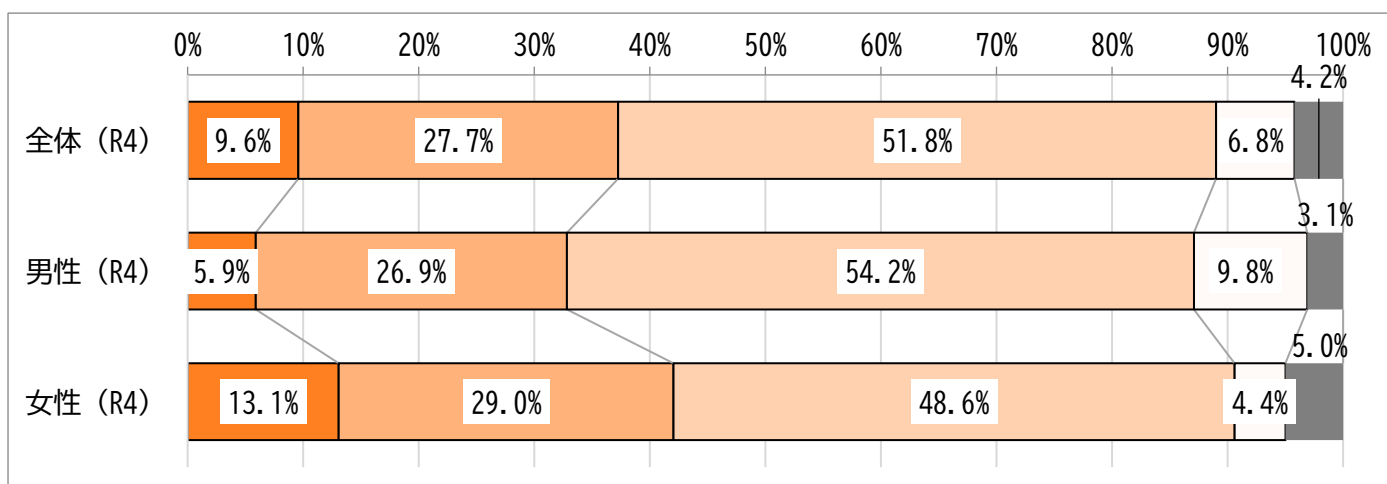
○自分が受けたり身近で見聞きしたりされたのが一番多かったものは、「パワハラ」という回答結果でした。

○パタハラを除いた項目において、男性よりも女性の方が被害経験が多くなっています。

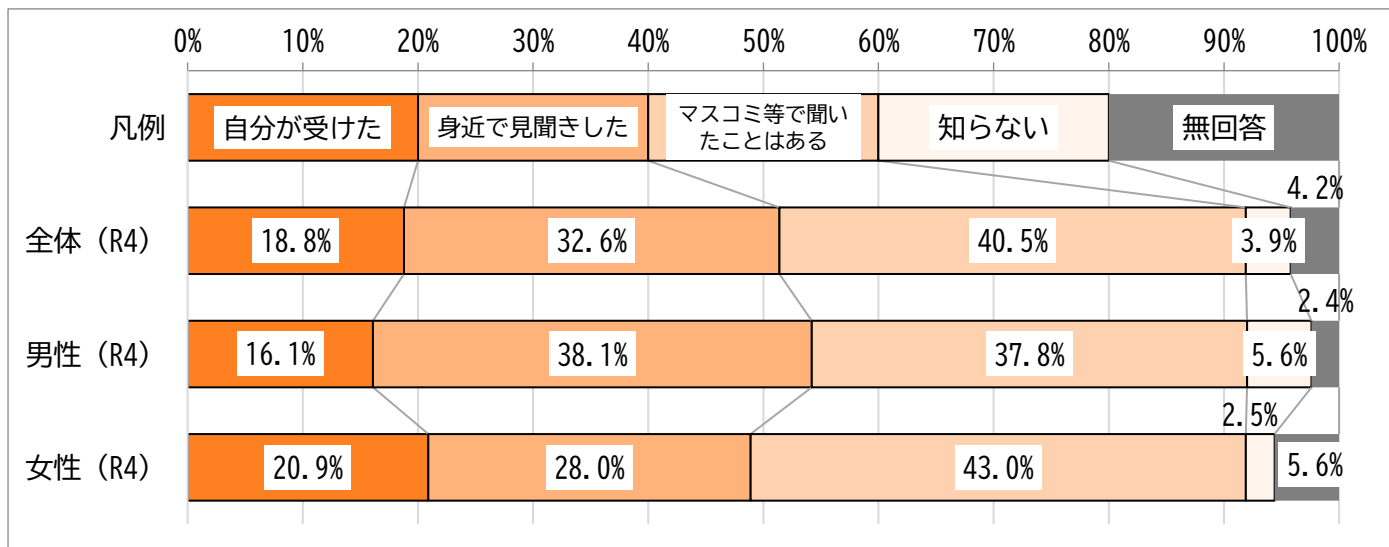
### 問19(1) セクハラ



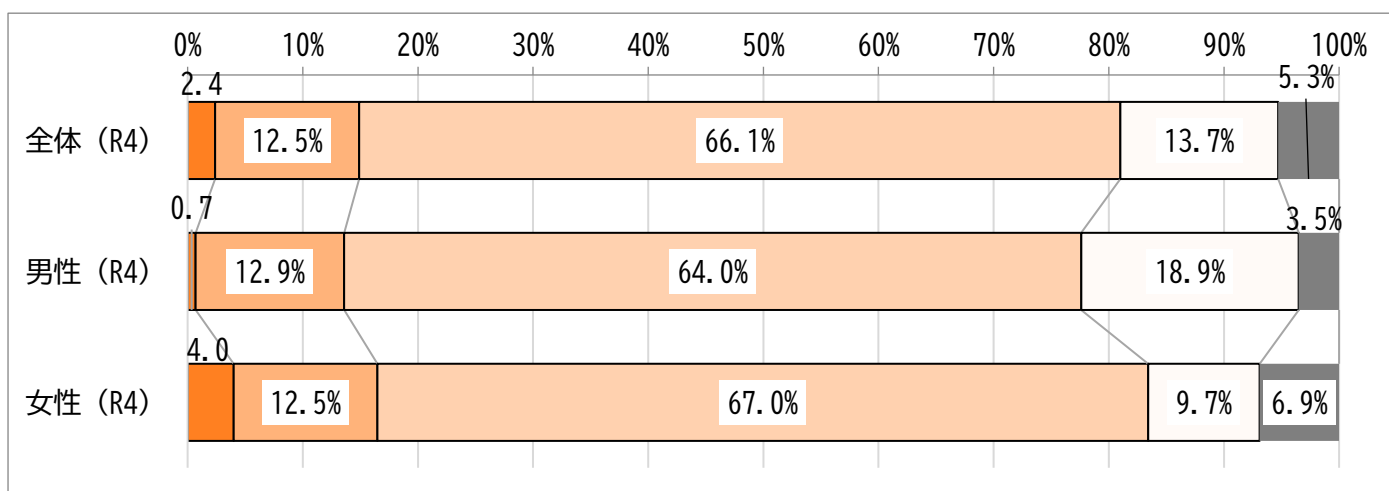
### 問19(2) モラハラ



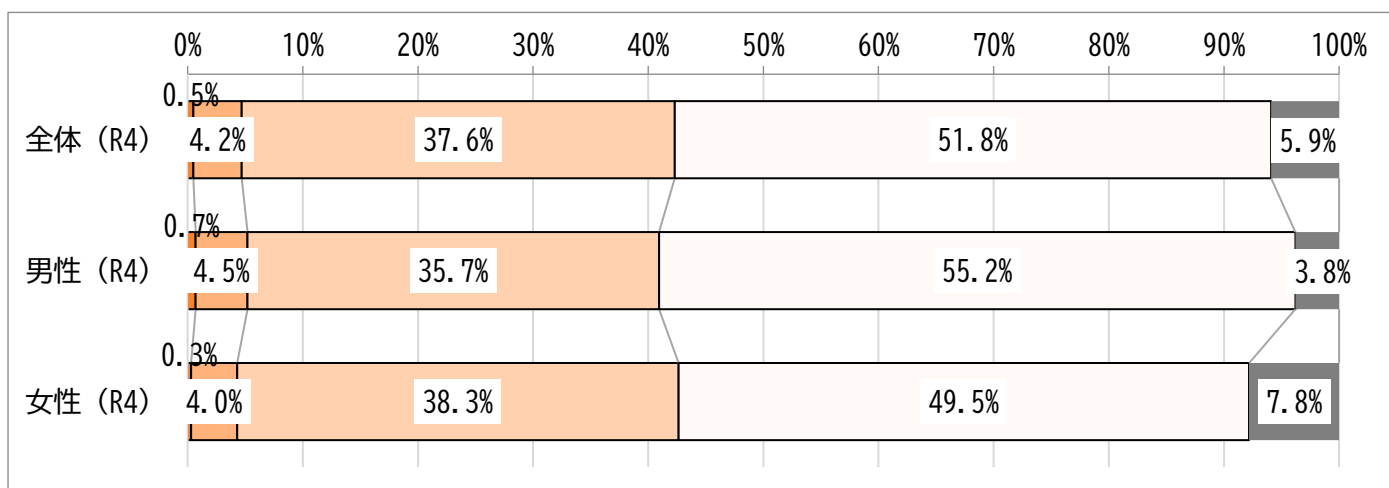
問19 (3) パワハラ



問19 (4) マタハラ

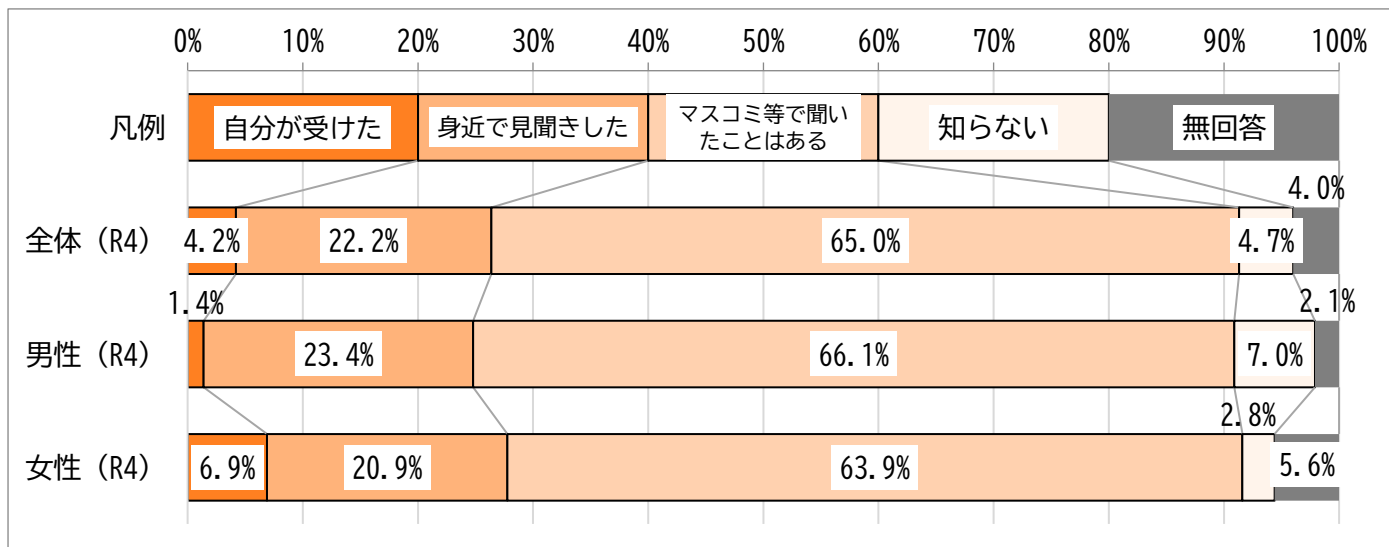


問19 (5) パタハラ

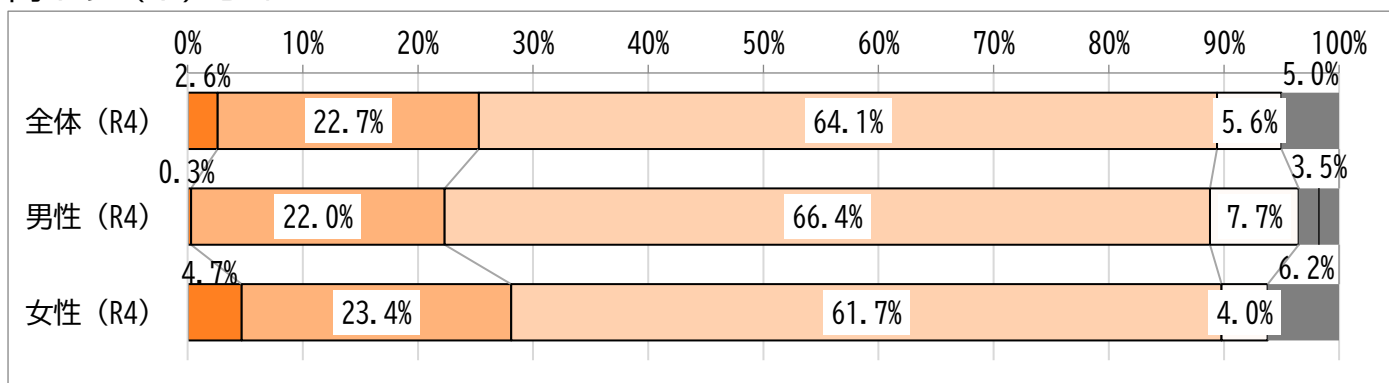




問19 (6) ストーカー



問19 (7) DV



## 人権侵害についての相談相手

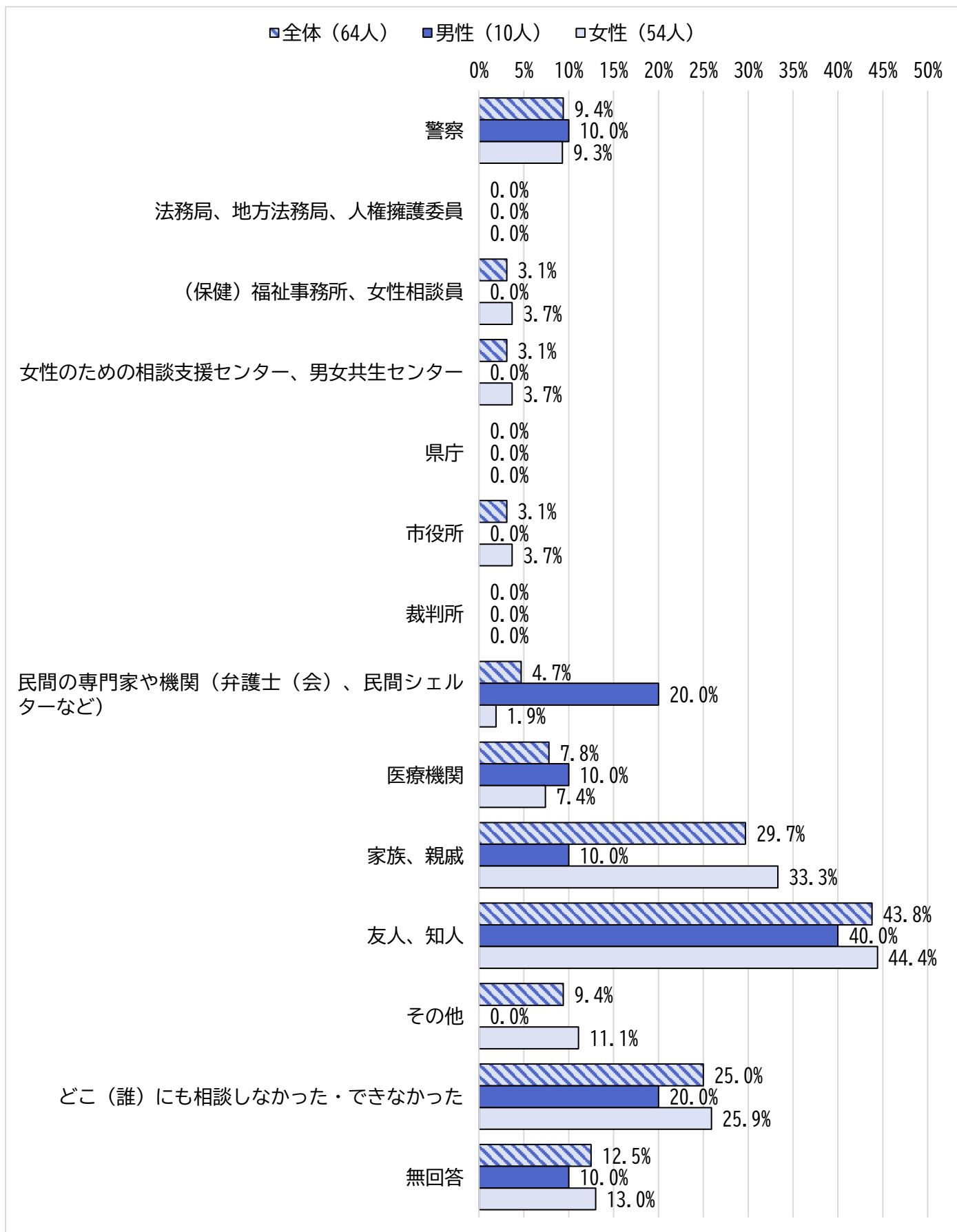
被害経験者のうち、男女ともに「家族、親戚」「友人、知人」に相談するという回答が多いものの「どこ（誰）にも相談しなかった・できなかった」という回答も約1～3割います。

問19-1 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。【○はあてはまるものすべて】

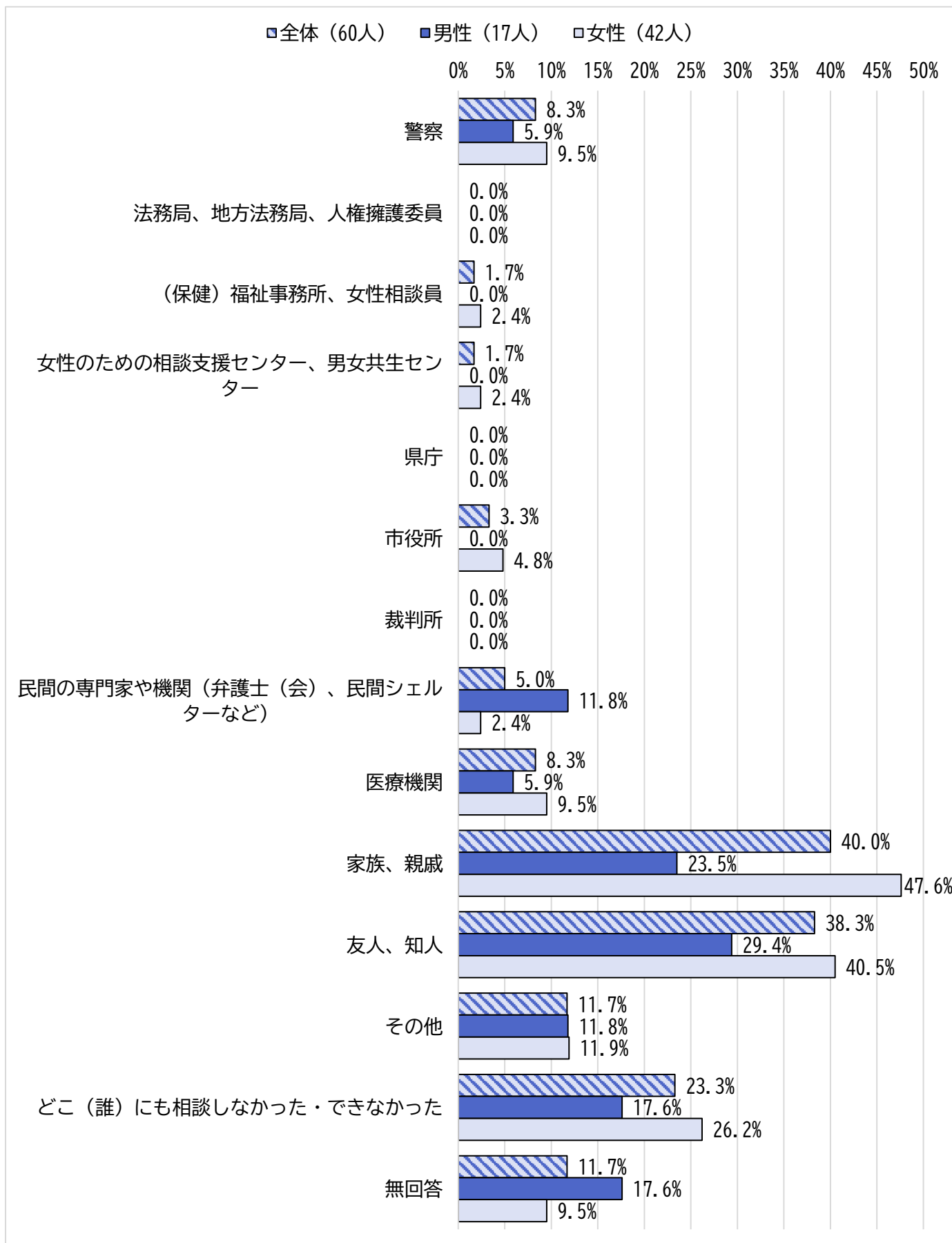
### <全体>

- 「どこ（誰）にも相談しなかった・できなかった」という回答は「パタハラ」が33.3%で最も高く、次いで「パワハラ」が28.2%、「セクハラ」が25.0%となっています。
- 多くの項目において、「友人、知人」、「家族、親戚」に相談するという回答が多く、公共機関よりも、知っている人へ相談していることの方が多いことが見受けられます。

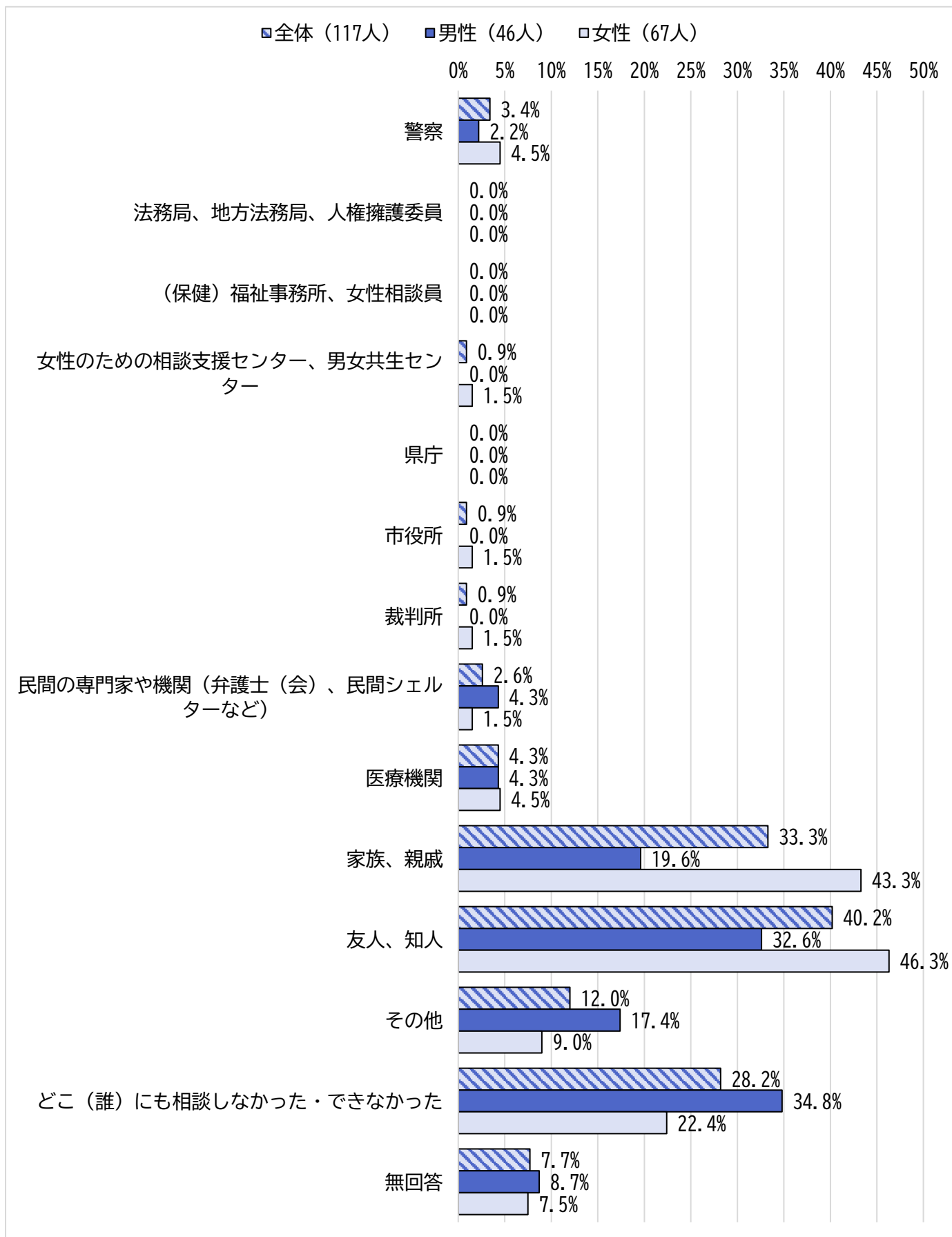
問19-1 (1) セクハラ



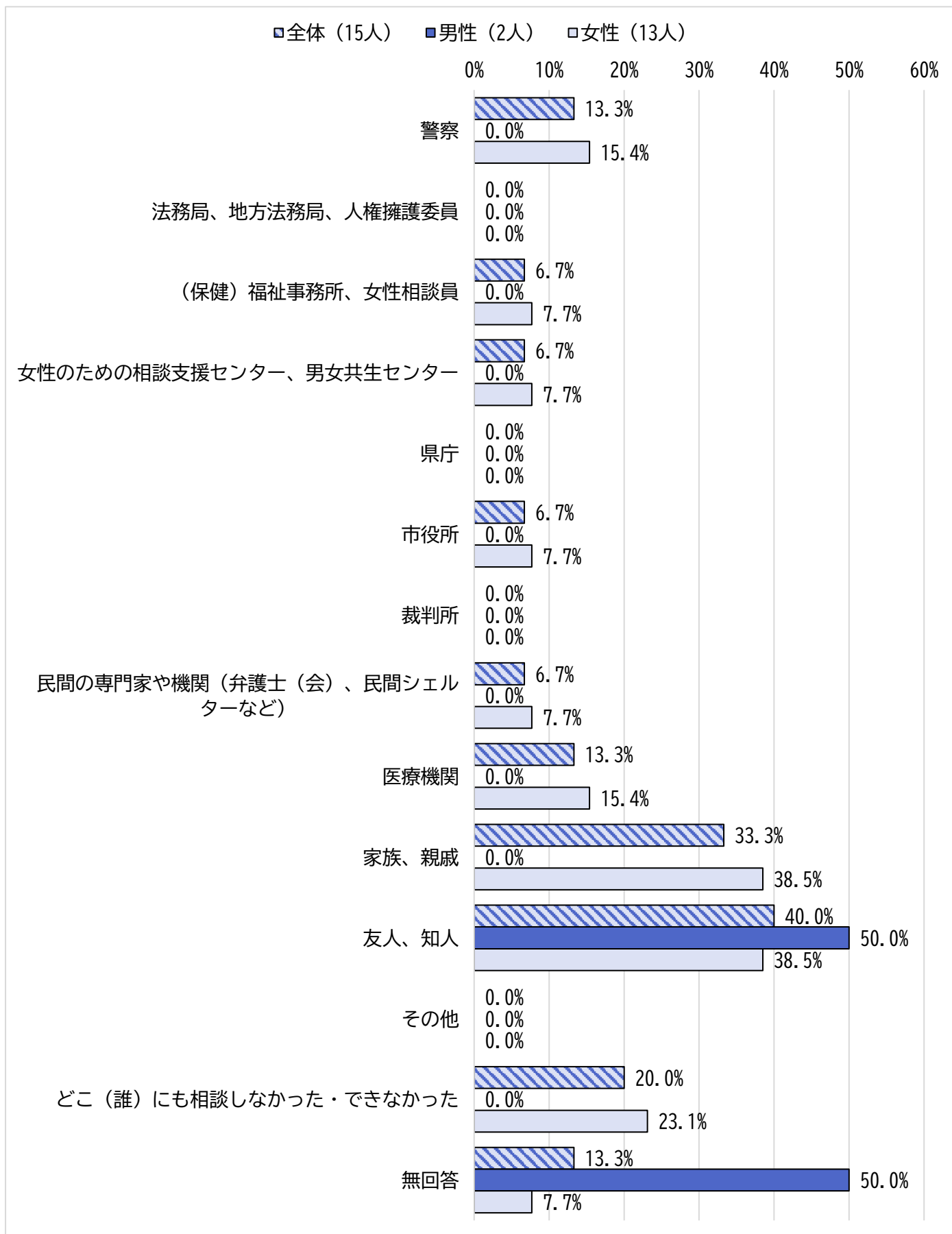
問19-1 (2) モラハラ



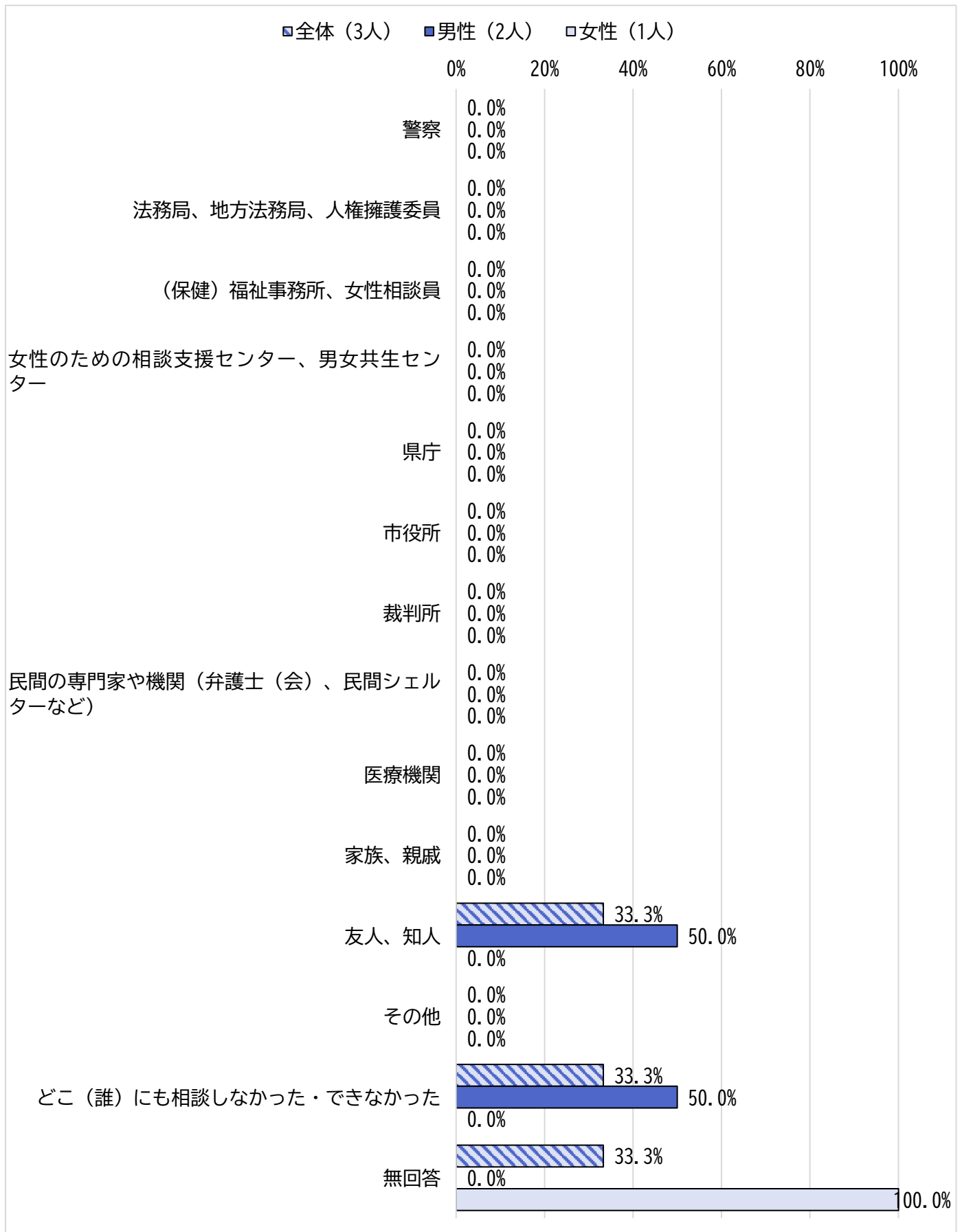
問19-1 (3) パワハラ



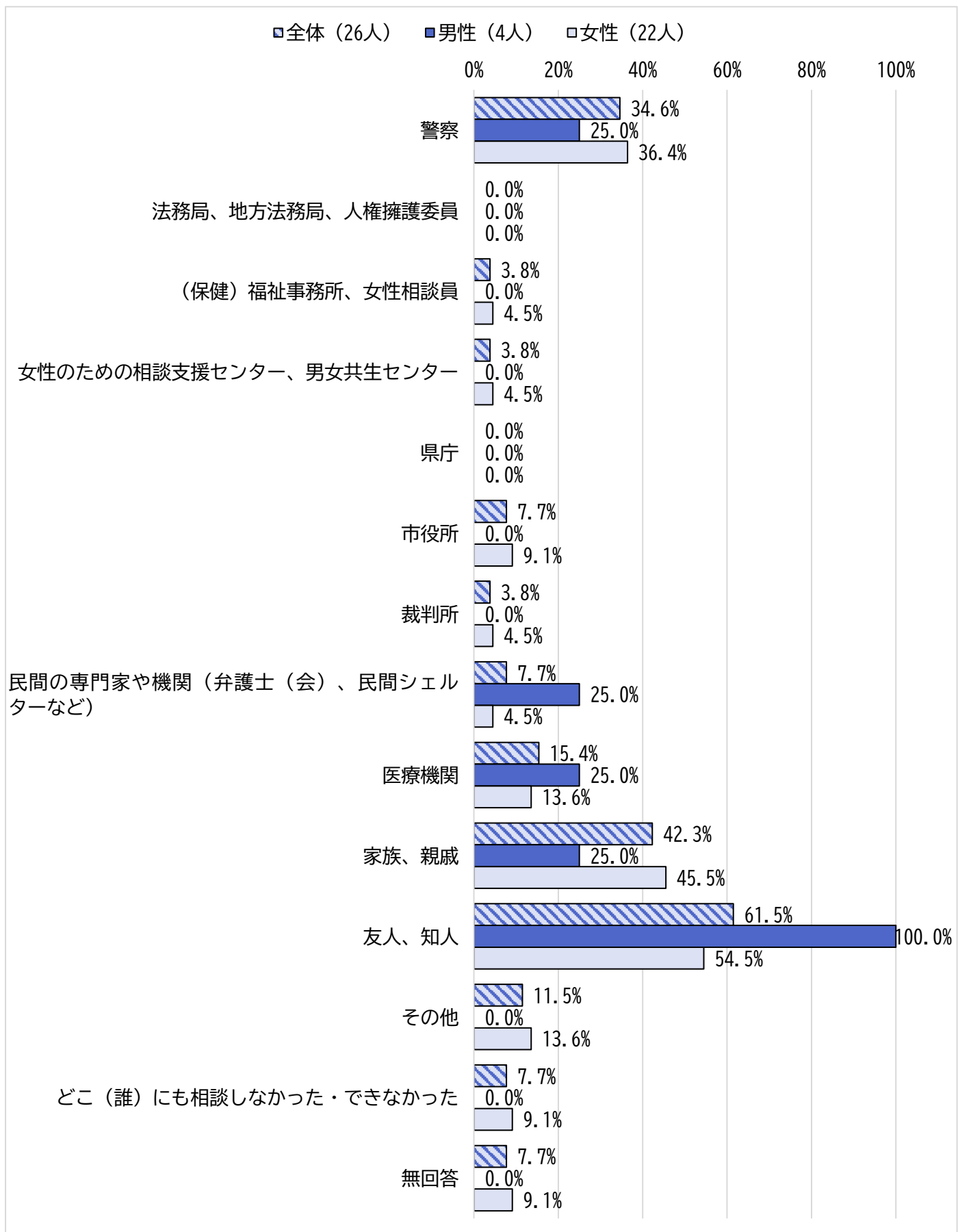
問19-1 (4) マタハラ



問19-1 (5) パタハラ

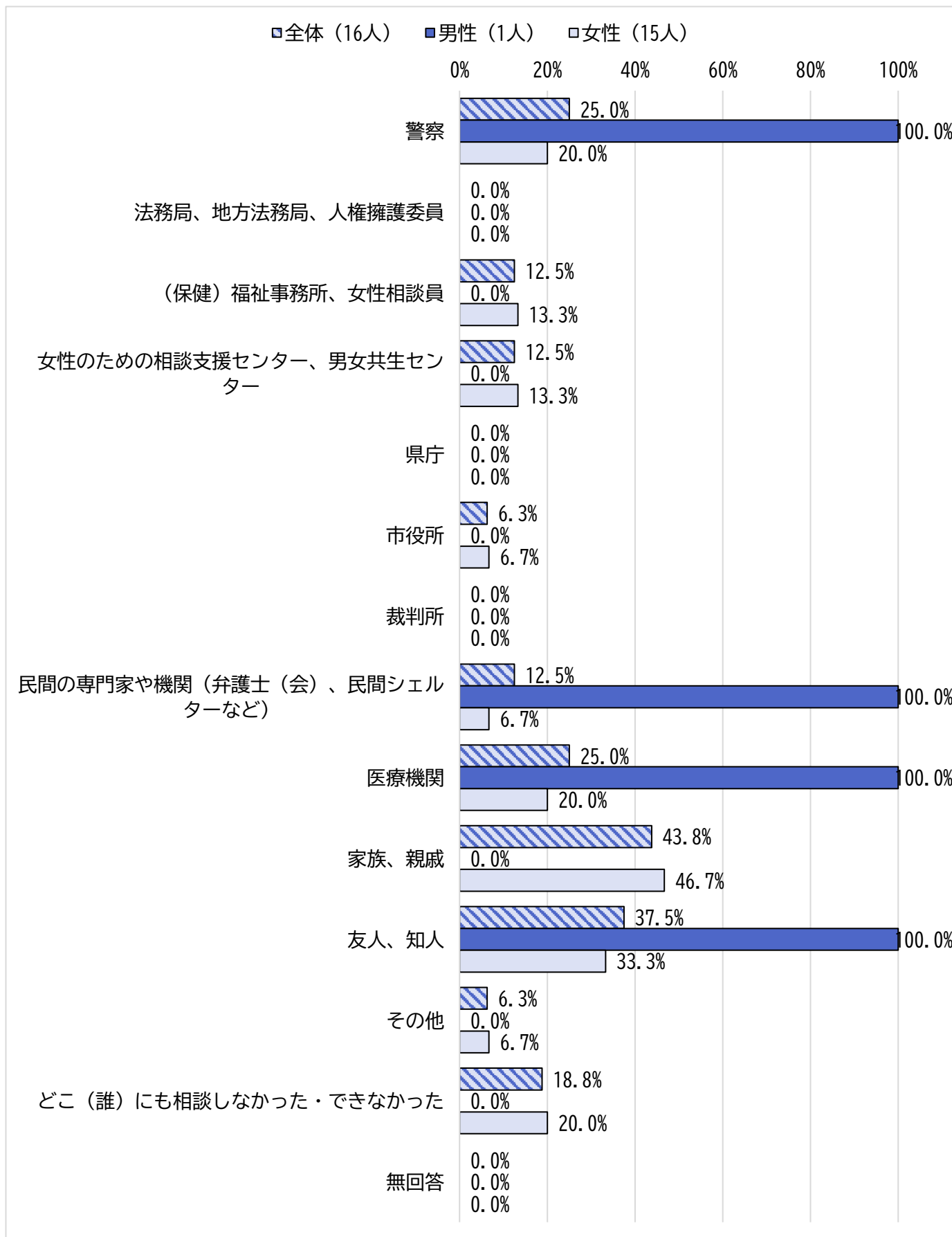


問19-1 (6) ストーカー





問19-1 (7) DV



## 人権侵害を相談しなかった理由

パタニティ・ハラスメントを除く4つのハラスメントやDVについては「相談しても無駄だと思った」という回答が多く、ストーカーでは、「相談が知られると、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けると思った」や「自分にも悪いところがあった」といった回答が多く、現状からの脱却をあきらめている状況が推察されます。

問19-2 相談しなかった・できなかった理由は何ですか。【○はあてはまるものすべて】

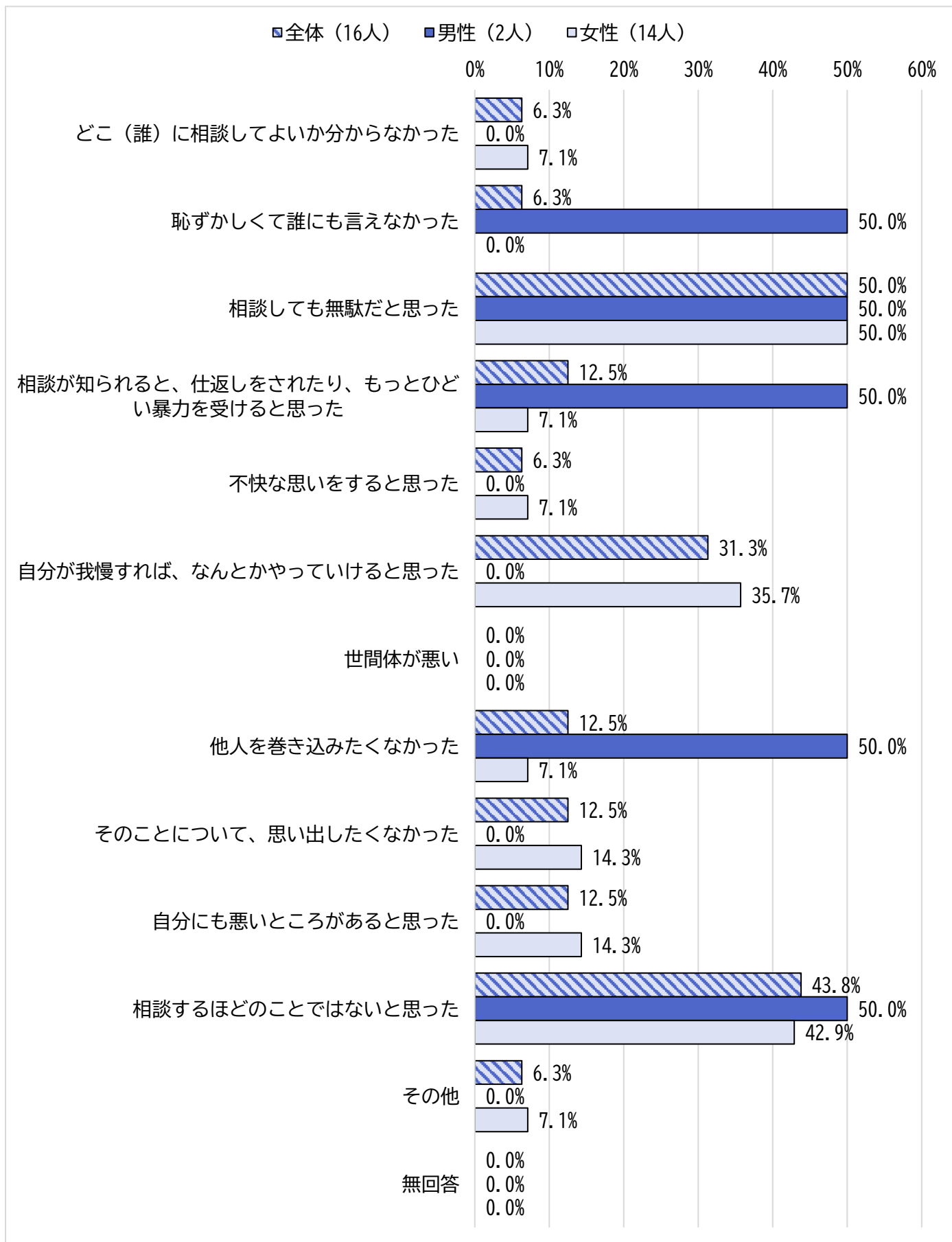
### <全体>

- 「DV」では、「恥ずかしくて誰にも言えなかった(66.7%)」「相談しても無駄だと思った(66.7%)」「自分が我慢すれば、なんとかやっていけると思った(66.7%)」が最も多い理由となっています。
- 「ストーカー」では、「相談が知られると、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けると思った(50.0%)」「自分にも悪いところがあった(50.0%)」「相談するほどのことではないと思った(50.0%)」が最も多い理由となっています。
- その他のハラスメントでは、「相談しても無駄だと思った」「相談が知られると、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けると思った」、「自分が我慢すれば、なんとかやっていけると思った」、「相談するほどのことではないと思った」などの理由が多く挙げられていました。

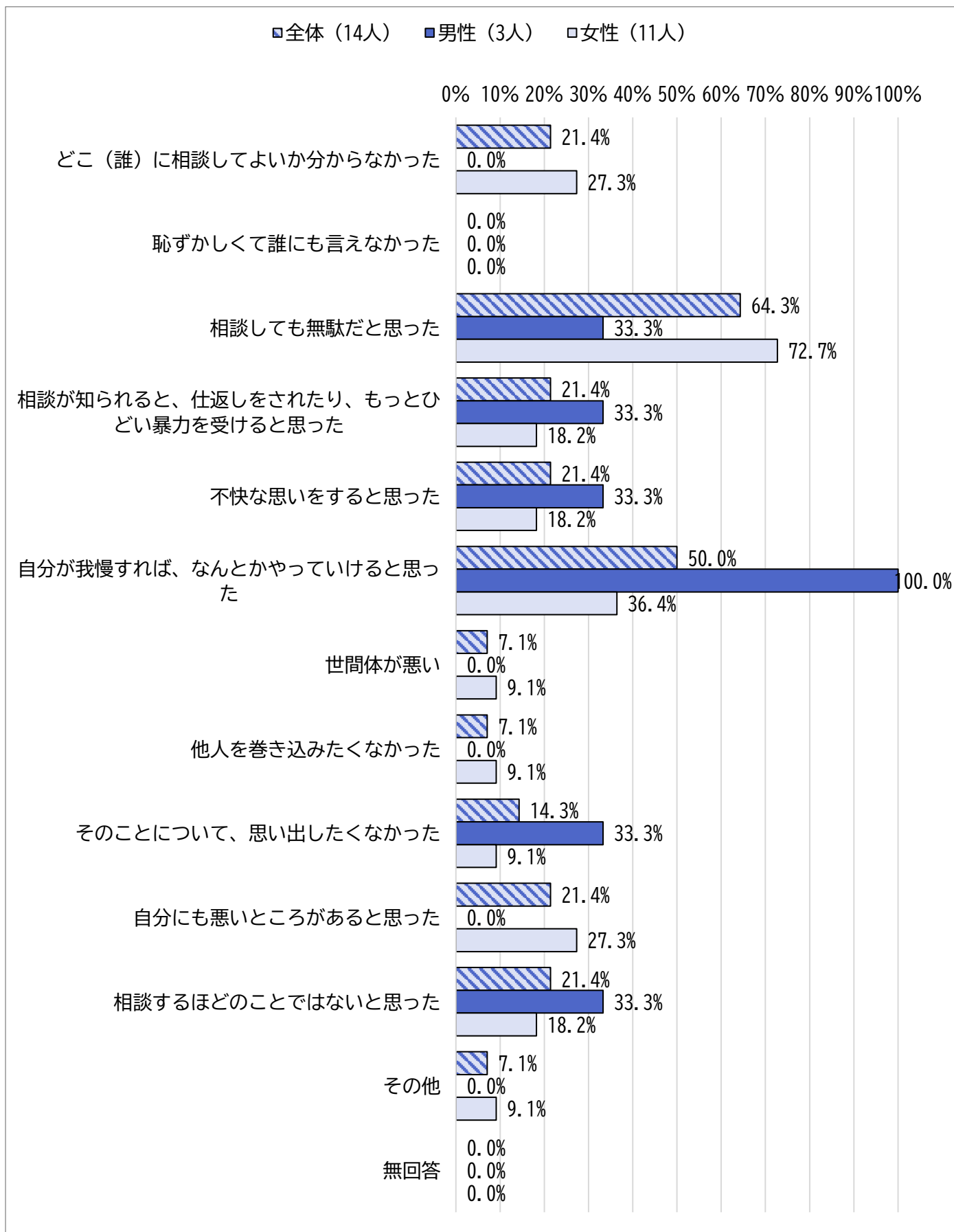
### <男女共同参画推進活動ネットワーク加入団体の皆さんからの意見・感想>

- 性についての悩みを持っていたり、差別を受けたりしている人は多いと言われている。実際に周りにもいる。性の多様性について学ぶ機会を設けたり、誰もが生きやすい社会を目指して、法整備や環境づくりを早急に進めるべきであると思います。

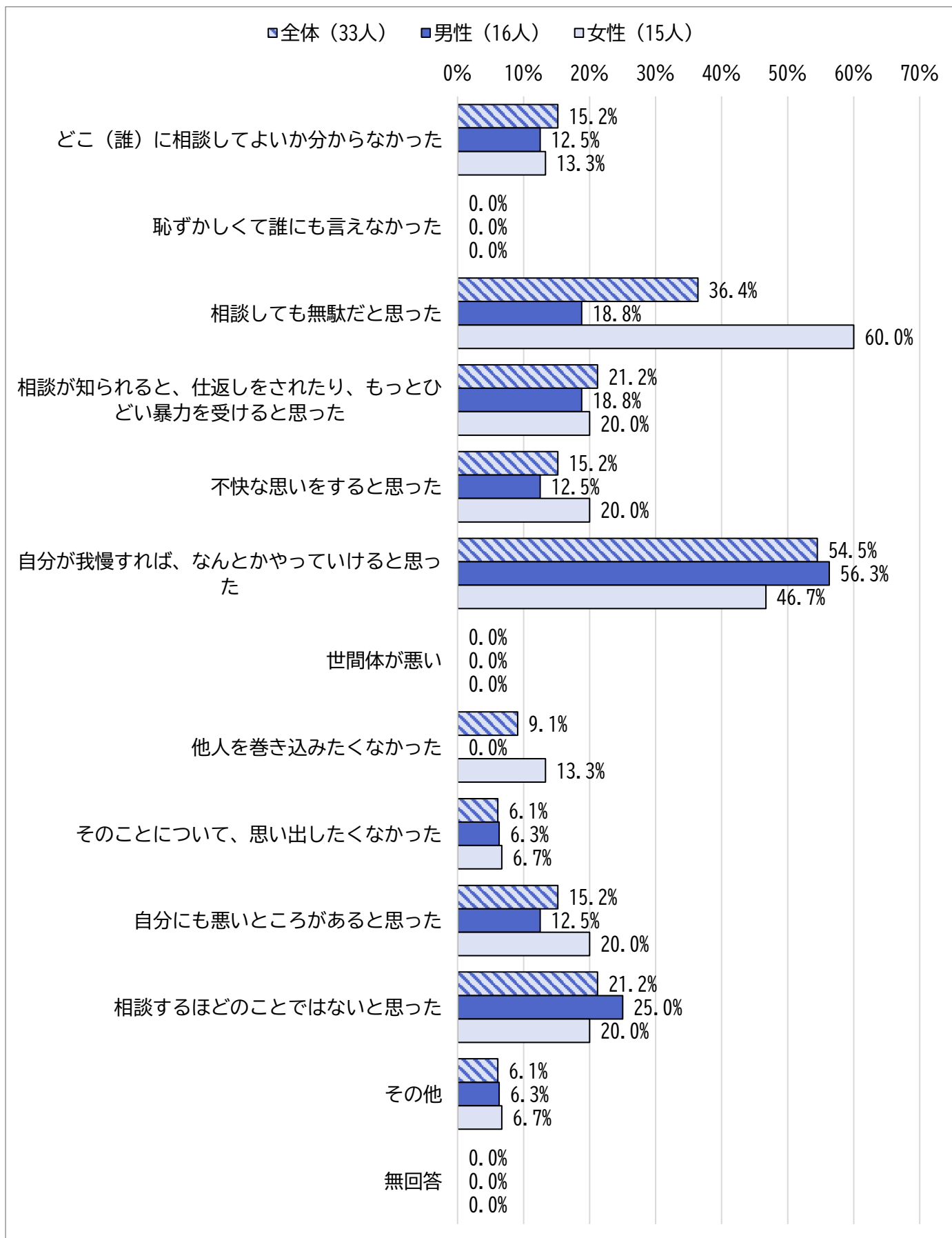
問19-2 (1) セクハラ



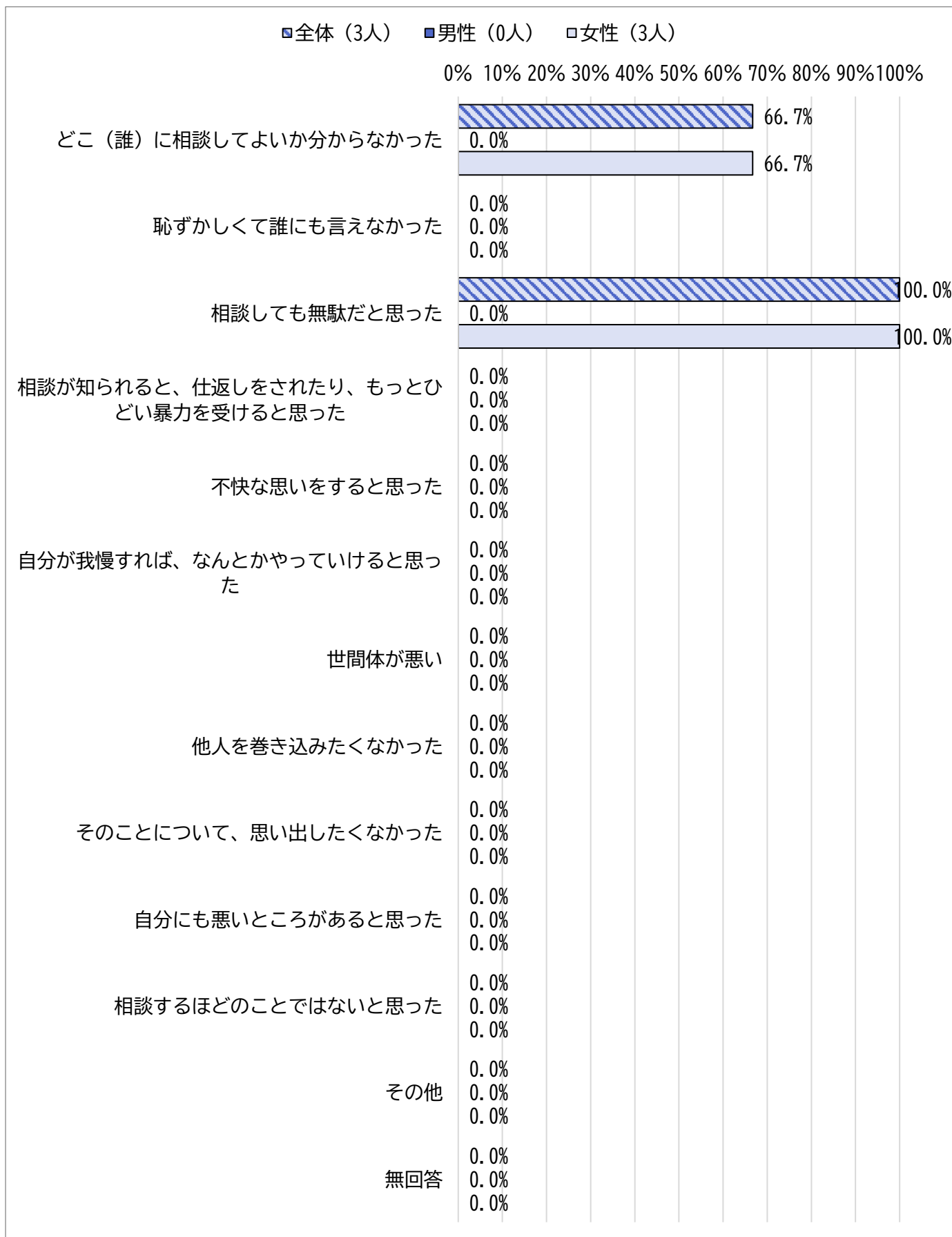
問19-2 (2) モラハラ



問19-2 (3) パワハラ



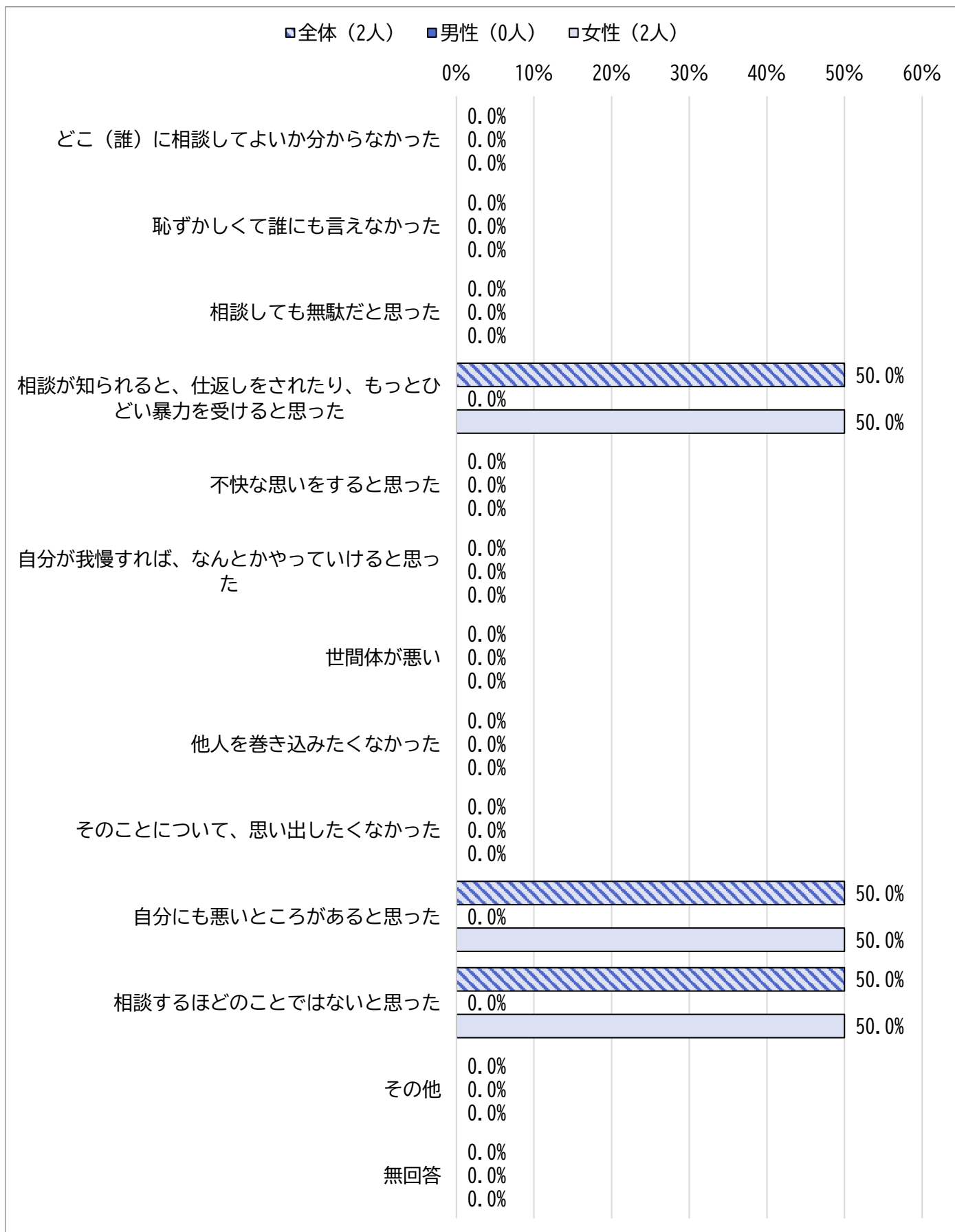
問19-2 (4) マタハラ



問19-2 (5) パタハラ

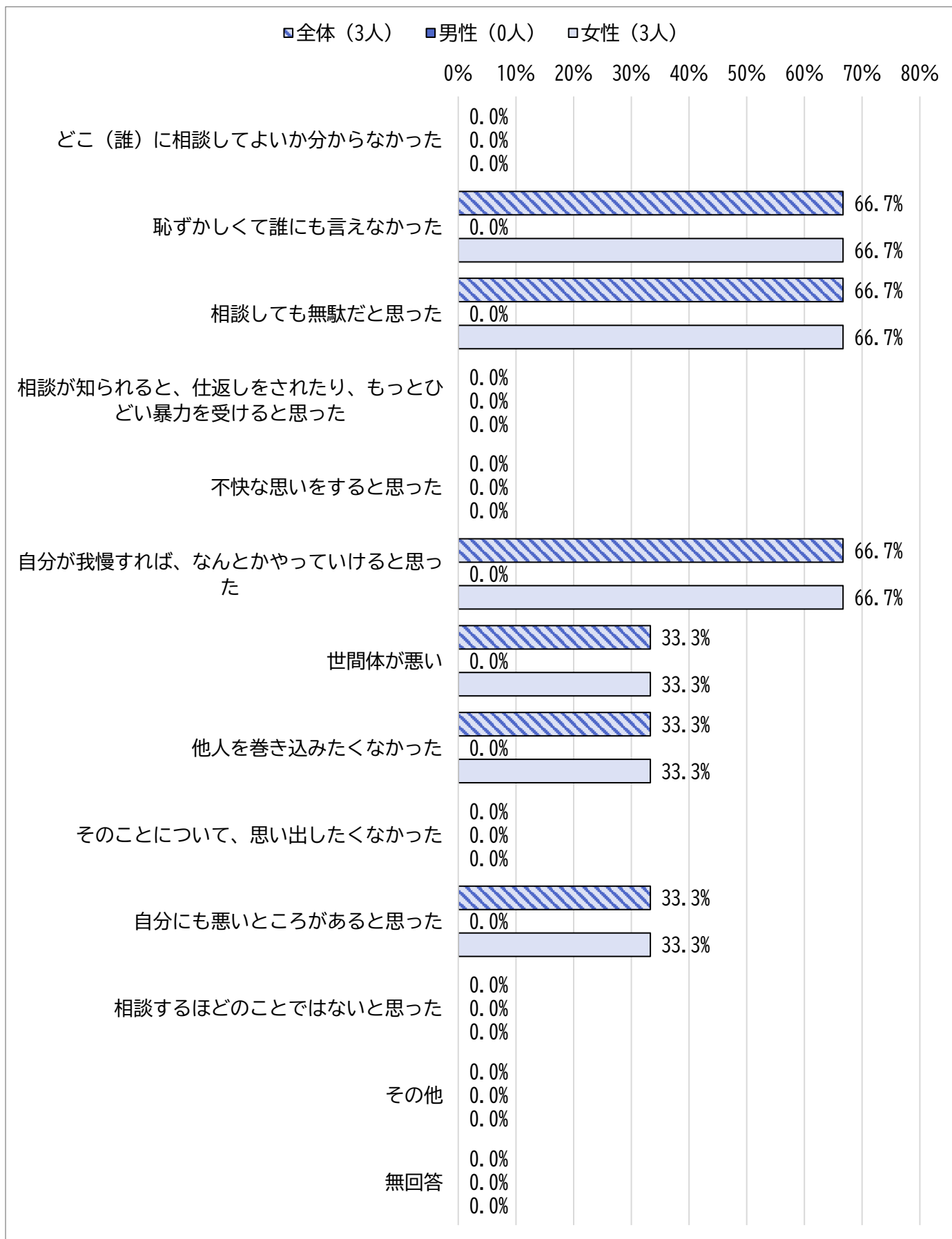


問19-2 (6) ストーカー





問19-2 (7) DV



## 会津若松市女性福祉相談室の認知度

全体の29.2%、女性においては34.1%が「知っている」と回答しています。

問20 DV（ドメスティック・バイオレンス）など、女性に関わるさまざまな相談に応じるため、市では女性福祉相談室を設けていますが、ご存知でしたか。【○は1つだけ】

### <全体・性別>

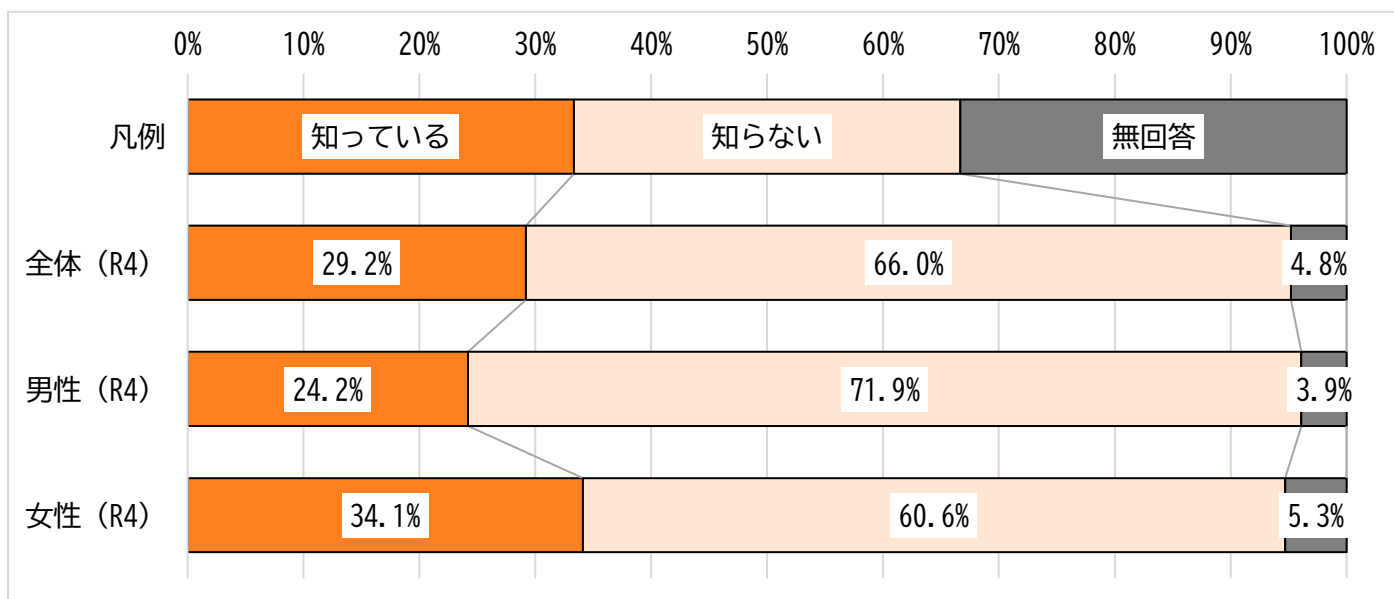
○全体の29.2%が、市の女性福祉相談室を「知っている」と回答しています。

○性別で見ると、男性においては24.2%、女性においては34.1%が「知っている」と回答しており、女性の認知度の方が高くなっています。

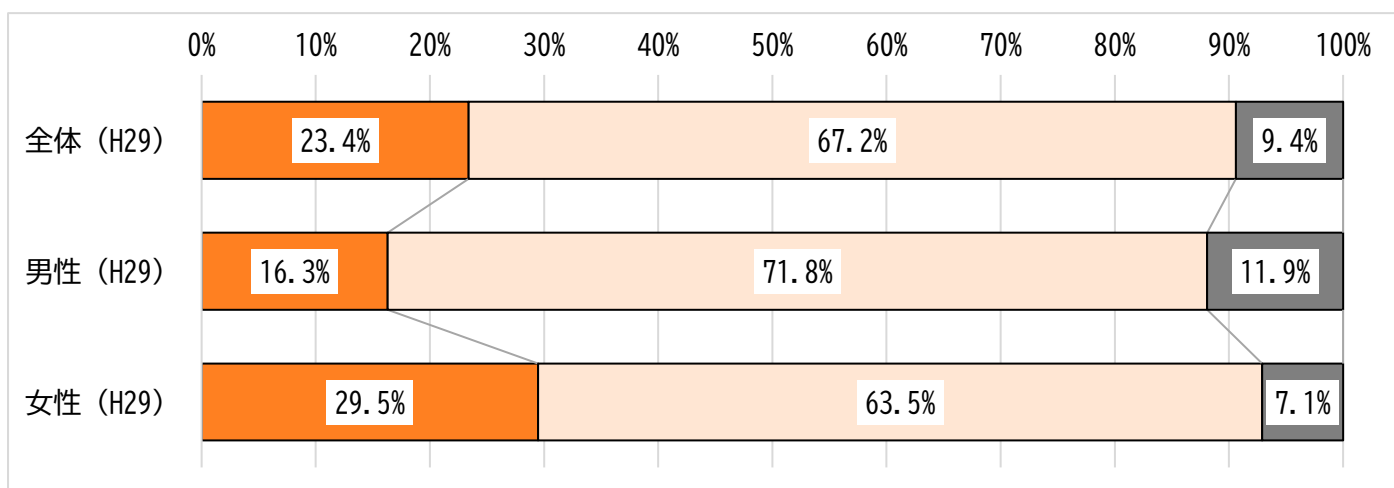
### <前回調査との比較>

○「知っている」と回答した方は、前回より5.8ポイント増えました。

### 問20 女性福祉相談室の認知度



### <前回調査との比較>



## 6. 「介護」について

### 介護が必要になった場合、どのようにするか

男女ともに、家族に介護が必要になった場合には、「外部のサービスを使用しながら、主に自宅で介護したい（している）」を希望する方が多くなっています。一方、自分に介護が必要になった場合には、「施設入所」を希望する方が多くなっています。

問21 あなたの家族が介護を要する状態になった（すでに介護を要する人がいる）場合、また、あなた自身が介護が必要になった場合、どのようにしたいと考えていますか。【○はそれぞれ1つだけ】

#### 【家族が介護を要する場合】

##### <全体>

- 家族に介護が必要になった場合、「外部のサービスを使用しながら、主に自宅で介護したい（している）（42.2%）」の回答が最も多く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（させている）（40.3%）」の回答となっています。
- 「行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい（している）」と考えている人の割合は1.8%と非常に低い結果となっています。

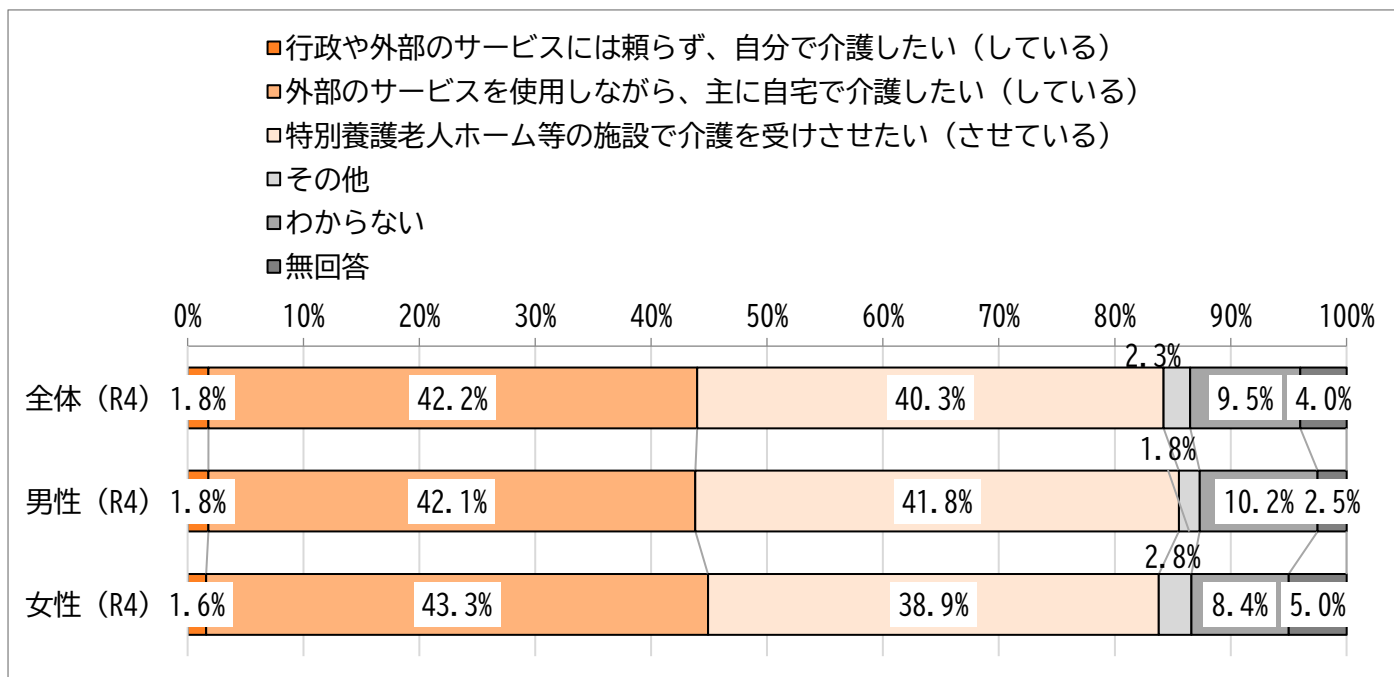
##### <性別>

- 男女ともに外部のサービスを使用しながら、主に自宅で介護したい」割合が一番高く、次いで「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい」との回答が多くなっています。

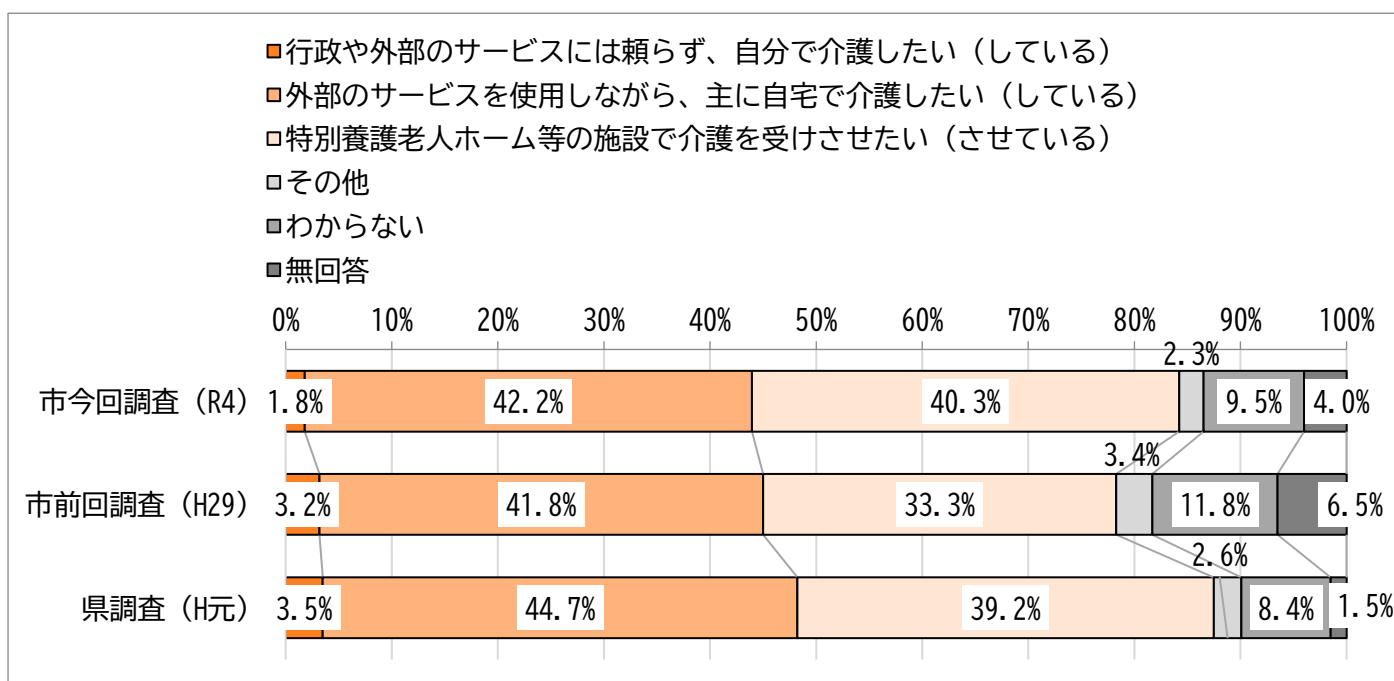
##### <前回調査・県調査との比較>

- 前回調査と比較すると、「外部のサービスを使用しながら、主に自宅で介護したい（している）」と回答された方は0.4ポイント増える一方、「特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい（させている）」と回答された方は、7.0ポイント増えています。
- 県調査と比較すると、ほとんど同様の数値でありつつも、市では自分で介護したいと回答する方はわずかに低く、介護を受けさせたいと回答する方はわずかに高い結果となっています。

問2 1 【家族が介護を要する場合】 <性別>



問2 1 【家族が介護を要する場合】 <前回調査・県調査>



※市前回調査・県調査においては、「外部のサービスを使用しながら、主に自宅で介護したい (している)」を「ホームヘルパー等の在宅福祉サービスを利用しながら主に自宅で介護したい (している)」の項目で回答。

### **【自分が介護を要する場合】**

#### **<全体>**

- 自分に介護が必要になった場合、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい（48.7%）」の回答が最も多く、次いで「外部のサービスを使用しながら、主に自宅で介護してもらいたい（30.6%）」の回答となっています。
- 「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」と答えた人の割合は、「自宅で介護してもらいたい（32.7%）」と答えた人の割合よりも16.0ポイント高くなっています。

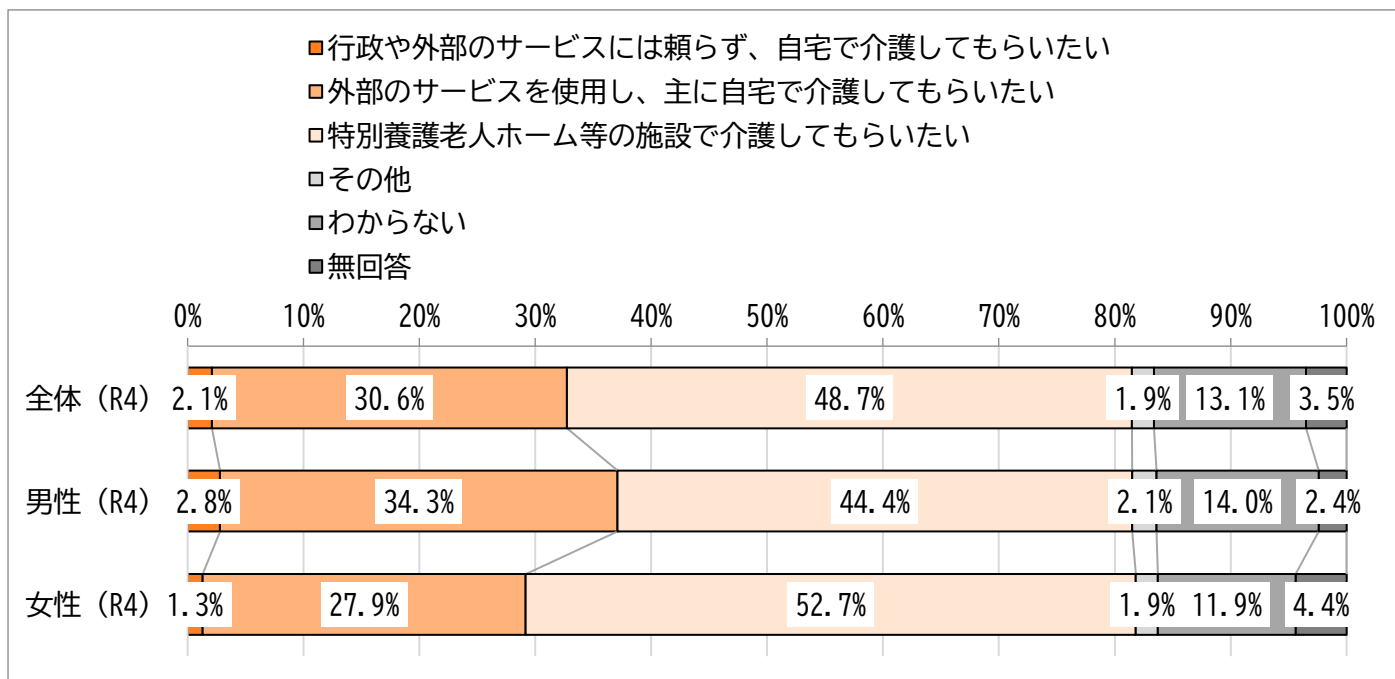
#### **<性別>**

- 「自宅で介護してもらいたい」と答えた人の割合は女性よりも男性の方が7.9ポイント高く、「特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい」と答えた人の割合は、男性よりも女性のほうが8.3ポイント高くなっています。

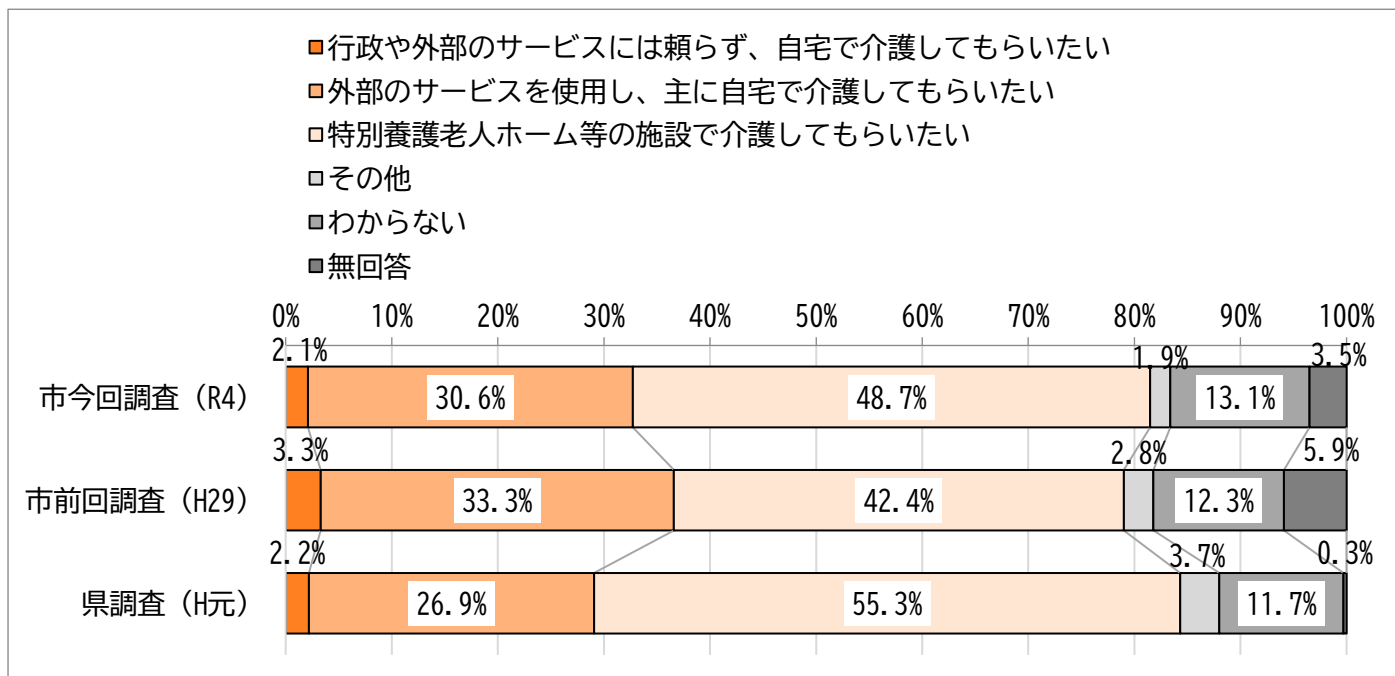
#### **<前回調査・県調査との比較>**

- 前回調査と比較すると、自宅で介護してもらいたいとする回答が3.9ポイント減少し、施設で介護してもらいたいとする回答が6.3ポイント増加しました。
- 県調査と比較すると、自宅で介護してもらいたいと回答する方が若干多く、特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたいと回答する方が少ない結果となっています。

問2 1 【自分が介護を要する場合】 <性別>



問2 1 【自分が介護を要する場合】 <前回調査・県調査>



## 自宅で介護する場合、主に誰が介護をすることになるか

「介護は女性が担う」という意識が男女ともに多いことが見受けられます。また、性別により意識の違いがあるとともに、家族みんなで分担するという声もありました。

問22 家族を自宅で介護する場合、主に誰が介護をすることになると思いますか。また、あなた自身が自宅で介護される場合、誰に介護してもらいたいですか。【〇はあてはまるものすべて】

### 【家族を介護する場合】

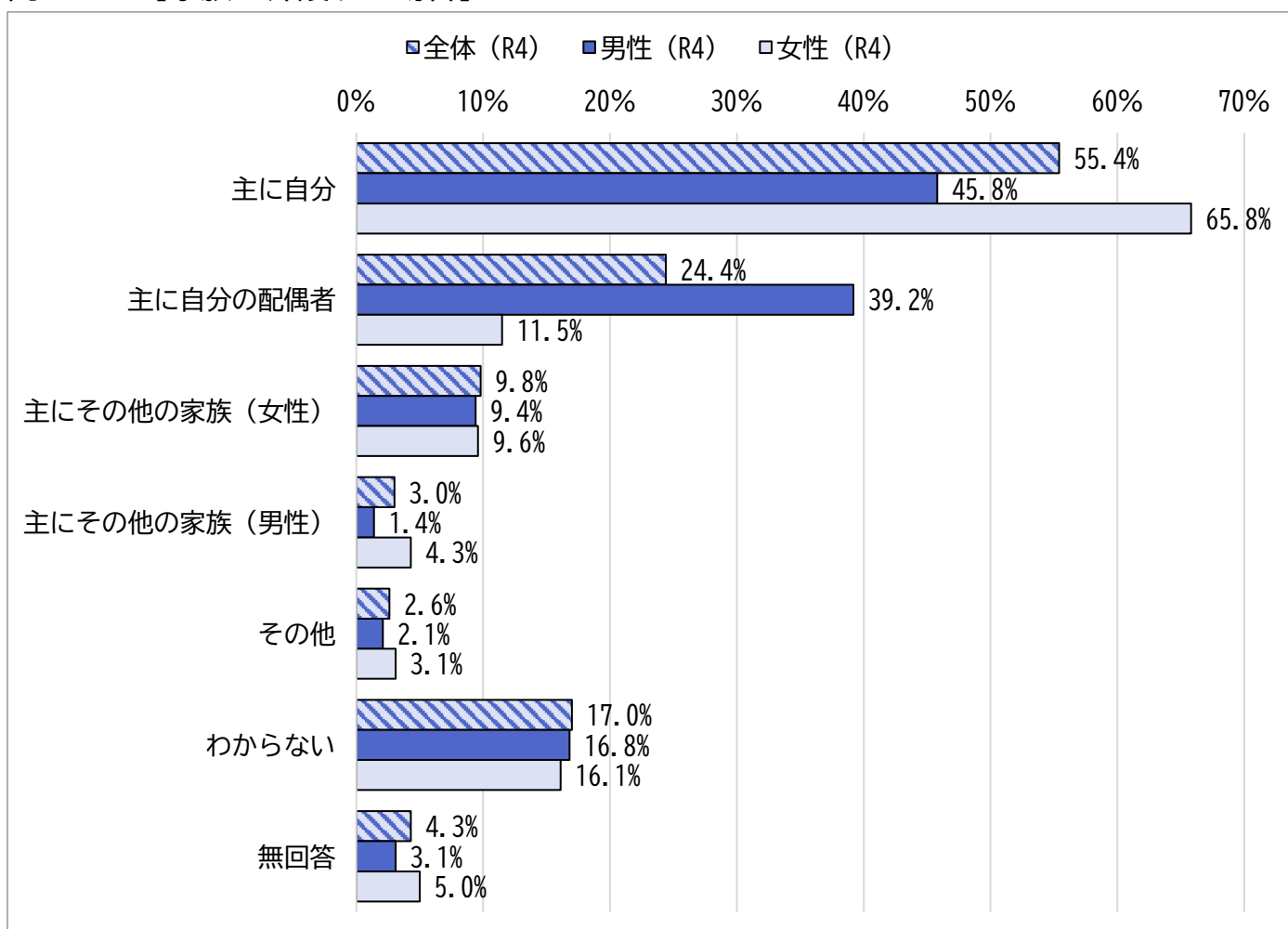
#### <性別>

○家族を自宅で介護する場合、「主に自分」が担うと答えた女性の割合（65.8%）が圧倒的に多く、そう答えた男性の割合（45.8%）よりも20ポイントも高くなっています。

○主に自分の配偶者と回答した割合は、女性よりも男性の方が、27.7ポイントも高くなっています。

○男性においても、女性においても、介護は女性がやるものと思われる方が多いことが見受けられます。

### 問22 【家族を介護する場合】



【自分が介護される場合】

<全体>

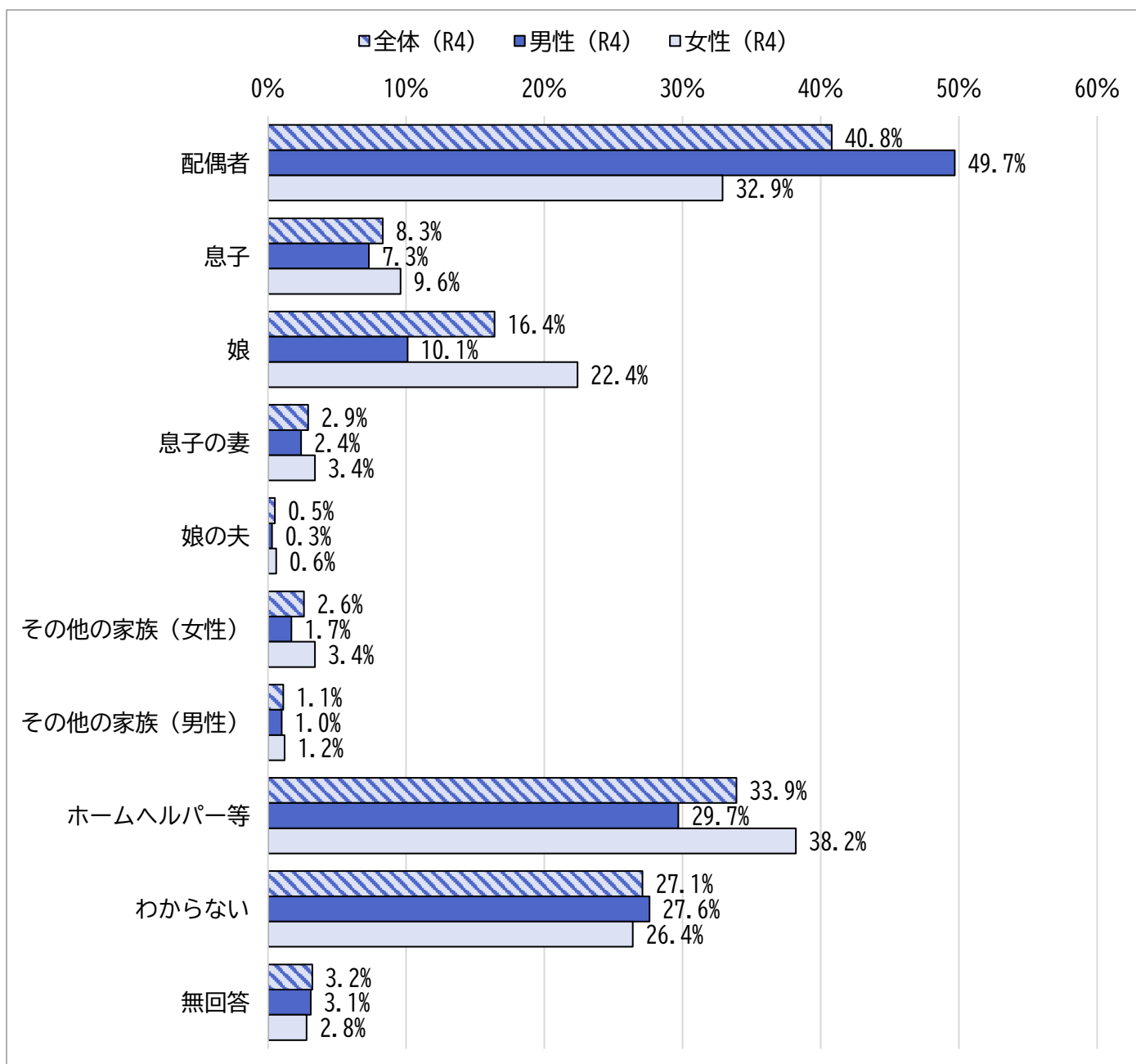
○自分が自宅で介護される場合、「配偶者」に介護されたいと望む方（40.8%）が最も多く、次いで「ホームヘルパー等」の在宅福祉サービスによる介護（33.9%）となっています。

<性別>

○男性は「配偶者」による介護を希望される方（49.7%）が約半数となっています。

○一方、女性は「配偶者」による介護を希望される方（32.9%）が多いものの、「ホームヘルパー等」の在宅福祉サービスによる介護を希望される方（38.2%）がより多く、性別による差が見受けられる結果となっています。

問22 【自分が介護される場合】





## 7. 「防災」について

### 防災分野における男女共同参画推進のために必要なもの

「男女別ニーズに応じた物資備蓄や速やかに調達・輸送できる体制整備」が必要という声が男女ともに最も多くなっています。また、「災害時における女性の相談体制の確立」が必要だと考えている女性は男性よりも多く、性別による意識の違いも見受けられます。

問23 大規模災害時の備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

#### <全体>

- 「男女別ニーズに配慮した物資の備蓄や、関係団体・事業者等との協定締結等、災害発生時にニーズに応じた物資を速やかに調達・輸送できる体制を整備する（56.5%）」と回答した方が最も多く、次いで「男女共同参画の視点からの災害対応について、性別、年齢等にかかわらず多様な市民が考え学習する機会を設ける（40.3%）」、「平時からの防災に対する男女共同参画の意識づくり（39.2%）」などとなっています。

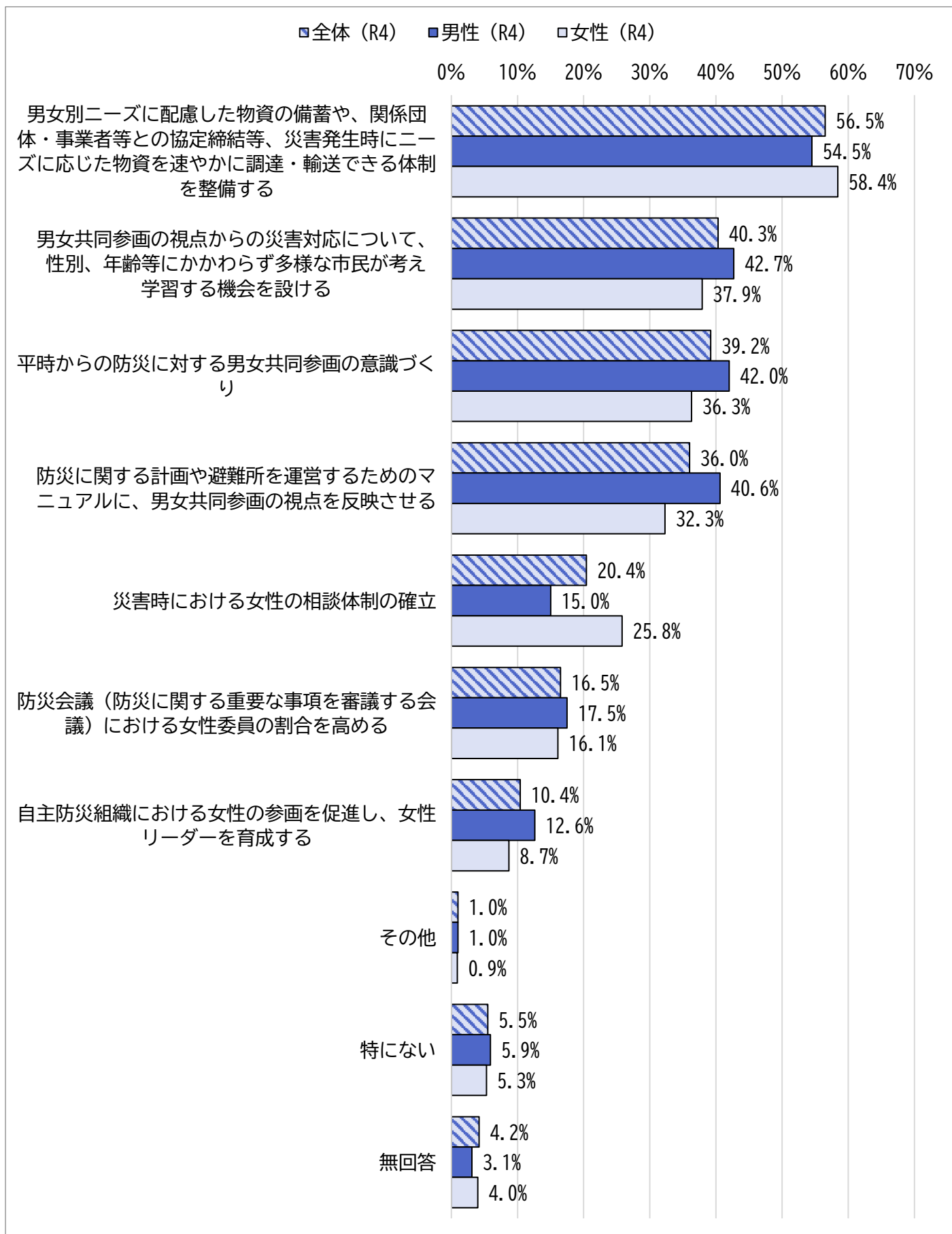
#### <性別>

- 男性においては、「防災に関する計画や避難所を運営するためのマニュアルに、男女共同参画の視点を反映させる」ことが必要だと考えている人の割合が女性よりも8.3ポイント高く、また、「平時からの防災に対する男女共同参画の意識づくり」が必要だと考えている人の割合も、女性より5.7ポイント高くなっています。
- 「災害時における女性の相談体制の確立」が必要だと考えている人の割合について、男性は15.0%、女性は25.8%で女性の方が10.8ポイント高く、認識の違いが表れています。

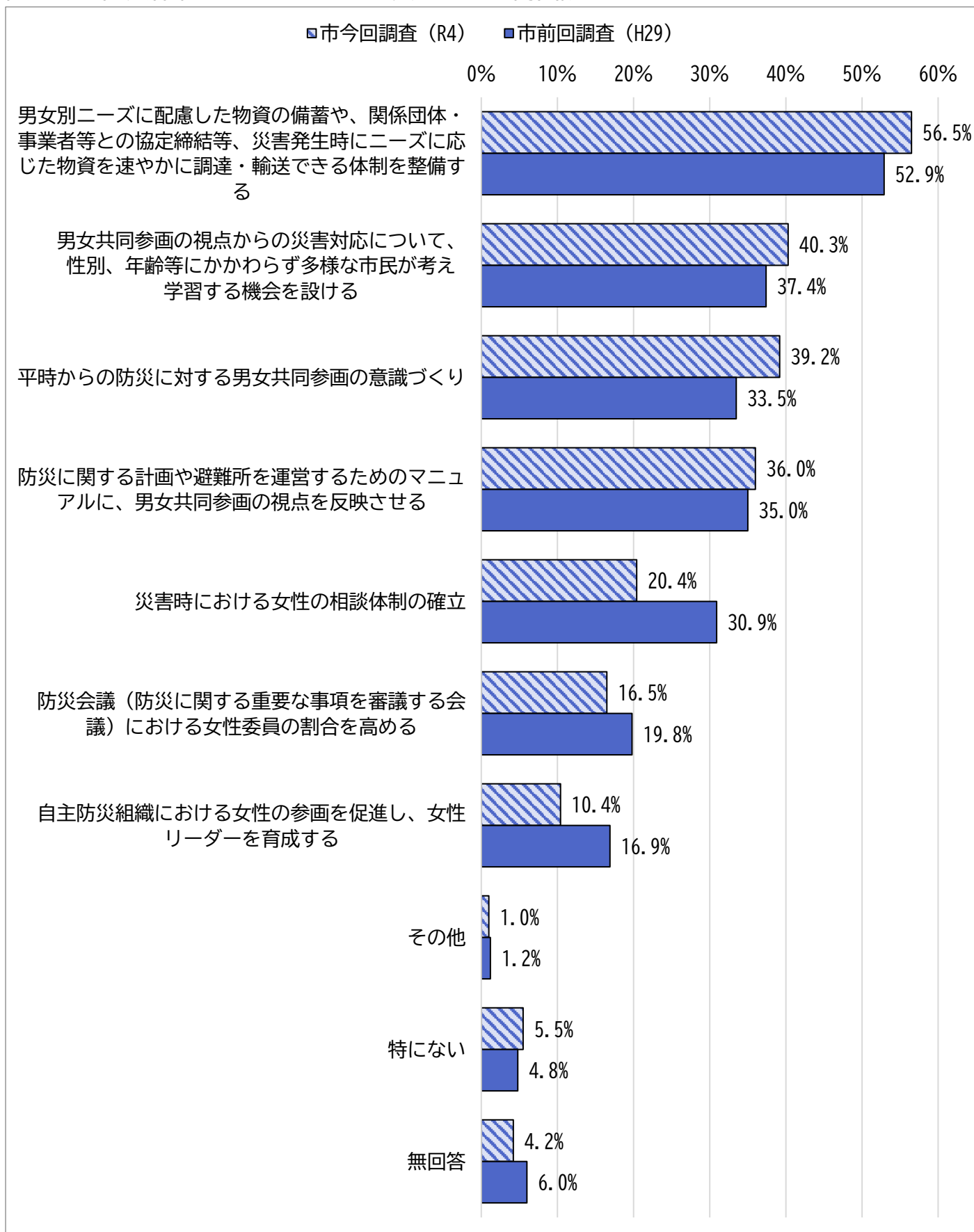
#### <前回調査との比較>

- 前回調査と比較しても、「男女別ニーズに配慮した物資の備蓄や、関係団体・事業者等との協定締結等、災害発生時にニーズに応じた物資を速やかに調達・輸送できる体制を整備する」といった声が一番多く、約半数が必要だと考えています。

問23 防災体制を整えるために必要なこと<性別>



問23 防災体制を整えるために必要なこと<前回調査>



8. 「認知度／市の施策に望むこと等」について

**男女共同参画社会という言葉の認知度**

前回調査と比較して、知名度も認知度も高くなっています。

問24 あなたは「男女共同参画社会」という言葉をご存知ですか。【〇は1つだけ】

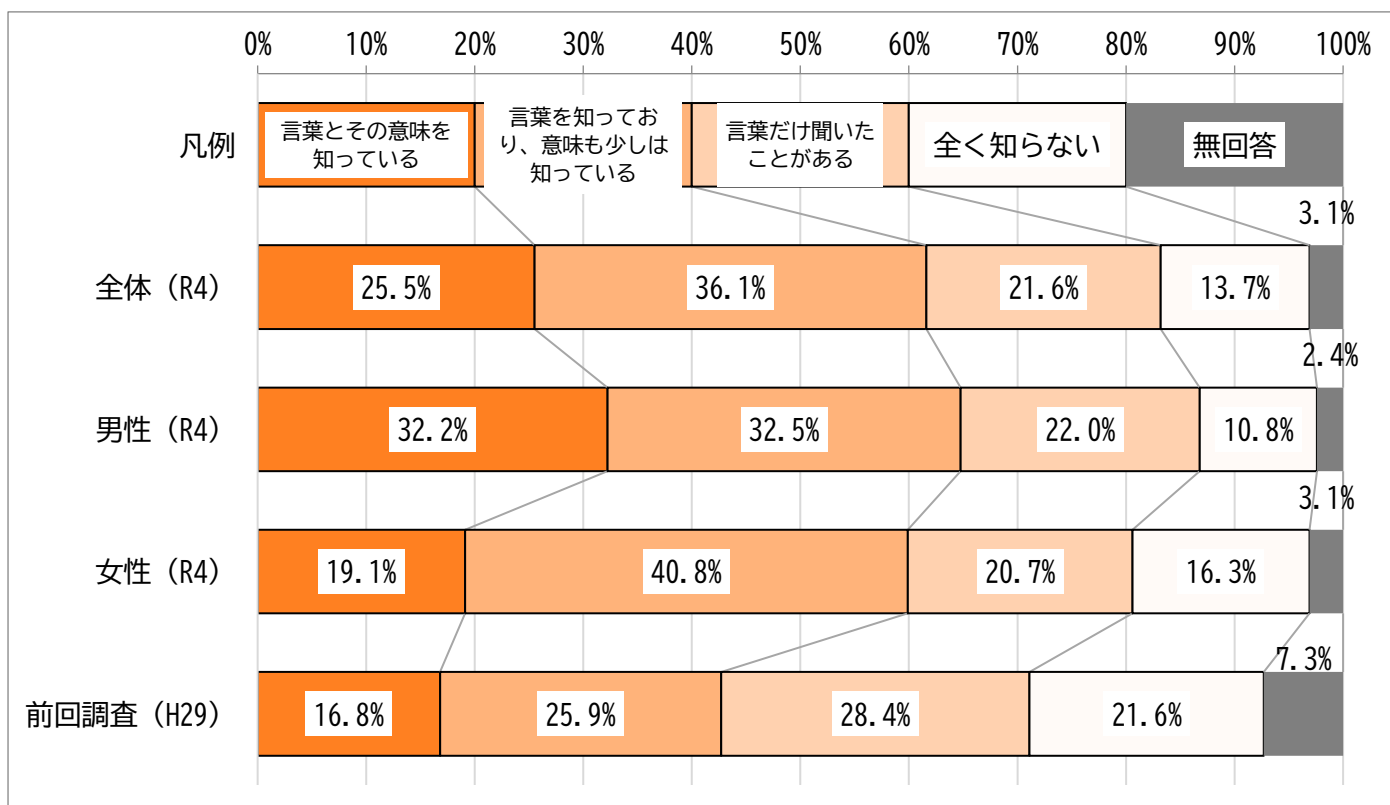
<全体>

〇認知している（「言葉とその意味を知っている」「言葉を知っており、意味も少しは知っている」の合計）方は全体の61.6%、言葉を知っている（認知している人に加え、「言葉だけ聞いたことがある」と回答した人）方も全体の83.2%おり、高い知名度となっています。

<前回調査との比較>

〇前回調査と比べて、知名度も認知度も高まっており、「全く知らない」と回答した方は、7.9ポイント減少しました。

問24 男女共同参画社会という言葉の認知度



## 拠点となる機能

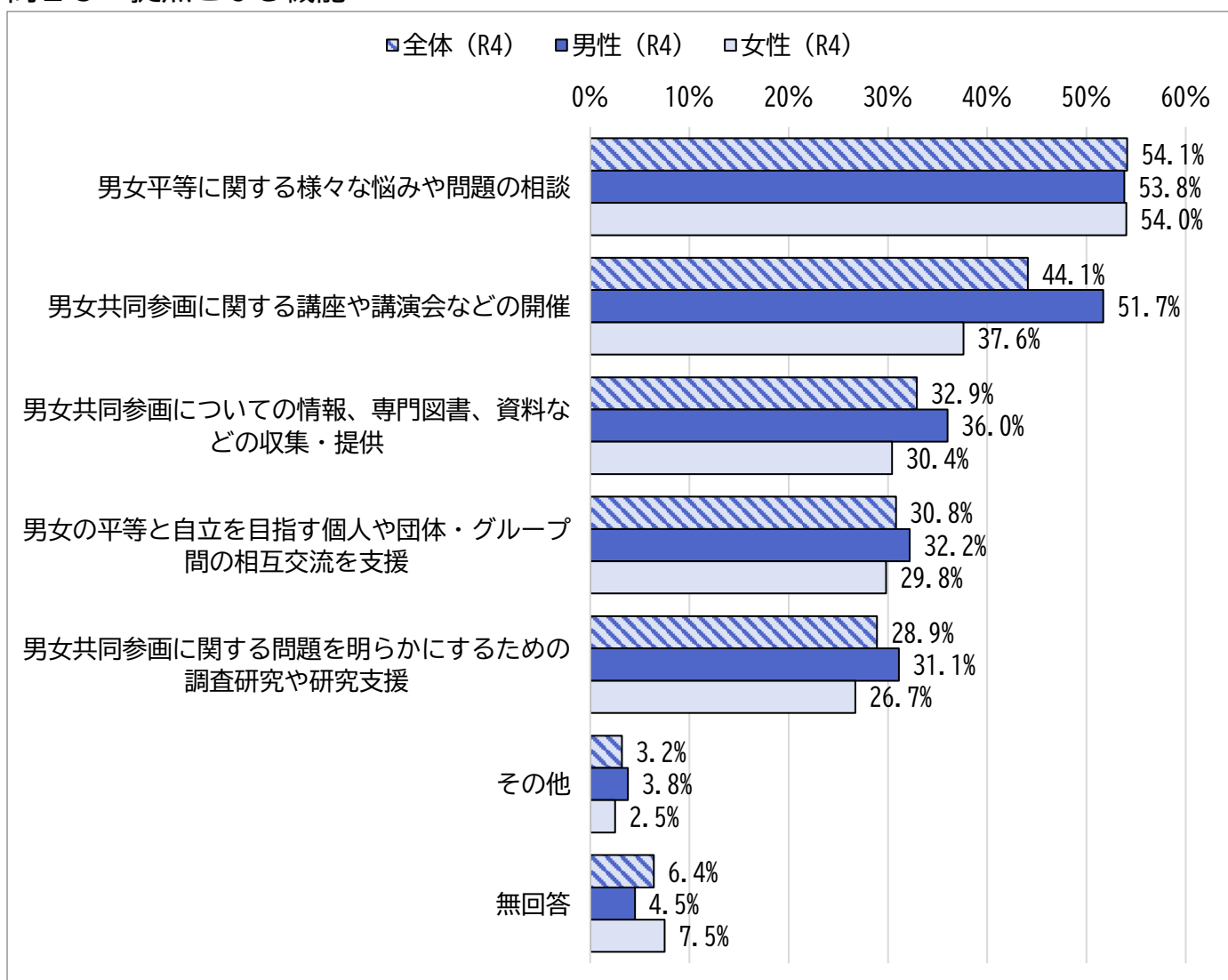
相談できる場、講座・講演で学べる場が特にあると良い機能として求められています。

問25 市では、会津若松市男女共同参画推進条例の中で、「市民及び事業者による男女共同参画の推進に関する取組を支援するための拠点となる機能の整備を行う」ことを定めています。拠点となる機能として、特にどのようなものがあるとよいと思いますか。【〇は3つまで】

### <全体>

○「男女平等に関する様々な悩みや問題の相談」が必要という声が男女ともに最も多くなっています。次いで、「男女共同参画に関する講座や講演会などの開催（44.1%）」、「男女共同参画についての情報、専門図書、資料などの収集・提供（32.9%）」という回答の高い順になっています。

### 問25 拠点となる機能



## 市の施策に望むこと

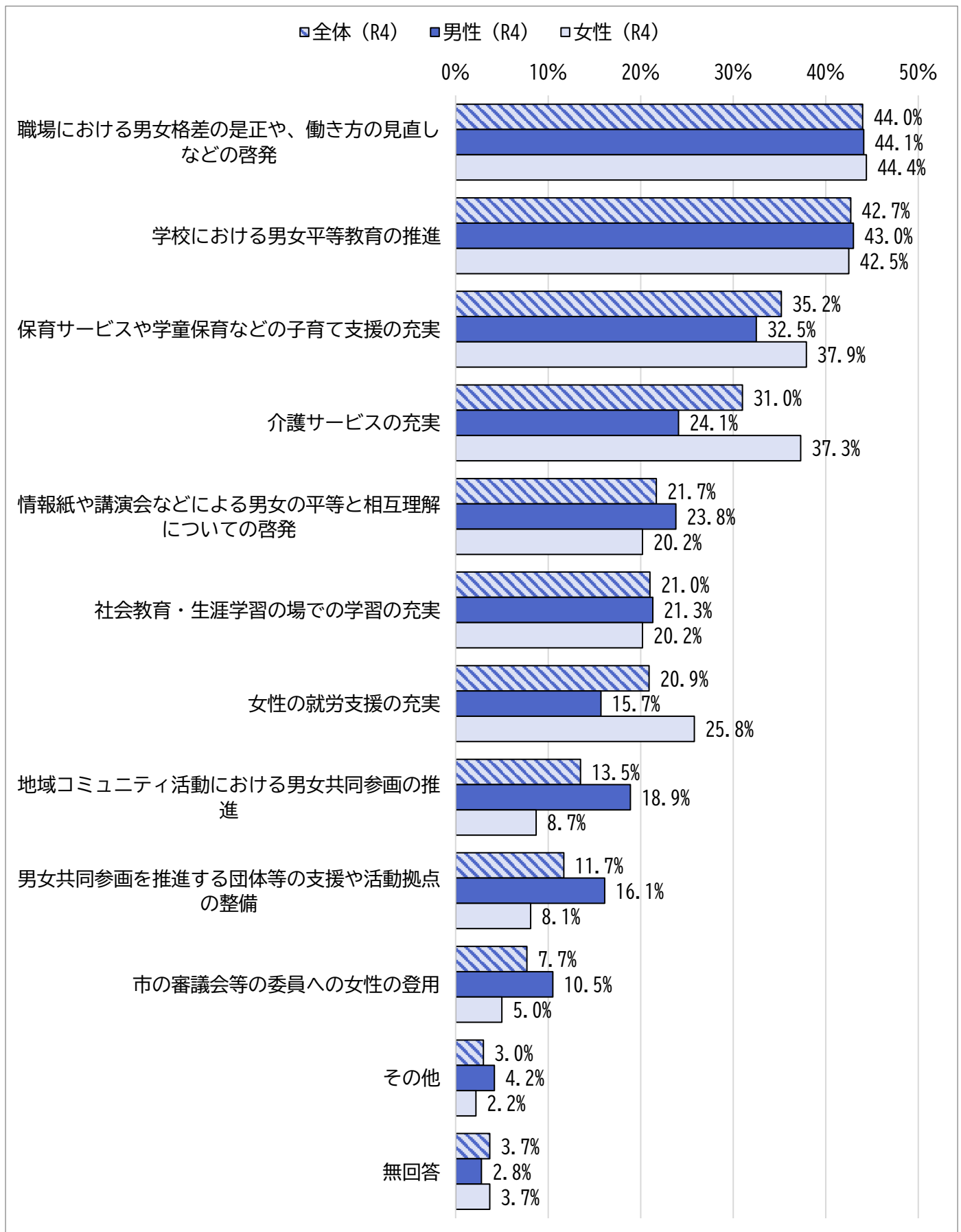
介護や子育てなど家庭生活や、就労関係など生活の中で現実直面している課題等の施策の充実を望む回答が多くなっています。

問26 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなところに力を入れていくべきだと思いますか。【〇は3つまで】

### <全体>

- 「職場における男女格差の是正や、働き方の見直しなどの啓発（44.0%）」を望む回答が最も多くなっています。
- 次いで、「学校における男女平等教育の推進（42.7%）」、「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実（35.2%）」、「介護サービスの充実（31.0%）」、「情報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発（21.7%）」などと続いています。

問26 市の施策に望むこと







## 第4章 自由記入

## ◆自由記入

全回答者 623 人中、男性 45 人、女性 58 人、どちらでもない 1 人の計人の回答が寄せられました。

性別・年代別の回答者数は以下の通りです。

年代	男性	女性	どちらでもない	合計
10代		1		
20代	4	5		
30代	4	16		
40代	10	6	1	
50代	7	8		
60代	9	13		
70代以上	11	9		
年齢無回答				
合計	45	58	1	104

※ここでは、寄せられた意見を関連項目ごとに分け、性・年代別に基本的に原文のまま掲載します。

## &lt;平等感・男女共同参画全般&gt;

年代	性別	回答
男性	20代	いくつかの設問の内容など、男女共同参画事業についてあまり理解のない方が作成したのではないかと感じた。
男性	20代	女性の相談室が設置されることは、大いに良いことだと思うが、同時に男性でも相談できる施設の設置、また、その周知も重要だと思った。
男性	20代	男性に対しても女性に対しても差別化のない平等な社会であってほしい。理不尽な思いは誰でも嫌になる。
男性	20代	日常生活のなかでは、まだまだ実質を伴わない「建前」としての男女平等という側面を感じます。
女性	20代	今回のような意識調査の結果、浮かび上がった問題や気づきなどを市民に広く周知してほしい。
女性	20代	女性の悩みや差別は多く取り上げられている気がするが、今度は男性の悩みや差別が取り上げられていないと感じるようになった。男女それぞれの悩みや差別が平等に声を上げられ、互いが理解し合えるような世の中になってほしいなと思います。
女性	20代	会津若松市は武家のなごりのようなものが未だ残っているような気がします（家訓十五カ条のような…）。一時、祖父母と同居していましたが、一昔前の習慣のなごりが強いと感じていました。上の世代の意識も変化していくことが必要かもしれません。
女性	20代	問 26 の①などは、具体例をいくつも挙げてのものだと分かりやすいと思います。またアンケートがあったら必ず参加します。（忙しくて具体的？丁寧に書けずにすみません。）

年代	性別	回答
男性	30代	基本的に全てに男女平等はありえない。性差は必ずある。それらを見做して形だけの平等を進めると必ずどこかに無理・ゆがみがある。男には男の、女には女の（出産など）役割があると思う。
男性	30代	憲法、法律、民主主義（思想）この成り立ちに女性が関わっていない時点で何しても変わらないし無理。ゼロイチの段階まで戻して作るしかない。でも現実的には出来ない。つまり無駄なあげきです。
男性	30代	まずネット社会に対応してなぜ書面でのやりとりなのかが不明（ネット使用していないとかんがえるから？）男女平等、男女共同参画で国、県、地方が動いても個人が意見を考え直さない限り、セクシャル、マイノリティ、ハラスメント等も改善されないと考えています。難しいことは分かりませんが頑張ってください。男女の身体もそうですが、メンタルなどももう少し深く勉強できる国になるといいですね。
女性	30代	このアンケートの意見を参考にしてください。
女性	30代	職場での男女格差をどこにも相談できない。職場の上層部に言うと、問題児扱いされそうだし、匿名での申立はできない。どうすればいいのかわからない。経営者層に対して積極的に発信してほしい。このようなアンケートはWebで回答できるようにしてほしい。（紙かWebか選べるように）
女性	30代	男の方が偉いと思い続けている昭和脳のオッサン達がいる限り、男女平等は夢のまた夢だと思います。お疲れ様です。
女性	30代	女性の就業において問題視されることが多いですが、結婚しパートをやるようになり、パート（事務職など）臨時職員などは女性の方が優遇されていると感じました。男性は断られることが多いそうです。それも不平等なのではと思いました。どんな職業、職種も平等に機会が与えられるべきだと思います。
女性	30代	正直変わることは難しいと思う。昔の考えを少しずつ変えていかないと何も変わらないと思う。
女性	30代	小さな村や町になればなるほど男女格差があり、本来会津若松市や都心などでは大きく問題になっているセクハラやパワハラが許されている。公務員なのに許されている。自覚してない。外から来た人間と互いにすり合わせて思いやりをもった行動や言動はいつの時代も必要だと思う。そのためには、多様性、柔軟性をもった心を幼少期から育成していく必要がある。
女性	30代	地方ほど男女平等や共同参画の意識が低いと感じる。これからを担う、特に若い世代、子供たちにその意識を高めることか出来る機会を多く与えてほしい。
女性	30代	例えば役場だとして、自分の担当じゃないとわからない。赤ちゃんが生まれて窓口に行ったら、その子が生まれたことによって発生する手続きを全て理解し声をかけてほしい。何が足りないとか何をしなければいけないか、何がわからないから。痒い所に手が届くもてなしをしてほしい。誰もが誰をも理解する男女共同参画。

年代	性別	回答
女性	30代	特にありません
男性	40代	男性陣の意識に共同参画についての認識の変化が出ているように感じますが、女性の多くはそれを望んでいない気がする。権利は主張するが、責任を負う事に抵抗があるようだ。根本的な教育を幼少期から実施して、国民全体に波及させる必要があると思う。
男性	40代	何をもってどのような状態が平等なのかを認識したい。
男性	40代	男女比ではなく、男性・女性の悩みを分析して対策してほしい!!市民の声を受けとめてほしい!!
男性	40代	このアナログアンケートもそうですが、早急にデジタル化を進めて欲しい。何を進めるにもまずはそこからではないでしょうか。昭和脳からの脱却を求めます。
男性	40代	未成年は男女に対する差別はないのに社会に出てから差別がある。男性、女性の体格や体質の違いを把握していれば男女共同参画になる。今は女性に対する考えばかりで男女差別されている。質問に関しても女性優遇な質問が多かった。
男性	40代	各事業所のトイレ清掃係は女性だけである。女性が男性トイレを出入りしても問われず、その逆だった場合の批判は図り知れない。男女平等ではない場面が身近にあるにもかかわらず、性差を議論することに違和感がある。
男性	40代	正直、もっと先にやるべき事あると思う。こんなことやって意味あるの?よくわかりません。
男性	40代	自分の性格の中に一番近い所にある自治会というものがもっとも男女共同参画の考え方から離れていると実感しています。いつまでも古い日本のシステムを引きずっています。
女性	40代	このアンケートで何が変わるのでしょうか。言葉(男女共同参画)だけが広まり、行政は何も明らかに、住みやすくなったという変化を示していません。市で行っている地域の活動(婦人消防など)で明らかに重要性を感じない(現代にあわない)を終了し、財源を「生きやすい会津若松」に使ってほしい。
女性	40代	今後も調査等をして、更なる共同参画になるようよろしくお願いします。
女性	40代	この度「男女共同参画」という事業があるとは、このアンケートで知りました。職場に持って行って同僚に見せましたが(数人)、誰も認識していませんでした。もっと公の場で発信して欲しいです。私の個人的意見ですが、職場でも家庭でも昔よりましかもしれませんが、「男尊女卑」というか女性がやるのがあたり前という考えは変わりなく、考えは消えないとあきらめています。
女性	40代	会津は男尊女卑の考えが根強い地域だと思う。今回の調査や様々な取り組みを行っていることは素晴らしいが、実際は特に年齢が上がる程、男性のプライドは高く女性より男性が上と考えてるような人が多い。

年代	性別	回答
どちらでもない	40代	「女性が～」や「男性が～」の質問が多く、最初はとても不快に感じました。しかし、まだ古い価値観が残っている社会を変えるのはとても大変なことだと思います。これからも頑張ってください。
男性	50代	男女共同参画の推進をやることが無駄とは言わないが、それを表に出していること事態、女性を蔑視している事だと思う。
男性	50代	特にありません。
男性	50代	まったく関係ないですが、私は若松市内にあまり仕事がないために県外に出稼ぎに行っています。私みたいに若松にあまり仕事がないために県外に出稼ぎに行かざるを得ない人のためにもっと雇用を増やしてください。
男性	50代	特にありません。
女性	50代	男女平等について年代による偏りを感じております。社会参画については、管理職および経営者クラスの年代の男性の無意識な男女差別が女性参画の妨げになっているとも思います。その世代の教育を強く願います。
女性	50代	男女平等という言葉がでてきてから、世の中も女の人が頑張って活躍している人が増えたと思う。その反面、私のように専業で家のことをやっている人は、いくらやっても評価されるわけではないので、つらいと感じる事も多いです。これからの時代を生きていく女の方は、仕事も家庭も両立できるような世の中になってほしいです。そのためには家庭のフォローも行政のフォローは絶対必要だと思います。
女性	50代	男女平等と言われても肉体的には女性に無理な場面もあると思う。私は正直男女平等とは思わず人は個々としてあるものだと思っています。ご苦労様です。よろしくお願いいたします。
女性	50代	意識調査を実施までは簡単です。ここから何が必要で何を進めるか、どう展開していくかが重要です。よく勉強して活動してほしい。外国の情報も多く取り込んでほしい。
女性	50代	小さい頃からの生活環境は大切だと思っています。普段目にするもの耳にすることが身についていくように考え方にも影響があると思います。家事分担出来ている生活、男女同じように働く姿を自然に目にしているようになれば、これからの世代の普通になるのではないのでしょうか。子育て、介護など職場でも男女関係なく休みをとったり出来ることが普通になってほしい。そしてそのことがキャリアに影響を及ぼすことのない社会になってほしい。
女性	50代	特になし。
男性	60代	質問に答えられない部分がありました。
男性	60代	サイトで初めて、第5次会津若松市男女共同参画推進プランをみました
男性	60代	各種団体の人々は大変お忙しい中お願いしていますが、もっと若い人々からの意見を反映させるようお願いします。若松はどちらかというと、高年齢・高役職に就いていた人が多いように感じます。

年代	性別	回答
男性	60代	人間は男女とは別の生物であることをまずありきだと思います。それぞれの世界での役割は天によって与えられていると思います。所詮、男がいくら強いことを言っても女性にはかなわないと思います。女性から生れてくるのですから。老いたときにその差がはっきりと出ます。男は弱い生き物です。そのことを男は頭において生活すればおのずと女性を認めると思います。
男性	60代	施策の目標はあるのか！多種多様な考え方の市民が多い中、地方自治体は何を目指すのか。正直言ってこの種の意見書は簡単な質問にしてほしい。途中から疲れた。読みたくなくなった。
男性	60代	男女平等、非常に良い事です。これからすべき事だと思うが、男としてすべきこと、女としてすべきことを忘れてほしくないものです。
男性	60代	企業が男女平等を推進している活動を市で表彰したり、新聞や市政だよりで多く報じて頂きたいと思います。
男性	60代	事業の必要性、問題点、参考事例、当事者、関係者の声などを長期に周知・広報が必要だと思う。
女性	60代	会津に引っ越して3年なので、まだ明らかに行政的なものがよく分かりません。これからいろいろと目につくことがあると思います。これは思った事ですが、神明通りがかなり簡素化されてしまったのが、さみしいですね。
女性	60代	アンケートご苦労様です。形だけのアンケートに終わらず、会津若松しか出来ない様な取り組みを希望します。
女性	60代	最近TV等でLGBTの方々が多く昔と違って色々な場所で活躍しているようですが、地方においては未だに偏見等が根気強く生活しづらく自分の子がそうであることでさえ知られたくない方が多いです。もう少し優しいわかりやすい言葉で企画し、色んな方に参加してもらえるような場があるといいです。
女性	60代	60代の女性です。家庭の中から不平等は感じています。亭主関白で家事をするのは妻の役目と思っている人と日々過ごしていて、免許も女の私にはに必要ないという古い考えの親に育てられました。その事もあり、自分の子供には高校卒業後に免許を取らせました。家事も主人が手伝ってくれば楽なのに、女性だからといって家事が好きではない…。年代が上の家庭ほど、家の中から不平等をなくしていかないといけないと思う。
女性	60代	これからの人たちに男女平等を教えて暮らしやすい世の中にしてほしいです。
女性	60代	こんなアンケートをとっても無意味じゃありませんか？時間のムダです。
女性	60代	昔より男女共同参画社会になっていると思います。より若者が生きやすい社会実現のための施策を期待しています。
女性	60代	会津若松市の男女共同参画事業がどういうものか知りません。市政だよりなどで知らせたらどうでしょうか。

年代	性別	回答
女性	60代	男性も女性も、意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる社会であってほしいと願っています。
女性	60代	自分自身が男女平等とは言えない時代を生きてきているので、自分の子孫の時代は平等であると胸を張って言える時代になってほしい！女性は男性にくらべ、体力的に劣る面が多い、DVなどもってのほか！
男性	70代以上	高齢のため、男女共同参画の活動については、やや遠慮というスタンスで関わっています。日頃の“見える化”を進めて下さい。
男性	70代以上	間の中で充実の具体策が大事だと思われれます。
男性	70代以上	良きリーダーの育成も大事ではないか。
男性	70代以上	調査票の結果をふまえて、まず目にみえるように市として動いて下さい。調査票だけに終わらないようにして下さい。
男性	70代以上	このような活動の活躍が行なわれていたことを知らなかった。性とか性教育などあまりあからさまに広がっているが、人間の本能までも教育しては？消極的な性格な人は結婚できない。一生結婚できず、地域も家庭が少なくなる。性問題が起き、泣き寝入りしておる人々も多い。悲しむのは女性がほとんどだ。結婚したい男性が多くいるが、現在は女性に選んでもらわれないと「結婚出来ない男性が性格的に弱くなっているから、既婚されている人々や周囲の人々が積極的に進めてやらないと結婚出来ない青年が増えると思う。仲人役をする人も必要だ。
男性	70代以上	アンケートについて協力しましたが、80才近くの私にとっては設問の量が多すぎました。もう少し簡素にできないもののでしょうか。集約して。
男性	70代以上	特にありませんが、市民の為にご協力をお願い申し上げます。
男性	70代以上	協力と助け合いだと思います。
女性	70代以上	子供の頃から男女平等の教育を学校で行い、家庭でも男女の別なく仕事を役割分担して教える事が大切だと思います。
女性	70代以上	共同と言っても、女性は責任のがれや男性においかぶせてしまう事が多いと感じる。 自分のやってほしい事ばかりを男性におしつけて、自分は男性のためにしてあげる事が少ないのではないかと思う。
女性	70代以上	若い頃と違って、今さら変わらないと思う様になった。
女性	70代以上	自分が出来る事はやりたい。

年代	性別	回答
女性	70代以上	男女共同参画大変勉強になりました。ありがとうございます。
女性	70代以上	男女共に言えることですが、人の悪口やぐちが多い
女性	70代以上	この資料だけに終わらないで欲しい。
女性	70代以上	今回のアンケートでこの「男女共同参画事業」がある事を知りました。2～3回読みかえし、勉強になりました。会社勤めを終えて約10年、いろいろあるんですね。

### <女性／男性のこと>

年代	性別	回答
女性	30代	外国人労働助成金のように、たとえば建設業など男性が多く活躍するような職種、女性が力仕事はなかなか大変、邪魔者扱いされる場合のある事業所に女性雇用助成金などの制度があるといいと思う。(現在もあるのか不明なので記入しました)
女性	30代	前にもアンケート、答えた気がするけど、何か目に見えた変化を感じないです。女性、ママにきびしい世の中でかなしいです。
女性	30代	5年前にわりと栄えている地域から会津若松市に戻ってきましたが、職場はもちろん、それ以外でも「女性らしさ」「女なんだから汚い言葉を使うな、気遣いが出来るようになれ」等、強要されることが多いと感じました。若松市に戻るまではそんなことなかったのが田舎だからかな・・・と思ってしまいます。
女性	30代	未だに男の子を産むように言ってくる年配の方がいる。学歴や地位のある方でもそういう考えの方がまだいる。子供の性別、人数等にプレッシャーをかけられず産める、育てられる社会になってほしい。
女性	40代	政府(国)は、子供を産め、女性のリーダーを作れ、管理職の何%を女性にする、などと女性に求めすぎていると思う。実際、子供を産み、育て、仕事も家庭も、全部できるんですか?本当に大変です。一回味わってから(体験してから)言って下さい!!税金ばかり平等で母親には少しも優しくない。子供1人育てるのには、お金も労力も愛情も、本当にいっぱい必要です。私の声が少しでも反映されることを願います。
男性	50代	まず、マスコミや外国からの指摘で動くのではなくて、本当に日本の女性が社会進出・出世等を望んでいるのかどうかをしっかりと調べてほしい。実は本音を言うと、現状でほとんどの人(女性)は満足しており、そんなに仕事をやりたいと思っている人は少ないように思います。また、女性の役割・役員の比率をあげるといわれてポストについたとしても、それはそれで女性に対して失礼なような気がします。



年代	性別	回答
男性	50代	会津など田舎の製造業（特に工場）は女性がリーダーになるのは難しいと思います。一方で女性は家庭の事をこなした上で、仕事を両立されている方が多く、すごいと思います。机上の空論にならない様、現場視察なども必要と考えます。
男性	50代	まずは女性を登用すること（定数の半分以上を女性にするなど）そのために支援を充実させる（保育サービスや介護サービス、勤務環境など）情報収集や啓発も大切ですが、現場で具体的に行動を起こさないと何も変わっていかないと考えます。
女性	50代	女は家庭を守るものという考えが根強ければ、女性の社会進出を支援しても、家庭も社会もの負担が二重になるだけで、上手いかないですよ。子育ても親と同居で分担できれば楽になるけど、考えが古い親だとかえって負担になったり、意識改革がまず必要なのでは。
女性	60代	結婚しても女性も仕事をするのが当たり前、の風潮から仕事をし、家事や育児もしなければならなくなっている。女性と同じく男性も家事、育児等、家庭の事もするのが当たり前になってほしい。
男性	70代以上	会津若松市は他の自治体と比較すると、色々な面で劣っています。もっと気づいて欲しいです。男性の保守的な傾向が強く、文化・教育等の面で影響していると思います。男の意識改革は必要。

### <子育て・介護関連>

年代	性別	回答
男性	30代	男性の育児休業第1号となってみたが、まだまだ取りやすい状況になっているとは言い難いと感じた。子育てしやすい環境づくりに取り組まないと、人口減少はとまらないと思う。
女性	30代	子育て中の親がどうしても仕事を十分にできないときがある。（子供の病気、世話等）その時他の同僚がその仕事をしなければならなくなる。子育ての大変さを知らない人にも「自分が子育て中の同僚の仕事までやることのメリット」がわかりやすく提示できるよう研究者を雇ってでもいいので、まとめてください。子育てをしない人にも理解してもらって初めて男性も女性も働きやすい社会になると思います。どうかお願いします。
男性	40代	定時で上がることが当たり前で引け目を感じないこと。男性の育休取得率が進むように、公務員から民間に広がってほしい。
男性	40代	子供が遊べる施設、保育施設が少ない、共働きでないと保育施設に入るのが難しい事
女性	60代	介護施設が低価格で入れるようになってほしい。
女性	70代以上	低所得者用の介護施設を作ってほしいと思っています。低所得者はいつも置いてけぼりで考えてくれないように思います。

## &lt;企業・働き方・ワーク・ライフ・バランス関連&gt;

年代	性別	回答
女性	10代	出産や育児で職場復帰することが難しい女性が数多くいると思うので、職場の上司はその事に対して十分理解し、女性が安心して働くために学童保育を充実させて欲しい。
女性	30代	職業や職種によっては男女の割合が違うのもあると思いますが、子育てや介護にあてる時間が男女共に取りやすかったり、働き方を臨機応変に対応できる社会になるとよいと感じています。
女性	30代	現場で働く人々の意見をもっと取り入れて、誰でも生きやすい環境を導いて欲しい。
女性	50代	コロナで自宅待機になって職場を長期に休まなければいけない時に、職場の方が理解してあたたかく見守ってくれるような社会であってほしい。子どもがコロナになる現在、多くの方がそのような気持ちで仕事をしていてほしい。
男性	60代	男性を地域社会に戻すこと、女性を職場で雇用することが21世紀日本の構造改革の柱と考えます。

## &lt;暮らし・安心関連&gt;

年代	性別	回答
女性	20代	生理用品・痛み止め等の支給や経済的援助がほしい
女性	40代	大変意義のある活動だと思います。性別に関係なく、お互いに住みやすい生活しやすい環境であれば、より良い社会になると思います。
男性	70代以上	何でもそうですが、単なる調査に終えることなく、徹底分析をした上で、さらに行政に活かしていける体制・情熱・気構えが必要。会津若松市を住みやすい「まち」にする為、精進されたし。

年代	性別	回答
男性	70代以上	<p>国会・県会・市議の給料、新人もベテランも給料同じ？あり得ないと思わないのか。生活保護者、ほとんど無料ときいている。そうであれば食費のみ支給すれば？タクシーでパチンコ店へ行っている。支給者への2~3年に1回の抜き打ち調査必要と思うが…。以前役所から人材不足で出来ないの返答有り。時々役所に行くが、職員の数あれ程必要なのか？一般企業と比較すれば、企業は人件費だけで倒産してしまう。もう一点、生活保護者への支援金出し過ぎ、国民年金で退職し受給年令になった場合、満額支給でも7万弱、反面家族構成にもよると思うが、10万近くもらえる。団地入所、アパート借りるにも3万位までの補助金、医療費・団地入所無料、この様な事になっているのを役所・国会・県会・市議の方知っているのか？若者税金支払い大変、一生かけて支払った年金、受給年令になっても納付金額の半額くらいしかもらえない、どうして生活するのか？全ての議員の定年制と一般企業と同様、一人一人の年間の勤務評価をしてはどうか？毎月領収書不要の100万支給有り得ないと思わないのか？毎年少子化で大変、全ての先生方にも痛みを知ってほしい。日本国なくなってしまう。</p>

### <その他>

年代	性別	回答
女性	60代	市議会議員の数（男性）を減らしその予算を別な何かに生かしてほしい。



資料 調査票

## 《男女共同参画に関する意識調査》についてのお願い

日頃から市政につきまして、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、本市では「性別にかかわらず、多様性を尊重し、一人ひとりがその個性や能力を十分に発揮することができる」男女共同参画社会の実現に向けて、平成31年3月に「第5次会津若松市男女共同参画推進プラン」を策定し、様々な取組を行っているところでありますが、計画期間が令和5年度（令和6年3月）で終了することに伴い、新たなプランを策定することとしております。

新たなプランの策定にあたりましては、市民の皆様（会津若松市にお住いの18歳以上の方から、2,000人を無作為に抽出）の男女共同参画に関する意識や問題点、考え方等についてお伺いする意識調査を実施し、新たなプランに反映させたいと考えておりますので、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答いただいた内容は、統計的な処理以外には使用しませんので、回答者の方が特定されることは決してありません。

令和4年7月

会津若松市長 室井 照平

### ご記入にあたってのお願い

- 1 この調査は、封筒の宛名の方ご自身がお答えください。
- 2 各質問のあてはまる番号に○をつけてください。  
その他、及び自由記入欄についてはご記入ください。
- 3 ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに令和4年7月31日（日）までに、投函してください。お名前を書いていただく必要はありません。
- 4 本紙及び『男女共同参画に関する意識調査』（別紙）につきましては、返送の必要はありません。

※この調査についてのお問い合わせは、下記にお願いいたします。

会津若松市役所 企画調整課 協働・男女参画室

〒965-0873 会津若松市追手町2番41号

電話 39-1405（直通）

## 男女共同参画に関する意識調査票

●はじめに、ご自身のことについてお聞かせください●

(1)あなたの性別(性自認※)をお知らせください。【○は1つだけ】

- 1 男性      2 女性      3 どちらでもない

※性自認(こころの性)とは…

自分の性をどのように認識しているかを表す概念であり、生まれ持った身体的性別(からだの性)と一致する場合もあれば、そうでない場合もあります。

(2)あなたの年齢は次のどれにあたりますか。【○は1つだけ】

- 1 10代                      4 40代                      7 70代以上  
2 20代                      5 50代  
3 30代                      6 60代

(3)あなたの職業は次のどれにあたりますか。【○は1つだけ】

- 1 自営業    →(4)へ                      4 主夫・主婦    →(4)へ  
2 お勤め    →(3-1)へ                      5 学生                      →(4)へ  
3 無職        →(4)へ                      6 その他(具体的に:                      )→(4)へ

(3-1)どの雇用形態にあてはまりますか。【○は1つだけ】

- 1 正規(管理職)      2 正規(一般職)      3 非正規、パート、アルバイト

(4)あなたのご結婚されていますか。【○は1つだけ】

- 1 結婚している                      →(4-1)へ  
2 結婚していない                      →(5)へ  
3 離別・死別                      →(5)へ

(4-1)共働きですか【○は1つだけ】

- 1 共働きである                      2 共働きでない

(5)あなたの世帯の構成は、次のどれにあたりますか。【○は1つだけ】

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1 一人暮らし       | 4 親と子と孫の世帯(3世代) |
| 2 夫婦だけの世帯     | 5 その他( )        |
| 3 親と子の世帯(2世代) |                 |

(6)あなたには、お子さんが何人いますか。(同居・別居は問いません)【○は1つだけ】

- |       |         |        |         |
|-------|---------|--------|---------|
| 1 いない | →問1へ    | 3 2人   | →(6-1)へ |
| 2 1人  | →(6-1)へ | 4 3人以上 | →(6-1)へ |

(6-1)あなたのお子さんは次のどれにあたりますか。(同居、別居は問いません。)  
【○はあてはまるものすべて】

- |        |       |       |
|--------|-------|-------|
| 1 未就学児 | 3 中学生 | 5 その他 |
| 2 小学生  | 4 高校生 |       |

◆男女の地位の平等感、男女の生き方、社会参加についておたずねします◆

問1 あなたは次にあげる分野及び社会全体で、男女の地位は平等になっていると思いますか。【○はそれぞれ1つだけ】

	優 遇 さ れ て い る 男 性 が	優 遇 さ れ て い る い え ば 男 性 が ど ち ら か と	平 等	優 遇 さ れ て い る い え ば 女 性 が ど ち ら か と	優 遇 さ れ て い る 女 性 が	わ か ら な い
(1)家庭生活	1	2	3	4	5	6
(2)学校教育	1	2	3	4	5	6
(3)職場	1	2	3	4	5	6
(4)習慣・しきたり	1	2	3	4	5	6
(5)政治の場	1	2	3	4	5	6
(6)法律や制度	1	2	3	4	5	6
(7)自治会、地域活動	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体	1	2	3	4	5	6



問2 女性及び男性の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。女性の生き方、男性の生き方両方についてお答えください。

【女性の生き方について】【○は1つだけ】

- 1 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 2 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 3 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 4 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
- 5 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- 6 わからない

【男性の生き方について】【○は1つだけ】

- 1 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 2 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 3 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 4 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
- 5 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- 6 わからない

問3 あなたが、次のような職業や役職において、今後女性がもっと増えた方がよいと思うものはどれですか。【○はあてはまるものすべて】

- |                        |               |
|------------------------|---------------|
| 1 都道府県、市(区)町村の首長       | 9 労働組合の幹部     |
| 2 国会議員、都道府県議員、市(区)町村議員 | 10 農協の役員      |
| 3 国家公務員、地方公務員の管理職      | 11 自治会、町内会の役員 |
| 4 裁判官、検察官、弁護士          | 12 PTAの役員     |
| 5 大学教授                 | 13 その他( )     |
| 6 国連などの国際機関の管理職        | 14 今のままでよい    |
| 7 企業の管理職               | 15 わからない      |
| 8 起業家、経営者              |               |

問4 現在あなたは、どのような社会活動や地域活動に参加していますか。

【○はあてはまるものすべて】

- |                  |   |        |
|------------------|---|--------|
| 1 子ども会やPTA等の活動   | } | 問5へ    |
| 2 自治会や町内会等の活動    |   |        |
| 3 女性団体の活動        |   |        |
| 4 政治活動や労働組合活動    |   |        |
| 5 国際交流の活動        |   |        |
| 6 ボランティアやNPO等の活動 |   |        |
| 7 趣味やサークル等の活動    |   |        |
| 8 その他( )         |   |        |
| 9 参加している活動はない    |   | →問4-1へ |

問4-1 社会活動や地域活動に参加していない理由は何ですか。【○は3つまで】

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 1 仕事が忙しい     | 7 人間関係がわずらわしい     |
| 2 参加する仲間がない  | 8 健康や体力に自信がない     |
| 3 活動の場が身近にない | 9 自分にあった活動がない     |
| 4 経済的な余裕がない  | 10 家族の理解や協力が得られない |
| 5 面倒         | 11 その他( )         |
| 6 あまり関心がない   |                   |

問5 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。【〇は3つまで】

- 1 男女の役割分担についての社会通念、習慣、しきたりを改めること
- 2 学校教育や生涯学習の場において、男女共同参画についての学習を充実させること
- 3 男女ともに、家事などができるようなしつけや育て方をすること
- 4 男性が生活面において自立できるような能力を身に付けること
- 5 女性自身が経済的に自立し、社会的な責任を果たせるような能力を身に付けること
- 6 行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること
- 7 雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取り扱いを周知徹底すること
- 8 労働時間短縮や、男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させること
- 9 年功序列、終身雇用等の従来の雇用制度を見直し、再雇用や中途採用枠の拡大など柔軟な制度を普及させること
- 10 パートタイマー、派遣労働者等の労働条件を向上させること
- 11 官民ともに、育児・介護にかかる施設や、家事・育児・介護にかかるサービス等を充実させること
- 12 その他( )
- 13 わからない

◆女性の活躍促進についておたずねします◆

問6 あなた自身や、身近にいる女性は仕事や地域活動で活躍していると思いますか。  
【〇は1つだけ】

- 1 活躍している →問6-1へ
- 2 どちらかといえば活躍している →問6-1へ
- 3 どちらかといえば活躍していない →問6-2へ
- 4 活躍していない →問6-2へ

問6-1 活躍していると思う理由は何ですか。【〇は3つまで】

- 1 産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員の退職が減っている
- 2 女性の経営者や管理職が増えている
- 3 管理職ではないが活躍する女性が増えている
- 4 女性の職域(事務以外の研究開発、営業等)が広がっている
- 5 各種報道などで女性の活躍を目にする機会が増えている
- 6 女性のキャリア意識(仕事で経験を積もうとする意識)が上がっている
- 7 長時間労働の慣習が改善されてきている
- 8 PTAや自治会長等の役職に就いている女性が増えている
- 9 その他( )

問6-2 活躍していないと思う理由は何ですか。【〇は3つまで】

- 1 産休・育休・介護などの支援制度が不十分である
- 2 産休・育休・介護などの支援制度があっても活用しにくい(できない)
- 3 女性の経営者や管理職が少ない
- 4 女性の職域(事務以外の研究開発、営業等)が限定的である
- 5 女性のキャリア意識(仕事で経験を積もうとする意識)が向上していない
- 6 出産・育児・介護などのため、男性に比べキャリア形成が難しい
- 7 男性優位の考え方が変わっていない
- 8 長時間労働の慣習が改善されていない
- 9 PTAや自治会長等の役職に就いている女性が少ない
- 10 その他( )

問7 女性が活躍するには何が必要だと思いますか。【○は3つまで】

- 1 企業のトップが女性の活躍推進に積極的であること
- 2 職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること
- 3 育児・介護等との両立について、職場の支援制度が整っていること
- 4 企業内で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること
- 5 身近に活躍している女性(ロールモデル)がいること
- 6 仕事が適正に評価されていること
- 7 職域が拡大されるなど、仕事にやりがいがあること
- 8 キャリア形成のための研修制度があること
- 9 保育施設が充実していること
- 10 国や地方自治体など、行政による企業支援があること
- 11 地域社会が自治会などの地域活動に女性の参画の必要性を認めること
- 12 その他(具体的に: )

◆就労・職業についておたずねします◆

問8 現在、あなたは働いていますか。【○は1つだけ】

- 1 働いている(育児休業中等を含む) → 問8-1へ
- 2 働いていない → 問10へ

問8-1 今の職場で、仕事の内容や待遇面において、男女で差別されていると思いますか。【○は1つだけ】

- 1 男性が差別されていると思う → 問8-2へ
- 2 女性が差別されていると思う → 問8-2へ
- 3 差別されていると思わない → 問9へ
- 4 わからない → 問9へ

問8-2 それは具体的にどのようなことですか。【○はあてはまるものすべて】

- 1 賃金に差がある
- 2 昇進、昇格に差別がある
- 3 能力が正当に評価されない
- 4 軽微な業務しか任されない
- 5 結婚したり、子どもが生まれたりすると仕事を続けにくい雰囲気がある
- 6 その他(具体的に: )

問9 リーダー・管理職になりたいと思いますか。【○は1つだけ】

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| 1 になりたい         | →問10へ  |
| 2 できることならやりたい   | →問10へ  |
| 3 できることならやりたくない | →問9-1へ |
| 4 やりたくない        | →問9-1へ |

問9-1 なぜやりたくないと思いますか。【○は1つだけ】

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 責任を持ちたくない    | 4 家事や育児で忙しい   |
| 2 能力やスキルが十分でない | 5 介護で忙しい      |
| 3 人間関係で苦労したくない | 6 その他(具体的に: ) |

問10 過去5年以内に仕事を辞めたことがありますか。【○は1つだけ】

- |                      |          |
|----------------------|----------|
| 1 辞めたことがある(会社都合等を含む) | → 問10-1へ |
| 2 辞めたことはない           | → 問11へ   |

問10-1 仕事を辞めた理由は何ですか。【○は3つまで】

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1 独立するため             | 10 経済的に働く必要がなくなった |
| 2 別の仕事をするため          | 11 結婚             |
| 3 仕事が向いていなかった        | 12 出産・子育て         |
| 4 仕事や職場の待遇に不満があった    | 13 介護や看病          |
| 5 職場の人間関係            | 14 家族の転勤          |
| 6 職場のハラスメント          | 15 自分の健康上の理由      |
| 7 勤め先の都合(事業縮小、廃業)    | 16 家業を継ぐため        |
| 8 職場での結婚・出産退職の習慣     | 17 定年             |
| 9 産休後、職場復帰がうまくいかなかった | 18 その他( )         |

問11 現在の生活であなたの希望に近いものはどれですか。また、実際の生活はどうですか。【○はそれぞれ1つだけ】

	考え方(理想)	現実(現状)
(1) 「仕事」を優先	1	2
(2) 「家庭」を優先	1	2
(3) 「地域活動や自分の時間」を優先	1	2
(4) 「仕事」と「家庭」をともに優先	1	2
(5) 「仕事」と「地域活動や自分の時間」をともに優先	1	2
(6) 「家庭」と「地域活動や自分の時間」をともに優先	1	2
(7) 「仕事」と「家庭」と「地域活動や自分の時間」をともに優先	1	2
(8) わからない	1	2

問12 あなたは、女性が働くことについて、どう考えますか。【○は1つだけ】

- 1 結婚するまでは働く方がよい
- 2 子どもができるまでは、働く方がよい
- 3 子どもができたら働くのをやめ、大きくなったら再び働く方がよい
- 4 結婚や出産にかかわらず、働く方がよい
- 5 わからない
- 6 その他( )

問13 男性の育児休業取得についてどう思いますか。【○は1つだけ】

- 1 賛成 → 問14へ
- 2 どちらかといえば賛成 → 問14へ
- 3 どちらかといえば反対 → 問13-1へ
- 4 反対 → 問13-1へ

問13-1 反対と思う理由は何ですか。【○はあてはまるものすべて】

- 1 (男性の)職場での見られ方が気になると思うから
- 2 (男性の)キャリアに傷がつく(昇進できない)と思うから
- 3 (男性に)家事・育児を行うスキルがないから
- 4 男性は働くものだから
- 5 男性は働くものと周りが思っているから
- 6 育児は女性がするものだから
- 7 その他( )

◆家庭・結婚についておたずねします◆

問14 あなたは家庭で、次のことについてどの程度行っていますか。

【〇はそれぞれ1つだけ】

	いつもやる	分担してやる	時々やる	全くやらない	該当しない※
(1)食事の支度	1	2	3	4	5
(2)食事の後片付け	1	2	3	4	5
(3)掃除	1	2	3	4	5
(4)洗濯	1	2	3	4	5
(5)ふだんの買い物	1	2	3	4	5
(6)地域の行事参加や近所とのつきあい	1	2	3	4	5
(7)子どもの世話や教育	1	2	3	4	5
(8)家族の介護・世話	1	2	3	4	5

※ 「該当しない」とは、育児や介護の必要な方がいない場合や、一人暮らしのほか、家事支援サービス等の利用により家族以外が行う場合等を含みます。

問15 家庭、結婚観について、あなたの考えに近いものはどれですか。

【〇はそれぞれ1つだけ】

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
(1)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
(2)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
(3)女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもを中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
(4)結婚しても必ず子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
(5)結婚しても相手に満足できない時は離婚してもよい	1	2	3	4	5



◆人権についておたずねします◆

問16 次の言葉と意味について知っていますか。【○はそれぞれ1つだけ】

	い る 言 葉 も 意 味 も 知 っ て	な い あ る が 、 意 味 は 知 ら な い	知 ら な い
(1)セクシュアル・マイノリティ	1	2	3
(2)LGBT(エルジービーティー)	1	2	3
(3)カミングアウト	1	2	3
(4)アウティング	1	2	3
(5)SOGI(ソジ)	1	2	3
(6)ダイバーシティ	1	2	3
(7)リプロダクティブ・ヘルス・ライツ	1	2	3

※ 言葉の意味は別紙で解説しています。

問17 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に違和感を持つたり悩んだりしたことがありますか。また、身近に悩んでいる方を見たり、悩んでいることを聞いたりしましたか。【○は1つだけ】

1 はい → 問17-1へ

2 いいえ → 問18へ

問17-1 セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の方々に対する偏見や差別をなくし、セクシュアル・マイノリティの方々が生かしやすくするためにどのような対策が必要だと思えますか。【○はあてはまるものすべて】

- 1 相談できる窓口の設置
- 2 気持ちや情報を共有できる居場所づくり
- 3 法令の制定や制度の見直し
- 4 行政職員や教職員に対する研修の実施
- 5 企業・地域住民等に対する啓発活動の実施
- 6 幼少期からの教育の充実
- 7 更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮
- 8 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行
- 9 同性同士のパートナーやその家族も、法律上の家族と同等に扱うこと
- 10 必要だとは思わない
- 11 わからない
- 12 その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

問18 女性は、妊娠、出産を担う性であることからわかるように、男性と女性では異なる体や心の問題に直面することがあります。男女が生涯にわたり心身共に健康であるためには、どのようなことが大切だと思いますか。

【〇はあてはまるものすべて】

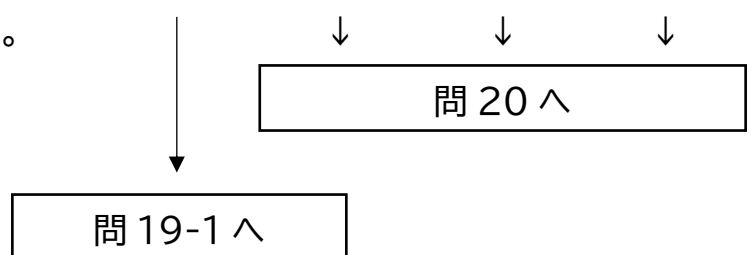
- 1 女性が性生活について主体的・総合的に判断する力をつけること
- 2 妊娠、出産、避妊、中絶に関する情報の提供
- 3 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施
- 4 思春期、青春期、更年期、老年期にあわせた健康づくりの推進
- 5 女性専用外来の設置に代表される、性差医療の充実
- 6 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の整備
- 7 職場等でのメンタルヘルス体制の充実
- 8 その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )
- 9 特にない
- 10 わからない

問19 あなたは、次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことはありますか。

【〇はそれぞれ1つだけ】

	自分が受けた	身近で見聞きした	ある 聞いたことは マスコミ等で	知らない
(1) セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)	1	2	3	4
(2) モラハラ(モラル・ハラスメント)	1	2	3	4
(3) パワハラ(パワー・ハラスメント)	1	2	3	4
(4) マタハラ(マタニティ・ハラスメント)	1	2	3	4
(5) パタハラ(パタニティ・ハラスメント)	1	2	3	4
(6) ストーカー	1	2	3	4
(7) DV(ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3	4

※言葉の意味は別紙で説明しています。



問19-1 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

【○はあてはまるものすべて】

- 1 警察
  - 2 法務局、地方法務局、人権擁護委員
  - 3 (保健)福祉事務所、女性相談員
  - 4 女性のための相談支援センター、男女共生センター
  - 5 県庁
  - 6 市役所
  - 7 裁判所
  - 8 民間の専門家や機関(弁護士(会)、民間シェルターなど)
  - 9 医療機関
  - 10 家族、親戚
  - 11 友人、知人
  - 12 その他( )
  - 13 どこ(誰)にも相談しなかった・できなかった
- 問20へ
- 問19-2へ

問19-2 相談しなかった・できなかった理由は何ですか。

【○はあてはまるものすべて】

- 1 どこ(誰)に相談してよいか分からなかった
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 3 相談しても無駄だと思った
- 4 相談が知られると、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けると思った
- 5 不快な思いをすと思った
- 6 自分が我慢すれば、なんとかやっていけると思った
- 7 世間体が悪い
- 8 他人を巻き込みたくなかった
- 9 そのことについて、思い出したくなかった
- 10 自分にも悪いところがあると思った
- 11 相談するほどのことではないと思った
- 12 その他( )

問20 DV(ドメスティック・バイオレンス)など、女性に関わるさまざまな相談に応じるため、市では女性福祉相談室を設けていますが、ご存知でしたか。【○は1つだけ】

- 1 知っている
- 2 知らない

◆介護についておたずねします◆

問21 あなたの家族が介護を要する状態になった(すでに介護を要する人がいる)場合、また、あなた自身が介護が必要になった場合、どのようにしたいと考えていますか。  
【○はそれぞれ1つだけ】

【家族が介護を要する場合】

- 1 行政や外部のサービスには頼らず、自分で介護したい(している)
- 2 外部のサービスを使用しながら、主に自宅で介護したい(している)
- 3 特別養護老人ホーム等の施設で介護を受けさせたい(させている)
- 4 その他(具体的に: )
- 5 わからない

【自分が介護を要する場合】

- 1 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護してもらいたい
- 2 外部のサービスを使用し、主に自宅で介護してもらいたい
- 3 特別養護老人ホーム等の施設で介護してもらいたい
- 4 その他(具体的に: )
- 5 わからない

問22 家族を自宅で介護する場合、主に誰が介護をすることになると思いますか。  
また、あなた自身が自宅で介護される場合、誰に介護してもらいたいですか。  
【○はあてはまるものすべて】

【家族を介護する場合】

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 主に自分         | 4 主にその他の家族(男性) |
| 2 主に自分の配偶者     | 5 その他(具体的に: )  |
| 3 主にその他の家族(女性) | 6 わからない        |

【自分が介護される場合】

- |        |              |
|--------|--------------|
| 1 配偶者  | 6 その他の家族(女性) |
| 2 息子   | 7 その他の家族(男性) |
| 3 娘    | 8 ホームヘルパー等   |
| 4 息子の妻 | 9 わからない      |
| 5 娘の夫  |              |

◆防災についておたずねします◆

問23 大規模災害時の備えに関して、男女がともに安心できる防災体制を整えるために、どのようなことが必要だと思いますか。【○は3つまで】

- 1 防災会議(防災に関する重要な事項を審議する会議)における女性委員の割合を高める
- 2 防災に関する計画や避難所を運営するためのマニュアルに、男女共同参画の視点を反映させる
- 3 男女共同参画の視点からの災害対応について、性別、年齢等にかかわらず多様な市民が考え学習する機会を設ける
- 4 男女別ニーズに配慮した物資の備蓄や、関係団体・事業者等との協定締結等、災害発生時にニーズに応じた物資を速やかに調達・輸送できる体制を整備する
- 5 自主防災組織における女性の参画を促進し、女性リーダーを育成する
- 6 平時からの防災に対する男女共同参画の意識づくり
- 7 災害時における女性の相談体制の確立
- 8 その他( )
- 9 特にない

東日本大震災では、被災者の方はもちろん避難所運営においても、女性が困難を抱えました。避難所の設計・運営の中心を担うことが多かった自治会長は、岩手県・宮城県及び福島県では96～97%程度が男性であり、避難所運営の責任者に女性が加わっていないことから、(ア)女性の要望や意見が重要視されない傾向にあったこと、(イ)女性用の物資が不足していても女性が要望することを躊躇する傾向にあったことが後に報告されました。(「平成24年版 男女共同参画白書」)

◆市の施策に望むことなどについておたずねします◆

問24 あなたは「男女共同参画社会」という言葉をご存知ですか。【○は1つだけ】

- 1 言葉とその意味を知っている
- 2 言葉を知っており、意味も少しは知っている
- 3 言葉だけ聞いたことがある
- 4 全く知らない

※言葉の意味は別紙で説明しています。

問25 市では、会津若松市男女共同参画推進条例の中で、「市民及び事業者による男女共同参画の推進に関する取組を支援するための拠点となる機能の整備を行う」ことを定めています。拠点となる機能として、特にどのようなものがあるかと思えますか。【〇は3つまで】

- 1 男女共同参画についての情報、専門図書、資料などの収集・提供
- 2 男女共同参画に関する問題を明らかにするための調査研究や研究支援
- 3 男女共同参画に関する講座や講演会などの開催
- 4 男女平等に関する様々な悩みや問題の相談
- 5 男女の平等と自立を目指す個人や団体・グループ間の相互交流を支援
- 6 その他( )

問26 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなところに力を入れていくべきだと思いますか。【〇は3つまで】

- 1 情報紙や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発
- 2 学校における男女平等教育の推進
- 3 社会教育・生涯学習の場での学習の充実
- 4 職場における男女格差の是正や、働き方の見直しなどの啓発
- 5 保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実
- 6 介護サービスの充実
- 7 地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進
- 8 市の審議会等の委員への女性の登用
- 9 女性の就労支援の充実
- 10 男女共同参画を推進する団体等の支援や活動拠点の整備
- 11 その他( )

#### ◆ご意見・ご要望◆

あなたが日頃男女平等や男女共同参画について感じていることや、会津若松市の男女共同参画事業における施策等について、ご意見、ご要望がありましたらご記入ください。

---

---

---

質問は以上で終了です。  
お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。



会津若松市 男女共同参画に関する市民意識調査報告書  
(令和4年度)

発行：会津若松市企画政策部企画調整課 協働・男女参画室

〒965-8601 会津若松市東栄町3番46号

TEL. 0242-39-1405 FAX. 0242-39-1400

<http://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/>

この報告書は市のホームページでも掲載しています